781
333

昭和十五年
四月改訂

恩給法関係法令集

内閣恩給局編

0007176000

0007176-000

781－333

恩給法関係法令集

内閣恩給局・編

内閣印刷局

昭和１５年４月改訂

昭１５

ABH

781
33

厚生省恩給局編纂

昭和十五年四月改訂

恩給法關係法令集

恩給法關係法令集　目次

○恩給法（大正一二、法律四八）……一
○恩給法施行令（大正一二、勅令三六七）……二九
○同令第十七條第一號ニ規定スル不健康業務ニ關スル件（大正一三、閣告二）……五六
○恩給法第十七條第一項第一號ニ規定スル不健康業務ニ關スル件（昭和一四、閣令九）……五八
○恩給法施行規則（大正一二、勅令三六九）……五八
○恩給法施行細則（大正一二、閣令七）……六三
○恩給法中改正法律（昭和七、法律）……
○昭和七年法律第十三號（恩給減額補給及停止ニ關スル法律）……
○昭和七年法律第十三號施行令（昭和七、勅令二〇四）……九六
○昭和七年法律第十三號恩給更正手續（昭和七、閣令一）……
○昭和七年法律第七十三號ニ依ル恩給更正規則（昭和七、遞令二六）……一〇三
○昭和八年法律第五十一號附則ニ依ル恩給更正及請求手續（昭和八、閣令三）……一〇八
○昭和十二年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正及請求手續（昭和一三、遞令四八）……一〇八
○昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正規則（昭和一三、閣告三）……一〇八
○恩給法第十七條第一項第一號ニ規定スル不健康業務ニ關スル件（大正一二、閣告二）……一一七
○外國擅亂地勤務加算ニ關スル件（昭和三、閣告一）……一一七
○從軍加算及擅亂地勤務加算ニ關スル件（昭和四、閣告三）（昭和八、閣告五）（昭和一一、閣告二）（昭和一三、閣告四）（昭和一五、閣告五）……一一七
○擅亂地勤務加算ニ關スル件（昭和一二、閣告六）……一二一
○恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則（大正一二、勅令四三九）及（閣訓一）……一二一
○恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則（大正一二、大令三〇）……一二四

目次

○昭和八年大藏省令第二十五號（一時恩給受給者再就職ノ場合恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依ル一時恩給返還等ニ關スル取扱規程）……一二六
○昭和十五年法律第四號（委託又ハ郵便ニ依ル戸籍届出ニ關スル法律）……一二八
○宮内省恩給令（大正一二、皇室令一六）……一二九
○宮内省恩給令施行規則（大正一二、宮令一二）……一四七
○宮内省恩給給與規則（大正一二、宮令一四）……一五四
○更正手續（大正一二、宮令一五）……一六四
○昭和八年皇室令第二號（恩給ノ增額等ニ關スル件）……一六五
○明治四十三年勅令第二十五號（郵便官署ヲシテ年金及恩給ノ支給事務ヲ取扱ハシムルノ件）……一六八
○年金恩給支給規則（大正一二、遞令九二）……一六九
○恩給金庫法（昭和一三、法律五七）……一七一
○恩給金庫法施行令（昭和一三、勅令四四三）……一七六
○恩給金庫法施行規則（昭和一三、閣、大令一）……一八一
○昭和十三年勅令第三百六號（恩給金庫ノ設立ニ關スル件）……一八二

781
333

●恩給法

大正十二年四月十四日
法律第四十八號

改正　昭和八年第五〇號、一三年第五六號、一四年第二八號、一五年第二二號

樞密院議會ノ協賛ヲ經タル恩給法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（國務各大臣副署）

恩給法

第一章　總則

第一條　公務員又ハ準ズヘキ者並其ノ遺族ハ本法ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條　本法ニ於テ恩給ト稱スルハ普通恩給、增加恩給、傷病年金、一時恩給、傷病賜金、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ

普通恩給ハ第五恩給ノ傷病年金及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス

第三條　年金タル恩給ノ給與ハ其ノ權利發生ノ翌月ヨリ消滅ノ月ニ終リ一時恩給ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ七年間ニ終ル

第四條　恩給年額拉ニ一時恩給及扶助料ノ額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第五條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六條　普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ進行ス

恩給法

前項ノ規定ハ普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第六條ノ二　第七十四條ノ二第一項ノ扶助料及同條第二項ノ一時扶助料ニ付テハ第五條ニ規定スル期間ハ戸籍届出ノ受理ノ日ヨリ進行ス

第七條　時效期間滿了前二十日內ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ妨碍ノ止ミタル日ヨリ二十日內ハ時效完成セス

時效期間滿了前六月內ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治產者法定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル日ヨリ六月內ハ時效完成セス

時效期間滿了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ時效期間內ニ權限アル官公署ニ到達セサルモ之ヲ時效期間內ニ到達シタルモノト看做ス

第八條　公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ本法ニ依ル恩給ト宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給トヲ給セラルヘキ場合ニ於テ宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第九條　年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當ス

ルトキハ其ノ權利消滅ス

一　死亡シタルトキ

二　死刑又ハ無期若ハ二年ヲ超ユル懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　國籍ヲ失ヒタルトキ

在職中ノ職務ニ關スル犯罪（過失犯ヲ除ク）ニ因リ禁錮以上ノ刑（陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依ル一年未滿ノ禁錮ノ刑ヲ含マス）ニ處セラレタルトキハ其ノ權利消滅ス但シ其ノ在職カ普通恩給ヲ受ケタル後ニ爲サレタルモノナルトキハ其ノ再在職ニ因リテ生シタル權利ノミ消滅ス

第九條ノ二　裁定官廳ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ニ付其ノ權利ノ存否ヲ調査スヘシ

第十條　恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケサリシモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

第十一條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ特別法ノ定ムル所ニ依リ恩給金庫ニ擔保ニ供スルハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ裁定官廳ハ支給廳ニ通知シ恩給ノ支給ヲ差止ムヘシ

恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　恩給ヲ受クルノ權利ハ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外內閣恩給局長之ヲ裁定ス

第十三條　行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ處分後一年內ニ內閣恩給局長ニ具申シ其ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ六月內ニ內閣總理大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ公務傷病ノ程度ニ付テハ出訴ヲ爲スコトヲ得ス

第一項ノ具申ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　內閣總理大臣及內閣恩給局長ノ裁決ハ關係官廳ヲ羈束ス

第十五條　內閣總理大臣第十三條第二項ノ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ恩給審査會ニ諮問スヘシ

恩給審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　恩給ノ負擔ハ左ノ區分ニ依ル

一　文官及準文官並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ文官ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル者ノ一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

二　軍人及準軍人並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

三　朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケルモノヲ除クノ外公立ノ小學校、青年學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟之ヲ負擔ス

四　前號ニ規定スル者以外ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ在外指定學校職員ノ一時恩給ヲ除クノ外一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

五　警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

六　待遇職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス但シ官國幣社ノ神職及其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

第十七條　前條第一號、第二號若ハ第四號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年中ニ第三號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサルモノノ在職年ヲ通算シテ國庫ヨリ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ハ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ第三號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ニ恩給ヲ給スル者又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニ俸給ヲ給スル者ニ對シ請求スルコトヲ得

前條第三號、第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ國庫以外ノ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ第一號、第二號若ハ第四號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年ヲ通算シテ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ニ對シ其ノ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前條第三號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ノ管轄內ニ於テ在職シタル第三號ニ揭クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテノ在職年ヲ含ム場合ニ於テハ當該他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ニ對シ其ノ合算セラルル在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給ノ分擔及同條第三號、第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給相互ノ分擔ニ付之ヲ準用ス

前條第四號ニ揭クル公務員ニ一時恩給ヲ給スル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ他ノ經濟ニ對シ一時恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

第十八條　國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ府縣費ヨリ俸給ヲ給スル文官、神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員タル文官、在外指定學校及國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ其ノ經濟ニ納付スヘシ

內地ニ於ケル道府縣立以外ノ公立ノ小學校、青年學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ニ恩給ヲ給スル經濟ニ對シテハ國庫ハ其ノ教育職員ノ俸給ノ二百分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス

第二章　公務員

恩給法

第一節　通則

第十九條　本法ニ於テ公務員トハ文官、軍人、教育職員及警察監獄職員竝第二十四條ニ掲クル待遇職員ヲ謂フ
本法ニ於テ公務員ニ準スヘキ者トハ準文官、準軍人及準教育職員ヲ謂フ

第二十條　文官トハ武官又ハ宮内官以外ノ官ニ在ル者ヲ謂フ但シ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス
準文官トハ高等文官ノ試補、判任官見習及國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニシテ前項但書ノ規定ニ基ク勅令ヲ以テ指定セラレサルモノヲ謂フ

第二十一條　軍人トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ
一　陸軍又ハ海軍ノ現役、豫備役、後備役又ハ補充兵役ニ在ル者
二　國民兵役ニ在ル者ニシテ召集セラレタルモノ及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者
準軍人トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ
一　陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生
二　勅令ヲ以テ指定スル陸軍又ハ海軍ノ學生生徒

第二十二條　教育職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ
一　公立ノ學校、幼稚園若ハ圖書館又ハ在外指定學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ルモノ及判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
二　道府縣立師範學校長

前項ノ在外指定學校トハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定シタルモノヲ謂フ
準教育職員トハ官立又ハ公立ノ學校又ハ幼稚園ノ職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第二十三條　警察監獄職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ
一　警部補、巡査、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛及衆議院守衛
二　看守、女監取締、陸軍監獄看守及海軍監獄看守
三　判任官ノ待遇ヲ受クル消防手

第二十四條　待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ
一　判任官以上ノ待遇ヲ受クル神宮司廳職員、神宮神部署職員及官國幣社ノ神職
二　判任官以上ノ待遇ヲ受クル監獄ノ職員（前條第二號ニ掲クル者ヲ除ク）、少年教護院職員及矯正院職員
三　地方待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ
四　前三號ニ掲クル者ヲ除クノ外國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ給スル待遇職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ
五　在滿學校組合待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者

第二十五條　本法ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ
一　文官ニ在リテハ任官但シ終身官タル文官ニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手警部補ニ任シ又ハ警部補巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ就職スルトキハ之ヲ轉任ト看做ス
五　待遇職員ニ在リテハ任命

第二十六條　本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ
一　文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官、失官ノ外退職
二　現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル動務ニ服スル者ニ付テハ解職但シ下士官准士官以上ノ軍人ト爲リタルトキハ普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ノ計算ニ關シテハ之ヲ退職ト看做ス
三　教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、解職又ハ失職
四　警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス
五　待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十七條　第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ準文官ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス
第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ準教育職員ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス
四　警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手警部補ニ任シ又ハ警部補巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ就職スルトキハ之ヲ轉任ト看做ス
五　待遇職員ニ在リテハ任命

第二十六條　本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ
一　文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官、失官ノ外退職
二　現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル動務ニ服スル者ニ付テハ解職但シ下士官准士官以上ノ軍人ト爲リタルトキハ普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ノ計算ニ關シテハ之ヲ退職ト看做ス
三　教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、解職又ハ失職
四　警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス
五　待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十七條　第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ準文官ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス
第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ準教育職員ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

タルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三月

三　前號ニ揭クルモノヲ除クノ外戰地外ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月

前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ戰務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス

戰爭ノ期間及地域、航空基地及航空基地タル期間、戰務ノ範圍竝戰爭ニ準スヘキ事變ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　公務員外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域內ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ動務シタルトキハ在動期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　公務員戒嚴地境內ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ動務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ動務ノ場所カ內國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第三十五條　公務員外國鎭戍ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半以內ヲ加算ス

第三十六條　航空機乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空動務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以內ヲ加算ス

第三十七條　潛水艦乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潛水艦ノ動務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス

第三十七條ノ二　戰車乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ戰車ニ搭乘シ戰車動務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付半月以內ヲ加算ス

第三十八條　公務員其ノ職務ヲ以テ邊陬又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三月

前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ戰務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス

戰爭ノ期間及地域、航空基地及航空基地タル期間、戰務ノ範圍竝戰爭ニ準スヘキ事變ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　公務員外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域內ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ動務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　公務員戒嚴地境內ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ動務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ動務ノ場所カ內國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第三十五條　公務員外國鎭戍ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半以內ヲ加算ス

第三十六條　航空機乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空動務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以內ヲ加算ス

第三十七條　潛水艦乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潛水艦ノ動務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス

第三十七條ノ二　戰車乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ戰車ニ搭乘シ戰車動務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付半月以內ヲ加算ス

第三十八條　公務員其ノ職務ヲ以テ邊陬又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以內ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ六月以上服務シタルトキ亦同シ

前項ノ地域相互間ノ轉動ハ之ヲ引續キタル在動ト看做ス

第一項ノ地域及業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條　海上動務ニ服スル公務員其ノ職務ヲ以テ遠洋航海ヲ爲シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三分ノ一月ヲ加算ス一年以上引續キ編隊艦船ニ乘シテ上陸制限ノ下ニ準戰訓練ニ服シタルトキ亦同シ

前項ノ遠洋航海ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條　第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從トシテ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ終ル

二種以上ノ加算年ヲ附セラルヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス

第四十條ノ二　休職、待命、歸休、停職其ノ他現實ニ職務ヲ執ルヲ要セサル在職期間ニシテ一月以上ニ亘ルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ在職年ノ計算ニ於テ之ヲ半減ス

第四十一條　左ニ揭クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス

一　普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年

二　第五十一條ノ規定ニ依リ公務員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年

三　在職中二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數

四　公務員退職後在職中ノ職務ニ關スル犯罪（過失犯ヲ除ク）ニ付陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ犯罪ノ時ヲ含ム引續キタル在職年月數

五　公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數

六　宮內職員トシテノ在職年月數ニシテ宮內官ノ恩給規程ニ依リ除算セラルヘキモノ

第四十二條　左ニ揭クル年月數ハ之ヲ在職年ニ通算ス

一　宮內官ノ恩給規程ニ依リ宮內官恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ宮內職員トシテノ在職年月數

二　準軍人ノ在職年月數

三　高等文官ノ試補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲リタルトキハ公務員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

四　準教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキハ教育職員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

第二十八條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ準軍人又ハ皇宮警手トシテノ在職年ハ夫々之ヲ軍人又ハ警察監獄職員トシテノ在職年ト看做ス

第四十三條　第三十二條乃至第四十條ノ規定ハ準軍人ノ在職年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十條ノ二及第四十一條ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月ニ付之ヲ準用ス

第四十四條　本法ニ於テ俸給トハ本俸及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

本俸ニ準スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公務員二以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラルル場合ニ於テハ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

第四十五條　公務員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第四十六條　公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年內ニ之カ爲不具廢疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間內ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル增加恩給ヲ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖裁定官廳ニ於テ恩給審查會ノ議ニ付スルヲ相當ト認メ且恩給審查會ニ於テ不具廢疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ議決シタル月ノ翌月ヨリ之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ之ヲ改定ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲ルモ公務員ニ

重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第四十六條ノ二　公務員公務ノ爲永續性ヲ有スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ノ程度ニ至ラサルモ勅令ノ定ムル程度ニ達シ失格原因ナクシテ之カ爲其ノ職ニ堪ヘスシテ一年内ニ退職シタルトキ又ハ其ノ公務員カ下士官以下ノ軍人ニシテ退職後三年内ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病年金ヲ給ス

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ニ規定スル條件（傷病ノ程度ヲ除ク）ヲ具備スル者ニシテ退職當時ノ傷病ノ程度カ前項ノ勅令ニ定ムル程度ニ達セサリシモノノ傷病年金ニ付之ヲ準用ス

前條第四項ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リ給スヘキ傷病年金ニ付之ヲ準用ス

傷病年金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

第四十七條　前二條ノ規定ハ準文官、陸軍ノ見習士官海軍ノ候補生以外ノ準軍人又ハ準教育職員ニシテ在職中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ニシテ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニ付之ヲ準用ス

第四十八條　公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

一　勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勤中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ

二　戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ

三　公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

第四十九條　公務傷病ノ原因ヲ分ツテ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ト普通公務トス

戰鬪ニ準スヘキ公務ノ範圍、公務傷病ニ因ル不具廢疾ノ程度及傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度竝教育職員、警察監獄職員、待遇職員、準文官、準軍人及準教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條　裁定官廳ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具廢疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷痍疾病回復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

前二項ノ規定ハ傷病年金ノ裁定ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

第五十一條　公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　懲戒、懲罰又ハ教員免許狀褫奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ

二　在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十六條第二號但書及第四號但書ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五十二條　公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ總テノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シ之ヲ勤續ト看做サルルモノニ付テハ後ノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ恩給ヲ給セサル官職ニ轉シ退職シタルモノニ付テハ其ノ轉任ヲ退職ト看做シ之ニ恩給ヲ給ス

第五十三條　公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ在職スルモノニ付テハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給付セス

第五十四條　普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

一　再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ

二　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リ退職シタルトキ

三　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年內ニ之カ爲不具廢疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間內ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條　前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具廢疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷痍又ハ疾病カ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

恩給法

テハ之ヲ適用セス

第五十二條　公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ總テノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シ之ヲ勤續ト看做サルルモノニ付テハ後ノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ恩給ヲ給セサル官職ニ轉シ退職シタルモノニ付テハ其ノ轉任ヲ退職ト看做シ之ニ恩給ヲ給ス

第五十三條　公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ在職スルモノニ付テハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給付セス

第五十四條　普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

一　再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ

二　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リ退職シタルトキ

三　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年內ニ之カ爲不具廢疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間內ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條　前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具廢疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷痍又ハ疾病カ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

一　後ノ傷痍又ハ疾病カ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ起因スルトキハ別表第二號表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ヨリ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表甲號中其ノ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス但シ後ノ傷痍又ハ疾病ノミニ因ル增加恩給年額カ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依ル增加恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス

二　後ノ傷痍又ハ疾病カ普通公務ニ起因スルトキハ別表第二號表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ニ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス

第五十五條ノ二　前二條中增加恩給ノ改定ニ關スル規定ハ傷病年金ヲ受クル者再就職シ再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シ增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第五十六條　前三條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第五十七條　前四條ノ規定ハ宮內官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十八條　普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

一　公務員又ハ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未

滿ナルトキ、軍人以外ノ公務員トシテ恩給ヲ受クル者陸軍若ハ海軍ノ兵トシテ試職スルトキ又ハ准士官以下ノ軍人若ハ準軍人トシテ恩給ヲ受クル者軍人以外ノ公務員トシテ試職スルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

三　之ヲ受クル者三十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ四分ノ一、三十歳以上三十五歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ六分ノ一、三十五歳以上四十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ八分ノ一ヲ停止ス但シ增加恩給又ハ傷病年金ト併給セラルル場合ニハ之ヲ停止セス

三　之ヲ受クル者三十五歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ六分ノ一、三十五歳以上四十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ八分ノ一ヲ停止ス但シ增加恩給又ハ傷病年金ト併給セラルル場合ニハ之ヲ停止セス(改正前)

四　恩給年額千圓以上ニシテ其ノ恩給外ノ所得ノ年額四千圓ヲ超ユルトキハ

(イ)　恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額カ六千圓以下ナルトキハ五千圓ヲ超ユル金額ノ一割五分ノ金額ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額ハ年額千圓ヲ下ラシムルコトナシ

(ロ)　恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額カ六千圓ヲ超エ八千圓以下ナルトキハ五千圓ヲ超エ六千圓以下ノ金額ノ一割五分ノ金額ト六千圓ヲ超エ八千圓以下ノ金額ノ二割ノ金額ト八千圓ヲ超エ一萬一千圓以下ノ金額ノ二割五分ノ金額ト一萬一千圓ヲ超ユル金額ノ三割ノ金額トノ合計額ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額ハ年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割五分ヲ超ユルコトナシ

(ハ)　恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額カ八千圓ヲ超エ一萬一千圓以下ナルトキハ五千圓ヲ超エ六千圓以下ノ金額ノ一割五分ノ金額ト六千圓ヲ超エ八千圓以下ノ金額ノ二割ノ金額ト八千圓ヲ超ユル金額ノ二割五分ノ金額トノ合計額ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額ハ年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割五分ヲ超ユルコトナシ

(ニ)　恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額カ一萬一千圓ヲ超ユルトキハ五千圓ヲ超エ六千圓以下ノ金額ノ一割五分ノ金額ト六千圓ヲ超エ八千圓以下ノ金額ノ二割ノ金額ト八千圓ヲ超エ一萬一千圓以下ノ金額ノ二割五分ノ金額ト一萬一千圓ヲ超ユル金額ノ三割ノ金額トノ合計額ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額ハ年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割五分ヲ超ユルコトナシ

前項第四號ノ所得ノ範圍及計算方法竝停止方法ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項第二號ノ規定ハ增加恩給及傷病年金ニ付之ヲ準用ス

第五十九條　文官ハ每月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

下士官以上ノ軍人ハ每月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

教育職員ハ每月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ朝鮮、臺灣又ハ樺太以外ノ地ニ於ケル公立ノ小學校、青年學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟ニ對シ其ノ俸給(又ハ給料)ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

警察監獄職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ每月其ノ俸給(又ハ給料)ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

待遇職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ每月其ノ俸給(又ハ給料)ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

前五項ニ規定スル納金ハ戰時又ハ事變ニ際シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除スルコトヲ得

第二節　恩給金額

第六十條　本節ニ於テ退職前ノ俸給年額ト稱スルハ退職前一年內ノ俸給(軍人及準軍人ニ在リテハ各階等ニ付定メラレタル別表第一號表ノ假定俸給額ヲ以テ其ノ階等ニ對スル俸給額トス)ノ總額ヲ謂フ但シ左ノ特例ニ從フ

一　公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲退職シ又ハ死亡シタル者ニ付退職又ハ死亡ノ際昇給アリタルトキハ其ノ爲サレタル昇給ノ中級俸ノ定アルモノ(軍人及準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ假定俸給額ヲ以テ級俸トス)ニ付テハ一級、其ノ定ナキモノニ付テハ昇給前ノ俸給ノ百分ノ十五ヲ限度トシ退職一年前ヨリ昇給セラレタルモノトシテ計算ス退職又ハ死亡前一年內ニ昇給アリテ退職又ハ死亡ノ際昇給ナカリシトキ亦同シ

二　前號ニ規定スル場合以外ノ場合ニ於テ退職前一年內ニ昇給アリタルトキハ其ノ昇給カ前俸給二年以上据置ノ後爲サレタルモノナルトキニ限リ前號ノ規定ヲ準用ス

轉官職ニ依ル俸給ノ增額ハ之ヲ昇給ト看做シ前項但書ノ規定ヲ準用ス

前二項ニ規定スル退職前一年內ノ俸給ノ算出方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

實在職期間一年未滿ナルトキハ俸給ノ關係ニ於テハ就職前モ就職當時ノ俸給ヲ以テ在職シタルモノト看做シ計算ス

本節ニ於テ退職前ヲ俸給月額ト稱スルハ退職前ノ俸給年額ノ十二分ノ一ニ相當スル金額ヲ謂フ

第六十一條　文官在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實動續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテノ在職年七年以上ナルヲ以テ足ル

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號、第五十五條ノ二又

ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十七條ノ規定ニ依リ準文官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十一條 准士官以上ノ軍人在職年十三年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第一號ノ準軍人在職年十三年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年以上十四年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十四年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前條第三項ノ規定ハ准士官以上ノ軍人ニ付之ヲ準用ス

在職年五十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年五十年トシテ計算ス

陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ二年以上實在職シ最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官八等ノ額ヲ給ス

第四十六條、第四十七條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十三年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

準軍人ノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條ノ二 下士官以下ノ軍人在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第二號ノ準軍人在職年十二年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十三年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ下士官ニ在リテハ七圓、兵ニ在リテハ六圓ヲ加ヘタル金額トス

第六十條第三項並前條第五項、第七項及第八項ノ規定ハ下士官以下ノ軍人ニ付之ヲ準用ス

第六十二條 教育職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ小學校、青年學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾唖學校又ハ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第二項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ中學校又ハ之ト同等以下ノ程度ノ學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

前項ノ中學校ト同等以下ノ程度ノ學校ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ教育職員ニ付之ヲ準用ス

第四十七條ノ規定ニ依リ準教育職員ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十三條 警察監獄職員在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十二年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテノ勤續在職年十二年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十二年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十二年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ警察監獄職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條 待遇職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ教育職員ニ付之ヲ準用ス

第四十七條ノ規定ニ依リ準教育職員ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十三條 警察監獄職員在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十二年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテノ勤續在職年十二年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十二年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十二年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ警察監獄職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條 待遇職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ增ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテノ勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第六十四條ノ二 一時恩給ヲ受ケタル後其ノ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年數一年ヲ二月ニ換算シタル月數內ニ召集其ノ他ノ强制ニ依ラスシテ再就職シタル者ニ普通恩給ヲ給スル場合ニ於テハ當該換算月數ト退職ノ翌月ヨリ再就職ノ月迄ノ月數トノ差月數ヲ一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ニ乘シタル金額ノ十五分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス但シ差月數一月ニ付一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ勅令ノ定ムル時期ニ於テ返還シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十五條 公務員ノ增加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具廢疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス但シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル時ヨリ五年內ニ退職セサリシ場合ニ於テハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル時ヨリ五年ヲ經過シタル日ニ於ケル階等ヲ以テ退職當時ノ階等ト看做ス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ增加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

因及傷病ノ程度ニ依リ定メタル別表第三號表ノ金額トス但シ普通恩給ヲ併給セラルル場合ニ於テハ別表第三號表ノ金額ノ十分ノ七・五ニ相當スル金額ヲ以テ傷病年金ノ年額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準ズヘキ者ニ給スヘキ傷病年金ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十六條　下士官以下ノ軍人公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ傷病年金ヲ給セラルルノ程度ニ至ラサルモ之カ爲退職シ又ハ退職後三年内ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス

傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等竝傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十六條ノ二　下士官以下ノ軍人前條ノ規定ニ依リ傷病賜金ヲ受ケタル後四年内ニ第四十六條第二項又ハ第四十六條ノ二第二項ノ規定ニ依リ增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルニ至リタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病賜金ノ一部ヲ返還セシム

第六十七條　文官、教育職員又ハ待遇職員在職年三年以上十七年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十八條　准士官以上ノ軍人在職年三年以上十三年未滿ニシテ又ハ下士官在職年三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス但シ下士官以上トシテノ在職年一年未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十九條　削除

第七十條　警察監獄職員在職年三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十一條　削除

第三章　遺族

第七十二條　本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在ルモノヲ謂フ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時其ノ戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

戸籍届出ノ委託ヲ爲シタル後届出人死亡シ其ノ死亡後委託ニ基ク届出カ受理セラレ又ハ戸籍届書ヲ郵送シタル後届出人死亡シ其ノ死亡後届書カ受理セラレタルトキ其ノ届出カ他ノ法令ニ依リ届出人死亡ノ時ニ爲サレタルモノト看做サルル場合ニ於テハ其ノ届出ニ因リ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ト同一戸籍内ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子又ハ兄弟姉妹ト爲ル者ハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ當該届出カ届出人ノ死亡後二年内ニ受理セラレタルトキニ限リ届出人ノ死亡ノ時ヨリ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子又ハ兄弟姉妹トシテ之ト同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ

第七十三條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス

一　在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキ

二　普通恩給ヲ給セラルル者死亡シタルトキ

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リ之ヲ適用ス但シ第七十二條第三項ノ規定ニ依リ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ト看做サルル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條　未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

夫又ハ成年ノ子ハ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者カ家督相續人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

妹トシテ之ト同一戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條ノニ　第七十二條第三項ノ規定ニ依リ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ト看做サレタル者ニ給スル扶助料ハ委託又ハ郵便ニ依ル戸籍届出ノ受理ノ日ヨリ之ヲ給ス

第七十二條第三項ノ規定ニ依リ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ト看做サレタル者ニ給スル一時扶助料ハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ時ニ於テ他ニ其ノ一時扶助料ヲ受クヘキ權利ヲ有スル者ナキトキニ限リ之ヲ給ス

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ時ニ於テ扶助料ヲ受クヘキ權利ヲ有シタル者カ第七十二條第三項ノ規定ニ依リ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ト看做サルル者ノ生シタルカ爲扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有セサリシコトトナル場合ニ於テモ其ノ者ハ同條ニ規定スル戸籍届出ノ受理ノ時迄ノ分ニ付當該扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノト看做ス

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ時ニ於テ一時扶助料ヲ受クヘキ權利ヲ有シタル者カ第七十二條第三項ノ規定ニ依リ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ト看做サルル者ノ生シタルカ爲一時扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有セサリシコトトナル場合ニ於テモ其ノ者ハ當該一時扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノト看做ス

第七十五條　扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一　第二號乃至第四號ニ特ニ規定スル場合ノ外ハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

二　公務員又ハ之ニ準スヘキ者戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ前號ノ規定ニ依ル金額ニ退職當時ノ階等ニ依リ定メタル別表第五號表ノ率ヲ乘シタル金額

三　公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ第一號ノ規定ニ依ル金額ニ退職當時ノ階等ニ依リ定メタル別表第六號表ノ率ヲ乘シタル金額

四　增加恩給ヲ併給セラルル者公務ニ起因スル傷痍疾病ニ因ラスシテ死亡シタルトキハ第一號ノ規定ニ依ル金額ニ退職當時ノ階等ニ依リ定メタル別表第七號表ノ率ヲ乘シタル金額

前項第二號乃至第四號ニ規定スル場合ニ於テ扶助料ヲ受クル者ノ同一戸籍内ニ扶助料ヲ受クヘキ要件ヲ具フル遺族カ扶助料ヲ受クル者ヲ合シ三人以上アルトキハ其ノ扶助料年額ニ遺族ノ人員ニ依リ定メタル別表第八號表ノ率ヲ乘シタル金額ヲ加給ス但シ同一戸籍内ニ扶助料ヲ受クル者二人以上アル場合及二以上ノ扶助料ヲ併セ受クル者アル場合ニ於ケル加給ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第七十六條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ

三　父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第七十七條　扶助料ヲ受クル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

第七十八條　扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十九條　前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第八十條　遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

一　其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ

三　不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

屆出ヲ爲ササルモ事實上婚姻關係ト同樣ノ事情ニ入リタリト認メラルル遺族ニ付テハ裁定官廳ハ恩給審査會ニ諮問ノ上其ノ者ノ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ハシムルコトヲ得

裁定官廳ハ前項ニ規定スル事情ヲ調査スル爲必要アルトキハ他ノ官廳又ハ公署ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第八十二條　文官、教育職員又ハ待遇職員在職年三年以上十七年未滿、准士官以上ノ軍人在職年三年以上十三年未滿、下士官タル軍人又ハ警察監獄職員在職年三年以上十二年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第五十九條ノ二第五項ノ規定ハ死亡前ノ俸給月額ニ付之ヲ準用ス

第七十三條中遺族ノ順位ニ關スル規定及第七十四條ノ規定ハ第一項ノ扶助料ヲ給スル場合ニ付之ヲ準用ス

附則

第八十三條　本法ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十四條　左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

一　官吏恩給法
一　官吏遺族扶助法
一　軍人恩給法
一　市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法
一　府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法
一　明治二十四年法律第四號
一　明治二十九年法律第十三號
一　官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則
一　明治二十九年法律第七十八號
一　明治三十三年法律第七十五號
一　明治三十三年法律第七十六號
一　明治三十三年法律第七十七號
一　巡査看守退隱料及遺族扶助料法
一　明治三十五年法律第二十九號
一　在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法
一　明治四十年法律第四十八號
一　明治四十年法律第四十九號
一　明治四十一年法律第三十五號
一　明治四十三年法律第三十號
一　明治四十四年法律第六十一號
一　明治四十四年法律第六十七號
一　明治四十五年法律第十一號
一　明治四十五年法律第十二號
一　大正七年法律第三十號
一　大正十年法律第三十五號
一　大正十年法律第九十四號
一　大正十一年法律第十八號
一　大正十一年法律第十九號

一明治二十二年勅令第百三十三號
一明治二十三年勅令第九十八號
一明治二十五年勅令第十八號
一明治二十五年勅令第三十二號
一明治三十二年勅令第百九十六號
一明治三十八年勅令第二百二十九號
一明治四十年勅令第百八十八號
一明治四十年勅令第百八十九號
一明治四十一年勅令第七十一號
一明治四十五年勅令第七十號
一大正七年勅令第六十二號
一大正十年勅令第二百六十八號
一大正十一年勅令第八十七號
一大正十一年勅令第二百八十四號
一明治九年第九十九號達陸軍恩給令
一明治十五年第四十一號達巡査看守給助例
一明治十六年第三十八號達海軍恩給令
一明治十七年第一號達官吏恩給令

第八十五條　本法施行前給與事由ノ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法ニ依リ受ケ又ハ受クヘキ恩給ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族ノ種類竝給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシタル本法ニ依ル恩給ニ該當セサルモノアルトキハ本法ニ依ル恩給中最近キ性質ヲ有スルモノニ依ル

第八十六條　第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受クヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

第八十七條　第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノニ付本法施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

第八十八條　從前ノ規定ニ依リ內閣總理大臣ノ爲シタル裁定ハ具申、訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ之ヲ本法ニ依ル內閣恩給局長ノ裁決ト看做シ從前ノ規定ニ依ル具申ノ裁決ハ之ヲ本法ニ依ル具申ノ裁決ト看做ス

本法施行ノ際現ニ具申中又ハ訴願中ノ事件ニ付テハ從前ノ手續規定ニ依リ之ヲ完結ス

第八十九條　府縣ニシテ本法施行ノ際市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ノ規定ニ依リ小學校教員恩給基金ヲ備フルモノハ本法施行後引續キ其ノ恩給基金ヲ備フルコトヲ得

前項ノ恩給基金ヲ備フル府縣ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ニ依ル納金ハ之ヲ其ノ恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ府縣カ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員又ハ其ノ遺族ノ恩給ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得ス

府縣ニ於テ給與スヘキ教育職員若ハ準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ恩給基金ノ利子及第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル給與金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

恩給基金ノ管理ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十條　本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本法施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本法施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除クノ外本法ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第九十一條　內地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキハ當分ノ內在勤期間ノ一月ニ付半月以內ヲ加算ス

關東局職員ニシテ滿洲國新京特別市ニ在勤スルモノハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ關東州ニ在勤スルモノト看做ス

第一項ノ引續キ在勤スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ一年、警察監獄職員ニ在リテハ三年、其ノ他ノ公務員ニ在リテハ四年トス

第九十二條　公務員其ノ職務ヲ以テ帝國若ハ滿洲國ノ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域內ニ勤務シタルトキハ當分ノ內在勤期間ノ一月ニ付二月以內ヲ加算ス

前項ノ危險地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十三條　海軍警吏補ヨリ海軍巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際巡査ノ職ニ在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十四條　朝鮮總督府巡査補ヨリ朝鮮總督府巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ統監府巡査補及朝鮮總督府巡査補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十五條　臺灣總督府巡査補ヨリ臺灣總督府巡査ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ臺灣總督府巡査補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡査トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十六條　大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ休職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金タル恩給ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第九十七條　第四十六條第二項第三項及第五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本法施行前退職シタル公務員ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ適用ス

前二項ノ規定ニ依リ給スル恩給ノ金額ハ本法施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第九十八條　第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本法施行後退職シ本法施行後不具廢疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第九十九條　削除

第五十八條ノ規定ハ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ニ付テハ當分ノ內之ヲ適用セス其ノ退隱料又ハ恩給ノ停止ハ仍從前ノ例ニ依ル但シ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官學習院ノ職員ト爲リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ノ施行セラルル期間內ニ屬スル教育職員ノ在職年ト教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官以外ノ公務員ノ在職年トハ互ニ之ヲ通算セス仍從前ノ例ニ依ル教育職員ノ在職年ト第四十二條第一項各號ニ揭クル在職年トノ間ニ付亦同シ但シ學習院ノ職員トシテノ在職年ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ノ施行セラルル期間內ニ文官ヨリ教育職員又ハ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ニ轉任シタル者失格原因ナクシテ退職シ年金タル恩給ヲ受ケサル場合ニ於テハ文官ノ在職年數ニ應シ之ニ一時恩給ヲ給ス

教育職員ヨリ文官ニ轉シタル者教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官以外ノ文官トシテ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官トシテノ在職最終ノ俸給額ニ基キ之ニ恩給ヲ給ス

第四條 本法施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本法施行後轉給セラルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本法ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル事ヲ得ル者ノ權利ヲ妨クルコトナシ

本法施行前ニ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受クルノ權利ヲ本法ニ依リ取得スルコトナシ

第一項ノ場合ニ於テ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本法ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトナシ

大正六年法律第六號附則ノ規定ニ依リ恩給ノ增額ヲ受ケサリシ軍人ノ遺族本法施行後扶助料ヲ轉給セラルヘキ場合ニ於テ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ軍人ノ恩給ハ之ヲ請求ヲ竢タスシテ同法附則ノ規定ニ依リ增額セラレタルモノト看做ス

第四一條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金タル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ增給ス

第四二條 明治二十四年八月十六日以降明治四十三年三月三十一日迄ニ退官退職シ又ハ死亡シタル文官、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衞若ハ衆議院守衞又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給令ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶助料ヲ本法施行ノ日ヨリ增額給與ス

前項ノ規定ハ明治四十四年三月三十一日以前ニ退職シタル小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員若ハ巡査又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スルモノニ付之ヲ準用ス

第四三條 北海道屯田兵ノ現役ニ服シタル年月日數ハ之ヲ公務員ノ在職年ニ通算シ本法施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル年金タル恩給ヲ改定シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四四條 第八十五條乃至前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 (昭和八年法律第五十號)

第一條 本法ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十六條ノ二、第五十八條第一項第四號及第五十九條ノ改正規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本法施行前給與事由ノ生ジタル恩給ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ第五十八條第一項第四號ノ改正規定ハ本法施行前給與事由ノ生ジタル恩給ニ付テモ之ヲ適用ス

第三條 第十三條第二項但書ノ改正規定ハ本法施行前ヨリ行政裁判所ニ委屬スル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四條 第十八條第一項ノ改正規定ニ依ル納付金額ハ同項ニ規定スル公務員ニ付テ附則第九條ノ規定ノ必要ナキニ至ル迄第十八條第一項ノ改正規定ニ拘ラズ同項ニ規定スル公務員ガ第五十九條(改正前又ハ改正後)及附則第九條ノ規定ニ依リ納付スル金額ノ合計額ト同額トス

第五條 本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ加算年又ハ休職等ノ減算ニ關スル改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ規定ニ依ル

第六條 第四十條ノ二ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ進行中ニ屬スル休職、待命、歸休、停職其ノ他同條ニ規定スル在職期間ニ付テハ其ノ期間ノ終了ニ至ル迄本法施行後ト雖モ同條ノ規定ヲ適用セズ

第七條 傷病年金ハ本法施行後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ニ之ヲ給ス但シ本法施行前賑恤金(之ニ準ズルモノヲ含ム)又ハ傷病賜金ヲ受クベキ事由ヲ生ジタル者ニハ本法施行前其ノ事由ヲ生ジタルトキト雖モ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病ノ程度ヲ査定シ將來ニ向ツテ之ヲ給ス

第八條 第五十八條第一項第三號ノ改正規定ハ本法施行前普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ジタル者及本法施行ノ際現ニ在職シ本法施行後退職シテ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ズル者ニハ之ヲ適用セズ

前項ニ規定スル者本法施行後再就職シ其ノ普通恩給ヲ改定セラルル場合ニハ其ノ改定ニ因ル增額分ニ付第五十八條第一項第三號ノ改正規定ヲ適用ス

第九條 第五十九條ノ改正規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後就職シ又ハ俸給(又ハ給料)ガ昇給若ハ增額セラレタル月ノ翌月ヨリ之ヲ適用ス

第十條 第五十九條ノ二第一項但書ノ場合ニ於テ其ノ公務員ガ同一種類ノ公務員トシテ實在職年二十年以上勤續シタル者ニシテ特殊ノ事情アルモノニ付テハ當分ノ內同但書各號ニ於ケル制限ノ一級ヲ二級、百分ノ十五ヲ百分ノ三十トス

第十一條 本法施行ノ際從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達シタル者ニハ其ノ者ガ本法施行後改正規定ニ依ル最短恩給年限ニ達セズシテ退職シタル場合ト雖モ退職前ノ俸給ニ依リ之ニ普通恩給ヲ給ス但シ其ノ年額ハ在職年ノ不足一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

第十二條 前條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ休職、再服役其ノ他法令上ノ在職期限ノ定アル地位ニ在ル者ニシテ本法施行後其ノ期間ノ終了ニ因リ從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達スルモノニ付

之ヲ準用ス

第十三條 第六十四條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前受ケタル一時恩給ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十四條 第七十五條第二項ノ改正規定ハ公務員ガ本法施行前死亡シタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス但シ此ノ場合ニ於ケル加給ハ本法施行後ニ屬スル殘存期間ニ付テクミ之ヲ爲ス

第十五條 恩給法施行前同法第二十三條ニ掲グル公務員トシテ普通恩給(退隱料)ヲ受ケ引續キ文官ニ任ジ同法施行後迄在職シタル後本法施行前退職シ同法第八十五條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ其ノ普通恩給(退隱料)ヲ文官ノ普通恩給ニ改定セラレザリシ者ニ付テハ同項ノ規定ニ拘ラズ特ニ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用シ本法施行ノ日ヨリ本法施行前ノ規定ニ依リ其ノ普通恩給(退隱料)ヲ文官ノ普通恩給ニ改定ス但シ恩給法施行後文官退職ニ因リ一時恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一時恩給ノ金額ヲ改定ニ因リ增額セラルル普通恩給額中ヨリ支給ニ際シ控除ス

前項ノ規定ハ恩給法施行後本法施行前ニ文官トシテ普通恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第一項ニ規定スル者引續キ本法施行後迄在職スルトキハ恩給法第八十五條第一項ノ規定ニ拘ラズ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用シ同法第二十三條ニ掲グル公務員トシテノ普通恩給(退隱料)ヲ文官トシテノ普通恩給ニ改定ス

第十六條 第九十一條第二項ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ在職シ從前ノ同項ニ規定スル期間ヲ經過シタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ增加恩給又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受クベキ者ニシテ本法所定ノ增加恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケザルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當增加恩給又ハ扶助料

第十七條 本法施行ノ際現ニ在職シ恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケザル者ノ恩給ノ停止ニ付テハ其ノ者ガ引續キ其ノ官職ニ在職スル期間ニ限リ仍同法第九十九條第一項ノ規定ニ依ル

第十八條 本法施行前恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザリシ者又ハ前條ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル者ノ當該在職期間ト他ノ公務員ノ在職年トノ通算ハ仍從前ノ例ニ依ル

第十九條 前條ニ規定スル者ヲ除クノ外恩給法第九十九條第一項ニ規定シタル者ノ大正十二年十月一日以後ノ在職年ハ同日以後ノ他ノ公務員ノ在職年ト互ニ通算ス但シ本法施行前ニ給與事由ノ生ジタル場合ニ於テハ其ノ者ガ再就職シ本法施行後退職又ハ死亡シタル場合ニ限リ此ノ規定ニ依ル

前項ニ規定スル者ノ大正十二年九月三十日以前ノ在職年ノ同日以前ノ他ノ公務員ノ在職年トノ通算ニ付テハ同日以前ノ舊法ノ例ニ依ル

第一項ニ規定スル者ノ大正十二年十月一日前後ノ在職年ノ通算ニ關シテハ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用ス

附則 (昭和十三年法律第五十六號)

第一條 本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(昭和十三年勅令第三百八十一號ヲ以テ昭和十三年六月一日ヨリ施行)

第十一條第二項ノ規定ハ恩給金庫設立後三年間之ヲ適用セズ

第二條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ增加恩給又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受クベキ者ニシテ本法所定ノ增加恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケザルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當增加恩給又ハ扶助料

ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ昭和十三年四月一日ヨリ增給ス

第三條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ傷病年金ヲ受ケ又ハ受クベキ者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ昭和十三年四月一日ヨリ左記下欄相當ノ增加恩給又ハ傷病年金ヲ給ス

現症狀等差	改正症狀等差
傷病年金第一款	增加恩給第七項
傷病年金第二款	傷病年金第一款
傷病年金第三款	傷病年金第二款
傷病年金第四款	傷病年金第三款

第四條 本法施行ノ際恩給法第七十五條第二項ノ規定ニ依リ加給ヲ受ケ又ハ受クベキ者ニ付テハ其ノ扶助料年額ガ改正後ノ同條第一項第二號乃至第四號及同條第二項ノ規定ニ依リ受クベキ扶助料年額ヨリ多キトキハ其ノ加給期間ヲ經過スル迄改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ規定ニ依ル

第五條 本法施行前賑恤金(之ニ準ズルモノヲ含ム)又ハ傷病賜金ヲ受クベキ事由ヲ生シタル者ト雖モ其ノ症狀傷病年金ヲ給スベキ症狀ニ該當スルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病ノ程度ヲ査定シ將來ニ向ツテ之ヲ給ス

第六條 恩給法施行前ニ戰鬪又ハ戰鬪ニ準ズベキ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ之ガ爲死亡シ又ハ此ノ種ノ公務ニ因リ增加恩給(之ニ準ズルモノヲ含ム)ヲ受ケタル軍人ノ寡婦、父母又ハ祖父母ニシテ軍人死亡ノ當時軍人ト同一戶籍內ニ在リタルモ軍人現役中陸海軍兵籍簿ニ登記セラレザリシ等ノ特別事由ニ因リ扶助料ヲ受クルノ資格ナカリシ者ニハ昭和十三年四月一日ヨリ之ニ扶助料ヲ給ス但シ其ノ軍人ノ遺族ニシテ同日ニ於テ現ニ扶助料ヲ受クル者アルトキハ當該扶助料權者失權シタル後恩給法ニ規定スル順位ニ依リ之ヲ給ス

前項ニ規定スル者ト雖モ軍人死亡ノ當時ニ於テ前項ノ事由以外ノ事由ニ因リ扶助料ヲ受クルノ資格ナカリシ者又ハ其ノ後ニ失權事由アリタル者ニハ扶助料ヲ給セズ

第一項ノ扶助料ニ付テハ昭和八年九月三十日以前ノ軍人ノ遺族ノ扶助料ニ關スル規定ニ依リ其ノ年額ヲ定ムルノ外恩給法ニ依リ之ヲ給ス

第一項ノ扶助料ニ付テハ恩給法第五條ニ規定スル請求期間ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ起算ス

第七條 北海道廳森林監守ヨリ引續キ同廳森林主事ト爲リ恩給法施行後退職シタル者ニハ其ノ在職年ニ森林監守ノ勤續年月數ヲ通算シ昭和十三年四月一日ヨリ其ノ者ノ受クル年金タル恩給ヲ改定シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ恩給法第五條ニ規定スル請求期間ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ起算ス

附則 (昭和十五年法律第二十一號)

第一條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ニ於テ其ノ加算年ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第三條 恩給法第五十八條第一項第三號ノ改正規定ハ本法施行前普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ジタル者及本法施行ノ際現ニ在職シ本法施行後

退職シテ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ズル者ニハ之ヲ適用セズ
前項ニ規定スル者本法施行後再就職シ其ノ普通恩給ヲ改定セラルル場合ニハ其ノ改定ニ因ル增額分ニ付恩給法第五十八條第一項第三號ノ改正規定ヲ適用ス

第四條 恩給法第七十二條第三項ノ改正規定ハ届出人ガ昭和十二年七月七日以後ニ死亡シタル場合ニ限リ之ヲ適用ス

第五條 届出人ノ死亡後委託ニ基キ届サレタル届出ガ其ノ受理セラレタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス

恩給法第七十二條第三項ノ改正規定ハ本法施行前ニ届出ノ受理セラレタル場合ニ於ケル扶助料及一時扶助料ニ付テハ確認ノ裁判確定ノ日ヨリ、同條第二項ノ規定ノ適用セラルル場合ニ於ケル扶助料及一時扶助料ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ進行ス

第七條 恩給法第七十二條第三項ノ改正規定中死亡後二年内ニ出人ガ本法施行前ニ死亡シ戸籍届出ガ本法施行後ニ受理セラルル場合ニ於テハ之ヲ本法施行後二年内トス

前項ニ規定スル期間ガ第五條ニ規定スル期間ト異ナル場合ニ於テハ第五條ニ規定スル期間ニ依ル

第六條 恩給法第五條ニ規定スル期間ハ前條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ同項中戸籍届出ノ受理ノ日トアルハ本法施行ノ日トス

恩給法第七十二條第三項ノ改正規定ハ届出人ノ生存中郵送シタル戸籍ノ届書ガ届出人ノ死亡後本法施行前受理セラレタル場合ニ於テハ恩給法第七十四條ノ二第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ同項中戸籍届出ノ受理ノ日トアルハ本法施行ノ日トス

第八條 恩給法第五條ニ規定スル期間ハ前條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ同項中戸籍届出ノ受理ノ日トアルハ確認ノ裁判確定ノ日トス

（別表）

第一號表

（甲）

階等		將官	佐官	尉官
假定俸給年額		親任官	三同等上	四同等上
七、五〇〇圓	一高等官			
六、五〇〇圓	二同等官			
五、六〇〇圓	三同等官			
四、六〇〇圓	四同等官			
三、九五〇圓	五同等官			
三、三五〇圓	六同等官			
二、三五〇圓	七同等官			
一、七〇〇圓	八同等官			
一、四〇〇圓				

（乙）

第二號表

階等		准士官	下士官	兵
假定俸給年額		一判任官	二同等上	一海軍等兵
一、二〇〇圓				六〇〇圓
			三同等上	海軍二等兵
			八五五圓	五四〇圓
			四同等上	海軍一等兵
			七六五圓	四九五圓
			五同等上	海軍上等兵
			六七五圓	四五〇圓

傷病原因症狀等階等差等			將官	佐官	尉官	准士官	下士官	兵
號	甲		勅任待遇	奏任待遇	奏任待遇	判任待遇	判任待遇	判任待遇
	戰鬪又ハ戰鬪ニ準ズヘキ公務	特別項	圓	圓	圓			
		第一項	二、四〇〇	一、九八〇	一、五六〇	一、四〇四	一、二八七	一、一七〇
		第二項	二、〇〇〇	一、五七五	一、二五四	一、二二八	一、〇三四	九四〇
		第三項	一、六〇〇	一、二六〇	一、〇〇三	九〇三	八二八	七五二
		第四項	一、二八〇	九六〇	七六七	六九〇	六三三	五七五
		第五項	一、〇〇〇	七五〇	五八七	五二八	四八四	四四〇
		第六項	八〇〇	六〇〇	四六〇	四一四	三八〇	三四五
		第七項	五三四	四〇〇	三〇七	二七六	二五三	二三〇

第三號表

甲	傷病原因	症狀等差	下士官	兵
戰鬪又ハ戰鬪ニ準ズベキ公務	第一款	第一目	三四八圓	二九〇圓
	第二款	第二目	二六四	二二〇
	第三款	第三目	一九八	一八〇
		第四目	一六五	一五〇

乙	傷病原因	症狀等差	下士官	兵
普通公務	第一款	第一目	二七九圓	二三二圓
	第二款	第二目	二二二	一七六
	第三款	第三目	一七三	一四四
	第四款	第四目	一四四	一一〇

特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以內ノ金額ヲ加ヘタルモノトス

號		甲	乙
		普通公務	
第一款	第一項	一、二八〇	一、九二〇
	第二項	一、〇二四	一、二八〇
	第三項	八〇〇	一、〇〇〇
	第四項	六四〇	八〇〇
	第五項	五一二	六四〇
	第六項	四〇九	五一二
	第七項	三二七	四〇九
第二款	第一項	一、〇二四	一、二八〇
	第二項	八一九	一、〇二四
	第三項	六五五	八一九
	第四項	五二四	六五五
	第五項	四一九	五二四
	第六項	三三五	四一九
	第七項	二六八	三三五
第三款	第一項	八一九	一、〇二四
	第二項	六五五	八一九
	第三項	五二四	六五五
	第四項	四一九	五二四
	第五項	三三五	四一九
	第六項	二六八	三三五
	第七項	二一四	二六八
特別項		四四	五五

高等官及同待遇者ニ給スベキ金額ハ判任一等ノ者ニ給スベキ金額ニ其ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス

號		乙	號
		普通公務	
第一款	第一項	二七九圓	第四款
	第二項	二二二	
	第三項	一七三	
	第四項	一四四	
	第五項	一一五	
	第六項	九二	
	第七項	七一	
第二款	第一項	二三二圓	
	第二項	一七六	
	第三項	一四四	
	第四項	一一〇	
	第五項	八八	
	第六項	六六	
	第七項	五二	
第三款	第一項	一五〇	
	第二項	一一五	
	第三項	八八	
	第四項	六六	
	第五項	四四	
	第六項	三三	
	第七項	二二	

第五號表

等階		將官	佐官	尉官	准士官	下士官
勅任待遇	勅任	親任	奏任		判任	
		至三等乃至五等			一等乃至三等	四等
奏任待遇						
判任待遇						
准士官下士官待遇						
一等兵	海軍					
海軍二等兵	陸軍上等兵					
海軍三等兵	陸軍一等兵					
海軍四等兵	陸軍二等兵					

第六號表

階	將官	佐官	尉官	准士官	下士官	兵
親任勅任奏任	三等乃至五等	六等乃至九等	一等	二等乃至四等		
勅任待遇	奏任待遇	判任待遇				
率	一九・二割	二〇・八割	二二・四割	二四・〇割	二六割	二八割	三〇割	三一割	三四割	三六割	三六割

第七號表

階	將官	佐官	尉官	准士官	下士官	兵
親任勅任奏任	三等乃至五等	六等乃至九等	一等	二等乃至四等		
勅任待遇	奏任待遇	判任待遇				
率	一四・四割	一五・六割	一六・八割	一八・〇割	一八・六割	二〇・四割	二一・六割	二一・六割	二四・〇割	二八・八割	二八・八割

第八號表

階	將官	佐官	尉官	准士官	下士官	兵
親任勅任奏任	三等乃至五等	六等乃至九等	一等	二等乃至四等		
勅任待遇	奏任待遇	判任待遇				
海軍	陸軍上等兵	陸軍一等兵	陸軍二等兵			
海軍二等兵	海軍三等兵	海軍四等兵				
率	一九・二割	二〇・八割	二二・四割	二四・〇割	二四・八割	二七・二割	二八・八割	二八・八割	二八・八割		

●恩給法施行令

大正十二年八月十七日
勅令第三百六十七號

改正　大正一二年第五二〇號、一三年第五一號、第四〇七號、一四年第五三號、一五年第二四四號、第三〇四號
昭和二年第三六二號、三年第七三號、五年第一九號、七年第六〇號、八年第二三六號、第三〇五號、九年第三九五號、一〇年第二四號、第二〇七號、一一年第六八號、第一七五號、一二年第四一號、第二二五號、第五〇四號、第六八五號、一三年第二〇號、第三八二號、第五八八號、第五九三號、第七三二號、一四年第二九〇號、第六七六號、一五年第二三二號

廢恩給法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（國務各大臣副署）

恩給法施行令

第一條　恩給法第九條ノ二ノ規定ニ依ル恩給受給權存否ノ調査ハ受給者ノ身分關係ノ變動ノ有無ニ付之ヲ行フ

恩給法施行令

階等 ＼ 遺族ノ數	三人	四人	五人以上
親任勅任奏任	〇・五割	一・〇割	一・五割
勅任待遇奏任待遇判任待遇	一・〇割	一・七五割	二・五割
將官佐官尉官	二・〇割	二・五割	三・〇割
准士官下士官兵	二・〇割	二・五割	三・〇割
一等兵	三・〇割	三・五割	四・〇割
二三等兵	四・〇割	四・五割	四・五割

遺族タル夫又ハ成年ノ子カ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキコトヲ條件トシテ扶助料ヲ給セラルルトキハ其ノ者ニ付テハ前項ニ規定スル事項ノ外特ニ右事情ノ繼續ノ有無ヲ調査ス

恩給法第七十五條第二項ノ規定ニ依リ加給ヲ受クル受給者ニ付テハ第一項ニ規定スル事項ノ外遺族ノ員數ヲ調査ス

第一條ノ二　受給者ハ左ノ區別ニ從ヒ調査上必要ナル書類ヲ裁定官廳ニ提出スヘシ

一　前條第一項又ハ第三項ノ事實ヲ證スル爲ニハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ在リテハ戸籍抄本、扶助料權者ニ在リテハ戸籍謄本

二　前條第二項ノ事實ヲ證スル爲ニハ不具廢疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキコトヲ證スル居住地ノ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書

前項ノ書類ハ事實カ裁定官廳ニ顯著ナル場合又ハ他ノ相當官公署ノ證明アル場合ニ於テ裁定官廳カ明カニ之ヲ承認シタルトキハ其ノ承認ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一條ノ三ニ規定スル書類ヲ提出スヘキ月カ恩給ノ裁定ヲ受ケタル月（證書ノ日附ニ在ル月）ノ翌月ヨリ十二月內ニ在ルトキハ其ノ書類ヲ提出スルコトヲ要セス

第一條ノ三 各受給者ハ前條ノ書類ヲ左ノ區別ニ從ヒ隔年提出スヘシ

一 公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテ恩給ヲ受クル者ハ一月

二 遺族トシテ恩給ヲ受クル者ハ七月

陸軍ノ軍人、之ニ準スヘキ者及警察監獄職員竝其ノ遺族ハ昭和ノ偶數年ニ於ケル前項ノ月ニ提出シ他ノ公務員及之ニ準スヘキ者竝其ノ遺族ハ其ノ奇數年ニ於ケル前項ノ月ニ提出スヘシ

第一條ノ四 第一條ノ二ニ規定スル書類ヲ提出セサル受給者ニ對シテハ之ヲ提出スヘキ月ヨリ一期隔リタル後ノ支給期以後ノ支給ヲ一時差止ムヘシ

第二條 恩給法第十條ノ規定ニ依リ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ニ依ル

同法第十條ノ恩給權者カ死亡ノ當時家族ナリシトキハ其ノ相續人ハ恩給權者死亡ノ當時之ト同一戶籍內ニ在リタルコトヲ要ス

第三條 恩給法第十條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未タ恩給ノ請求ヲ爲ササリシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ爲スコトヲ得

裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ死亡者ノ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第三條 恩給法第十二條ノ規定ニ依リ內閣恩給局長以外ノ者ニ於テ恩給ヲ受クルノ權利ヲ裁定スヘキ場合ハ左ノ區分ニ依ル

一 內地ニ於ケル公立ノ小學校、青年學校、幼稚園、盲學校、聾唖學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

二 前號ニ揭クルモノヲ除クノ外內地ニ於ケル公立ノ學校又ハ圖書館ノ教育職員ニシテ文官ニ非サルモノノ一時恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

三 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル公立ノ小學校、普通學校、公學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾唖學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ裁定ス

四 朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ於ケル警察監獄職員（陸海軍ニ屬スルモノ及樺太ニ於ケル刑務所ニ屬スルモノヲ除ク）及其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督（道ノ警部補、巡査及消防手竝其ノ遺族ノ恩給ハ道知事）、臺灣ニ在リテハ臺灣總督（州又ハ廳ノ警部補及巡査竝其ノ遺族ノ恩給ハ州知事又ハ廳長）、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ滿洲國駐箚特命全權大使、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ裁定ス

五 內地ニ於テ國庫以外ノ者ヨリ俸給ヲ受クル警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事（警視廳部內ノ職員ニ在リテハ警視總監）之ヲ裁定ス

六 恩給法第二十四條第三號ニ揭クル待遇職員（國庫ヨリ俸給ヲ給スルモノヲ除ク）及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事（警視廳部內ノ職員ニ在リテハ警視總監）、朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、關東州ニ在リテハ大使之ヲ裁定ス

七 在滿學校組合待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者及其ノ遺族ノ恩給ハ大使之ヲ裁定ス

第四條 恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ分擔スヘキ恩給ハ普通恩給、扶助料、一時恩給及一時扶助料トシ國庫カ恩給金額ノ分擔ヲ請求スル場合ニ於テハ當該公務員ノ在職年中ニ恩給ノ負擔者ヲ異ニスヘキ二種以上ノ公務員ノ在職年ヲ含ムトキハ各在職年ノ年數ヲ其ノ各官職ノ退職又ハ死亡前一年內ノ俸給年額ニ乘シタル數ニ比例シテ分擔請求額ヲ定ム但シ退職又ハ死亡ヲ以テ終ラサル在職ニ付テハ右ノ退職又ハ死亡前一年內ノ俸給年額ニ代ヘ（在職最終ノ俸給年額（軍人及準軍人ニ付テハ恩給法別表第一號表ノ金額）ニ依ル

前項ニ規定スル退職又ハ死亡前一年內ノ俸給年額ハ恩給法第五十九條ノ二ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算出ス

恩給法第四十五條ノ規定ニ依リテ普通恩給ヲ受クヘキ所定ノ年數ニ滿タサル在職年ノ者ニ給スル普通恩給及其ノ遺族ニ給スル扶助料ニ付テハ當該所定ノ年數ニ滿タサル年月數ハ分擔請求額計算上之ヲ當該恩給ノ負擔者ニ歸スヘキ在職年ト看做ス

分擔請求額ニ付在職年數ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ其ノ基礎タル在職年月數ニ加算ス

恩給法施行令

一 恩給法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付一年

二 恩給法第六十條第三項、第六十一條第四項、第六十一條ノ二第四項、第六十二條第七項、第六十三條第五項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ外國勤續ニ因ル加給ヲ爲スヘキ場合及同法第六十二條第四項又ハ同法第六十三條第三項ノ規定ニ依リ加給ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付六月

前四項ノ規定ハ恩給法第十七條第二項乃至第四項ノ分擔請求ニ付之ヲ準用ス

第四條ノ二 恩給法第十七條第五項ノ規定ニ依リテ爲ス一時恩給金額（在外指定學校職員ノ一時恩給ヲ除ク）ノ分擔ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一 恩給法第十六條第四號ニ揭クル公務員ニシテ國庫又ハ府縣若ハ之ニ準スヘキ經濟ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年中ニ同號ニ揭クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニシテ市町村又ハ之ニ準スヘキ經濟ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年ヲ通算シテ國庫又ハ府縣若ハ之ニ準スヘキ經濟ヨリ同號但書ノ一時恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫又ハ府縣若ハ之ニ準スヘキ經濟ハ通算セラルヘキ在職年ニ應シ同號ニ揭クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ俸給ヲ給スル市町村又ハ之ニ準スヘキ經濟ニ對シ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

二 恩給法第十六條第四號ニ揭クル公務員ニシテ市町村又ハ之ニ準スヘキ經濟ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年中ニ左ニ揭クル者ノ在職年ヲ通算シテ市町村又ハ之ニ準スヘキ經濟ヨリ同號但書ノ一時恩給ヲ給スル場合ニ於テハ市町村又ハ之ニ準スヘキ經濟ハ國庫ニ對シ其ノ

通算セラルヘキ在職年ニ應シ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

(イ) 同條第一號ニ掲クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者

(ロ) 同條第四號ニ掲クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クル者

(ハ) 同條第五號又ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クル者

三 恩給法第十六條第四號ニ掲クル公務員ニシテ市町村又ハ之ニ準スヘキ經濟ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年中ニ左ニ掲クル者ノ在職年ヲ通算シテ市町村又ハ之ニ準スヘキ經濟ヨリ同號但書ノ一時恩給ヲ給スル場合ニ於テハ市町村又ハ之ニ準スヘキ經濟ハ府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ニ對シ通算セラルヘキ在職年ニ應シ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

(イ) 同條第三號ニ掲クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者

(ロ) 同條第四號ニ掲クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニシテ府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ヨリ俸給ヲ受クル者

(ハ) 同條第五號又ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ヨリ俸給ヲ受クル者

四 恩給法第十六條第四號ニ掲クル公務員ニ同號但書ノ一時恩給ヲ給スヘキ市町村又ハ之ニ準スヘキ經濟ハ其ノ一時恩給ノ基礎在職年中ニ他ノ市町村又ハ之ニ準スヘキ經濟ノ管轄內ニ於テ在職シタル同號ニ掲クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテノ在職年ヲ含ム場合ニ於テハ當該市町村又ハ之ニ準スヘキ經濟ニ對シ其ノ合算セラルル在職年ニ應シ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前條第一項及第二項ノ規定ハ前項各號ノ分擔請求ニ付之ヲ準用ス

第五條 恩給ノ分擔ハ支給義務額ニ依リ之ヲ爲スモノトス

第六條 左ニ掲クルモノハ國庫ヨリ俸給ヲ給セサルモ恩給法第二十條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ文官トス

一 地方官官制第二條ニ規定スル府縣判任官

二 都市計畫地方委員會ノ職員ニシテ官吏タルモノ

三 神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員ニシテ官吏タルモノ

四 朝鮮道立醫院ノ職員ニシテ官吏タルモノ

第七條 恩給法第二十一條第二項第二號ノ陸軍又ハ海軍ノ學生生徒トハ左ニ掲クル者ニシテ軍人ニ非サルモノヲ謂フ

一 陸軍ノ士官候補生(見習士官タル者ヲ除ク)及軍醫候補生、陸軍豫科士官學校、陸軍幼年學校、陸軍工科學校、熊谷陸軍飛行學校、水戸陸軍飛行學校、陸軍經理學校ノ豫科生徒並陸軍戸山學校ノ軍樂生徒

二 海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校ノ生徒、海軍航空豫備學生、海軍豫備生徒、海軍豫備練習生及海軍豫備補習生

第八條 恩給法第二十二條第二項ノ在外指定學校ハ外務大臣及文部大臣之ヲ指定ス但シ關東州及滿洲國ニ在リテハ大使之ヲ指定ス

前項ノ指定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ大使之ヲ定ム

第九條 恩給法第二十二條第三項ノ準教育職員トハ教授心得、助教授心得、教諭心得、助教諭心得、准訓導及判任官ノ待遇ヲ受ケサル保姆ニシテ專任教員タルモノヲ謂フ

第十條 恩給法第二十四條第三號ノ待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一 道路管理職員制ニ依ル職員

二 地方土木職員制ニ依ル職員

三 地方產業職員制ニ依ル職員(市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)

四 地方測候所職員制ニ依ル職員

五 地方學校衞生職員制ニ依ル職員

六 地方社會教育職員制ニ依ル職員

七 地方社會事業職員制ニ依ル職員

八 地方建築職員制ニ依ル職員

八ノ二 地方警察職員制ニ依ル職員

八ノ三 地方體育運動職員制ニ依ル職員

八ノ四 地方學校營繕職員制ニ依ル職員

八ノ五 地方移植民職員制ニ依ル職員

九 防疫職員制ニ依ル職員

十 稅關官制第二十六條ノ規定ニ依ル職員

十一 臨時海港檢疫所官制ニ依ル職員

十二 廳府縣衞生職員制ニ依ル職員

十三 癩療養所職員制ニ依ル職員

十四 家畜防疫職員制ニ依ル職員

十四ノ二 職業紹介所官制及昭和十三年勅令第四百五十一號ニ依ル職員

十四ノ三 廳府縣健康保險職員制ニ依ル職員

十五 朝鮮地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、產業、衞生、社會事業又ハ測候ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員(府費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)

十六 臺灣地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、建築、衞生、產業、勸業、檢查、社會事業又ハ社會教育ノ事務又ハ技術ニ從事スル職員(市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)

十七 關東州地方待遇職員令ニ依ル地方ノ產業、土木、衞生、教育、社會事業、海事又ハ行政ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員

十八 南洋群島地方待遇職員令ニ依ル地方ノ產業、土木其ノ他ノ行政ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員

第十一條 恩給法第二十四條第四號ノ待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一 內閣印刷局醫及內閣印刷局藥劑師

一ノ二 保險院保健技師

二 造幣醫、造幣藥劑師、專賣醫及專賣藥劑師

三 陸軍ノ通譯ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ

四 靖國神社附屬遊就館職員ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ

四ノ二 遞信醫及遞信藥劑師

五 鐵道醫及鐵道藥劑師

六 朝鮮ニ於ケル專賣醫、專賣藥劑師、鐵道醫、鐵道藥劑師及鐵道看護長

七 臺灣ニ於ケル警察醫、檢疫醫員、檢疫醫員及河川監視

八 關東州ニ於ケル檢疫員及檢疫醫員

第十二條 恩給法第三十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル

一 戰爭開始後戰地ニ到リタル者ニ付テハ戰地ニ到ルヘキ事由ノ生シ

タル當時所在スル地ノ屬スル地域ヲ離レタル月ヨリ加算ス

一　戰爭中戰地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ其ノ歸還スヘキ地ノ屬スル地域ニ到著シタル月迄加算ス

前項ノ地域トハ內地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島及之ニ準スヘキ外國ノ地區ヲ謂フ

恩給法第三十二條第一項第二號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル

一　航空基地タル期間ノ開始後航空基地ニ到リタル者ニ付テハ其ノ地ニ到著シタル月ヨリ加算ス

二　航空基地タル期間內ニ航空基地ヲ離レタル者ニ付テハ其ノ地ヲ離レタル月迄加算ス

恩給法第三十二條第一項第三號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル

一　動員(之ニ準スルモノヲ含ム)部隊ニ編入セラレタル者ニ付テハ編入ノ月、動員(之ニ準スルモノヲ含ム)下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下令ノ月ヨリ加算ス

二　戰爭開始後戰務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戰爭中其ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

前四項ノ規定ハ恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル加算ニ付之ヲ準用ス

第十三條　恩給法第三十五條ノ規定ニ依リ鎭戍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外公務員鎭戍ノ爲內國ヲ出發シタルトキハ內國ヲ離レタル月ヨリ加算シ鎭戍ノ終了後直ニ內國ニ歸還シタルトキハ內國歸著ノ月迄加算ス

第十四條　恩給法第三十六條ノ規定ニ依リ航空加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ左ノ區分ニ依ル

一　同月內ニ於テ飛行時數五時間以上飛行機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキ又ハ航空機ニ搭乘シ特ニ危險ト認ムル航空試驗ニ從事シタルトキハ其ノ一月ニ付一月半

二　同月內ニ於テ飛行時數一時間以上飛行機ニ搭乘シ又ハ五時間以上航空船、航行中ノ艦船繫留ノ氣球若ハ自由氣球ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付一月

三　前二號ニ揭クルモノヲ除クノ外航空機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付半月

第十四條ノ二　恩給法第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ戰車加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル

一　同月內ニ於テ十五日以上(一日三時間以上)戰車ニ搭乘シ戰車勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付半月

二　同月內ニ於テ五日以上(一日三時間以上)戰車ニ搭乘シ戰車勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付三分ノ一月

第十五條　恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ加算スヘキ邊陬又ハ不健康ノ地域及其ノ加算ノ程度ハ別表第二號表ニ依ル

第十六條　邊陬又ハ不健康ノ地域ノ加算ハ在勤地外ノ地ヨリ其ノ在勤地ニ赴任シタル者ニ付テハ在勤地ニ到著シタル月ヨリ、其ノ地ニ在リテ就職シタル者ニ付テハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ其ノ在勤ヲ止メタル月ヲ以テ終ル

前項ノ地域ニ在勤中引續キ九十日以上其ノ地域ヲ離レタルトキハ全ク地域ヲ離レタル月ニ對シテハ邊陬又ハ不健康ノ地域ノ加算ヲ爲サス

第十七條　恩給法第三十八條ノ規定ニ依ル不健康業務ノ加算ハ一月ニ付半月トス其ノ業務左ノ如シ

一　有毒ノ瓦斯若ハ蒸氣、爆藥類又ハ危險ナル細菌ノ研究又ハ製造ニ直接ニ從事スル勤務ニシテ內閣總理大臣ノ指定スルモノ

二　排水量千噸以下ノ在役ノ驅逐艦、水雷艇若ハ掃海艇乘員トシテノ勤務又ハ鐵道事業ニ於ケル蒸汽機關車乘員トシテノ現業勤務

三　炭坑內切羽ニ於ケル連續的現業勤務

四　肺結核、喉頭結核又ハ癩ノ患者ヲ收容スル病室ニ於テ直接看護ニ從事スル勤務

前項ニ規定スル業務ニ從事中引續キ三十日以上服務セサルトキハ全ク服務セサル月ニ對シテ不健康ノ業務ノ加算ヲ爲サス

第十八條　恩給法第三十九條ノ遠洋航海トハ北緯五十度以北、東經百六十度以東、東經百六十度北緯四十度ノ點ト東經百四十度北緯二十度ノ點トヲ連結スル線ノ以東以南、北緯二十度以南及東經百十度以西ノ海面ヲ航行シ一航程千浬ヲ超ユル航海ヲ謂フ

第十九條　航海加算ハ初發港出發ヨリ之ニ歸著シ又ハ到達港ニ達スル迄ノ期間ニ對シ之ヲ爲ス但シ出發ニ當リ內國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ヲ離レタル月ヨリ加算シ歸著ニ際シ內國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ニ到著シタル月迄加算ス

航海中引續キ三十日以上航行セサルトキハ全ク航行セサル月ニ對シテハ航海加算ヲ爲サス

第十九條ノ二　恩給法第四十條ノ二ニ規定スル期間一月以上ニ亙ルトハ其ノ期間カ在職年ノ計算ニ於テ一月以上ニ計算セラルル總テノ場合ヲ謂フ但シ現實ニ職務ヲ執ルヲ要スル日ノアリタル月ハ在職年ノ計算ニ於テ之ヲ半減セス

第二十條　恩給法第四十四條ノ本俸ニ準スヘキモノトハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一　年功ニ因ル加俸

二　府縣知事ノ指定地加俸

三　官立又ハ公立ノ大學ノ教授又ハ助教授ノ職務俸

四　第一號ニ揭クルモノヲ除クノ外市町村立小學校教員加俸令ニ依ル加俸

五　警察監獄職員ノ精勤加俸及功勞加俸

第二十一條　恩給法第四十八條第一項第一號ニ規定スル流行病及地域ハ別表第三號表ニ依ル

第二十二條　恩給法第四十八條第一項第二號ノ流行病ノ種類左ノ如シ

一　マラリア(黑水熱ヲ含ム)

二　猩紅熱

二ノ二　痘瘡

三　コレラ

四　腳氣(戰地ニ限ル)

五　發疹チフス

六　腸チフス

七 パラチフス
八 ペスト
九 回歸熱
十 赤痢
十一 流行性腦脊髓膜炎
十二 流行性感冒
十三 肺ヂストマ病
十四 トリパノゾーム病
十五 ワイルス氏病
十六 カラアザール
十七 黃熱

第二十三條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依ル戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病トハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一 戰地ニ於テ動務中敵ノ設置若ハ遺棄シタル危險物ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病
二 暴徒鎭壓又ハ集團ヲ爲ス馬賊海賊等人等討伐中ノ敵對行動ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病
三 外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域內ニ於テ動務中又ハ該地域內ヲ職務ヲ以テ旅行中ニ於ケル該交戰又ハ擾亂ニ因ル傷痍疾病
四 航空機ニ乘シ航空動務中又ハ潛水艦ニ乘シ潛航動務中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病
五 職務ヲ以テ兇賊又ハ脫獄囚ヲ逮捕スルニ當リ危害ヲ加ヘラルヘキコトヲ豫斷シ得ルニ拘ラス危險ヲ冒シテ其ノ職務ヲ執行シタル爲加ヘラレタル傷痍疾病
六 職務ヲ以テコレラ又ハペストノ防疫、診療又ハ看護ニ直接從事シ之カ爲罹リタル該疾病
七 急流其ノ他生命ノ危險ヲ感スヘキ事情ノ下ニ於ケル潛水動務ニ因ル傷痍疾病

第二十四條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依リ不具廢疾ノ程度ヲ分チテ左ノ八項トス

特別項症

一 常ニ就床ヲ要シ且複雜ナル介護ヲ要スルモノ
二 重大ナル精神障碍ノ爲常ニ監視又ハ複雜ナル介護ヲ要スルモノ
三 兩眼ノ視力カ明暗ヲ辨別シ得サルモノ
四 身體諸部ノ障碍ヲ綜合シテ其ノ程度第一項症ニ第一項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ

第一項症

一 複雜ナル介護ヲ要セサルモ常ニ就床ヲ要スルモノ
二 精神的又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅ニ自用ヲ辨シ得ルニ過キサルモノ
三 咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ廢シタルモノ
四 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
五 肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
六 膝關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第二項症

一 精神的又ハ身體的作業能力ノ大部ヲ失ヒタルモノ
二 咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ
三 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
四 兩耳全ク聾シタルモノ
五 大動脈瘤、鎖骨下動脈瘤、總頸動脈瘤、無名動脈瘤又ハ腸骨動脈瘤ヲ發シタルモノ
六 腕關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
七 足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第三項症

一 肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
二 膝關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第四項症

一 精神的又ハ身體的作業能力ヲ著シク妨クルモノ
二 咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ著シク妨クルモノ
三 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
四 兩耳ノ聽力カ〇・〇五メートル以上ニテハ大聲ヲ解シ得サルモノ
五 泌尿器ノ機能ヲ著シク妨クルモノ
六 兩睾丸ヲ全ク失ヒタルモノニシテ脫落症狀ノ著シカラサルモノ
七 腕關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
八 足關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第五項症

一 頭部、顏面等ニ大ナル醜形ヲ殘シタルモノ
二 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得ルモノ
三 一側總指ヲ全ク失ヒタルモノ

第六項症

一 精神的又ハ身體的作業能力ヲ高度ニ妨クルモノ
二 頸部又ハ軀幹ノ運動ニ著シク妨アルモノ
三 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
四 脾臟ヲ失ヒタルモノ
五 一側拇指及示指ヲ全ク失ヒタルモノ
六 一側總指ノ機能ヲ廢シタルモノ

第七項症

一 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
二 一耳全ク聾シ他耳尋常ノ話聲ヲ一・五メートル以上ニテハ解シ得サルモノ
三 一側腎臟ヲ失ヒタルモノ
四 一側拇指ヲ全ク失ヒタルモノ
五 一側示指乃至小指ヲ全ク失ヒタルモノ
六 一側足蹠節カ直角位ニ於テ强剛シタルモノ
七 一側總趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前項ノ各症ニ該當セサル傷痍疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ査定ス

視力ヲ測定スル場合ニ於テハ屈折異常ノモノニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬國共通視力標ニ依ル

第二十四條ノ二 恩給法第四十九條第二項ニ規定スル傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ四款トス

第一款症

一 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

二 一耳全ク聾シタルモノ

三 一側拇指ノ機能ヲ毀シタルモノ

四 一側示指乃至小指ノ機能ヲ毀シタルモノ

五 一側總趾ノ機能ヲ毀シタルモノ

第二款症

一 精神的又ハ身體的作業能力ヲ輕度ニ妨クルモノ

二 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ三・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三 一耳ノ聽力カ〇・〇五メートル以上ニテハ大聲ヲ解シ得サルモノ

四 一側睾丸ヲ全ク失ヒタルモノ

五 一側示指ヲ全ク失ヒタルモノ

六 一側第一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第三款症

一 一側示指ノ機能ヲ毀シタルモノ

二 一側中指ヲ全ク失ヒタルモノ

三 一側第一趾ノ機能ヲ毀シタルモノ

四 一側第二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第四款症

一 一眼ノ視力カ〇・一ニ滿タサルモノ

二 一耳ノ聽力カ尋常ノ話聲ヲ〇・五メートル以上ニテハ解シ得サルモノ

三 一側中指ノ機能ヲ毀シタルモノ

四 一側環指ヲ全ク失ヒタルモノ

五 一側第二趾ノ機能ヲ毀シタルモノ

六 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ査定ニ付之ヲ準用ス

第二十四條ノ三 恩給法第五十八條第一項第四號ニ規定スル恩給外ノ所得ハ恩給受給者カ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スル場合ノ所得ニ限ル但シ左ニ揭クル所得ハ右地域内ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有セサルトキト雖之ヲ所得中ニ算入ス

一 恩給受給者カ右地域内ニ有スル資産又ハ事業ヨリ生スル所得

二 右地域内ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ恩給受給者ノ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配

三 右地域内ニ於テ恩給受給者ノ受クル俸給、給料、歲費、費用辨償（月額又ハ年額ヲ以テ支給スルモノニ限ル）、年金（郵便年金ヲ除ク）

賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與

恩給受給者カ前項ノ地域内ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スルトキハ右地域外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得ト雖之ヲ恩給外ノ所得中ヨリ除外セス

第二十四條ノ四 前條第一項第二號及第三號ニ揭クルモノ以外ノ恩給外ノ所得ハ所得稅法ニ規定スル個人ノ總所得中同法第三十條第一項第二號ニ揭クル所得ヲ除キタルモノト同範圍トス

所得稅法第二十九條ニ揭クル所得ハ之ヲ恩給外ノ所得中ヨリ除外ス

第二十四條ノ五 恩給外ノ所得ノ計算ニ關シテハ所得稅法第三十條第一項乃至第四項及第六項竝所得稅法施行規則第十條及第三十四條ノ規定ヲ準用ス

第二十四條ノ六 恩給外ノ所得ハ毎年稅務署長ノ調査ニ依リ裁定官廳之ヲ決定ス

裁定官廳ハ恩給外ノ所得ノ調査ヲ要スル恩給受給者ノ氏名、住所又ハ居所及恩給年額ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

稅務署長恩給外ノ所得ノ調査ヲ結了シタルトキハ之ヲ裁定官廳ニ報告スヘシ

前三項中稅務署長トアルハ臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ在リテハ各其ノ地域ニ於ケル稅務官署トス

第二十四條ノ七 恩給法第五十八條第一項第四號ノ規定ニ依ル恩給ノ一部停止ハ恩給外ノ所得ノ決定ニ基キ其ノ年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ル期間分ノ恩給ニ付テ之ヲ爲ス但シ其ノ前年以前ノ分ノ恩給ニ付停止ヲ爲スヘキ場合ニ於テ恩給ノ請求又ハ裁定ノ遲延ニ依リ一般ノ手續ニ依リテ恩給外ノ所得ヲ調査決定スルコトヲ得サルトキハ前條ニ規定スル調査決定ノ機關ハ其ノ分ニ付テハ一般ノ場合ニ準シ臨時ニ恩給外ノ所得ヲ調査決定ス此ノ場合ニ於テハ其ノ停止額ハ後ノ恩給支給額中ヨリモ之ヲ控除スルコトヲ得

恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル年分ノ恩給ニ付テハ恩給法第五十八條第一項第四號ノ規定ニ依ル恩給ノ一部停止ノ手續ヲ行ハス

恩給給與ノ止ムヘキ事由生シタル場合ニ於テハ恩給ノ停止ハ其ノ事由ノ生シタル月分迄ノ恩給ニ付之ヲ爲ス

第二十四條ノ八 年額千圓以上ノ恩給ヲ受クル者ニシテ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有セシテ第二十四條ノ三第一項但書第二號及第三號ニ規定スル所得ヲ得ルモノハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ直接ニ裁定官廳ニ其ノ申告ヲ爲スヘシ

第二十四條ノ九 陸軍戰時給與規則第六條第一項若ハ第二項又ハ海軍戰時給與規則第二條第一項ノ規定ニ依ル給與ヲ受クル者ニハ恩給法第五十九條第六項ノ規定ニ依リ同條ノ納金ヲ免除ス但シ全ク戰地外ニ在ル月ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

内閣總理大臣ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依リ納金ノ免除ヲ受クル者ノ範圍ヲ制限スルコトヲ得

第二十四條ノ十 恩給法第五十九條ノ二ニ規定スル退職前一年内ノ俸給ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ例ニ依ル

一 初任ノ月ニ於テ日割計算ヲ以テ俸給ヲ給セラレタル場合ニ於テモ全月分ヲ以テ其ノ月ノ俸給額トス

二　月ノ中途ニ於テ昇給アリタルトキハ昇給後ノ俸給額ヲ以テ其ノ月ノ俸給額トス

三　休職、罰俸等ノ事情ニ依リ本來給與セラルヘキ俸給ニ比シ一時的ニ少額ヲ給セラレタル場合ニ於テモ本來給與セラルヘキ俸給額ニ依ル

第二十四條ノ十一　恩給法第五十九條ノ二第一項但書ニ規定スル一級ノ昇給ニ付テハ左ノ例ニ依ル

一　級俸ノ定アル場合ニ於テ當分給トシテ給與級俸ヨリ少額ノ俸給ヲ給セラレタル者ニ付テハ給與級俸ノ直近上位ノ級俸ノ額ニ給與級俸ニ對シ當分俸給カ有スル割合ヲ乘シタルモノ（圓位未滿ハ圓位ニ滿タシム）ヲ以テ當分俸給ニ對スル一級上位ノ俸給額トス級俸ノ定アル場合ニ於テ月俸七十五圓未滿ノモノニ付級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ給與シタルトキ亦同シ

二　同一級俸ニ付上下ノ區分アル場合ニ於テハ其ノ上俸ハ之ヲ下俸ニ對スル一級上位ノ俸給ト看做ス

三　轉官職ニ依リ昇給ヲ來ス場合ニ於テハ新官職ニ付定メラレタル級俸中前ノ官職ニ付給セラレタル俸給ニ直近ニ多額ナルモノヲ以テ一級上位ノ俸給トス但シ其ノ額カ前官職ニ付給セラレタル俸給ニ其ノ百分ノ十五ヲ加ヘタル金額ニ達セサルトキハ之ニ達スル金額ヲ以テ一級上位ノ俸給ト看做ス

第二十五條　準文官ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一　高等官ノ試補ハ判任官一等トシ判任官見習ハ同四等トス

二　國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニ付テハ其ノ官等等級ニ依ル

第二十六條　準軍人ノ公務傷病等ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一　陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生ハ判任官一等トス

二　前號ニ揭ケサル陸軍ノ士官候補生（見習士官タル者ヲ除ク）及軍醫候補生、陸軍糧秣士官學校生徒、陸軍經理學校豫科生徒、海軍兵學校生徒、海軍機關學校生徒、海軍經理學校生徒、海軍航空豫備學生竝海軍豫備生徒ハ判任官三等トス

三　前二號ニ揭ケサル陸海軍諸生徒、海軍豫備練習生及海軍豫備補習生ノ階等ハ兵ニ準ス

第二十七條　教育職員及準教育職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一　教育職員ノ階等ハ其ノ官等等級又ハ待遇官等等級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル

二　準教育職員ノ階等ハ公立學校職員待遇官等等級令別表第二表ノ例ニ準ス

第二十八條　警察監獄職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ判任官四等トス但シ警部補ハ其ノ等級ニ依ル

第二十九條　待遇職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ其ノ待遇官等等級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル

第三十條　恩給法第六十二條第五項ニ規定スル中學校ト同等以下ノ程度ノ學校トハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一　師範學校

二　高等女學校

三　專門學校令ニ依ラサル實業學校（實業補習學校ヲ除ク）

四　中學校又ハ前二號ニ揭クル學校ニ準スヘキ學校

五　實業補習學校教員養成所

六　朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル中學校又ハ第一號乃至第三號若ハ第五號ニ揭クルモノニ準スヘキモノ

七　在外指定學校ニシテ中學校又ハ第一號乃至第三號ニ揭クル學校ニ準スヘキモノ

第三十條ノ二　恩給法第六十四條ノ二但書ノ規定ニ依ル一時恩給ノ返還ハ之ヲ負擔シタル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ再就職ノ月ノ翌月ヨリ一年內ニ一時ニ又ハ分割シテ之ヲ完了スヘシ前項ノ規定ニ依リ一時恩給ノ全部又ハ一部ヲ返還シ失格原因ナクシテ再在職ヲ退職シタルニ拘ラス普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生セサル場合ニ於テハ一時恩給ノ返還ヲ受ケタル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ返還者ニ還付スヘシ

第三十一條　恩給法第六十六條第四項ノ規定ニ依リ傷病賜金ヲ給スヘキ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ四目トス

第一目症

一　身體的作業能力ヲ輕度ニ妨クルコトアルモノ

二　一眼ノ視力カ〇・二ニ滿タサルモノ

三　一耳ノ聽力カ尋常ノ話聲ヲ三メートル以上ニテハ解シ得サルモノ

四　一側環指ノ機能ヲ廢シタルモノ

五　一側小指ヲ全ク失ヒタルモノ

六　一側第三趾乃至第五趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第二目症

一　一側小指ノ機能ヲ廢シタルモノ

二　一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第三目症

一　一眼ノ視力カ〇・二ニ滿タサルモノ

二　一耳ノ聽力カ尋常ノ話聲ヲ三メートル以上ニテハ解シ得サルモノ

三　一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第四目症

一　一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

二　前目ノ各症ニ次ク症ヲ貽シタルモノ

第二十四條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ查定ニ付之ヲ準用ス

第三十一條ノ二　恩給法第六十六條ノ二ノ規定ニ依リ返還セシムヘキ額ハ傷病賜金ノ額ノ六十四分ノ一ニ相當スル金額ニ傷病賜金ヲ受ケタル月ヨリ起算シ增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルニ至リタル月迄ノ月數ト四十八月トノ差月數ヲ乘シタル金額トシ增加恩給又ハ傷病年金ノ支給ニ際シ其ノ返還額ニ達スル迄支給額ノ三分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シテ返還セシム

第三十一條ノ三　恩給法第七十五條第二項但書ニ規定スル遺族ノ員數ニ依ル加給ニ付テハ左ノ區分ニ依ル

一　同一戸籍内ニ扶助料ヲ受クル者二人以上アル場合又ハ二以上ノ扶助料ヲ併セ受クル者アル場合ニ於テハ其ノ各ノ扶助料ニ付共通ニ加給ノ原因タルヘキ遺族ハ裁定官廳ニ於テ最初ニ請求ヲ受理シタル扶助料ニ付テノミ加給ノ原因タルモノトス但シ前段ノ場合ニ在リテハ各ノ扶助料ヲ受クル者全員ノ連署ヲ以テ、後段ノ場合ニ在リテハ之ヲ併セ受クル者ヨリ裁定官廳ニ於テ後ニ請求ヲ受理シタル一ノ扶助料ニ付テノミ加給ノ原因タラシムルコトヲ請求シタルトキハ後扶助料ノ加給額カ最初ノ扶助料ノ加給額ヨリ多額ト爲ル場合ニ限リ改定請求アリタル月ノ翌月ヨリ加給額ヲ改定ス

二　前號ニ掲クル各ノ扶助料ノ請求ヲ裁定官廳ニ於テ同日ニ受理シタルトキハ其ノ各ノ扶助料ニ付共通ニ加給ノ原因タルヘキ遺族ハ加給額ノ最多額ト爲ル扶助料ニ付テノミ加給ノ原因タルモノトス

前項第一號但書ノ規定ニ依リ加給額ヲ改定シタル後ニ於テ請求セラレタル扶助料ア場合ニ於テハ其ノ扶助料ニ加給ヲ爲ストキ其ノ加給額カ既ニ改定セラレタル加給額ヨリ多額ト爲ル場合ニ限リ更ニ改定ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項第一號但書ノ規定ヲ準用ス

第三十一條ノ四　恩給法第九十一條ノ規定ニ依リ在勤加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ左ノ區分ニ依ル

一　滿洲國新京特別市（恩給法第九十一條第二項ノ規定ノ適用アル場合ニ限ル）、樺太又ハ南洋群島ニ在勤シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付半月

二　臺灣、朝鮮又ハ關東州ニ在勤シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付三分ノ一月

第三十一條ノ五　恩給法第九十二條ノ規定ニ依リ國境警備加算又ハ理蕃加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ左ノ區分ニ依ル

一　滿洲國ニ在リテ其ノ國境警備ノ爲危險地域内ニ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付二月

二　朝鮮又ハ樺太ニ在リテ國境警備ノ爲危險地域内ニ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付一月半

三　臺灣ニ在リテ理蕃ノ爲危險地域内ニ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付一月半

第三十二條　第十六條ノ規定ハ恩給法第九十一條又ハ第九十二條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第三十三條　恩給法第九十六條ノ規定ニ依リ在職最終俸給年額ニ增加スヘキ金額ハ別表第四號表ノ區分ニ依ル

第三十四條　削除

第三十五條　廢官、廢職、廢廳、廢校若ハ官職名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在リタル者又ハ定員ノ減少ニ因リ退職シタル者卽日又ハ翌日他ノ官職ニ任セラレタルトキハ恩給法ノ適用ニ付テハ之ヲ勤續ト看做ス

第三十六條　恩給法第百一條ノ規定ニ依ル增額ハ左ノ區分ニ依ル

一　軍人以外ノ公務員ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給カ大正九年七月三十一日以前ノ俸給令ニ依ルモノナルトキハ別表第四號表ノ區分ニ依リ增加シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ、其ノ他ノモノナルトキハ在職最終ノ俸給年額ヲ基礎トシテ恩給法第六十條、第六十二條、第六十三條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス

二　軍人又ハ準軍人ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ別表第五號表ニ依リ當該軍人又ハ準軍人ノ階等ヲ定メ恩給法第六十一條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス、

三　增加恩給ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ退職當時ノ階等竝別表第六號表ニ依リ定メタル傷病ノ原因及不具廢疾ノ程度ニ從ヒ恩給法第六十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ增加恩給ノ年額トス但シ陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高俸ヲ受ケタルモノノ階等ハ之ヲ尉官トシ名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因ル階等トス

第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ增加恩給年額ノ更正ニ付之ヲ準用ス

四　執達吏ノ恩給ヲ更正スル場合ニ於テハ第一號ノ規定ニ依ラス六百圓ヲ俸給年額ト看做シ恩給法第六十條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス

前項ノ增額ヲ爲ス場合ニ於テハ外國勤續ニ因ル加給ハ之ヲ爲サス

第三十七條　恩給法第百二條ノ規定ニ依リ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ增額スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ヲ別表第七號表ニ依ル假定俸給年額ニ增加シタル退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ト看做シ之ニ恩給法第百一條ノ規定ヲ適用ス

附　則

第三十八條　本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條　左ノ命令ハ之ヲ廢止ス

一明治二十四年勅令第二百四十八號　恩給法施行令

一明治二十七年勅令第五十二號

一明治二十七年勅令第八十一號

一明治二十七年勅令第百四十五號

一明治三十一年勅令第二百四十四號

一明治三十二年勅令第二百一號

一明治三十三年勅令第百七十三號

一明治三十三年勅令第四百四號

一巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令

一明治三十四年勅令第百五十號

一明治三十五年勅令第百五十七號

一明治四十一年勅令第百三十七號

一明治四十三年勅令第百二十七號

一明治四十四年勅令第七十號

一大正六年勅令第二百四十一號

一大正六年勅令第二百四十二號

一大正九年勅令第三百二十三號

一明治十八年第十五號達官吏恩給令附則

一明治十八年第十六號達文官傷痍疾病等差例

一明治十八年第四十號達陸軍恩給令附則

第四十條　第十條各號ニ掲クル官制ニ依リ廢止セラレタル官制又ハ其レニ依リ廢止セラレタル官制ニ依リテ判任官以上ノ待遇ヲ受ケタル職員ハ在職年通算ノ關係ニ於テハ之ヲ當該各號ニ掲クル官制ニ依ル職員ト看做ス

恩給法施行令

第三條　其ノ遺族ノ恩給ノ裁定ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第二條　南滿洲鐵道附屬地ニ在勤シタル關東州ニ於ケル警察監獄職員及

第一條　本令ハ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和十三年勅令第三百八十二號）

本令施行前素俸ニ在勤シタルノ期間ニ對スル加算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依

附則（昭和十二年勅令第四十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和十年勅令第七十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前農安又ハマヤサトラン二在勤シタル期間ニ對スル加算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和八年勅令第七十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前龍井村、局子街又ハ海龍ニ在勤シタル期間ニ對スル加算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和八年勅令第六十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和八年勅令第五百五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

改正

第七條　大正十三年勅令第四百七號附則第二項中「第六號」ヲ「第十號」ニ改ム

五　教育事務從事ノ府縣、統監府、關東都督府又ハ關東廳ノ官吏

附則（昭和十年勅令第四百十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和十年勅令第四百十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十年勅令第四百十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和十年勅令第四百十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和十年勅令第五百十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和十年勅令第五百十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和十年勅令第五百十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和十年勅令第五百十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

恩給法施行令

附則（昭和十年勅令第五百十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和十三年勅令第四百十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前龍井村、局子街又ハ海龍ニ在勤シタル期間ニ對スル加算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和十三年勅令第四百十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

改正

第七條　大正十三年勅令第四百七號附則第二項中「第六號」ヲ「第十號」ニ改ム

四　遞信又ハ鐵道ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノノ俸給ニ付之ヲ準用ス

附則（昭和十三年勅令第四百十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百二十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百二十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百二十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百二十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百二十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百二十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百二十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百二十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百二十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百二十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百三十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百三十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百三十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百三十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百三十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百三十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百三十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百三十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百三十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百三十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百四十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百四十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百四十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百四十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百四十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百四十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百四十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百四十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百四十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百四十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百五十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百五十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百五十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百五十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百五十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百五十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百五十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百五十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百五十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百五十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百六十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百六十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百六十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百六十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百六十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百六十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百六十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百六十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百六十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百六十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百七十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百七十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百七十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百七十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百七十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百七十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百七十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百七十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百七十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百七十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百八十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百八十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百八十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百八十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百八十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百八十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百八十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百八十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百八十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百八十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百九十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百九十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百九十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百九十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百九十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百九十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百九十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百九十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百九十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第四百九十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百二十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百二十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百二十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百二十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百二十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百二十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百二十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百二十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百二十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百二十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百三十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百三十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百三十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百三十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百三十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百三十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百三十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百三十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百三十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百三十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百四十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百四十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百四十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百四十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百四十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百四十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百四十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百四十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百四十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百四十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百五十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百五十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百五十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百五十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百五十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百五十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百五十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百五十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百五十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百五十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百六十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百六十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百六十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百六十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百六十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百六十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百六十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百六十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百六十八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百六十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ北海道廳事業手ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則（昭和十三年勅令第五百七十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ

（別表）

第一號表　削除

第二號表　（一三分ノ二月ヲ加算スヘキモノ）

内地	北海道 國後郡　安渡移矢岬 松前郡　小島 幌筵島 占守島 石川縣 鳳至郡　舳倉島 長崎縣 南松浦郡　女島 鹿兒島縣 川邊郡　草垣島
朝鮮	京畿道 富川郡　木德島、德積島 忠清南道 瑞山郡　發島、格烈飛島 全羅南道 務安郡　七發島、紅島、小黑山島 莞島郡　魚籠島、港門島 珍島郡　竹島、下鳥島 慶尚北道 鬱陵島 黃海道 長淵郡　小青島 松禾郡
臺灣	臺北州 基隆郡　基隆街ノ内彭佳嶼 羅東郡　街庄ヲ置カサル蕃地中清水、牛鬪及松羅溪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 蘇澳郡　街庄ヲ置カサル蕃地中寒溪、四方林、大元山駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部、蘇澳庄ノ内大南澳 文山郡　街庄ヲ置カサル蕃地中タンピア、ウライ、ラハウ及阿玉駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 新竹州 大溪郡　街庄ヲ置カサル蕃地中八結、ケイフイ、カウジヤウ、竹頭角、水流東、角板山、合脗坪、ウライ、ヨウハブン、シツケイ、カウボウ、ラハウ及斷崖駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 竹東郡　街庄ヲ置カサル蕃地中内灣、カラパイ、
樺太	散江郡 敷香郡 名好郡　名好村大字安別 富内郡　富内村大字富内愛郎 留多加郡　西能登呂岬
關東州	圓島
南洋群島	各群島（パラオ列島中コロール島、サイパン島及ヤツプ島ヲ除ク）
其ノ他	北樺太 ペトロパウロフスク ニコライウスク 富錦 佳木斯 三姓 北安鎭 海拉爾 琿春 百草溝 依蘭溝 八道溝 大拉子 間島頭道溝 樺甸 通化 宜昌 沙市 重慶 成都 外蒙古 新疆 河内

	西島
	平安南道 寧遠郡 平安北道 熙川郡 鐵山郡　大和島 朔州郡 昌城郡 碧潼郡 楚山郡 渭原郡 江界郡 慈城郡 厚昌郡 咸鏡南道 新興郡 長津郡 豐山郡 三水郡 甲山郡 咸鏡北道 茂山郡 會寧郡 鍾城郡 穩城郡 慶源郡 慶興郡 右ニ掲クル地方ニ屬スル地ト雖鐵道停車場ヨリ五里以内ニ在ル地ハ之ヲ除ク
	メカラン、内横屏山、錦屏山、ラハウ、シラック、メホマン、シパジイ、マイバライ、シイガオ及大隘駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 臺中州 大湖郡　街庄ヲ置カサル蕃地中八卦力、汶水、高熊峠及細道邦駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 東勢郡　街庄ヲ置カサル蕃地中牛欄坑、稍來坪、白毛及中坑坪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 新高郡　街庄ヲ置カサル蕃地全部 能高郡　街庄ヲ置カサル蕃地全部 臺南州 嘉義郡　街庄ヲ置カサル蕃地全部 高雄州 旗山郡　街庄ヲ置カサル蕃地全部 屏東郡　街庄ヲ置カサル蕃地中カウ、サンテイモン、パクヒヨウ、マカザヤザヤ及カサギザン駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 潮州郡　街庄ヲ置カサル蕃地中カピヤン、アマワン、ボンガリイ、スボン、歸化門、炭頭、内獅頭、獅仔頭及四重溪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部 恒春郡　街庄ヲ置カサル蕃地全部 東港郡
	西貢 盤谷 新嘉坡 メダン マニラ イロイロ セブ ダヴァオ ミンタル サンダカン タワオ バンジヤルマシン メナド スラバヤ スマラン バンドン バタヴイア 蘭貢 カルカツタ コロンボ 孟買 カブール テヘラン ベイルート ポートサイド アデイスアベバ モンバサ ハヴァナ パナマ ボゴタ ベレーン 里馬 リベロンブレート バウルー

琉球庄

臺東廳　臺東廳管內中臺東街ヨリ里壠ニ至ル鐵道沿線二里以內ノ地域及其ノ以東ノ地域ヲ除キタル殘部

花蓮港廳　花蓮港廳管內中花蓮港街ヨリ玉里ニ至ル鐵道沿線二里以內ノ地域及其ノ以東ノ地域ヲ除キタル殘部

(二) 二分ノ一月ヲ加算スヘキモノ

內地	北海道　厚岸大黑島、根室諸島、千島列島(安渡移矢岬、幌筵島及占守島ヲ除ク) 東京府　小笠原島 長崎縣　西彼杵郡大立島、北松浦郡五島白瀨、二神島、上縣郡三島 福岡縣　宗像郡沖島 鹿兒島縣　大島郡會津高埼、住用村大字西仲間、龜津村大字龜津字龜津、天城村大字阿布木名字平土野、同村大字西阿木名字西阿木名、實久村大字實久字榮名原、東方村大字嘉鐵字皆津 沖繩縣　大東島、伊江島、久米島、宮古列島、八重山列島
朝鮮	京畿道　富川郡八尾島、鬼島 忠淸北道　丹陽郡 全羅北道　沃溝郡末島 全羅南道　麗水郡所里島、海南郡時下島 慶尚北道　英陽郡、奉化郡 黃海道　遂安郡、谷山郡、松禾郡、姉妹島 平安南道　孟山郡、陽德郡、德川郡 平安北道　義州郡(義州面ヲ除ク)、龜城郡(龜城面ヲ除ク)、泰川郡、雲山郡、寧邊郡、博川郡、定州郡、宣川郡、鐵山郡(大和島ヲ除ク)、龍川郡 江原道　麟蹄郡、楊口郡、三陟郡、蔚珍郡、旌善郡、平昌郡、寧越郡、伊川郡 咸鏡南道　北青郡、利原郡、端川郡 咸鏡北道　鏡城郡、明川郡、吉州郡、城津郡(城津・
臺灣	臺北州　宜蘭郡頭圍庄ノ內龜山島 羅東郡　街庄ヲ置カサル蕃地中淸水、牛鬪、松羅溪駐在警察官管轄區域 蘇澳郡　街庄ヲ置カサル蕃地中寒溪、四方林、大元山駐在警察官管轄區域、蘇澳庄中東澳 文山郡　坪林庄中大字大舌湖、柑脚坑、鷲鷥岫、大粗坑、澗潭、楓子寮、九芎林(字石槽、鷲子瀨、四堵ニ限ル)、街庄ヲ置カサル蕃地中タンピア、ウライ、ラハウ、阿玉山駐在警察官管轄區域 海山郡　街庄ヲ置カサル蕃地全部 新竹州　新竹郡　街庄ヲ置カサル蕃地全部 大溪郡　街庄ヲ置カサル蕃地中八結、ケイフイ、カウジヤウ、竹頭角、水流東、角板山、合脗坪、ウライ、ヨウハブン、シッケイ、カウボウ、ラハウ、斷崖駐在警察官管轄區域 竹東郡　街庄ヲ置カサル蕃地中內灣、カラパイ、メカラン、內横屏山、錦屏山、ラハウ、シラツク、メホマン、シパジイ、マイバライ、シイガオ、大隘駐在警察官管轄區域 竹南郡　街庄ヲ置カサル蕃地全部 大湖郡　獅潭庄中大字獅潭字三洽坑、水興、街庄ヲ置カサル蕃地中八卦力、汶水、高熊峠、細道邦駐在警察官管轄區域 臺中州　東勢郡　街庄ヲ置カサル蕃地中牛欄坑、稍來坪、白毛、中坑坪駐在警察官管轄區域 能高郡　國姓庄中大字龜子頭、柑子林、乾溝 臺南州　嘉義郡　大埔庄、小梅庄中大字生毛樹、科子林 新化郡　南化庄(大字北寮ヲ除ク) 高雄州　旗山郡　甲仙庄 屏東郡　六龜庄(大字新威ヲ除ク) 潮州郡　枋山庄 恆春郡
樺太	名好郡(名好村大字安別ヲ除ク)
關東州	海洋島、獐子島、小長山島、鳳鳴島、西中島
南洋群島	パラオ列島 中コロール島 サイパン島 ヤップ島
其ノ他	オムスク、ノヴオシビルスク、イルクーツク、チタ、ブラゴウェスチエンスク、ハバロフスク、滿洲里、博克圖、扎蘭屯、黑河、克山、訥河、齊々哈爾、昂昂溪、綏芬河、穆稜、汪清、圖們、龍井村、延吉、朝陽川、明月溝、寧安、牡丹江、林口、梨樹鎭、密山、勃利、橫道河子、海林、新安鎭、東京城、敦化、一面坡、河東、帽兒山、天理村、五常、新站、蛟河、海倫、雙河鎭、綏化、雙城、三岔河、陶賴昭、盤石、西安(滿洲)、山城鎭、掏鹿、滿溝、安達、扶餘、農安、白城子

面ヲ除ク）、富山郡（右ニ掲クル地方ニ屬スル地ト雖鐵道停車場ヨリ五里以内ニ在ル地ハ之ヲ除ク）

街庄ヲ置キタル地域全部

澎湖郡

臺東廳（臺東街ヨリ里壠ニ至ル鐵道沿線二里以内ノ地域及其ノ以東ノ地域）

花蓮港廳（花蓮港街ヨリ玉里ニ至ル鐵道沿線二里以内ノ地域及其ノ以東ノ地域）

兆南	王廟
索倫	鄭屯
通遼	北票
朝陽	赤峰
凌源	平泉
承德	張口
太原	鄭州
西安	寧湖
冶江	口沙
頭門	南東
雲南	廣東
汕頭	厦門
福州	長沙
漢口	九江
大冶	蕪湖
南京	西安
鄭州	太原
張口	承德
平泉	凌源
赤峰	朝陽
北票	通遼
鄭屯	索倫
王廟	兆南

家　家　爺

アレキサンドリヤ
カイロ
プレトリア
ケープタウン
墨西哥市
サンサルヴァドル
サンパウロ
サントス

地域	流行病
八重山列島	マラリア（黑水熱ヲ含ム以下同シ）、赤痢
鹿兒島縣大島郡、沖繩縣	デング熱
朝鮮	猩紅熱、痘瘡、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、赤痢、肺ジストマ病
臺灣	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢、デング熱
南洋諸島	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢、黃熱、デング熱
滿洲關東州	ペスト、猩紅熱、痘瘡、腸チフス、パラチフス、赤痢
支那（滿洲ヲ除キ香港ヲ含ム）	マラリア、猩紅熱、痘瘡、コレラ、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、ペスト、赤痢、カラアザール
露領（薩哈璉州ヲ含ム）西伯利亞	發疹チフス、腸チフス、パラチフス、ペスト、回歸熱、赤痢
比律賓諸島	マラリア、コレラ、腸チフス、パラチフス、赤痢
蘭領東印度諸島	マラリア、コレラ、ペスト、赤痢
佛領印度、暹羅、緬甸、馬來半島	マラリア、コレラ、發疹チフス、ペスト、赤痢
英領印度	マラリア、コレラ、ペスト、赤痢、カラアザール
アフガニスタン	マラリア、コレラ、ペスト、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、回歸熱、赤痢、カラアザール
ペルシア	マラリア、猩紅熱、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、回歸熱、赤痢

中央亜米利加、南亜米利加	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢、黄熱
墨西哥	マラリア、發疹チフス、黄熱
亜弗利加	マラリア、ペスト、回歸熱、赤痢、トリパノゾーム病、黄熱

第四號表

在職最終俸給年額	增加スヘキ金額
六千五百圓ヲ超エ七千五百圓未滿ノモノ	五百圓 但シ在職最終俸給年額ニ五百圓ヲ加ヘタル額カ七千五百圓ヲ超ユルトキハ在職最終俸給年額ト七千五百圓トノ差額
五千五百圓ヲ超エ六千五百圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ト七千圓トノ差額
三千圓ヲ超エ五千五百圓ヲ超エサルモノ	千五百圓
千二百圓ヲ超エ三千圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ノ三十分ノ十三ニ相當スル金額ニ二百圓ヲ加ヘタル額
三百六十圓ヲ超エ千二百圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ノ五割ニ相當スル金額ニ二百十圓ヲ加ヘタル額
三百圓ヲ超エ三百六十圓ヲ超エサルモノ	三百圓
三百圓以下ノモノ	在職最終俸給年額ノ十割ニ相當スル金額

第五號表

階等 ＼ 從前ノ法令	恩給法	軍人恩給法	陸軍恩給令	陸軍武官傷痍疾病死亡者及其遺族扶助概則	海軍恩給令	海軍退隱令
將官及相當官（高等官）	親任	親任	大將	大將	大將	大將
	一等	一等	中將	中將	中將	中將
	二等	二等	少將同相當官	少將同相當官	少將同相當官	少將同相當官
佐尉官及相當官（高等官）	三等	三等	大佐同相當官	大佐同相當官	大佐同相當官	大佐同相當官
	四等	四等	中佐同相當官	中佐同相當官	中佐同相當官	中佐同相當官
	五等	五等	少佐同相當官	少佐同相當官	少佐同相當官	少佐同相當官
	六等	六等	大尉同相當官	大尉同相當官	大尉同相當官	大尉同相當官
	七等	七等	中尉同相當官	中尉同相當官	中尉同相當官	中尉同相當官
	八等	八等	少尉同相當官	少尉同相當官	少尉同相當官	少尉同相當官
准士官（判任官）	一等	一等	准士官	准士官	准士官	准士官
下士官（恩給法）／下士（軍人恩給法）（判任官）	二等	二等	曹長同相當官	曹長同相當官	一等兵曹同相當官	機關士副
	三等	三等	軍曹同相當官	軍曹同相當官	二等兵曹同相當官	水兵次長 樂手
	四等	四等	伍長同相當官	伍長同相當官	三等兵曹同相當官	大端舟長 機關長屬 火夫長屬 海軍九等屬
兵（恩給法）／兵卒（軍人恩給法）	海軍一等兵	海軍一等卒			一等卒	一等水兵
	陸軍上等兵 海軍二等兵	陸軍上等兵 海軍二等卒	上等兵		二等卒	二等水兵
	陸軍一等兵 海軍三等兵	陸軍一等卒 海軍三等卒	一等卒 憲兵卒 會計卒 看護卒 看馬卒 樂生	兵卒	三等卒	三等水兵 三等鍛冶
	陸軍二等兵 海軍四等兵	陸軍二等卒 海軍四等卒	二等卒 憲兵卒 會計卒 看護卒 看馬卒 樂生	兵卒	四等卒	四等水兵
		海軍五等卒			五等卒	一等若水兵 一等若火夫

備考

一 大正九年三月三十一日以前ニ海軍兵曹長同相當官タリシ者ニシテ最高ノ俸給ヲ受ケタルモノハ高等官六等トシ其ノ他ノモノハ高等官七等トス

一 大正十年三月三十一日以前ニ退職シタル陸軍一等樂長ニシテ最高ノ俸給ヲ受ケタルモノハ高等官六等トス

一 名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因ル階等トス

一 本表ニ該當セサルモノハ陸海軍武官官階及兵等級ノ例ニ依ル

第六號表

傷病原因 / 從前ノ法令	症狀等差	甲 恩給法						乙 恩給法					
		特別項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	特別項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項
官吏恩給法 第十四條第二項									症項ヲ査定ス				
官吏恩給法施行規則 第十二條													
官吏恩給令附則 第五條													
軍人恩給法 第三號表甲號			第一項	第二項	第三項	第四項	第五項		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項
軍人恩給法 第三號表乙號									第一項	第二項	第三項	第四項	第五項
軍人恩給法 第十條第二項	症項ヲ査定ス												
明治四年兵部省達陸軍士官兵卒給俸諸定則			戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケタル者						一等傷痍	二等傷痍			
陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭粢竝ニ其家族扶助概則 第一條			第一項	第二項	第三項				戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者				
明治九年太政官達陸軍恩給令 第十一條			戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケタル者						戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者				
			第一項	第二項	第三項				第一項	第二項	第三項		
明治十六年太政官達陸軍恩給令 第十九條			戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケタル者						戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者				
			第一號	第二號	第三號	第四號	第五號		第一號	第二號	第三號	第四號	第五號
海軍退隱令 第十八條			第一號	第二號	第四號	第五號							
海軍恩給令 第二十條			戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケタル者						戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者				
			第一號	第二號	第三號	第四號	第五號		第一號	第二號	第三號	第四號	第五號
市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則 第十五條			第一項	第二項	第三項	第四項	第五項		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項
公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則 大正十年閣令第八號第十五條			第一項	第二項	第三項	第四項	第五項		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項
明治二十五年文部省令第一號第十七條			第一項	第二項	第三項	第四項	第五項		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項
明治四十五年朝鮮總督府令第八十二號第十七條			第一項	第二項	第三項	第四項	第五項		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項
臺灣ニ在勤スル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料支給規則 第十六條			第一項	第二項	第三項	第四項	第五項		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項
巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令 第一條			第一號	第二號	第三號	第四號	第五號		第一號	第二號	第三號	第四號	第五號
巡査看守給助例 第四條			第一號	第二號									

備考　明治三十五年勅令第四十一號ニ定メタル事件ノ爲受ケタル傷痍ハ之ヲ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍ト看做ス

第七號表

		判任官及同待遇						高等官及同待遇					
		退職又ハ死亡當時ノ俸給年額			假定俸給年額			退職又ハ死亡當時ノ俸給年額			假定俸給年額		
		九、六〇〇			一二、〇〇〇			一、二〇〇			一、四四〇		
		六、〇〇〇			八、〇〇〇			九〇〇			一、一四〇		
恩給法施行令 第十四條第二項	特別項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
官吏恩給法施行規則 第十二條	症項ヲ査定ス												
官吏恩給令附則 第五條													
軍人恩給法 第三號表甲號		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
軍人恩給法 第三號表乙號		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
軍人恩給法 第十條第二項	症項ヲ査定ス												
明治四年兵部省達陸軍士官兵卒給俸諸定則		一等傷痍	二等傷痍										
陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭粢竝ニ其家族扶助概則 第一條		戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者						戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者					
明治九年太政官達陸軍恩給令 第十一條		第一項	第二項	第三項				第一項	第二項	第三項			
		戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケタル者						戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケタル者					
		第一項	第二項	第三項				第一項	第二項	第三項			
明治十六年太政官達陸軍恩給令 第十九條		戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者						戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者					
		第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號	第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
海軍退隱令 第十八條													
海軍恩給令 第二十條		戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケタル者						戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者					
		第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號	第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則 第十五條		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則 大正十年閣令第八號第十五條		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
明治二十五年文部省令第一號第十七條		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
明治四十五年朝鮮總督府令第八十二號第十七條		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
臺灣ニ在勤スル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料支給規則 第十六條		第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項	第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令 第一條		第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號	第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
巡査看守給助例 第四條		第一號	第二號										

恩給法施行令 第十四條第二項	特別項	五、〇〇〇	四、五〇〇	四、〇〇〇	三、六〇〇	三、五〇〇	三、三〇〇	三、〇〇〇	七二〇	六、〇〇〇	五、五〇〇	五、〇〇〇	四、五〇〇	四、二〇〇	四、〇〇〇	三百六十圓以下	三百二十四圓以下	九〇〇	七八〇	六六〇	六〇〇	五一六	八十四圓ヲ加ヘタル額	七十二圓ヲ加ヘタル額
官吏恩給法施行規則 第十二條	症項ヲ査定ス																							
官吏恩給令附則 第五條																								
軍人恩給法 第三號表甲號																								
軍人恩給法 第三號表乙號																								
軍人恩給法 第十條第二項	症項ヲ査定ス																							
明治四年兵部省達陸軍士官兵卒給俸諸定則																								
陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭粢竝ニ其家族扶助概則 第一條																								
明治九年太政官達陸軍恩給令 第十一條																								
明治十六年太政官達陸軍恩給令 第十九條																								
海軍退隱令 第十八條																								
海軍恩給令 第二十條																								
市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則 第十五條																								
公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則 大正十年閣令第八號第十五條																								
明治二十五年文部省令第一號第十七條																								
明治四十五年朝鮮總督府令第八十二號第十七條																								
臺灣ニ在勤スル學校職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル文官判任以上ノ者ノ退隱料及遺族扶助料支給規則 第十六條																								
巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令 第一條																								
巡査看守給助例 第四條																								

二、八〇〇	三、五〇〇	二百七十六圓以下	六十圓ヲ加ヘタル額
二、六〇〇	三、二〇〇	二百二十八圓以下	四十八圓ヲ加ヘタル額
二、五〇〇	三、〇〇〇	百八十圓以下	三十六圓ヲ加ヘタル額
二、四〇〇			
二、二〇〇	二、七〇〇	百三十二圓以下	二十四圓ヲ加ヘタル額
二、〇〇〇	二、五〇〇		
一、八〇〇	二、二〇〇		
一、六〇〇	二、〇〇〇		
一、五〇〇	一、八〇〇		
一、四〇〇	一、七〇〇		
一、三〇〇	一、六〇〇		
一、二〇〇	一、五〇〇		
一、一〇〇	一、三〇〇		
一、〇〇〇	一、二〇〇		
九〇〇	一、一〇〇		
八〇〇	一、〇〇〇		
七〇〇	八五〇		
六〇〇	七五〇		
五〇〇	六〇〇		
四五〇	五五〇		
四〇〇	五〇〇		
三〇〇	四〇〇		

備考

一　本表ノ俸給年額ニハ加俸ヲ包含セス恩給年額算出ノ基礎ト爲リタル加俸ハ其ノ實額ニ依ル

一　本表ニ該當セサル俸給ニ付テハ之ニ其ノ俸給年額ノ二割五分ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノヲ以テ假定俸給年額トス但シ其ノ額カ實俸給年額ニ最モ近キ本表中ノ上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ヲ超過スルトキハ之ヲ當該上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ニ止ム

大正十三年四月二十六日
內閣告示第二號

改正　昭和九年第五號、昭和一四年第十號

恩給法施行令第十七條第一項第一號ニ規定スル勤務左ノ通定メ恩給法施行ノ日以後ノ勤務ニ付適用ス

一　左ノ場所ニ於テ有毒ノ瓦斯若ハ蒸氣又ハ爆藥類ノ研究又ハ製造ニ直接從事スル勤務

廳名	作業ノ場所
內務省警保局	壓縮又ハ液化ノ鹽素、亞硫酸、「フオスゲン」等ノ瓦斯ノ研究室爆藥類ノ研究室
東京及大阪衞生試驗所廳府縣立ノ衞生試驗所	鹽素、「シアン」、「フオスゲン」、芳香系「アミド」化合物、亞硝酸、燐化水素、硫化水素等ノ有毒瓦斯ヲ多量ニ發生シ又ハ使用スル研究室又ハ作業室
陸軍造兵廠	毒性化合物ノ製造及加工作業室 硝化作業室 硝酸製造及回收作業室 硫酸製造作業室 混酸作業室 「ニトログリセリン」ノ製造及加工作業室 無煙藥捏和作業室 無煙藥壓延作業室 無煙藥截斷作業室 無煙藥乾燥室 依的兒ノ製造及回收作業室 鉛ノ熔融作業室 燐ノ加工作業室 芳香系硝化物ノ研究及作業室 「ニトログリセリン」入爆藥ノ研究及作業室 硝酸「アンモニア」爆藥ノ研究及作業室 雷汞及室化物ノ研究及作業室

廳名	作業ノ場所
陸軍技術本部	毒性化合物ノ研究室 燐ノ加工作業室 芳香系硝化物ノ研究及加工作業室 硝酸「アンモニア」爆藥ノ研究及作業室
陸軍科學研究所	毒性化合物ノ研究室 毒性化合物ノ製造及加工作業室 硝化作業室 混酸作業室 「ニトログリセリン」ノ製造及加工作業室 無煙藥捏和作業室 無煙藥壓延作業室 無煙藥截斷作業室 無煙藥乾燥作業室 鉛ノ熔融作業室 燐ノ加工作業室 芳香系硝化物ノ研究及作業室 「ニトログリセリン」入爆藥ノ研究及作業室 硝酸「アンモニア」爆藥ノ研究及作業室 雷汞及室化物ノ研究及作業室
陸軍醫學校 陸軍獸醫學校	毒性化合物ノ研究室
海軍火藥廠	毒性化合物ノ研究及製造作業室 性質未知ノ爆藥類ノ研究室 硝化作業室 硝酸製造及回收作業室 硫酸製造作業室 混酸作業室 「ニトログリセリン」ノ製造及作業室 依的兒ノ製造及回收作業室 混和及捏和作業室 壓出作業室 爆藥鑄造壓搾作業室 火藥爆藥ノ壓延截斷乾燥及作業室 鉛ノ熔融作業室
海軍工廠	起爆劑ノ研究及製造作業室 爆藥鑄造壓搾作業室 燐ノ加工作業室 鉛ノ熔融作業室 吳工廠龜ケ首發射場ニ於ケル爆藥ノ實驗研究ノ場所 吳工廠砲熕實驗部ニ於ケル性質未知ノ爆藥類ノ研究場所
海軍技術研究所	毒性化合物ノ研究及作業室
海軍軍醫學校	毒性化合物ノ研究室
工業試驗所	毒性化合物ノ研究室

二　危險ナル細菌ノ研究又ハ製造ニ直接從事スル勤務

廳名	作業ノ場所及種類
東京及大阪衞生試驗所廳府縣立ノ衞生試驗所	研究室又ハ作業室ニ於ケル「コレラ」、腸「チフス」、「パラチフス」及赤痢ノ各病原體ノ研究並檢菌作業
內地ニ於ケル稅關ノ港務部、廳府縣ノ臨時海港檢疫所及衞生試驗所	研究室又ハ作業室ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」、發疹「チフス」、腸「チフス」、「パラチフス」、流行性腦脊髓膜炎、赤痢、狂犬病、炭疽及鼻疽ノ各病原體ノ研究並檢菌作業
陸軍軍醫學校	防疫部ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」、發疹「チフス」、腸「チフス」、「パラチフス」、流行性腦脊髓膜炎及赤痢ノ各病原體ノ研究並豫防液ノ製造、細菌學教室ニ於ケル「ペスト」、「コレラ」、發疹「チフス」、腸「チフス」、「パラチフス」、流行性腦脊髓膜炎、赤痢及狂犬病ノ各病原體ノ研究並檢菌作業

一項各號ニ掲ゲル書類ノ外其ノ恩給証書ヲ添附スヘシ

第三條 恩給法第五十條第二項又ハ第二項ノ規定ニ依リ再審査ヲ請求スル場合ニ於テハ再審査請求書ニ前條第一項第二號及第三號ニ掲ケル書類ノ外其ノ恩給証書ヲ添附スヘシ

第四條 一時恩給ヲ受ケムトスル者ハ一時恩給請求書ニ在職中ノ履歴書ヲ添附シ退職當時ノ本籍ヲ經テ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第五條 傷病賜金ヲ受ケムトスル者ハ傷病賜金請求書ニ第二條第一項各號ニ掲ケル書類ヲ添附シ陸軍軍人ハ陸軍大臣ヲ經テ内閣恩給局長ニ之ヲ差出スヘシ

第六條 扶助料ヲ受ケムトスル者ハ扶助料請求書ニ第七條ノ規定ニ依リ裁定官廳ニ差出スヘシ

第七條 扶助料請求書ニ公務員（公務員ト本籍ヲ同ジクスル者ヲ含ム以下同ジ）ノ在職中ノ履歴書ヲ添附スヘシ

但シ第八條第一項第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ公務員ノ本籍廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第八條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ場合ニ於テ公務員ノ履歴書ヲ受ケタルコトアルトキハ前項ノ書類ヲ添附スルコトヲ要セス）

第九條 恩給法第七十二條第一項第二號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スルコトヲ要セス）

第十條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第十一條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　前扶助料權者カ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ失ヒタルコトヲ證スル書類

二　前扶助料權者ノ扶助料證書

第十二條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　傷痍疾病カ公務ニ因ルモノナルコトヲ認ムルニ足ルヘキ書類（例ヘハ現認者ノ現認證明書、所屬長ノ事實證明書等）

二　症狀ノ經過ヲ記載シタル診斷書

三　請求當時ニ於ケル診斷書

恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前項ノ書類ヲ添附スルコトヲ要セス

第十三條 恩給法第七十二條第一項第二號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スルコトヲ要セス）

二　公務員ノ在職中ノ履歴書

三　左ノ書類ヲ添附スヘシ

イ　死亡ノ事實ヲ證スル公ノ證書

ロ　前項ノ死亡診斷書又ハ屍檢案書ヲ添附スルコトヲ得サル場合ニ於テハ戸籍抄本之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（退職後請求ノ間ニ於テ作成セラレタルモノニ非サルトキハ傷病年金請求書ニ前項各號ニ掲ケル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ）

一　傷痍疾病カ公務ニ因ルモノナルコトヲ認ムルニ足ルヘキ書類（例ヘハ現認者ノ現認證明書、所屬長ノ事實證明書等）

二　症狀ノ經過ヲ記載シタル診斷書

三　請求當時ニ於ケル診斷書

恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前項ノ書類ヲ添附スルコトヲ要セス

第十四條 恩給法第七十二條第一項第三號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第十五條 恩給法第五十條第二項又ハ第二項ノ規定ニ依リ再審査ヲ請求スル場合ニ於テハ再審査請求書ニ前條第一項第二號及第三號ニ掲ケル書類ノ外其ノ恩給証書ヲ添附スヘシ

第十六條 恩給法第五十條第二項又ハ第二項ノ規定ニ依リ再審査ヲ請求スル場合ニ於テハ再審査請求書ニ前條第一項第二號及第三號ニ掲ケル書類ノ外其ノ恩給証書ヲ添附スヘシ

第十七條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第十八條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第十九條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第二十條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第二十一條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第二十二條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第二十三條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第二十四條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第二十五條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第二十六條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第二十七條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第二十八條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第二十九條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第三十條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第三十一條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第三十二條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第三十三條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第三十四條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第三十五條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第三十六條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第三十七條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第三十八條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第三十九條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第四十條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第四十一條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第四十二條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第四十三條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第四十四條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第四十五條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第四十六條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第四十七條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第四十八條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第四十九條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第五十條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第五十一條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第五十二條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第五十三條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第五十四條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第五十五條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第五十六條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第五十七條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第五十八條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第五十九條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第六十條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第六十一條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第六十二條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第六十三條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第六十四條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第六十五條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第六十六條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第六十七條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第六十八條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第六十九條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第七十條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第七十一條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第七十二條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第七十三條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第七十四條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第七十五條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第七十六條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第七十七條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第七十八條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノニ非サルトキハ前項ノ書類ヲ添附スヘシ）

第七十九條 恩給法第七十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ扶助料ヲ得ル者カ扶助料請求スル場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歴書

二　請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含

三　請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

前項ノ場合ニ於テ前扶助料權者カ未タ扶助料ノ裁定ヲ經サルトキハ前項第一號ニ揭ケル書類及前扶助料權者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ添附スルコトヲ要スル書類ヲ添附スヘシ

第十一條　恩給法第七十四條第二項ニ規定スル扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ第七條乃至前條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ不具癈疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十一條ノ二　恩給法第七十五條第二項及恩給法施行令第三十一條ノ三ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給ヲ受ケル扶助料權者ハ遺族ノ員數ノ增減ニ因リ加給スヘキ類ニ增減ヲ生シタル場合ニ於テハ扶助料改定請求書ニ改定ヲ受クヘキ扶助料證書及戸籍謄本（遺族ノ員數ノ增減ヲ明瞭ニシ得ルモノ）ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

恩給法第七十五條第二項及恩給法施行令第三十一條ノ三第一項第一號但書又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給ノ改定ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ扶助料改定請求書ニ前ニ加給セラレタル扶助料ノ證書及加給ヲ請求セムトスル扶助料ノ證書及戸籍謄本（遺族ノ員數ノ增減ヲ明瞭ニシ得ルモノ）ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第十二條　恩給法第七十八條ノ規定ニ依リ扶助料ノ停止ヲ申請スル者ハ扶助料停止申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

一　扶助料權者ノ所在不明ナルコトヲ證スル公ノ證明書

二　請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ恩給法第七十九條ノ規定ニ依ル扶助料轉給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十三條　恩給法第七十九條ノ規定ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル扶助料轉給請求書ニ請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ請求者ノ戸籍謄本ヲ添附シタル場合ニ於テハ其ノ添附ヲ要セス

第十四條　恩給法第八十一條又ハ第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ受ケムトスル者ハ一時扶助料請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第十五條第二號又ハ第十六條ノ規定ニ依リ一時扶助料請求書ニ公務員ノ在職中ノ履歷書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ公務員ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十五條　恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ不具癈疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員カ既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

二　公務員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ公務員ノ在職中ノ履歷書及請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十六條　恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歷書

二　請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十七條　恩給法施行令第二條第一項ノ規定ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ恩給ノ請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ其ノ本屬廳ヲ經由スヘキ場合ニ於テハ其ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十八條　前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ添附スルコトヲ要スヘキ書類

二　請求者ノ戸籍謄本（死亡シタル恩給權者ノ死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十九條　恩給法第八十一條ニ規定スル一時扶助料ヲ給セラルヘキ者數人アルトキ又ハ恩給法施行令第二條第一項若ハ第二項ノ相續人數人アルトキハ其ノ中一人ヲ總代者トシテ恩給ノ請求又ハ恩給支給ノ請求ヲ爲スヘシ

第二十條　恩給ノ請求ニ付恩給證書ヲ添附スヘキ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ添附スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第二十一條　經由廳カ廢止セラレタル場合ニ於テハ書類ハ其ノ廳ノ事務ヲ引繼キタル廳ヲ經由スヘシ

第二章　恩給ノ裁定

第二十二條　經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ調査シ不備ノ點ナキコトヲ認メタルトキハ恩給金額計算書ヲ作リ履歷書、證明書其ノ他ノ添附書類ニ付其ノ廳ニ於テ證明シ得ヘキモノハ證明シ速ニ裁定官廳ニ之ヲ送付スヘシ

經由廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間内ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ經由廳恩給請求理由ナシト認メタルトキハ經由廳ハ恩給金額計算書ノ作成ヲ省略シ意見ヲ具シ恩給請求書類ヲ裁定官廳ニ送付スヘシ

第二十三條　裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ審査シ恩給請求書類ニ不備ノ點ナク且恩給ヲ受クル人ノ權利アリト認メタルトキハ年金タル恩給ニ付テハ恩給證書ヲ、一時金タル恩給ニ付テハ裁定通知書ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ第十七條ニ規定スル恩給ノ請求ニ對シテハ裁定通知書ヲ交付ス

裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間内ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ裁定官廳恩給ヲ受クルノ權利ナシト認メタルトキハ裁定官廳ハ理由ヲ附シテ其ノ請求ヲ却下スヘシ

第二十三條ノ二　裁定官廳ハ恩給請求書類ニ依リ證明セントスル事實ノ一部ニ付十分ナル心證ヲ得サル場合ニ於テ爭ナキ部分ノ事實ノミヲ以テスルモ尚恩給ヲ給與シ得ルコトヲ認メタルトキハ之ヲ他ノ部分ト切

離シ先ッ其ノ事實ノミニ基キ恩給ノ裁定ヲ爲スコトヲ得但シ之ニ因リテ別種ノ恩給ヲ給與スルニ至ルヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ爭アル事實ニ付立證ヲ得タルトキハ前裁定ヲ訂正スヘシ

第二十四條　權利者又ハ關係廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ證據書類ヲ添附シ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第二十五條　裁定官廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ認メタルトキハ訂正ノ爲必要ナル手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ關係廳ヲ經テ權利者ニ通知スヘシ

第二十六條　裁定官廳ハ審査上必要アリト認ムルトキハ請求者又ハ申請者ニ出頭ヲ命シ又ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第三章　恩給ノ支給

第二十七條　恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ其ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ支給廳ニ呈示スヘシ

第二十八條　年金タル恩給ハ毎年一月、四月、七月、十月ノ四期ニ於テ各其ノ前月分迄ヲ支給ス但シ前支給期月ニ支給スヘカリシ恩給ハ支給期月ニ非サル時期ニ於テモ之ヲ支給ス

年金タル恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テノ其ノ期ノ恩給ノ支給時期ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條　支給廳ハ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ノ消滅シ又ハ停止セラルヘキ原因タル事實アルコトヲ知リタルトキハ其ノ支給ヲ止メ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第四章　異動通知

第三十條　普通恩給ヲ受クル者官職ニ就キ恩給法第五十八條第一項第一號ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ停止セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ就職當時ノ本屬廳ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十一條　年金タル恩給ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ（恩給法第九條第二項ニ規定スル犯罪以外ノ犯罪ニ付刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキヲ除ク）又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十二條　年金タル恩給ヲ受クル者國籍ヲ失ヒ、死亡シ又ハ恩給法第八十條ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失フ場合ニ於テハ本人、遺族又ハ縲紲者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十三條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ本籍又ハ現住所ヲ變更シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ屆出ツヘシ

第三十四條　第三十條乃至前條ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳トカ異ルトキハ裁定官廳ニ對スル通知又ハ屆出ハ支給廳ヲ經由スヘシ

第三十四條ノ二　恩給法施行令第一條ノ二第一項ノ規定ニ依リ提出スル戸籍謄本又ハ戸籍抄本及證明書ハ之ヲ提出スヘキ月又ハ其ノ前月現在ニ於ケル受恩給者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノタルコトヲ要ス

第五章　恩給證書ノ返還及再交付

第三十五條　年金タル恩給ヲ受クル者死亡シ又ハ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ恩給ヲ受クヘキ順位者ナキトキハ恩給證書ヲ占有スル者ハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ恩給證書ヲ返還シ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ屆出ツヘシ

第三十六條　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ裁定官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

恩給ヲ受クル者カ恩給證書ヲ呈示ノ用ニ供スルコト困難ナル狀況ニ在ル場合ニ於テハ裁定官廳ハ本人ノ申請ニ依リ之ニ其ノ證書ノ再交付ヲ爲スコトヲ得

第三十七條　恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタルトキハ從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ハ其ノ效力ヲ失フ

亡失ヲ理由トシテ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタル後從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ發見シタルトキハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ規定ニ依リ恩給證書ノ再交付アリタル場合ニ付之ヲ準用ス

第三十八條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ恩給證書及戸籍抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁定官廳ハ恩給證書ニ改氏名ノ事實ヲ記載シタル上之ヲ權利者ニ返付スヘシ此ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳トカ異ルトキハ支給廳ヲ經由スヘシ

第六章　具申及裁決

第三十九條　恩給法第十三條第一項ノ具申ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條　具申書ニハ左ノ事項ヲ記載シ具申者記名捺印シ證據書類其ノ他必要ナル書類ヲ添附スヘシ

一　具申者ノ氏名、年齡及住所
二　對手者タル行政廳
三　具申ノ趣旨及理由

第四十一條　具申カ內閣恩給局長以外ノ者カ爲シタル行政處分ニ對スルモノナルトキハ具申書ハ其ノ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ具申書ヲ受取リタル日ヨリ十四日內ニ辯明書及必要ナル書類ヲ添ヘ內閣恩給局長ニ之ヲ送付スヘシ

第四十二條　內閣恩給局長ハ必要アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ辯明書ニ對スル辯駁書、再度辯明書其ノ他必要ナル書類ヲ差出サシメ又ハ具申者若ハ對手者タル行政廳ノ主任者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第四十三條　裁決ハ理由ヲ附シタル裁決書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁決書ハ具申者及對手者タル行政廳ニ之ヲ送付スヘシ

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●恩給給與細則

大正十二年十月一日
閣令第七號

改正　昭和八年第二號、十二年第一號、第四號、十三年第二號

國庫ノ支辨ニ屬スル恩給中內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ給與細則左ノ通定ム

恩給給與細則

第一條　恩給請求書類ニシテ其ノ提出ニ付經由廳ノ定アルモノハ左ノ區分ニ從ヒ先ツ之ヲ經由廳ニ差出スヘシ

一　本屬廳ヲ經テ差出スヘキコトヲ定メタルモノハ高等文官、同待遇、高等官試補、軍人及準軍人ニ在リテハ所管大臣ニ、判任文官、同待遇ニ在リテハ其ノ身分進退ヲ取扱フ廳ノ長官ニ之ヲ差出スヘシ

二　陸軍大臣又ハ海軍大臣ヲ經テ差出スヘキコトヲ定メタルモノ及本屬長官カ陸軍大臣又ハ海軍大臣ナルトキハ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ニ之ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ハ順序ヲ經テ之ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ進達スヘシ

三　在外指定學校職員ノ差出スヘキモノハ所管領事官ニ之ヲ差出スヘシ

第二條　裁定官廳ニ直接ニ差出スヘキコトヲ定メタル書類ハ之ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

第三條　恩給請求書類ハ概ネ別紙樣式（第一號乃至第十五號書式）ニ準シ作成スヘシ

第四條　恩給給與規則第六條ノ規定ニ依リ扶助料請求書ヲ直接ニ裁定官廳ニ差出ス場合ニ於テ帝國外ニ居住スル者ハ所管領事官ノ現住證明ヲ受ケ書留郵便ヲ以テ之ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

第五條　本屬廳其ノ他ノ經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ恩給金額計算書（第十六號乃至第二十一號書式）ヲ作リ證據書類ヲ添附シ內閣恩給局ニ送付スヘシ但シ數個ノ經由廳アルトキハ最終ノ經由廳ニ於テ計算書ヲ作成スヘシ

第六條　內閣恩給局ニ於テ給與ノ裁定ヲ爲シタルトキハ貯金局ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲スト共ニ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ作リ請求者ニ之ヲ交付スヘシ

第七條　恩給ノ請求ヲ却下シタル場合ニ於テハ內閣恩給局長ハ請求者ニ對シ直接其ノ旨ヲ通知スルト共ニ其ノ要旨ヲ關係廳ニ通知スヘシ

第八條　內閣恩給局ニ於テ恩給給與規則第二十五條ノ規定ニ依リ誤謬ヲ訂正シ又ハ裁定ノ改訂ヲ爲シタル場合ニ於テハ貯金局ヲ經テ權利者ニ通知シ又ハ新證書ヲ交付スヘシ

第九條　恩給給與規則第三十一條ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル裁判所ハ別紙樣式（第二十二號又ハ第二十三號ノ書式）ニ準シ貯金局ヲ經テ內閣恩給局ニ通知スヘシ

第十條　恩給給與規則第三十六條第一項ノ規定ニ依リ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付ヲ申請セムトスル者ハ概ネ別紙樣式（第二十四號書式）ニ準シ再交付申請書ヲ作リ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

一　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シタルモノナルトキハ亡失ノ顚末及亡失後ニ於テ執リタル措置ヲ記載シタル書類竝其ノ事實ヲ證スルニ足ルヘキ警察官署等ノ公ノ證明書但シ裁定通知書ヲ亡失シタル場合ニ於テハ警察官署等ノ公ノ證明ヲ要セス

二　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ毀損シタルモノナルトキハ其ノ顚末書及毀損シタル恩給證書又ハ裁定通知書

第十條ノ二　恩給給與規則第三十六條第二項ノ規定ニ依リ恩給證書ノ再交付ヲ申請セムトスル者ハ概ネ別紙樣式（第二十四號書式ノ二）ニ準シ再交付申請書ヲ作リ左ノ書類及證書郵送料（郵便切手十四錢）ヲ添附シ之ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

一　申請者本人ノ最近ノ寫眞

二　恩給證書ヲ呈示ノ用ニ供スルコト困難ナル事由ヲ詳記シタル顚末書

前項ノ申請書ニハ現住所ノ警察官署、領事官其ノ他申請者カ本人タルコトヲ知レル官公署ヨリ本人タルコトノ奧書證明ヲ受クヘシ

第一項第一號ノ寫眞ハ申請書ニ貼附シ前項ノ奧書證明ヲ爲ス官公署ノ割印ヲ受クヘシ

第十一條　恩給給與規則ニ依リ支給廳ヲ經テ內閣恩給局ニ差出スヘキ書類ハ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十二條　恩給法施行令第一條ニ規定スル恩給受給權調査票ハ別紙樣式（第二十五號書式）ニ準シ作成スヘシ

第十二條ノ二　恩給法施行令第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル加算ヲ爲スヘキ勤務ニ服シタルトキハ其ノ所屬長官ハ勤務日誌ヲ作リ恩給請求ニ際シ其ノ寫ヲ差出スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ閣令ハ之ヲ廢止ス

官吏恩給法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

軍人恩給法施行規則

明治二十四年閣令第二號

明治二十四年法律第四號施行規則

恩給給與細則

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則

明治三十四年閣令第一號

明治三十五年法律第四十五號施行手續

明治三十九年法律第二十號施行手續

明治四十三年閣令第九號

明治四十四年法律第五十九號施行手續

公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則

明治二十九年法律第十三號施行規則

在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料等支給規則

大正十一年閣令第五號

別紙

第一號書式

普通恩給請求書

年　月　日　（官職）ヲ退職致候ニ付普通恩給ヲ給與相成度證據書類相添へ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年　月　日　氏　名印

内閣恩給局長　氏　　名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第二號書式

普通恩給
増加恩給請求書

年　月　日　(官職)ヲ退職致候ニ付普通恩給及増加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日　　氏　　名印

内閣恩給局長　氏　　名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第二號書式ノ二

傷病年金請求書

年　月　日　(官職)ヲ退職(シ　年　月　日　役ヲ免セラレ)候ニ付傷病年金ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日　　氏　　名印

内閣恩給局長　氏　　名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第三號書式

増加恩給請求書

年　月　日　(官職)ヲ退職致候處在職中ノ傷痍(疾病)爾後重症ニ赴キ候ニ付増加恩給ヲ給與改定相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地
現住所

年　月　日　　氏　　名印

内閣恩給局長　氏　　名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第三號書式ノ二

傷病年金請求書

年　月　日　(官職)ヲ退職(シ　年　月　日　役ヲ免セラレ)候處在職中ノ傷痍(疾病)爾後重症ニ赴キ候ニ付傷病年金給與
改定相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日　　氏　　名印

恩給給與細則

内閣恩給局長　氏　　名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第四號書式

扶助料請求書

公務員又ハ
普通恩給權者　氏　　名

右者　年　月　日死亡候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

本籍地
現住所

年　月　日　　氏　　名印

内閣恩給局長　氏　　名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第五號書式

扶助料請求書

前扶助料權者　氏　　名

右者　年　月　日失權候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添（請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係

本籍地

現住所

年　月　日

氏　　名印

內閣恩給局長　氏　　名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第五號書式ノ二

扶助料改定請求書

一、扶助料證書記號番號

一、證書ノ日附

一、扶助料年額

前記扶助料受給中ノ處遺族員數增加減少致候ニ付年額ヲ改定相成度證據書類相添（請求候也

年　月　日

本籍地

現住所

請求者　氏　　名印

內閣恩給局長　氏　　名殿

支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第五號書式ノ三

扶助料改定請求書

第一ノ扶助料　(イ)扶助料證書記號番號

(ロ)證書ノ日附

(ハ)扶助料年額

第二ノ扶助料　(イ)扶助料證書記號番號

(ロ)證書ノ日附

(ハ)扶助料年額

（第三ノ扶助料以下右ニ準ス）

前記扶助料中第　ノ扶助料ニ付遺族ノ員數ニ依ル加給ヲ爲シ年額ヲ改定相成度證據書類相添（請求候也

年　月　日

本籍地

現住所

請求者　第一ノ扶助料受給者　氏　　名印

現住所

請求者　第二ノ扶助料受給者　氏　　名印

（第三以下ノ扶助料受給者タル請求者ハ右ニ準ス）

內閣恩給局長　氏　　名殿

改定扶助料ノ支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第六號書式

一時恩給請求書

年　月　日　(官職)ヲ退職致候ニ付一時恩給ヲ給與相成度證據書類相添（請求候也

退職當時ノ官職名

本籍地

現住所

年　月　日

內閣恩給局長　氏　　名殿

支給郵便局　○○郵便局

氏　　名印

•備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第七號書式

一時扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權者ノ退職當時ノ官職名　氏　　名

右者　年　月　日死亡候ニ付恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添（請求候也

第十號書式

扶助料傳給請求書	
停止中ノ扶助權者氏名	
右者所在不明ニ因ル扶助料停止期間中扶助料ヲ傳給相成度證據	
書類相添ヘ請求候也	
公務員トノ身分關係	
本籍地	
現住所	
年月日	
氏名	印
內閣恩給局長氏名殿	
支給郵便局	
○○郵便局	

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十一號書式

扶助料停止請求書	
停止セラルヘキ扶助權者氏名	
右者年月日以來所在不明ニ付扶助料ヲ停止相成度證據書類相添ヘ請求候也	

恩給給與細則

第十號書式

扶助料傳給請求書	
停止中ノ扶助權者氏名	
右者所在不明ニ因ル扶助料停止期間中扶助料ヲ傳給相成度證據書類相添ヘ請求候也	
公務員トノ身分關係	
本籍地	
現住所	
年月日	
申請者氏名	印
內閣恩給局長氏名殿	
支給郵便局	
○○郵便局	

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十一號書式

再審査請求書	
年月日退職ニ因リ普通恩給發生增加恩給ヲ給セラレ候處未タ傷痍疾病回復セサルヲ以テ再審査相成度證據書類相添ヘ請求候也	
退職當時ノ官職名	
本籍地	
現住所	
年月日	
請求者氏名	印
內閣恩給局長氏名殿	
支給郵便局	
○○郵便局	

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第八號書式

一時扶助料請求書	
公務員ノ官職名氏名	
右者年月日在職中死亡ニ付恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也	
公務員トノ身分關係	
本籍地	
現住所	
年月日	
氏名	印
內閣恩給局長氏名殿	
支給郵便局	
○○郵便局	

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第九號書式

傷痍金請求書	
年月日官職ヲ退職シ年月日從ヲ免セラレ候ニ付傷痍金ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也	
退職當時ノ官職名	
本籍地	
現住所	
年月日	
氏名	印
內閣恩給局長氏名殿	
支給郵便局	
○○郵便局	

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十二號書式ノ二

再審査請求書

年　月　日退職(シ　年　月　日　役ヲ免セラレタル)ニ因リ傷病年金ヲ給セラレ候處未タ傷痍(疾病)回復セサルヲ以テ再審査相成度證據書類相添(請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所
年　月　日　　氏　　名印

内閣恩給局長　氏　　名殿
支給郵便局　○○郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十三號書式

履歴書

退職當時ノ官職名　　氏　　名印
年　月　日生

年　月　日	記事	官公署名

右相違ナキコトヲ證明ス

年　月　日　(退職當時ノ所屬廳ノ長)
官職氏　　名印

備考
一　履歴書ハ二通提出スヘシ
一　學歴、位記、勳記、賞與等ノ記載ヲ要セス
一　官職ノ任免、轉任、陞等、昇級等ハ順ヲ逐ヒ間隙ナキ樣ニ詳記スヘシ
一　退職ノ事由ヲ明記スヘシ
一　退職當時ノ所屬廳ノ長ハ他廳ニ關スル事項ニ付テハ照會ノ上之ヲ詳記スヘシ

第十四號書式

現認證明書

公務員ノ官職名
氏　　名

右者　年　月　日　午前(後)　時　地ニ於テ(何)ニ從事中(何)ニ因リ(何)ノ事情ノ下ニ負傷(罹病)シタルコトヲ現認候也

住所又ハ官職名
現認者　氏　　名印
年　月　日

備考　本證明書ニハ傷病當時ノ狀況ヲ成ルヘク詳細ニ記載シ現認者多數アルトキハ二名以上連名スヘシ

第十五號書式

事實證明書

公務員ノ官職名
氏　　名

右者　年　月　日ヨリ(何)ニ從事中　年　月　日(何)ノ狀況ニ於テ(何)ニ從事シ　月　日頃ヨリ(何)ノ症狀アルヲ訴ヘ爾後(何)ノ處置ヲ施シタリ
右證明ス

所屬長　氏　　名印
年　月　日

備考　本證明書ニハ公務傷病ノ原因タル事實ヲ詳細ニ記載スヘシ

第十六號書式

前證書記號番號	前在職年	前職又ハ前階等	前恩給年額	傷病年金ニ關スル事項

普通恩給金額計算書

退職年月日	年　月　日
退職ノ事由	
在職年數	
退職當時ノ階等	
退職前ノ俸給年額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢
恩給年額算出率	百五十分ノ 三百分ノ
恩給法第六十四條ノ二ニ依ル控除 控除前ノ算出額	圓　錢
差月數	月
一時恩給基礎俸給月額	圓　錢
控除額	圓　錢

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

內閣恩給局長 氏名 殿

官職氏名 印

居住地地方廳名	
支給郵便局名	局
請求者ノ退職當時ノ官職名	氏名 年　月　日生
普通恩給年額	金　圓
毎期給額	金　圓　錢
恩給法第五十八條第一項第三號ニ依ル普通恩給停止年額及支給年額	(イ)自　年　月 至　年　月 停止年額(普通恩給ノ六分ノ一)　圓　錢 支給年額　圓　錢 (ロ)自　年　月 至　年　月 停止年額(普通恩給ノ八分ノ一)　圓　錢 支給年額　圓　錢
初期支給額	年　月分ノ給額 箇月分 金　圓　錢

在職年內譯

實在職年			加算年			除算年		
始終期	自　年　月　日 至　年　月　日	年月數	始終期	自　年　月　日 至　年　月　日	事由 年月數	始終期	自　年　月　日 至　年　月　日	事由 年月數
	自　年　月　日 至　年　月　日			自　年　月　日 至　年　月　日			自　年　月　日 至　年　月　日	
	自　年　月　日 至　年　月　日			自　年　月　日 至　年　月　日			自　年　月　日 至　年　月　日	
合計	年　月		合計	年　月		合計	年　月	

總計　年　月

退職前ノ俸給年額內譯

本俸				加俸		
退職前一年ノ期間	月數	本俸年(月)額	月數ト月額トノ積	自　年　月　日 至　年　月　日		
自　年　月　日 至　年　月　日				自　年　月　日 至　年　月　日		
自　年　月　日 至　年　月　日						
自　年　月　日 至　年　月　日						
退職前一年內ノ本俸總額						

譯
自 年 月 日 至 年 月 日
退職前一年内ノ加俸總額

備考　傷病年金ニ關スル事項欄ニハ請求者カ傷病年金ヲ併給セラルル者ナルトキハ其ノ證書ノ記號番號ヲ、傷病年金ヲ請求中ノ者ナルトキハ請求ノ年月日ヲ、傷病年金ヲ請求スル見込ノ者ナルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第十六號書式ノ二

前證書記號番號	
前在職年	
前職又ハ前階等	
前恩給年額	

普通/增加恩給金額計算書

退職年月日	年　月　日
退職ノ事由	
在職年數	
退職前ノ俸給年額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢
退職當時ノ階等	
恩給年額算出率	百五十分ノ 三百分ノ
公務傷病ノ原因	
傷病ニ罹リタル年月日	年　月　日
右ノ日ヨリ五年經過後ノ階等	
症狀等差	第　項

恩給法第六十四條ノ二ニ依ル普通恩給算出ノ際ノ控除	控除前ノ算出額	圓　錢
	差月數	月
	一時恩給基礎俸給月額	圓　錢
	控除額	圓　錢
年額	普通恩給金 增加恩給金	圓 圓
每期給額	金	圓　錢

初期支給額	年　月分ノ給額 箇月分 金　圓　錢

居住地
地方廳名

支給郵便局名　　　局

請求者ノ退職當時ノ官職名

氏名
年　月　日生

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年月日

內閣恩給局長　氏名殿

官職氏名印

在職年內譯							
實在職年	始 終 期	自 年 月 日 至 年 月 日	自 年 月 日 至 年 月 日	自 年 月 日 至 年 月 日	合計 年 月
	年月數				
加算年	始 終 期	自 年 月 日 至 年 月 日	自 年 月 日 至 年 月 日	自 年 月 日 至 年 月 日	合計 年 月
	事由				
	年月數				
除算年	始 終 期	自 年 月 日 至 年 月 日	自 年 月 日 至 年 月 日	自 年 月 日 至 年 月 日	合計 年 月
	事由				
	年月數				
總計 年 月					

退職前ノ俸				
本俸	退職前一年ノ期間	月數	本俸年(月)額	月數ト月額トノ積
	自 年 月 日 至 年 月 日			
	自 年 月 日 至 年 月 日			
	自 年 月 日 至 年 月 日			
	退職前一年内ノ本俸總額			

第十六號書式ノ三

給年額内譯	加俸	自　年　月　日　至　年　月　日
	退職前一年内ノ加俸總額	自　年　月　日　至　年　月　日

前傷病年金證書	記號番號		普通恩給ニ關スル事項	恩給法施行令第三十六條第二項ノ恩給法第十二條ノ二ノ差月數	月	傷病賜金ノ金額		恩給ノ事項	返還總額	每期控除額
		年額								

傷病年金金額計算書

退職年月日	年　月　日	居住地地方廳名		退職當時ノ官職名	
兵役免除年月日	年　月　日	支給郵便局名	局	氏名	
退職（兵役免除）ノ事由					
退職當時ノ階等					
傷病ニ罹リタル年月日	年　月　日	傷病年金金額	金　圓	官職氏名印	
公務傷病ノ原因					
症狀等差	第　款				

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

内閣恩給局長　氏名　殿

第十七號書式

備考　普通恩給ニ關スル事項欄ニハ請求者カ普通恩給ヲ併給セラルル者ナルトキハ其ノ證書ノ記號番號ヲ、普通恩給ヲ請求中ノ者ナルトキハ請求ノ年月日ヲ、普通恩給ヲ請求スル見込ノ者ナルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

一時恩給金額計算書

退職年月日	年　月　日	支給郵便局名	局	請求者ノ退職當時ノ官職名	
退職ノ事由					
在職年數				氏名	
退職前ノ俸給月額	本俸　圓 加俸　圓 合計　圓	一時恩給金額	金　圓	官職氏名印	
退職當時ノ階等					

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

内閣恩給局長　氏名　殿

在職年内譯	實在職年	加算	年	除算	年
	始終期	年月日	自　年　月　日 至　年　月　日	事由	年月數
	始終期	年月日	自　年　月　日 至　年　月　日	事由	年月數

退職前ノ俸給年額內譯		
本俸	退職前一年ノ期間	自　年　月　日　至　年　月　日 / 自　年　月　日　至　年　月　日 / 自　年　月　日　至　年　月　日
	月數	
	本俸年（月）額	
	月數ト月額トノ積	
	退職前一年內ノ本俸總額	
加俸		自　年　月　日　至　年　月　日 / 自　年　月　日　至　年　月　日 / 自　年　月　日　至　年　月　日
	退職前一年內ノ加俸總額	

總計　年　月	
合計　年　月	自　年　月　日　至　年　月　日 / 自　年　月　日　至　年　月　日
合計　年　月	自　年　月　日　至　年　月　日 / 自　年　月　日　至　年　月　日
合計　年　月	自　年　月　日　至　年　月　日 / 自　年　月　日　至　年　月　日

改定前ノ普通恩給ニ關スル事項	
恩給證書記號番號	
在職年	
官職名又ハ階等	
年額	

扶助料金額計算書

居住地地方廳名	
支給郵便局名	局
公務員トノ續柄	
氏名	
	年　月　日生
	年　月ヨリ給與

公務員ニ關スル事項		
退職（死亡）年月日		年　月　日
退職ノ事由又ハ死因		
在職年數		
退職（死亡）前ノ俸給年額		本俸　圓　錢 / 加俸　圓　錢 / 合計　圓　錢
退職（死亡）當時ノ階等		
恩給年額算出率		百五十分ノ / 三百分ノ
恩給法第六十四條ノ二ニ依ル控除	控除前ノ算出額	圓　錢
	差月數	月
	一時恩給基礎俸給月額	圓　錢
	控除額	圓　錢
普通恩給年額		圓

扶助料額		
年額		金　圓
每期給額		金　圓　錢
恩給法第七十五條第一項ノ事項	普通恩給十分ノ五	金　圓　錢
	右ノ割	金　圓
恩給法第七十五條第二項本文ノ事項	加給額	金　圓
	遺族員數	

初期支給額
年　月分ノ給額
箇月分
金　圓　錢

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

內閣恩給局長　氏　名　殿

官職　氏　名　印

在職年內譯	
實在職年	年
加算年	年
除算年	年

始終期	年月數	始終期	事由	年月數	始終期	事由	年月數
自 年 月 日 至 年 月 日		自 年 月 日 至 年 月 日			自 年 月 日 至 年 月 日		
自 年 月 日 至 年 月 日		自 年 月 日 至 年 月 日			自 年 月 日 至 年 月 日		
自 年 月 日 至 年 月 日		自 年 月 日 至 年 月 日			自 年 月 日 至 年 月 日		
合計 年 月		合計 年 月			合計 年 月		

總計 年 月

退職前ノ俸給年額內譯

	退職前一年ノ期間	月數	本俸年(月)額	月數ト月額トノ積
本俸	自 年 月 日 至 年 月 日			
	自 年 月 日 至 年 月 日			
	自 年 月 日 至 年 月 日			
	退職前一年內ノ本俸總額			
加俸	自 年 月 日 至 年 月 日			
	自 年 月 日 至 年 月 日			
	自 年 月 日 至 年 月 日			
	退職前一年內ノ加俸總額			

第十八號書式ノ二

改定前ノ普通恩給ニ關スル事項	
恩給證書記號番號	
在職年	
官職名又ハ階等	
年額	

扶助料金額計算書

公務員ニ關スル事項		
退職(死亡)年月日	年 月 日	
退職ノ事由又ハ死因		
在職年數		
退職(死亡)前ノ俸給年額	本俸 圓 錢 加俸 圓 錢 合計 圓 錢	
退職(死亡)當時ノ階等		
恩給年額算出率	百五十分ノ三百分ノ	
恩給法第六十四條ニ依ル一時恩給ノ控除	控除前ノ算出額	圓 錢
	差月數	月
	一時恩給基礎俸給月額	圓 錢
	控除額	圓 錢
普通恩給年額		圓

扶助料額		
年額	金	圓
每期給額	金	圓 錢
恩給法第七十五條第一項ノ事項	普通恩給十分ノ五	金 圓 錢
	右ノ割	金 圓
恩給法第七十五條第二項但書ノ事項 恩給法施行令第三十一條第一項第一號ノ三本文ノ場合	加給額	金 圓
	遺族員數	
	最初ノ扶助料	證書記號番號氏名
	後ノ扶助料	證書記號番號氏名
		證書記號番號氏名
		證書記號番號氏名

居住地地方廳名	
支給郵便局名	局

公務員トノ續柄

氏 名

年 月 日生

年 月ヨリ給與

初期支給額
年 月分ノ給額
箇月分
金 圓 錢

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年 月 日

內閣恩給局長 氏 名 殿

官職氏 名 印

在職年內譯

實在職年	加算年	除算年

始期	終期	年月數	事由
自　年　月　日	至　年　月　日		
自　年　月　日	至　年　月　日		
自　年　月　日	至　年　月　日		
合計　年　月			

始期	終期	年月數	事由
自　年　月　日	至　年　月　日		
自　年　月　日	至　年　月　日		
自　年　月　日	至　年　月　日		
合計　年　月			

始期	終期	年月數	事由
自　年　月　日	至　年　月　日		
自　年　月　日	至　年　月　日		
自　年　月　日	至　年　月　日		
合計　年　月			

總計　年　月

本俸	退職前一年ノ期間	月數	本俸年（月）額	月數ト月額トノ積

退職前ノ俸給年額	自　年　月　日	至　年　月　日	退職前一年内ノ本俸總額	自　年　月　日	至　年　月　日	加俸	退職前一年内ノ加俸總額	自　年　月　日	至　年　月　日	内譯

恩給證書記號番號	改定前ノ普通恩給ニ關スル事項		
	在職年	官職名又ハ階等	年額

扶助料金額計算書

居住地方廳名		支給郵便局名

公務員ニ關スル事項

退職（死亡）年月日	年　月　日
退職ノ事由又ハ死因	
在職年數	
退職（死亡）前ノ俸給年額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢
退職（死亡）當時ノ階等	
恩給年額算出率	百五十分ノ 三百分ノ
恩給法第六十條ノ二ニ依リ控除	控除前ノ算出額　圓　錢
	差引月數　月
	一時恩給基礎俸給月額　圓　錢
普通恩給年額	控除額　圓　錢
普通恩給年額	圓

扶助料額

恩給法第七十五條第一項ノ右ノ割	普通恩給十分ノ五	金　圓　錢
	每期給額	金　圓　錢
恩給法第七十五條第一項但書ノ場合ノ恩給法第十二條第一項第二號	年額	金　圓
恩給法施行令第十三條ノ一	遺族數	
加給セサル扶助料	加給額	金　圓
	證書記號番號	
	年額	金　圓
	證書記號番號	
	年額	金　圓

初期支給額

年　月分ノ	金　圓　錢
箇月分	給額

公務員トノ續柄
氏名
年　月　日生
年　月ヨリ
給與

右取調候處相違無之ニ付給與相成度
年　月　日

官職氏名印

内閣恩給局長　氏　名　殿

在職年内譯

實在職年	加算　年
	除算　年

始終期	年月數
自 年 月 日 至 年 月 日	
自 年 月 日 至 年 月 日	
自 年 月 日 至 年 月 日	
合計	年 月

始終期	事由	年月數
自 年 月 日 至 年 月 日		
自 年 月 日 至 年 月 日		
自 年 月 日 至 年 月 日		
合計		年 月

始終期	事由	年月數
自 年 月 日 至 年 月 日		
自 年 月 日 至 年 月 日		
自 年 月 日 至 年 月 日		
合計		年 月

總計 年 月

退職前ノ俸給年額內譯

	退職前一年ノ期間	月數	本俸年(月)數	月數ト月額トノ積
本俸	自 年 月 日 至 年 月 日			
	自 年 月 日 至 年 月 日			
	自 年 月 日 至 年 月 日			
	退職前一年內ノ本俸總額			
加俸	自 年 月 日 至 年 月 日			
	自 年 月 日 至 年 月 日			
	自 年 月 日 至 年 月 日			
	退職前一年內ノ加俸總額			

第十八號書式ノ四

改定前普通恩給ニ關スル事項

恩給證書記號番號	在職年	官職名又ハ階等	年額

扶助料金額計算書

居住地地方廳名	支給郵便局名	局

公務員ニ關スル事項

項目	記入
退職(死亡)年月日	年 月 日
退職ノ事由又ハ死因	
在職年數	
退職(死亡)前ノ俸給年額	本俸 圓 錢 加俸 圓 錢 合計 圓 錢
退職(死亡)當時ノ階等	
恩給年額算出率	百五十分ノ 三百分ノ
恩給法第六十四條ノ二ニ依ル控除：控除前ノ算出額	圓 錢
恩給法第六十四條ノ二ニ依ル控除：差月數	月
恩給法第六十四條ノ二ニ依ル控除：一時恩給基礎俸給月額	圓 錢
恩給法第六十四條ノ二ニ依ル控除：控除額	圓 錢
普通恩給年額	圓

扶助料額

項目	記入
年額	金 圓
每期給額	金 圓 錢
恩給法第七十五條第一項ノ事項：普通恩給十分ノ五	金 圓 錢
恩給法第七十五條第一項ノ事項：右ノ割	金 圓
恩給法第七十五條第二項但書ノ事項／恩給法施行令第三十一條第一項但書又ハ第二號ノ場合：加給額	金 圓
同：遺族員數	
同：前加給ノ扶助料	證書記號番號 氏名 加給額
同：前不加給ノ扶助料	證書記號番號 氏名 證書記號番號 氏名 證書記號番號 氏名

公務員トノ續柄 氏名

年 月 日生

年 月ヨリ給與

初期支給額

年 月分ノ給額 箇月分 金 圓 錢

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年 月 日

內閣恩給局長 氏名殿

官職 氏名印

在職年內譯

實在職年	加算年	除算年
始終期 年月數	始終期 事由 年月數	始終期 事由 年月數
自 年 月 日 至 年 月 日		
自 年 月 日 至 年 月 日		
自 年 月 日 至 年 月 日		
合計 年 月	合計 年 月	合計 年 月

總計	本俸	年	月

退職前ノ俸給年額內譯	退職前一年ノ期間	月數	本俸年（月）額	月數ト月額トノ積
退職前一年內ノ加俸總額	自 年 月 日 至 年 月 日			
	自 年 月 日 至 年 月 日			
	自 年 月 日 至 年 月 日			
加俸	退職前一年內ノ本俸總額			

恩給法第八十一條ノ一時扶助料金額計算書

公務員ニ關スル事項					
退職（死亡）年月日	年 月 日	本俸 圓 錢	前加俸 圓 錢	合計 圓 錢	
退職ノ事由又ハ死因					
在職年數					
退職（死亡）前ノ俸給年額					
退職（死亡）當時ノ階等					
恩給證書記號番號	第 號				
普通恩給年額	金 圓				

一時扶助料金額	公務員トノ續柄	氏名 年月日生	支給郵便局名
金 圓	公務員トノ續柄	氏名 年月日生	局
扶助料年額			
年分			

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年 月 日

官職氏名印

內閣恩給局長 氏名 殿

在職年內譯	實在職年	加算年	除算年
始終期 事由 年月數	始終期 事由 年月數	始終期 事由 年月數	始終期 事由 年月數

自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	合計　年　月
自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	合計、年　月
自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	自　年　月　日 至　年　月　日	合計　年　月

總計	年　月

退職前ノ俸給年額内譯

	退職前一年ノ期間	月數	本俸年(月)額	月數ト月額トノ積
本俸	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	退職前一年内ノ本俸總額			
加俸	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	自　年　月　日 至　年　月　日			
	退職前一年内ノ加俸總額			

第二十號書式

恩給法第八十二條ノ一時扶助料金額計算書

死亡年月日	年　月　日	年　月　日
死因		
在職年數		
死亡前ノ俸給月額	本俸　圓　錢 加俸　圓　錢 合計　圓　錢	
死亡當時ノ階等		

一時扶助料金額	金　圓
公務員トノ續柄	氏名
支給郵便局名	局

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年　月　日

官職氏名印

内閣恩給局長　氏名殿

在職年内譯

實在職年			加算年			除算年		
始終期	年月數		始終期	事由	年月數	始終期	事由	年月數
自　年　月　日 至　年　月　日			自　年　月　日 至　年　月　日			自　年　月　日 至　年　月　日		
自　年　月　日 至　年　月　日			自　年　月　日 至　年　月　日			自　年　月　日 至　年　月　日		

自至	年月日	年月日	自至
合計	年月	合計	年月
總計	年月	合計	年月

退職前ノ俸給年額内譯																							
本俸	退職前一年ノ期間	月	數	本俸年（月）額	月數ト月額トノ積	自至	年月日	自至	年月日	自至	年月日	自至	年月日	自至	年月日	自至	年月日	自至	年月日	自至	年月日	自至	年月日
加俸	退職前一年内ノ加俸總額																						
	退職前一年内ノ本俸總額																						

第二十一號書式

傷病賜金金額計算書

退職年月日	年月日	支給郵便局名	局
兵役免除年月日	年月日		
退職（兵役免除）ノ事由			
退職當時ノ階等			
傷病ニ罹リタル年月日	年月日		
公務傷病ノ原因			
症狀等差	第目	傷病賜金額	金圓

退職當時ノ官職名
氏名

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年月日

官職氏名印

內閣恩給局長 氏名 殿

第二十二號書式

年月日

裁判所

內閣恩給局宛（貯金局經由）

氏名	
住所	
退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係	
恩給證書ノ記號番號	第號
罪名	
刑名	
刑期	
判決言渡年月日	年月日
判決確定年月日	年月日
刑期起算年月日	年月日
刑期滿了年月日	年月日

第二十三號書式

年　月　日　　裁判所

內閣恩給局宛（貯金局經由）

氏名	
住所	
退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係	
恩給證書ノ記號番號	第　號
罪名	
刑名	
刑期	
判決言渡年月日	年　月　日
判決確定年月日	年　月　日
刑期起算年月日	年　月　日
刑期滿了年月日	年　月　日
執行猶豫期間	年
執行猶豫言渡取消年月日	年　月　日

第二十四號書式

恩給證書（裁定通知書）再交付申請書

一　恩給證書ノ記號番號（裁定通知書ノ番號）

一　恩給證書ノ日附（裁定通知書ノ日附）

一　恩給金額

右恩給證書（裁定通知書）ヲ亡失（毀損）致候ニ付再交付相成度申請候

年　月　日

退職當時ノ官職名又ハ
公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

氏名印

內閣恩給局長　氏名　殿

支給郵便局　○○郵便局

第二十四號書式ノ二

恩給證書再交付申請書

一　恩給證書ノ記號番號

一　恩給證書ノ日附

一　恩給金額

右恩給證書別紙顚末書ノ通呈示ノ用ニ供スルコト困難ニ付再交付相成度申請候

年　月　日

退職當時ノ官職名又ハ
公務員トノ身分關係

本籍地

現住所

氏名印

內閣恩給局長　氏名　殿

支給郵便局　○○郵便局

昭和七年法律第十三號恩給ノ減額補給及停止ニ關スル法律

第二十五號書式

恩給受給權調査票

一、恩給證書記號番號

一、受給者住所氏名

一、受給權調査期月　昭和　年　月

備考　用紙ハ成ル可ク半紙四ツ切大又ハ半折大トスルコト

●昭和七年法律第十三號（恩給ノ減額補給及停止ニ關スル法律）

昭和七年六月十八日
法律第十三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル恩給ノ減額補給及停止ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（國務各大臣副署）

第一條　昭和六年六月一日以降減俸ノ爲改正シタル俸給ニ關スル規程ニ依リ俸給ヲ給セラレ勅令ヲ以テ指定スル時期迄ニ退職シ若ハ死亡シタル軍人以外ノ公務員若ハ之ニ準ズベキ者又ハ其ノ遺族ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給額ト改正前ノ俸給ニ關スル規程ニ依レバ受クベカリシ俸給ヲ基礎トスル恩給額トノ差額ヲ年金タル恩給ニ在リテハ退職又ハ死亡ノ翌月ヨリ增給シ一時金タル恩給ニ在リテハ追給ス

前項ノ規定ハ昭和六年六月一日以降勅令ヲ以テ指定スル時期迄ニ新ニ

制定セラルル俸給ニ關スル規程ニ依リ俸給ヲ給セラレテ退職シ若ハ死亡シタル軍人以外ノ公務員若ハ之ニ準ズベキ者又ハ其ノ遺族ニ付之ヲ適用ス

第二條 恩給法第九十九條第一項ノ規定ニ依リ從前ノ例ニ依リ普通恩給ト其ノ基礎ト爲リタル在職年ニ通算スルコトヲ得ル官職ニ就キ受クル俸給トノ合算額ノ退職當時ノ俸給ヲ超過スル差額ダケ普通恩給ヲ停止スル場合ニ於ケル其ノ退職當時ノ俸給ハ本法施行後ニ在リテハ勅令ヲ以テ指定スル時期迄昭和六年六月一日以降減俸ノ爲改正シタル俸給ニ關スル規程ニ依ル其ノ俸給ニ相當スル俸給トス

前項俸給額ノ算定ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和七年勅令第二百三號ヲ以テ昭和七年八月一日ヨリ施行）

●昭和七年法律第十三號施行令

昭和七年七月三十日
勅令第二百四號

改正 昭和八年勅二四七號

朕昭和七年法律第十三號施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（國務各大臣副署）

昭和七年法律第十三號施行令

第一條 昭和七年法律第十三號第一條第一項ノ規定ニ依リ增額シ又ハ追給スベキ恩給金額ヲ算出スル爲ニ要スル改正前ノ俸給規程ニ依リ受クベカリシ俸給ハ左ノ各號ニ依ル

一 昭和六年六月又ハ七月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際在職シ俸給ヲ減額セラレタル者爾後其ノ俸給ヲ變動セラルルコトナクシテ退職シ又ハ死亡シタルトキハ減俸直前ノ俸給トス

二 昭和六年六月又ハ七月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際在職シタル者爾後其ノ俸給ヲ變動セラレテ退職シ又ハ死亡シタルトキ及該俸給規程施行後就職シタル者退職シ又ハ死亡シタルトキハ

(イ) 本俸ニシテ級俸ノ定アル俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職又ハ死亡當時ノ俸給ガ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ該當スルモノナル場合ニハ其ノ級俸定額ト之ニ該當スルモノナラザル場合ニハ其ノ俸給ニ直近スル下位ノ級俸定額ガ之ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ其ノ俸給ヲ除シタル金額トス但シ其ノ俸給ニ直近スル上位ノ級俸定額ノ改正前ノ級俸定額ニ還元セラレタル額ヲ超ユルコトナシ

(ロ) 本俸ニシテ級俸ノ定ナキ俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職又ハ死亡當時ノ俸給ヲ高等官及同待遇者ニ在リテハ高等官等俸給令、判任官及同待遇者ニ在リテハ判任官俸給令ニ依リ受ケタルモノト假定シ(イ)ノ規定ニ依リ算出シタル金額トス

(ハ) 本俸ニ準ズベキ俸給ニ付テハ俸給規程ニ於テ其ノ最高限ノミヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額ガ改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ヲ除シタル金額トシ最高限及最低限ヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ガ夫々改正前ノ俸給規程ニ

定ムル最高金額及最低金額ニ對シテ有スル割合ヲ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ノ額ニ依リテ補間計算シタル割合ヲ以テ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ヲ除シタル金額トス但シ本俸及本俸ニ準ズベキ俸給ノ改正前ノ俸給額ニ還元セラレタルモノノ合算額ハ改正前ノ俸給規程所定ノ最高限ヲ超ユルコトナシ

前項ノ場合ニ於テ前項各號ノ規定ニ依リ算出シタル俸給金額ノ圓位未滿ハ之ヲ切捨ツ

退職又ハ死亡當時ノ本俸ト本俸ニ準ズベキ俸給トノ合算額ガ第一項第二號(イ)又ハ(ロ)ノ規定ニ依リ改正前ノ俸給規程ニ依ル俸給ニ還元セラルベキ最低額ニ達セザルモノナルトキハ第一項第二號(ハ)ノ規定ニ依ル算出ヲ行ハズ

第二條 昭和六年六月二十二日以降官吏又ハ待遇官吏タル二以上ノ地位ニ基キ二以上ノ俸給(本俸ニ準ズベキモノヲ含マズ)ヲ受ケ二以上ノ官職ヲ同時ニ退職シ又ハ二以上ノ官職ニ在職中死亡シタル者前條第一項第二號(イ)又ハ(ロ)ニ該當スル場合ニ在リテハ其ノ本俸ニ付テハ退職又ハ死亡當時ノ各官職ノ俸給ニ互ニ他ノ俸給ノ額ヲ合算シ各合算額ニ付假ニ前條第一項第二號(イ)又ハ(ロ)ニ規定スル算出方法ニ依リ減俸前ノ俸給額ニ還元シ各還元額ヲ退職又ハ死亡當時ノ俸給額ノ比率ニ依リテ按分シ其ノ各俸給ニ屬スベキモノヲ以テ改正前ノ俸給規程ニ依リ受クベカリシ各官職ノ俸給額トス

第三條 昭和七年法律第十三號第二條ノ規定ニ依リ退職當時ノ俸給ヲ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ依ル相當俸給ニ換算スルニハ左ノ各號ニ依ル

一 大正十二年十月一日以降昭和六年六月又ハ七月ノ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ノ適用前ニ退職シタル者ノ退職當時ノ俸給ニ相當スベキ俸給ハ

(イ) 本俸ニシテ級俸ノ定アル俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職當時ノ俸給ガ改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ該當スルモノナル場合ニハ其ノ級俸定額ニ對應スル減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額トシ之ニ該當スルモノナラザル場合ニハ其ノ俸給ニ直近スル下位ノ級俸定額ガ之ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ其ノ俸給ヲ除シタル金額トス但シ其ノ俸給ニ直近スル上位ノ級俸定額ノ改正前ノ級俸定額ニ還元セラレタル額ヲ超ユルコトナシ

(ロ) 本俸ニシテ級俸ノ定ナキ俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ニ付テハ俸給規程ニ於テ其ノ最高限ノミヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額ガ改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ退職又ハ死亡當時ノ本俸ニ準ズベキ俸給ヲ除シタル金額トシ最高限及最低限ヲ規定スルモノニ在リテハ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ガ夫々改正前ノ俸給規程ニ

(ハ) 本俸ニシテ級俸ノ定ナキ俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職當時ノ俸給ガ改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額及最低金額ニ該當スル減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額トシ之ニ該當スルモノナラザル場合ニハ其ノ俸給ニ直近スル下位ノ級俸定額ガ之ニ對應スル減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ其ノ俸給ヲ除シタル金額トス

(ロ) 本俸ニシテ級俸ノ定ナキ俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職當時ノ俸給ヲ高等官及同待遇者ニ在リテハ高等官等俸給令、判任官及同待遇者ニ在リテハ判任官俸給令ニ依リ受ケタルモノト假定シ(イ)ノ規定ニ依リ算出シタル金額トス

(ハ) 本俸ニ準ズベキ俸給ニ付テハ俸給規程ニ依ルモノニ付テハ其ノ退職當時ノ俸給ガ改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高金額ニ該當スル減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額トシ之ニ該當スルモノナラザル場合ニハ其ノ俸給ニ直近スル下位ノ級俸定額ガ之ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ其ノ俸給ヲ除シタル金額トス但シ其ノ俸給ニ直近スル上位ノ級俸定額ノ改正前ノ級俸定額ニ還元セラレタル額ヲ超ユルコトナシ

二　大正十二年九月三十日以前ニ退職シタル者ノ退職當時ノ俸給ニ相當スル俸給ハ大正十二年十月一日恩給法ニ依リ更正增額セラレタル恩給ノ基礎ト爲リタル俸給額ヲ以テ退職當時ノ俸給額トシ前號ノ規定ニ依リテ算出シタル金額トス

前項ノ規定ニ依リ算出シタル俸給金額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第四條　昭和六年六月二十二日前官吏又ハ待遇官吏タル二以上ノ地位ニ基キ二以上ノ俸給（本俸ニ準ズベキモノヲ含マズ）ヲ受ケ二以上ノ官職ヲ同時ニ退職シ其ノ合算額ヲ基礎トシテ普通恩給ヲ受ケタル者ノ退職當時ノ本俸ノ額ノ換算ニ付テハ昭和六年勅令第百四十三號ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ昭和六年六月一日以降同月二十二日前退職シタル者ニ付テハ其ノ俸給ハ之ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ依ル俸給トス

第五條　減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ於テ改正當時ノ在職者ニ付經過的ニ級俸定額ノ減率ヨリ低キ減率ニ依ル俸給ヲ給スル規定アリタル官職ガ退職當時ノ官職タリシ者ニシテ同規程施行ノ當時在職シタルモノニ關シテハ引續キ在職スル間ニ限リ前二條ノ規定ニ依ル金額ニ依ラズシテ其ノ退職當時ノ俸給額ニ付定メラレタル低キ減率ニ依ル俸給ヲ以テ退職當時ノ俸給ニ相當スル俸給トス

第六條　第三條ノ規定ニ拘ラズ退職當時ノ俸給（二以上ノ地位ニ基キ二以上ノ俸給ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ合算額）ノ年額千百四十圓以下ナルトキハ其ノ減額ヲ行ハズ千百四十圓ヲ超エ千二百圓以下ナルトキハ之ヲ千百四十圓トス但シ前條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第七條　本令中退職又ハ死亡當時ノ俸給ノ換算ニ關スル規定ハ退職又ハ死亡前一年內ノ各俸給ノ換算ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和七年法律第十三號恩給更正手續

昭和七年七月三十日
閣令第一號

昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ增給又ハ追給スベキ恩給中內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續左ノ通定ム

昭和七年法律第十三號恩給更正手續

第一條　昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ增給ヲ爲サルベキ年金タル恩給ニシテ昭和七年七月三十一日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給セラルルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タズ其ノ金額ヲ更正シ從前ノ證書ニ代ヘ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス

昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ差額ヲ追給セラルベキ一時金タル恩給ニシテ昭和七年七月三十一日以前ノ日附アル裁定通知書ニ依リ支給セラルルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タズ其ノ追給スベキ金額ヲ記載シタル追給裁定通知書ヲ發行ス

第二條　昭和七年法律第十三號第一條ノ規定ニ依リ增給ヲ爲サルベキ年金タル恩給又ハ差額ヲ追給セラルベキ一時金タル恩給ニシテ昭和七年八月一日以降裁定セラルルモノニ付テハ裁定ニ當リ直ニ更正年額ヲ表示シタル證書又ハ更正額ヲ表示シタル裁定通知書ヲ發行ス

第三條　第一條ノ規定ニ依リ發行スル新證書又ハ追給裁定通知書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ交付請求書（別記樣式）ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ內閣恩給局ニ差出スベシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場又ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明ヲ受クベシ

受給權者ハ內閣恩給局ヨリ前項ノ交付請求書ノ用紙ヲ受クルコトヲ得

第四條　前條ノ交付請求書提出後住所地ヲ變更シタルトキハ現住地ノ警察官署、領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

第五條　內閣恩給局ニ於テ第一條ノ新證書ヲ發行シタルトキハ之ヲ貯金局ニ送付シ交付請求書ヲ差出シタル者ニ對シテハ貯金局ヲ經テ其ノ旨ヲ通知ス

受給權者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書ニ新證書ノ受領證印ヲ爲シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得ザル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得ザルトキハ內閣恩給局ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ得

前項ノ承認書ヲ受ケントスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得ザル事由ヲ詳記シタル書面ヲ內閣恩給局ニ差出スベシ

第六條　內閣恩給局ニ於テ第一條ノ追給裁定通知書ヲ發行シタルトキハ貯金局ヲ經テ之ヲ交付請求書ヲ差出シタル者ニ送付ス

第七條　恩給ノ更正ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ恩給給與規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年法律第十三號恩給更正手續

（別記）
（交付請求書樣式）
（裏面）

交付請求書

證書番號	
裁定通知書番號	
氏名	
生年月日	
給與局	
郵便	
備考	

昭和七年法律第十三號ニ依ル更正證書及追給裁定通知書ノ交付ヲ請求候也

現住地
受給者
氏名　印

右現住者タルコトヲ證明ス

年　月　日

警察（署長／分署長）
警察官吏派出所員
町村長

（表面）

郵便切手貼付ノコト	郵便はがき 東京市麹町區 丸ノ内 内閣恩給局 御中

●昭和七年法律第十三號ニ依ル恩給更正規則

昭和七年七月三十日
遞信省令第二十六號

昭和七年法律第十三號ニ依ル恩給更正規則左ノ通定ム

昭和七年法律第十三號ニ依ル恩給更正規則

第一條 年金タル恩給受給者新證書交付ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書又ハ裁定官廳ノ承認書表面餘白ニ新證書受領ノ旨記載シ記名調印ノ上指定ノ郵便局ニ差出シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クベシ

第二條 受給者現ニ年金恩給支給規則第十條ニ依リ從前ノ恩給證書ヲ貯金局ニ寄託セルモノナルトキハ之ニ對スル新證書ハ貯金局ニ於テ引換ヘ之ヲ保管ス

第三條 貯金局ニ於テ前條ニ依リ新證書ヲ保管シタルトキハ其ノ保管證書ハ支給郵便局ニ於テ舊保管證書ト引換ニ之ヲ受給者ニ交付ス

第四條 受給者新證書ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ既ニ支給期月ヲ經過シタル給與金ニ對スル更正增加額ハ支給期月ニ拘ハラズ一般ノ例ニ依リ之ガ拂渡ヲ支給郵便局ニ請求スベシ

第五條 一時金タル恩給ノ追給ヲ受クル者ニハ貯金局ヨリ支給郵便局ヲ經由シテ支給通知書ヲ送付ス

第六條 受給者前條ノ支給通知書ニ依リ追給ヲ受ケントスルトキハ追給裁定通知書ヲ支給郵便局ニ呈示シテ權利者タルコトヲ證明シタル上支給通知書ノ受領證ノ部ニ記名調印シ現金ト引換ニ之ヲ差出スベシ

第七條 恩給ノ更正ニ關シ本規則ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ年金恩給支給規則ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和八年法律第五十號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

昭和八年九月十一日
閣令第三號

昭和八年法律第五十號附則第十四條ノ規定ニ依リ更正スベキ扶助料中內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續及同法附則第十五條ノ規定ニ依リ改定スベキ普通恩給ノ請求手續左ノ通定ム

昭和八年法律第五十號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

第一條 昭和八年法律第五十號附則第十四條ノ規定ニ依リ加給スベキ扶助料ニシテ昭和八年九月三十日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給セラルルモノニ付テハ其ノ金額ヲ更正シ其ノ證書ニ更正年額及之ヲ給スル期間ヲ表示ス

第二條 扶助料證書ニ前條ノ表示ヲ受ケントスル者ハ更正額表示請求書（別記第一號樣式）ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ扶助料證書ト共ニ之ヲ內閣恩給局ニ差出スベシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場又ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明ヲ受クベシ

受給權者ハ內閣恩給局ヨリ前項ノ更正額表示請求書ノ用紙ヲ受クルコトヲ得

第三條 前條ノ請求書提出後住所地ヲ變更シタルトキハ現住地ノ警察官署、領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

第四條 內閣恩給局ニ於テ第一條ノ更正額ノ表示ヲ爲シタルトキハ恩給證書ハ之ヲ受給權者ニ送付ス

第二條第一項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得ザル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得ザルトキハ內閣恩給局ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ得

前項ノ承認書ヲ受ケントスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得ザル事由ヲ詳記シタル書面ヲ內閣恩給局ニ差出スベシ

第五條 昭和八年法律第五十號附則第十五條ノ規定ニ依リ普通恩給ノ改定ヲ請求スル者ハ恩給給與規則第一條及第二條ノ規定ニ依ルノ外改定請求書（別記第二號樣式）ヲ內閣恩給局長ニ提出スベシ

（別記）

第一號樣式

（裏面）

更正額表示請求書

證書記號番號	氏名	生年月	支給郵便局名	備考

昭和八年法律第五十號附則第十四條ニ依ル更正額表示相成度扶助料證書添附及請求候也

現住地

受給者
氏名印

右現住者タルコトヲ證明ス

年月日

警察署長
警察官吏派出所員
町村長

（表面）

郵便切手ヲ貼附ノコト

郵便はがき

東京市麴町區
丸ノ內
內閣恩給局
御中

第二號樣式

改定請求書

一、普通恩給證書記號番號

一、普通恩給證書日附

一、普通恩給年額

昭和八年法律第五十號附則第十五條ノ規定ニ依リ前記普通恩給ヲ文官普通恩給ニ改定相成度此段請求候也

本籍地

現住地

文官退職年月日

請求者　氏　名印

年月日

內閣恩給局長　氏名殿

支給郵便局　〇〇郵便局

●昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

昭和十三年六月一日
閣令第三號

昭和十三年法律第五十六號附則第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ更正スベキ恩給中內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ更正手續及同法附則第六條又ハ第七條ノ規定ニ依リ新ニ給シ又ハ改定スベキ恩給ノ請求手續左ノ通定ム

昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

第一條　昭和十三年法律第五十六號（以下改正法律ト稱ス）附則第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ增額スベキ增加恩給、傷病年金又ハ扶助料ニシテ昭和十三年三月三十一日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給スルモノニ付テハ恩給法第七十五條第二項及昭和十三年勅令第三百八十二號（以下改正勅令ト稱ス）附則第五條ニ規定スルモノヲ除クノ外受給權者ノ請求ヲ待タズ之ヲ更正シ其ノ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス

前項ノ新證書ヲ交付スル迄ハ更正年額ヲ表示シタル支給額票（別記第一號樣式）ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ更正額ヲ支給ス

第二條　改正法律附則第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ增額スベキ增加恩給、傷病年金又ハ扶助料ニシテ昭和十三年四月一日以後裁定スベキモノニ付テハ更正年額及從前ノ年額ヲ表示シタル證書ヲ發行ス

第三條　支給額票ハ受給權者ノ請求ヲ待タズ內閣恩給局ニ於テ之ヲ調製シ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

第四條　第一條ノ新證書ハ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

第五條　第一條ノ新證書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ交付請求書（別記第二號樣式）ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ內閣恩給局ニ差出スベシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場又ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明ヲ受クベシ

受給權者ハ內閣恩給局又ハ支給郵便局ヨリ前項ノ交付請求書ノ用紙ヲ受クルコトヲ得

第六條 前條ノ交付請求書提出後住所ヲ變更シタルトキハ其ノ新住所地ノ警察官署若ハ領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準ズベキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ回出ヅベシ

第七條 第一條ノ新證書ヲ發行シタルトキハ交付請求書ヲ差出シタル者ニ對シ貯金局ヲ經テ其ノ旨ヲ通知ス

受給權者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書ニ新證書ノ受領證印ヲ爲シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得ザル事由ニ因リ從前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得ザルトキハ內閣恩給局ノ承認書ヲ以テ從前ノ證書ニ代フルコトヲ得

前項ノ承認書ヲ受ケントスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得ザル事由ヲ詳記シタル書面ヲ內閣恩給局ニ差出スベシ

第八條 支給額票ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ貯金局ヲ經テ內閣恩給局ニ其ノ再交付ヲ請求スベシ

第九條 昭和十三年三月三十一日以前ノ日附アル證書及之ニ貼附シタル支給額票ハ昭和十五年三月三十一日限リ其ノ效力ヲ失フ

第十條 改正勅令附則第三條ニ依リテ準用セラルル同令第三十一條ノ三第一項第一號但書又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給ノ改定請求ヲ爲サントスル者ハ扶助料改定請求書(別記第三號樣式)ニ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ル戶籍謄本、前ニ加給セラレタル扶助料ノ證書及加給ヲ請求セントスル扶助料ノ證書ヲ添附シテ內閣恩給局長ニ差出スベシ

第十一條 改正法律附則第三條及改正勅令附則第五條ノ規定ニ該當スル者ニハ受給權者ノ請求ヲ待タズ假ニ增加恩給第七項ノ年額ヲ表示シタル支給額票ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ增加恩給第七項ノ恩給額ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ支給ヲ受クル者改正勅令附則第五條ノ規定ニ依リ從前ノ傷病年金第一款ノ年額ヲ增加恩給第七項ノ年額トシテ受ケントスルトキハ更正請求書(別記第五號樣式)ヲ內閣恩給局長ニ差出スベシ

第十二條 改正法律附則第六條又ハ第七條ノ規定ニ依リ新ニ恩給ヲ給シ又ハ改定スベキ場合ニ於テハ受給權者ノ請求ヲ待チテ之ヲ更正ス

改正法律附則第六條ノ規定ニ依リ扶助料ノ請求ヲ爲ス者ハ恩給給與規則第六條乃至第八條ノ規定ニ依ルノ外陸軍大臣又ハ海軍大臣ヲ經テ其ノ請求書ヲ內閣恩給局長ニ差出スベシ

改正法律附則第七條ノ規定ニ依リ恩給ノ請求ヲ爲ス者ハ恩給給與規則第一條及第二條又ハ第六條乃至第八條ノ規定ニ依ルノ外北海道廳長官ヲ經テ恩給ノ請求書又ハ改定請求書(別記第六號樣式)ヲ內閣恩給局長ニ差出スベシ

第十三條 恩給ノ更正及請求ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ恩給給與規則ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

第一號樣式

票額給支正更降以渡月七年三十和昭

現證書記號番號	
更正證書記號番號	
更正年額	圓
同上一期額	圓 錢
氏名	
生年月日	生月 年

(內閣恩給局)

注意 (一)本票ハ證書表面金額ノ上部ニ貼附スベシ

(二)更正額ニ對スル新證書ハ追テ交付スベキニ付其ノ際現證書ハ之ヲ還納スベシ

第二號樣式

(裏面)

請求書	
現證書記號番號	
更正證書記號番號	
氏名	
支便局給郵名	
備考	

昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル更正證書及請求候也

現住所

受給者氏名印

交付

右現住者タルコトヲ證明ス

昭和 年 月 日

警察(署 分署)長

警察官吏派出所員

町村長

第四號樣式

一、扶助料證書記號番號	更正請求書
一、扶助料證書ノ日附	
一、扶助料年額	
昭和十三年法律第五十六號附則第二條ノ規定ニ依リ前記扶助料年額改定相成度證據書類相添ヘ請求候也	
本籍地	
現住所	
年月日	
請求者氏名㊞	
內閣恩給局長氏名殿	
支給郵便局○○郵便局	

第五號樣式

一、傷病年金證書記號番號	更正請求書
一、傷病年金證書ノ日附	
一、傷病年金年額	
一、普通恩給證書記號番號	
一、普通恩給證書ノ日附	
一、普通恩給年額	

昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

第六號樣式

一、證書記號番號	改定請求書
一、證書ノ日附	
一、普通恩給又ハ扶助料年額	
昭和十三年法律第五十六號附則第七條ノ規定ニ依リ前記扶助料年額改定相成度證據書類相添ヘ請求候也	
本籍地	
現住所	
年月日	
請求者氏名㊞	
內閣恩給局長氏名殿	
支給郵便局○○郵便局	

第三號樣式

扶助料改定請求書	
第一ノ扶助料	扶助料證書記號番號
	證書ノ日附
	扶助料年額
第二ノ扶助料	扶助料證書記號番號
	證書ノ日附
	扶助料年額
前記扶助料中第二ノ扶助料以下右ニ準ズ	
扶助料ノ扶助料ニ付遺族ノ員數ニ依ル加給ヲ爲シ年額ヲ改定相成度證據書類相添ヘ請求候也	
年月日	
本籍地	
現住所	
第一ノ扶助料受給者氏名㊞	
現住所	
第二ノ扶助料受給者氏名㊞	
(第三以下ノ扶助料受給者ヲ請求者ハ右ニ準ズ)	
內閣恩給局長氏名殿	
改定扶助料ノ支給郵便局○○郵便局	

昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正及請求手續

(裏面)

扶助料改定請求書	
第一ノ扶助料	扶助料證書記號番號
	證書ノ日附
	扶助料年額
第二ノ扶助料	扶助料證書記號番號
	證書ノ日附
	扶助料年額
前記扶助料中第二ノ扶助料以下右ニ準ズ	
扶助料ノ扶助料ニ付遺族ノ員數ニ依ル加給ヲ爲シ年額ヲ改定相成度證據書類相添ヘ請求候也	
年月日	
本籍地	
現住所	
第一ノ扶助料受給者氏名㊞	
現住所	
第二ノ扶助料受給者氏名㊞	
(第三以下ノ扶助料受給者ヲ請求者ハ右ニ準ズ)	
內閣恩給局長氏名殿	
改定扶助料ノ支給郵便局○○郵便局	

●昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正規則

昭和十三年六月一日
遞信省令第四十八號

昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正規則左ノ通定ム

昭和十三年法律第五十六號附則ニ依ル恩給更正規則

第一條　貯金局ニ於テ昭和十三年閣令第三號其ノ他昭和十三年法律第五十六號附則ノ施行ニ關スル規定ニ依リ從前ノ增加恩給、傷病年金及扶助料ノ受給者ニ對シ支給額票ヲ交付セントスルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第二條　受給者前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ恩給證書ヲ支給郵便局ニ差出シ之ニ支給額票ノ貼附ヲ請求スベシ

支給郵便局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ當該證書ノ表面上部欄外ニ支給額票ヲ貼附シ日附印ヲ以テ契印シタル上之ヲ受給者ニ返付ス

第三條　支給額票ノ交付ヲ受クベキ受給者現ニ年金恩給支給規則第十條ニ依リ恩給證書ヲ貯金局ニ寄託スルモノナルトキハ貯金局ニ於テ前條ニ準ジ當該證書ニ對スル支給額票貼附ノ手續ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テハ新ニ保管證書ヲ作成シ支給郵便局ヲ經テ舊保管證書ト引換ニ之ヲ受給者ニ交付ス

第四條　受給者新證書交付ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書又ハ裁定官廳ノ承認書表面餘白ニ新證書受領ノ旨ヲ記載シ記名調印ノ上指定ノ郵便局ニ差出シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ同時ニ支給郵便局ヲ改訂スルモノナルトキハ郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑届ヲ作製シ之ヲ新支給郵便局ニ差出スベシ

第五條　年金恩給支給規則第十條ニ依リ貯金局ニ寄託中ノ證書ニ對スル新證書ハ貯金局ニ於テ之ヲ引換ヘ保管ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國境警備及理蕃ノ加算ニ關スル件

大正十二年十二月二十七日
內閣告示第二號

恩給法第九十二條第一項ノ規定ニ依ル加算ノ地域及期間左ノ通勅裁ヲ經タリ

國境警備及理蕃ノ加算ニ關スル件

大正十二年十月一日以後朝鮮ニ於ケル左ノ地ニ於テ國境警備ニ從事スル公務員ニ對シ恩給法第九十二條第一項ニ規定スル國境警備加算ヲ爲ス

道名	郡府名
平安北道	新義州府、龍川郡、義州郡、朔州郡、昌城郡、碧潼郡、楚山郡、渭原郡、江界郡、慈城郡、厚昌郡
咸鏡南道	三水郡、甲山郡
咸鏡北道	茂山郡、會寧郡、鍾城郡、穩城郡、慶源郡、慶興郡

大正十二年十月一日以後臺灣ニ於ケル左ノ地ニ於テ理蕃ニ從事スル公務員ニ對シ恩給法第九十二條第一項ニ規定スル理蕃加算ヲ爲ス

州廳名	郡支廳名	所在所	警戒所名	分遣所名
臺北	羅東	タボー	烏帽子山	カナウラン
		源田	太平山	岐路
		丸路邊	小林ノ上	瀧ノ端
		斷崖	十字路	ボンボン山
				シキクン
	蘇澳	タピヤハン	コーコツ	キンノース
		ブター	茂邊	リヨヘン
		ルツキヨフ	ゴオン	ペレフン
		山椒	タバボー	キンヤン
		水源	二水	山腳
	大溪	カウボー	ラハウ	斷崖
		ピヤワイ	シブナオ	カウイラン
		バツトル	サルツ	泰平
		四稜	タル	佐澤
		稜角	パロン山	ピヤサン
				境
				ララ溪
				壹原
				一稜
				カギラン
				李棟山
				控溪
				マリコワン
				トンノフ
				マメー
				舟尾
				第一高地
				見晴
				萩坂
				ウライ
				マカン溪
				シボツケ
				合流
				丁字
				楠子
				望洋
				矢疊
				銅山
				ピヤハウ
				禮合
				桃
				雅音
				バボカイ
				カイヤンラワ
				コーコツ
				クバボー
				キンヤン
				砲臺
				西村
				龜山
				水源地
				滲崎
				旗山
				バゴン道
				大內臺
				二高地
				シキクン地・壘
				右岸ノ突稜
				バゴン

新竹					
	竹東	竹南		太湖	東勢
高臺、養老、柘楠	道下、メホマン、シヤカロー、高橋		司令、曙		八仙山
タイヤカン、馬鞍、朝日	竹林、大隘、瀨戸、松下		萩岡、鹿山		
チンシボー、武神、楢山	東稜、シイガオ、松本		日向、泉		
タバホ、錦路	テンタナ、パスコワラン、小林		雪見、中間		
タラツカス、サカヤチン	シパジイ、井上、田村臺		幸原、モギリ		
ハガ、見返	マイバライ、笠野、庄子		北坑		
	錦屏山、桃山	鹿場	横龍山、二本松		雪山坑、遠藤、坂中、肥棟、出雲山、白冷、久良栖、明治、小澤臺
	タコナン		最高地、象鼻		久保山、神谷山、大棟、横嶺山、稍來、裡冷、ウライ、バロン
霞	島田、草村、川端、油羅山、西油羅、鬼澤、大窩	鹿湖、加里前山、大園	横龍山第一、同第三、上ノ島	打必曆、洗水山第一、同第三、同第五、大湖溪、梅園、大欠	
	中田、梅津、大庭、會見、山脚、出會坂	ピリン溪、石底、東龍山	横龍山第二、同第四、馬凹	瀧見、洗水山第二、同第四、馬母元、天狗、大安溪	

臺中				
新高	能高			
カネトワン	萬大	丹大	社	
タモホ	能高	楠子脚万	東埔	
八通關	シカヤウ	秀姑巒		
	ホーゴー		業々	カトグラン
	タウツアー		對關	イバホン
	マヘボ	卡	觀高	マシタルン
	トロツク			
	ボアルン			
	マシトバオン			
	トンバラ			
	カムジヤウ			
	尾上			
	ムカブー			
	ブ			
立鷹	マリコワン			
白狗	桝岡			
マレツバ	太保久			
	松嶺			
舊ハボン	平岩山			
	志良節			
有勝				
ビスタン				
氣合				
達盤				
佳陽				
被仔欄				
三角峰				
關門				
關門				

高雄				
屏東				
バクヒヨウ	マカザヤ	下パイワン	サンテイモン	マヌル
タマラカオ	トアカウ		雁爾	トクブン
マガ	バリサン			
頭前山	上賓來			
大津	草津			
石部	水口			
土山	坂下			
關	龜山			
庄野	石藥師			

四日市	桑名
宮鳴海	
池鯉鮒	
袋井	
見付	
濱松	
舞坂	
新井	
白須賀	
二川	
吉田	
御油	
赤坂	
藤川	
岡崎	
掛川	
日坂	
金谷	
島田	
藤枝	
岡部	
丸子	
府中	
江尻	
興津	
由井	
蒲原	
吉原	
原沼津	
三島	
箱根	
小田原	
大磯	

潮州			
竹坑	獅仔頭	華芒	鈴鹿
クワルス	ボンガリー	外麻裡巴	逢坂
アマワン	リキリキ	牡丹路	新武路
カピヤン	歸化門	內獅頭	不破
ライ社	炭頭		箱根
クナナウ	大樹林		サクサク
			ボクラブ
			ハイトトワン

平塚	戸塚	川崎	神奈川	小年溪	美秀溪口	濁水溪	ラックス	ピンガル	ヒルナガイ	トグラン	取入口	高臺	老吧老吧
藤澤	程ケ谷	品川	日本橋	美秀臺	琉球臺	清水溪		モイコル	北絲鬮	二本松	溪頭	望都	カアルマン

臺東	
里壠	
大鳥	ジヨモル
大竹高	瀧
大溪	虷仔崙
トアバル	香蘭
タリリク	太麻里
近黃	カラタラン

馬背	川端	カナスオイ	高地	茅坂	カナロク	月眉	榕樹	里壠山	マハブロ	紅石頭	タコバン	見晴	タハミ	大埔	巴壟衞第一
スソヌン・スン	鹿寮山	泉	チカソワン	カナテン	ピトハン	赤坂	カムテン	溪間	岩見	楠	突角	瀧ノ下	池上	網綱	巴壟衞第二

		花蓮港													
大武		花蓮		玉里						研海					
ビラウ	タバカス	銅門	天長	大仙	蕨	三四溪	トミリ	ターフン	トマス	タツキリ	清水	トモワン	ラウシ	シーパウ	クバヤン
姑子崙		烏帽脚	蒿萊溪	山風	綠	石洞	抱崖	ラクラ	ササラビ	ハロク臺	カナガン	溪畔	バチガン	シキリヤン	セラオカ
出水坡		瀧見	朝日	佳心	トトクン	イホホル	ルルン	トーカツ	マザブ	サカダン	グークツ	ブロワン	合流	カルギ	カラバオ
コリパホノ		バトラン	聯帶	黃麻	山陰	サトン	レボス	タタフン	ミヤサン	ブセガン	キネボー	バタガン	ドヨヲ	ロサオ	ルツビ
浸水營		曲水		桃林	カネカス	シンカン	ハハビ	エシラ	大水窟	突角	アヨ	斷崖	タビト	萩坂	トボコ
チヨカクライ		萬兩林		清流	十里	鏡水	マスボル	ボンコ		ロチエン	シラガン	錐麓	トブラ	見晴	梅園
				馬里旺											
				ワバノ											
				シロバタン	ボアカン	石壁頭									
				コノホン	タバ溪	網綢口									

山里	川向	ソワサル	タウサイ	シラック

昭和七年六月六日
內閣告示第三號

恩給法第九十二條第一項ノ規定ニ依ル理蕃加算ノ地域及期間左ノ通勅裁ヲ經タリ

・理蕃加算ニ關スル件

昭和五年十月二十七日以後臺灣臺中州能高郡「イナゴ」、「櫻」、「バーラン」、「霧社」及「ロードフ」ノ各駐在所ノ管轄地域ニ於テ理蕃ニ從事スル公務員、昭和六年三月一日以後同郡「スーク」、「ブカサン」、「富士見」、「松原」、「見晴」及「梅木」ノ各駐在所ノ管轄地域ニ於テ理蕃ニ從事スル公務員並ニ昭和五年十月二十七日ヨリ同年十二月二十日ニ至ル期間ニ同郡「獅子頭」及「眉溪」ノ各駐在所ノ管轄地域ニ於テ理蕃ニ從事シタル公務員ニ對シ夫夫恩給法第九十二條第一項ニ規定スル理蕃加算ヲ爲ス

●外國擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和三年五月二十八日
內閣告示第一號

恩給法第三十三條第一項ノ規定ニ依ル加算ノ地域及期間左ノ通勅裁ヲ經タリ

外國擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和二年三月二十一日ヨリ同年四月七日ニ至ル期間ニ支那揚子江沿岸ニ

於テ危險ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務加算ヲ爲ス

●從軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和四年六月二十七日
內閣告示第三號

公務員ノ在職年ニ付恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ戰爭ニ準ズベキ事變ノ期間、地域及戰務ノ範圍並ニ第三十三條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ擾亂ノ地域及期間左ノ通勅裁ヲ經タリ

從軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和三年四月十九日ヨリ七月十日ニ至ル期間ニ滿洲ヲ除クノ外支那及其ノ沿海ニ在リテ今次ノ支那事件ニ從軍シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十二條第一項第一號及同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲シ又內國ニ在リテ直接支那派遣部隊ニ關スル勤務ニ從事シ功績アリタル公務員ニ對シテ同條第一項第二號及同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

昭和三年五月十八日ヨリ八月三十日ニ至ル期間ニ滿洲ニ在リテ又ハ同年七月十一日ヨリ十一月十五日ニ至ル期間ニ滿洲ヲ除クノ外支那及其ノ沿海ニ在リテ危險ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

昭和八年十二月七日
内閣告示第五號

公務員ノ在職年ニ付恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ戰爭ニ準ズベキ事變ノ期間、地域及戰務ノ範圍竝ニ第三十三條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ擾亂ノ地域及期間左ノ通勅裁ヲ經タリ

従軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和六年九月十八日以後滿洲、東內蒙古及熱河竝ニ其ノ接壤地帶ニ、昭和六年十一月二十六日ヨリ昭和八年五月三十一日ニ至ル期間支那渤海ニ、昭和七年一月二十八日ヨリ同年六月二十五日ニ至ル期間前記地域ヲ除キタル他ノ支那ノ地域及其ノ沿海ニ在リテ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲シ又昭和六年九月十八日以後內國ニ在リテ直接出動部隊ニ關スル勤務ニ從事シ功績アリタル公務員ニ對シテ同條第一項第二號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

昭和六年十一月二十六日ヨリ昭和七年二月七日ニ至ル期間及昭和七年六月二十六日ヨリ昭和八年五月三十一日ニ至ル期間滿洲、東內蒙古及熱河竝ニ其ノ接壤地帶ト渤海トヲ除キタル他ノ支那ノ地域及其ノ沿海ニ在リテ危險ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

昭和十一年三月十九日
内閣告示第二號

公務員ノ在職年ニ付恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ戰爭ニ準ズベキ事變ノ期間、地域及戰務ノ範圍竝ニ第三十三條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ擾亂ノ地域及期間左ノ通勅裁ヲ經タリ

従軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和六年九月十八日以後滿洲、東內蒙古及熱河竝ニ其ノ接壤地帶ニ、昭和六年十一月二十六日ヨリ昭和八年五月三十一日ニ至ル期間支那渤海ニ、昭和七年一月二十八日ヨリ同年六月二十五日ニ至ル期間前記地域ヲ除キタル他ノ支那ノ地域及其ノ沿海ニ在リテ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲シ又昭和六年九月十八日以後內國ニ在リテ直接出動部隊ニ關スル勤務ニ從事シ功績アリタル公務員ニ對シテ同條第一項第二號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

昭和六年十一月二十六日ヨリ昭和七年二月七日ニ至ル期間及昭和七年六月二十六日ヨリ昭和八年五月三十一日ニ至ル期間滿洲、東內蒙古及熱河竝ニ其ノ接壤地帶ト渤海トヲ除キタル他ノ支那ノ地域及其ノ沿海ニ在リテ危險ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シテ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

昭和十一年三月十九日
内閣告示第二號

公務員ノ在職年ニ付恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ戰爭ニ準ズベキ事變ノ期間、地域及戰務ノ範圍竝ニ第三十三條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ擾亂ノ地域及期間左ノ通勅裁ヲ經タリ

従軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

第一　滿洲事件

昭和八年內閣告示第五號ヲ以テ告示シタル昭和六年九月十八日以後滿洲、東內蒙古及熱河竝ニ其ノ接壤地帶ニ在リテ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依リテ爲ス加算ノ地域ハ昭和十年十二月一日以後ハ之ヲ撫遠、同江、綏濱、蘿北、湯原、東興、木蘭、通河、鳳山、樺川、富錦、饒河、寶清、依蘭、方正、延壽、賓、勃利、虎林、密山、東寧、穆稜、撫松、濛江、金川、柳河、興京、桓仁、通化、輯安及寬甸ノ各縣トシ此ノ加算ハ昭和十二年七月六日ヲ以テ其ノ終期トス

昭和八年內閣告示第五號ヲ以テ告示シタル昭和六年九月十八日以後內國ニ在リテ直接出動部隊ニ關スル勤務ニ從事シ功績アリタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項第二號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依リテ爲ス加算ハ昭和十年十一月三十日ヲ以テ其ノ終期トス

昭和十一年內閣告示第二號及昭和十二年內閣告示第六號ヲ以テ告示シタル恩給法第三十三條第一項ノ規定ニ依リテ爲ス外國擾亂地勤務ノ加算ハ昭和十二年七月六日ヲ以テ其ノ終期トス

第二　支那事變

昭和十二年七月七日以後支那及其ノ沿海ニ在リテ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シテハ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

従軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和十二年七月七日以後前項ノ地域以外ノ地域ニ在リテ直接出動部隊ニ關スル勤務ニ從事シ功績アリタル公務員ニ對シテハ恩給法第三十二條第一項第二號ヲ準用スル同條第二項及前項前段ノ加算ノ終期ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

昭和十五年四月二十七日
内閣告示第五號

公務員ノ在職年ニ付恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ戰爭ニ準ズベキ事變ノ期間及地域、航空基地及航空基地タル期間、戰務ノ範圍竝ニ第三十三條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ擾亂ノ地域及期間左ノ趣勅裁ヲ經タリ

従軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

第一　滿洲事件

昭和十二年七月七日ヨリ昭和十四年三月三十一日ニ至ル期間ニ滿洲ノ漠河、鷗浦、呼瑪、瑷琿、孫吳、奇克、遜河、烏雲、佛山、通北、海倫、綏棱、慶城、鐵驪、撫遠、同江、綏濱、富錦、蘿北、鶴立、樺川、湯原、鳳山、通河、方正、依蘭、勃利、饒河、寶清、虎林、密山、林口、穆稜、綏芬河、東寧、寧安、汪清、琿春、延吉、和龍、安圖、東興、五常、舒蘭、永吉、額穆、敦化、樺甸、磐石、輝南、柳河、金川、濛江、撫松、長白、臨江、通化、輯安、西安、西豐、東豐、海龍、清

原、興京、本溪、桓仁、寬甸、鳳城及輯嚴ノ各縣竝ニ額爾克納右翼、額爾克納左翼、陳巴爾虎、索倫、新巴爾虎右翼及新巴爾虎左翼ノ各旗ニ、昭和十二年七月七日ヨリ同年十二月三十一日ニ至ル期間ニ阜新、黑山、義、朝陽及建昌（喀喇沁左旗ヲ含ム）ノ各縣ニ在リテ危險ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

第一　支那事變

昭和十三年六月八日ヨリ同年八月三十一日ニ至ル期間ニ滿洲ノ青龍、承德、灤平、豐寧及興隆ノ各縣ニ在リテ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項第一號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

航空部隊ニ屬シ左記ノ航空基地及航空基地タル期間ニ於テ直接出動部隊ニ關スル勤務ニ從事シタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項第二號ヲ準用スル同條第二項ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

（左記省略）

昭和十二年七月七日ヨリ昭和十四年三月三十一日ニ至ル期間黑河ニ於ケル支那トノ接壤地帶ニ在リテ危險ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

第三　張鼓峯事件

昭和十三年七月十二日ヨリ同年八月十四日ニ至ル期間ニ雄基洞、灰岩洞、新阿山洞及上角山ヲ連ヌル線以東ノ朝鮮及滿洲ノ地域ニ在リテ戰鬪力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

〔參照〕

大正十二年四月十四日公布法律第四十八號恩給法抄錄

第三十二條第一項及第二項

公務員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス

一　戰地ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ從軍期間ノ一月ニ付三月

二　戰地外在ニリテ航空部隊ニ屬シ航空基地ニ於テ特殊ノ職務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月

前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準ズヘキ事變ニ際シ戰務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第三十三條第一項

公務員外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域內ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

●擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和十二年十一月五日
內閣告示第六號

公務員ノ在職年ニ付恩給法第三十三條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スヘキ擾亂ノ地域及期間左ノ趣勅裁ヲ經タリ

擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和六年九月十八日以後滿洲、東內蒙古及熱河（此ノ地域中昭和十一年內閣告示第二號ニ依リ外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲サルル部分ニ付テハ右加算ヲ爲サルル期間其ノ部分ヲ除ク）ニ在リテ危險ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シテハ恩給法第三十三條第一項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

●恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

大正十二年十月九日
勅令第四百三十九號

改正　昭和二年第三五八號、七年第三七五號、九年第三三號

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、內務、大藏大臣副署）

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

第一條　內閣恩給局長ハ國庫ヨリ府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ニ對シ請求スヘキ各經濟別恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調査シ各經濟毎ニ仕譯書二通ヲ作成シ每年七月三十一日迄ニ分擔金額ノ請求ヲ爲スヘキ當該經濟ニ對シ仕譯書一通ヲ添附シタル恩給金額分擔請求通知書ヲ發シ同時ニ仕譯書一通ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟前條ノ規定ニ依ル恩給金額分擔請求通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第三條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ハ國庫ニ對シ請求スヘキ恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調査シ仕譯書ヲ作成シ之ヲ恩給金額分擔請求書ニ添附シ每年七月三十一日迄ニ內閣恩給局長ニ送付スヘシ

內閣恩給局長前項ノ分擔請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ同年九月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條　大藏大臣前條ノ恩給金額分擔請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ當該經濟ニ交付スヘシ

第五條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ハ國庫以外ノ他ノ經濟ニ對シ請求スヘキ恩給金額分擔額ヲ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日迄ノ間ニ於ケル恩給支給義務額ニ依リ調査シ仕譯書ヲ作成シ之ヲ恩給金額分擔請求書ニ添附シ毎年七月三十一日迄ニ分擔金額ノ請求ヲ受クヘキ經濟ニ送付スヘシ

第六條　前條ノ恩給金額分擔請求書ノ送付ヲ受ケダル經濟ハ翌年三月三十一日迄ニ其ノ分擔額ヲ之カ請求ヲ爲シタル當該經濟ニ交付スヘシ

第七條　國庫ト府縣其ノ他國庫以外ノ經濟トノ間又ハ國庫以外ノ經濟相互間ニ於ケル分擔ノ請求ヲ爲ストキ普通恩給、扶助料、一時恩給又ハ一時扶助料ノ裁定ヲ爲シタル官廳ハ裁定後直ニ普通恩給、扶助料、一時恩給又ハ一時扶助料ノ分擔請求ヲ受クヘキ經濟ニ當該公務員ノ履歷書ヲ添附シ其ノ裁定ノ要項ヲ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ國庫ニ對スル通知ハ內閣恩給局長ニ宛テ之ヲ爲スモノトス

第八條　內閣恩給局長以外ノ官廳カ國庫ヨリ支給スヘキ恩給ノ裁定ヲ爲シタルトキハ當該公務員ノ履歷書ヲ添附シ直ニ其ノ要項ヲ內閣恩給局長ニ通知スヘシ

內閣恩給局長カ國庫以外ノ經濟ヨリ支給スヘキ普通恩給、扶助料、一時恩給又ハ一時扶助料ノ裁定ヲ爲シタルトキハ當該公務員ノ履歷書ヲ添附シ直ニ其ノ要項ヲ當該經濟ニ通知スヘシ

第九條　前二條ノ規定ニ依リ通知シタル裁定ノ要項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ準シ之ヲ通知スヘシ

年金タル恩給ヲ受クルノ權利ノ消滅シタル場合亦前項ニ同シ此ノ場合ニ於テハ履歷書ノ添附ヲ要セス

第十條　文官、下士官以上ノ軍人、教育職員、警察監獄職員又ハ待遇職員ニシテ國庫ヨリ俸給（又ハ給料）ノ支給ヲ受クル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ俸給（又ハ給料）ノ支拂ヲ爲ス際支出官之ヲ控除スヘシ但シ出納官吏俸給（又ハ給料）ノ支拂ヲ爲ス場合ニ於テハ當該出納官吏之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リ控除シタル金額ヲ歲入ニ組入レムトスル場合ニ於テハ當該支出官之カ歲入徵收官トシテ徵收ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條　文官又ハ教育職員ニシテ國庫ヨリ俸給（又ハ給料）ノ支給ヲ受ケサル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ俸給（又ハ給料）ノ支拂ヲ爲ス際其ノ支拂ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リ國庫納金ヲ控除シタル者ハ其ノ計算ヲ明ニシタル仕譯書ヲ作成シ每翌月五日迄ニ之ヲ歲入徵收官ニ報告スヘシ但シ歲入徵收官ノ指定シタル者ニ在リテハ前項ノ控除額ニ仕譯書ヲ添附シ每翌月十日迄ニ之ヲ歲入徵收官ノ定ムル出納官吏ニ納付スヘシ

第十二條　教育職員、警察監獄職員又ハ待遇職員ニシテ國庫ヨリ俸給（又ハ給料）ノ支給ヲ受ケサル者ノ恩給法第五十九條ノ規定ニ依リ府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ニ納付スヘキ金額ハ俸給（又ハ給料）ノ支拂ヲ爲ス際其ノ支拂ヲ爲ス當該官吏又ハ吏員之ヲ控除スヘシ

前項ノ規定ニ依リテ控除シタル納金ハ當該經濟ノ定ムル所ニ依リ收入

ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條　轉任、轉職、待命、休職又ハ死亡等ニ因リ過渡俸給（又ハ給料）ノ返納ヲ要スルトキハ前三條ノ規定ニ依リ控除シタル納金額ヲ算出シタル場合ニ適用セラレタル割合ヲ其ノ過渡俸給（又ハ給料）額ニ乘シタル金額ヲ返納者ニ於テ控除スヘシ

第十四條　國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル經濟カ恩給法第十八條第一項ノ規定ニ依リ國庫ニ納付スヘキ金額ハ每年四月十日及十月十日迄ニ其ノ前六月分ヲ當該經濟ニ交付スヘシ

第十五條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル經濟カ恩給法第十八條第二項ノ規定ニ依リ國庫以外ノ經濟ニ納付スヘキ金額ハ每年四月十日及十月十日迄ニ其ノ前六月分ヲ當該經濟ニ交付スヘシ

第十六條　府縣其ノ他國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ恩給ヲ給スル經濟ニ對シ恩給法第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル金額ハ當該經濟カ恩給法第十八條第二項ノ規定ニ依リ納金ヲ收入シタル年度ノ翌翌年度ニ於テ之ヲ交付スルモノトス

第十七條　本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ其ノ收入支出ニ關スルモノニ付テハ大藏大臣、其ノ他ノ事項ニ關スルモノニ付テハ內閣總理大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

一　官吏遺族扶助法納金收入規則

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則

一　府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則

一　明治四十五年勅令第七十一號

本令施行前內閣總理大臣以外ノ官廳カ裁定シタル國庫支辨ノ年金タル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ權利ノ存續スルモノニ付テハ當該裁定官廳ハ遲滯ナク裁定ノ要項ヲ內閣恩給局長ニ通知スヘシ

第九條ノ規定ハ前項ノ恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付之ヲ準用ス

附　則（昭和七年勅令第三百七十五號）

本令ハ昭和七年四月一日以後ノ裁定ニ係ル恩給ニ付之ヲ適用ス但シ昭和七年四月一日以後昭和八年一月三十一日迄ノ裁定ニ係ル增加恩給及一時金タル恩給ニ付履歷書ヲ添付スヘキ場合ニ於テハ其ノ謄本ヲ添附スルヲ以テ足ル

大正十二年十二月七日
內閣訓令第一號

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則ノ規定ニ依ル裁定要項通知書書式左ノ通定ム

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第七條ノ規定ニ依ル普通恩給、扶助料、一時恩給及一時扶助料竝ニ第八條ノ規定ニ依ル恩給裁定ノ要項通知ハ別記書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

改正　昭和七年第一號、八年第一號

附則（昭和八年内閣令第一號）

本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ改正規定中一時恩給及一時扶助料ニ關スル部分ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

裁定要項通知書

退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄	氏名	證書又ハ裁定通知書記號番號	第號
恩給金額總在職年	年	月	圓
事項	在職年數	退職（死亡）前一年内俸給年額及最終俸給年額	
勤務廳			

退職當時ノ官職又ハ公務員トノ續柄	氏名	證書又ハ裁定通知書記號番號	第號
恩給金額總在職年	年	月	圓
事項	在職年數	退職（死亡）前一年内俸給年額及最終俸給年額	
勤務廳			

右通知ス

年　月　日

廳　御中

廳

●恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則

大正十二年十二月七日
大藏省令第三十號

恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則左ノ通相定ム

恩給金額分擔及國庫納金收入等事務取扱細則

第一條　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第一條ニ規定スル恩給金額分擔請求通知書ハ別紙第一號書式ニ依リ仕譯書ハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第三條及第五條ニ規定スル恩給金額分擔請求書及仕譯書ハ前項ニ規定スル恩給金額分擔請求通知書及仕譯書ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第二條　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十條第一項ノ出納官吏國庫納金ヲ控除シタル場合ニ於テハ收入官吏トシテ總テ其ノ規定ニ依リ整理スヘシ

第三條　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條第二項ノ規定ニ依ル仕譯書ハ出納官吏事務規程附屬第五號書式ニ準シ之ヲ調製スヘシ

第三條ノ二　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條第二項但書ノ規定ニ依リ出納官吏ニ納付セシムルコトヲ指定シ得ルハ當該俸給（又ハ給料）ノ支拂ヲ爲ス官吏又ハ吏員カ歲入徵收官ノ所在地又ハ最寄ニ在勤スル場合ニシテ歲入徵收官在勤廳ニ在ル歲入徵收官ノ定ムル出納官吏ニ之カ納付ヲ爲サシムル場合ニ限ル

第四條　收入官吏前條ノ規定ニ依リ國庫納金ノ納付ヲ受ケタルトキハ所定ノ現金領收證書ヲ交付シ現金出納簿ノ登記報告等其ノ規定ニ依リ整理スヘシ

第五條　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十三條ノ規定ニ依リ過渡俸給（又ハ給料）ノ返納ヲ要スルトキハ其ノ過渡俸給（又ハ給料）額中ヨリ返納者ニ於テ控除スヘキ金額ヲ控除シタル殘額ニ付返納告知書ヲ發シ返納ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第六條　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十四條ノ規定ニ依リ當該公務員ニ俸給ヲ給スル經濟ヨリ國庫ニ納付スヘキ金額ニ付テハ歲入徵收官ハ其ノ計算ヲ明ニシタル適宜ノ報告書ヲ徵シ一般歲入金徵收ノ例ニ依リ當該經濟ニ對シ納入告知書ヲ發シ日本銀行ニ納付ノ手續ヲ爲サシムヘシ

前項ノ規定ハ恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條第二項本文ノ規定ニ依リ報告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第七條　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十五條ノ規定ニ依リ當該公務員ニ俸給ヲ給スル經濟ノ國庫以外ノ經濟ニシテ恩給ヲ給スル者ニ納付スヘキ金額ニ付テハ其ノ計算ヲ明ニシタル書類ヲ添附シ當該經濟ノ定ムル規定ニ從ヒ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則第十一條及第十四條ノ規定ニ依ル收入金ハ大藏省主管トシ諸收入收納取扱規程ニ依リ之カ整理ヲ爲スヘシ

附則

本令ハ恩給金額分擔及國庫納金收入等取扱規則施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

左ノ大藏省訓令ハ之ヲ廢止ス

官吏遺族扶助法納金收入規則取扱順序
大正十一年大藏省訓令第二十三號

第一號書式

恩給金額分擔請求通知書

一金

右大正何年分恩給金額分擔額及請求候條國庫ニ送付相成度別紙仕譯書添附及通知候也

年　月　日　　内閣恩給局長

何廳官職氏名宛

第二號書式

何廳　恩給金額分擔請求仕譯書（普通恩給、扶助料、一時恩給又ハ一時扶助料）　何年分

摘要	金額	備考
文官		
何某外何名ノ分	0	
軍人		
何某外何名ノ分	0	
警察監獄職員		
何某外何名ノ分	0	
教育職員		
何某外何名ノ分	0	
待遇職員		
何某外何名ノ分	0	
合計	0	

備考　仕譯書ハ普通恩給、扶助料、一時恩給又ハ一時扶助料ニ分チ之ヲ記載スヘシ

●昭和八年大藏省令第二十五號

（一時恩給受給者再就職ノ場合恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依ル一時恩給返還等ニ關スル取扱規程）

昭和八年九月二十七日
大藏省令第二十五號

一時恩給受給者再就職ノ場合恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依ル一時恩給返還等ニ關スル取扱規程左ノ通定ム

第一條　國庫負擔一時恩給ノ受給者再就職シタル場合（以下單ニ再就職者ト稱ス）恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ一時恩給ノ返還又ハ其ノ者ノ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ゼズシテ退職シタル場合ノ返還金ノ還付ニ關シテハ第二條乃至第八條ノ規定ニ依リ之ガ取扱ヲ爲スベシ

第二條　再就職者恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依リ一時恩給ノ返還ヲ爲サントスル場合ニ於テハ其ノ就職ト同時ニ勤務廳（又ハ之ニ相當スルモノ）ヲ經由シ本屬廳（以下單ニ就職官廳ト稱ス）ニ對シ履歷書二通其ノ他一時恩給金額ヲ確證スベキ書類ヲ添ヘ一時恩給返還請書ヲ提出スベシ

前項ノ一時恩給返還請書ニハ一時又ハ分割返還ノ意思表示ヲ爲スベシ

第三條　前條ノ書類ノ提出ヲ受ケタル就職官廳ハ其ノ履歷書一通ニ再就職ニ關スル辭令ノ寫ヲ添ヘ直ニ再就職者ノ受ケタル一時恩給ノ裁定官廳ニ送付スベシ

前項ノ書類ヲ受ケタル裁定官廳ハ之ニ基キ直ニ恩給法第六十四條ノ二ノ規定ニ依リ一時恩給返還額ヲ算定シ就職官廳ニ通知スベシ

第四條　就職官廳ハ第二條ノ規定ニ依リ再就職者ヨリ提出ニ係ル書類ニ基キ直ニ恩給法第六十四條ノ二ノ規定ニ依リ一時恩給返還金額ヲ算定シ再就職者ノ就職ノ翌月ヨリ一年以内ニ適宜納付期限ヲ定メ一般會計歲入トシ徵收スベシ但シ再就職者一時恩給ノ返還ヲ完了セズシテ退職シ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ズベキ場合ニ在リテハ其ノ殘額ニ付テハ其ノ際一時ニ之ヲ徵收スベシ

前項但書ノ規定ハ再就職者死亡ノ場合ニ在リテハ其ノ遺族扶助料ヲ受クル者ニ付之ヲ適用ス

第五條　就職官廳ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル一時恩給返還金額ニシテ第三條第二項ノ規定ニ依リ裁定官廳ヨリノ通知ニ依ル金額ト相違アリタル場合ニ於テハ之ガ更正ノ手續ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ更正ヲ爲シタル爲徵收金額ニ不足アルトキハ之ヲ追徵シ過納アルトキハ其ノ基ク所ノ計算書ヲ添ヘ還付ノ手續ヲ採ルベシ但シ還付ヲ要スベキ金額ヲ其ノ後ノ一時恩給返還金ニ充當スルコトヲ妨ゲズ

第六條　再就職者一時恩給返還ヲ完了セズシテ轉官職其ノ他ノ事由ニ依リ就職官廳以外ノ官廳ニ勤務スルニ至リタルトキハ其ノ本屬廳（以下轉官官廳ト稱ス）ニ於テ其ノ殘額ニ付第四條、第五條ノ規定ニ準ジ徵收又ハ還付ノ手續ヲ爲スベシ

第七條　再就職者恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ基キ一時恩給ノ返還ヲ爲シ失格原因ナクシテ退職又ハ死亡シタルモ普通恩給又ハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ生ゼザル場合ニ於テハ就職官廳又ハ轉官官廳ニ一時恩給返還金還付ノ請求ヲ爲スベシ

就職官廳又ハ轉官官廳前項ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ審査ノ上還付スベキモノト認メタルトキハ一時恩給返還額ヲ證スベキ書類及履歷書寫其ノ他ノ證憑書類ヲ添ヘ之ガ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スベシ

第八條　就職官廳又ハ轉官官廳ハ一時恩給返還整理簿ヲ備（各返還者毎ニ一時恩給返還金額、分納期間、分納金額、納期日（場所）、領收濟額、領收未濟額其ノ他一時恩給返還ニ關シ必要ナル事項ヲ記載スベシ

第九條　國庫以外ノ經濟負擔一時恩給ノ受給者再就職シタル場合恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ一時恩給ノ返還又ハ其ノ者ノ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生ゼズシテ退職シタル場合ノ返還金ノ還付ニ關シテハ第二條乃至第五條及第八條ヲ準用ス但シ第二條中本屬廳及第三條乃至第五條竝第八條中就職官廳トアルハ當該一時恩給ヲ負擔シタル經濟、第四條中一般會計歲入トアルハ當該一時恩給ヲ負擔シタル經濟ノ歲入トス

前項ノ規定ニ依リ再就職者一時恩給ヲ負擔シタル經濟ニ第二條ノ書類ヲ提出スル場合ニ於テハ其ノ就職ニ關スル辭令ノ寫ヲ添付スルコトヲ要ス

第十條　再就職者一時恩給返還ヲ完了セズシテ轉官職其ノ他ノ事由ニ依リ他官廳ニ勤務シ更ニ其ノ勤務廳ヲ變更スルニ至リタル場合ニ於テハ轉動前ノ官廳ハ其ノ旨當該一時恩給返還金ヲ收納スベキ經濟ニ通知スベシ但シ一時恩給返還金ヲ收納スベキ經濟ニ轉ジタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ再就職者退職又ハ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　再就職者一時恩給ノ返還ヲ爲シ失格原因ナクシテ退職又ハ死亡シタルモ普通恩給又ハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ生ゼザル場合ニ於テハ退職前勤務シタル官廳ヲ經由シ一時恩給返還金ヲ收納シタル經濟ニ一時恩給返還金還付ノ請求ヲ爲スベシ

第十二條　恩給法施行令第三十條ノ二ノ規定ニ依リ再就職者ノ返還スベキ一時恩給ガ國庫以外ノ經濟ノ負擔シタルモノナルトキハ當該經濟ハ前三條ニ據ルノ外其ノ定ムル所ニ依リ徵收又ハ還付スベシ

附　則

本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和十五年法律第四號（委託又ハ郵便ニ依ル戸籍届出ニ關スル法律）

昭和十五年三月二十三日
法律第四號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル委託又ハ郵便ニ依ル戸籍届出ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（國務各大臣副署）

第一條　戸籍届出ノ委託ヲ爲シタル後届出人死亡シ其ノ死亡後其ノ委託ニ基キ届書ノ提出アリタル場合ニ於テハ届出人ガ戰時又ハ事變ニ際シ戰闘其ノ他ノ公務ニ從事シ自ラ戸籍ノ届出ヲ爲スコト困難ナルニ因リ其ノ委託ヲ爲シタルモノナルコトニ付裁判所ノ確認アリタルトキニ限リ戸籍吏其ノ届書ヲ受理スルコトヲ得

前項ノ届書ニハ其ノ事由ヲ記載シ且前項ノ確認アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條　前條第一項ノ確認ハ受託者ノ申立ニ依リ届出人ノ最後ノ住所地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

前項ノ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ利害關係人モ亦抗告ヲ爲スコトヲ得

第三條　第一條ノ規定ニ依ル届書ノ受理アリタルトキハ届出人ノ死亡ノ時ニ届出アリタルモノト看做ス

第四條　届出人ノ生存中郵送シタル戸籍ノ届書ハ其ノ死亡後ニ於テモ戸籍吏之ヲ受理スルコトヲ得

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（昭和十五年勅令第百二十九號ヲ以テ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行）
（昭和十五年勅令第百三十號ヲ以テ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ樺太ニ施行）

本法施行前届出人ノ死亡後委託ニ依ル戸籍ノ届出ノ受理セラレタルモノアル場合ニ於テハ本法施行後利害關係人ハ其ノ委託ニ付裁判所ニ確認ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二條及第三條ノ規定ヲ準用ス

裁判所前項ノ確認ノ申立ヲ却下シタルトキハ遲滯ナク届出事件ノ本人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ戸籍法第三十九條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第四條　第二項ノ規定ハ届出人ノ生存中郵送シタル戸籍ノ届書ガ本法施行前届出人ノ死亡後受理セラレタル場合ニモ之ヲ適用ス

●宮內省恩給令

大正十二年九月二十八日
皇室令第十六號

改正　昭和八年第一號、一三年第七號、一五年第四號

朕宮內省恩給令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮內大臣副署）

宮內省恩給令

第一章　總　則

第一條　宮內職員タリシ者及其ノ遺族ハ本令ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條　本令ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、傷病年金、一時恩給、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ

普通恩給、增加恩給及扶助料ハ年金トス

第三條　年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第四條　年金タル恩給ノ年額及一時金タル恩給ノ額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第五條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ消滅ス

第六條　普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ之ヲ計算ス

前項ノ規定ハ普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ公務員又ハ公務員ニ準スヘキ者トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第六條ノ二　第五十條ノ二第一項ノ扶助料及同條第二項ノ一時扶助料ニ付テハ第五條ニ規定スル期間ハ戸籍届出ノ受理ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第七條　第五條ノ期間滿了前二十日內ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ防碍ノ止ミタル日ヨリ二十日內ハ期間滿了セス

期間滿了前六月內ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治產者法定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル日ヨリ六月內ハ期間滿了セス

期間滿了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ期間內ニ權限アル官署ニ到達セサルモ之ヲ期間內ニ到達シタルモノト看做ス

第八條　宮內職員又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

宮內職員又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ本令ニ依ル恩給ト恩給法ニ依ル恩給トヲ給セラルヘキ場合ニ於テ恩給法ニ依ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本令ニ依ル恩給ハ之ヲ

給セス

第八條ノ二　恩給ヲ受クルノ權利ハ一身ニ專屬ス但シ恩給金庫法ノ定ムル所ニ依リ恩給金庫ニ擔保ニ供シ又ハ第十條及第十一條ノ規定ヲ適用スルコトヲ妨ケス

恩給ヲ受クルノ權利ヲ讓渡ノ目的ニ供シタルトキハ恩給ノ支給ヲ停止ス

前項但書ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外之ヲ擔保ノ目的ニ供シタルトキ亦同シ

第九條　年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス

一　死亡シタルトキ

二　死刑又ハ無期若ハ二年ヲ超ユル懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　國籍ヲ失ヒタルトキ

在職中ノ職務ニ關スル犯罪（過失犯ヲ除ク）ニ因リ禁錮以上ノ刑（陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依ル一年未滿ノ禁錮ノ刑ヲ含マス）ニ處セラレタルトキハ前項第二號ノ規定ニ拘ラス其ノ權利消滅ス但シ其ノ在職カ普通恩給又ハ傷病年金ヲ受ケタル後ニ爲サレタルモノナルトキハ其ノ再在職ニ因リテ生シタル權利ノミ消滅ス

第十條　恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケサリシモノハ之ヲ當該宮內職員ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

前項ノ遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ニ依ル

第十八條　本令ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　宮內官ニ在リテハ任官

恩給權者死亡當時家族ナリシトキハ第一項ノ相續人ハ其ノ死亡ノ當時之ト同一戶籍內ニ在リタルコトヲ要ス

第十一條　前條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未タ恩給ノ請求ヲ爲ササリシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ爲スコトヲ得

裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第十二條　削除

第十三條　恩給ヲ受クルノ權利ハ宮內大臣之ヲ裁定ス

第十四條　前條ノ裁定ニ不服アル者ハ裁定ノ日ヨリ六月內ニ宮內大臣ニ具申シ其ノ再審査ヲ求ムルコトヲ得

第十五條　再審査ノ請求アリタルトキハ宮內大臣ハ宮內省恩給審査會ニ諮問シ之ヲ裁決ス

宮內省恩給審査會ニ關スル規程ハ勅裁ヲ經テ宮內大臣之ヲ定ム

第十六條　本令ニ於テ公務員、公務員ニ準スヘキ者、文官、軍人、警察監獄職員及準軍人トハ恩給法ノ規定ニ依リ之ニ相當スルモノヲ謂フ

第二章　宮內職員

第一節　通則

第十七條　本令ニ於テ宮內職員トハ宮內官並皇宮警手及勅裁ヲ經テ宮內大臣ノ指定スル其ノ他ノ待遇職員ヲ謂フ但シ俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

女官ノ恩給ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條　本令ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　宮內官ニ在リテハ任官

二　待遇職員ニ在リテハ任命

俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル者俸給ヲ受クル宮內職員ト爲リタルトキハ之ヲ就職ト看做ス本令ノ適用ヲ受ケサル職員ヨリ宮內職員ト爲リタルトキ亦同シ

第十九條　本令ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　宮內官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官

二　待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

宮內職員俸給ヲ受ケサル職員又ハ本令ノ適用ヲ受ケサル職員ト爲リタルトキハ之ヲ退職ト看做ス皇宮警手他ノ宮內職員ト爲リ又ハ他ノ宮內職員皇宮警手ト爲リタルトキ亦同シ

第二十條　在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給又ハ第五十八條ニ規定スル一時扶助料ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年其ノ他ノ前在職年ノ年月數ハ之ヲ合算セス

退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ當該月ニ付テハ恩給ノ計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

第二十一條　宮內職員二以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

前項ノ規定ハ宮內職員公務員タル官職ヲ併有スル場合ニ於ケル年數計算ニ付之ヲ準用ス

第二十二條　皇宮警手ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ十二年ニ達スル迄ハ他ノ宮內職員トシテノ在職年ハ其ノ十分ノ七ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第二十三條　宮內職員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス

一　戰地ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ從軍期間ノ一月ニ付三月

二　戰地外ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月

前項ノ規定ハ宮內職員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ戰務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス

戰爭ノ期間及地域、戰務ノ範圍竝戰爭ニ準スヘキ事變ハ勅裁ヲ經テ宮內大臣之ヲ定ム

第二十四條　宮內職員戰地又ハ外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域內ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ戰地又ハ外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅裁ヲ經テ宮內大臣之ヲ定ム

第二十五條　宮內職員戒嚴地境內ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ內國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第二十六條　前三條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅裁ヲ經テ宮內大臣ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從トシテ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ終ル

二種以上ノ加算年ヲ附セラルヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス

第二十六條ノ二　休職其ノ他現實ニ職務ヲ執ルヲ要セサル在職期間ニシテ一月以上ニ亙ルモノハ勅裁ヲ經テ宮内大臣ノ定ムル所ニ依リ在職年ノ計算ニ付之ヲ半減ス

第二十七條　左ニ揭クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス

一　普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年

二　第三十五條ノ規定ニ依リ宮内職員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年

三　在職中二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數

四　宮内職員退職後在職中ノ職務ニ關スル犯罪(過失犯ヲ除ク)ニ付陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ犯罪ノ時ヲ含ム引續キタル在職年月數

五　宮内職員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數

六　公務員又ハ公務員ニ準スヘキ者トシテノ在職年月數ニシテ恩給法ニ依リ除算セラルヘキモノ

第二十八條　恩給法ニ依リ公務員ノ恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ公務員及公務員ニ準スヘキ者トシテノ在職年月數ハ之ヲ宮内職員トシテノ在職年ニ通算ス

第二十條乃至第二十二條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ軍人、警察監獄職員又ハ準軍人トシテノ在職年ハ皇宮警手トシテノ在職年ト看做ス

第二十九條　本令ニ於テ俸給トハ本俸年功加俸及精勤加俸ヲ謂フ

宮内職員二以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラルル場合ニ於テハ其ノ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

第三十條　宮内職員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第三十一條　宮内職員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

宮内職員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具廢疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル增加恩給ヲ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖宮内省恩給審査會ニ於テ不具廢疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタル月ノ翌月ヨリ之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ之ヲ改定ス

宮内職員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲ルモ其ノ者ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第三十一條ノ二　宮内職員公務ノ爲永續性ヲ有スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ニ至ラサルモ勅裁ヲ經テ規定スル傷病ノ程度ニ達シ失格原因ナクシテ之カ爲其ノ職ニ堪ヘスシテ一年内ニ退職シタルトキハ之ニ傷病年金ヲ給ス

宮内職員公務ノ爲永續性ヲ有スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具廢疾ノ程度ニ至ラサルモ勅裁ヲ經テ規定スル傷病ノ程度ニ達シ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ傷病年金ヲ給シ又ハ現ニ受クル傷病年金ヲ傷病ノ程度ニ相應スル傷病年金ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖宮内省恩給審査會ニ於テ傷痍疾病カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ議決シタル月ノ翌月ヨリ之ニ相當ノ傷病年金ヲ給シ又ハ之ヲ改定ス

宮内職員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキト雖其ノ者ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル傷病年金ヲ給セス

第三十二條　宮内職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

一　戰地勤務又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ

二　宮内職員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ宮内省恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ定ム

第三十三條　公務傷病ノ原因ヲ分チテ戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務ト普通公務トス

戰闘ニ準スヘキ公務ノ範圍、公務傷病ニ因ル不具廢疾ノ程度、傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度及特選職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ定ム

第三十四條　宮内大臣ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具廢疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷痍疾病回復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

前二項ノ規定ハ傷病年金ノ裁定ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

第三十五條　宮内職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　懲戒處分ニ因リ退職シタルトキ

二　在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第三十六條　廢官、廢職、廢廳又ハ官職名改定ノ際其ノ改廢ニ係ル官職ニ在ル者即日又ハ翌日他ノ官職ニ任セラレタルトキハ之ヲ勤續ト看做ス

宮内職員退職シ即日又ハ翌日他ノ宮内職員ニ就職シタルトキハ後ノ宮内職員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

第三十七條　宮内職員ニシテ其ノ退職ノ當時仍公務員又ハ公務員ニ準スヘキ者トシテ在職スルモノニ付テハ本令ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス但シ下士以下ノ軍人トシテ在職スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條　普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

一　再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ

二　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リ退職シタルトキ

三　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具廢疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第三十一條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

第十九條第二項後段及第二十條第三項ノ規定ノ適用ニ依リ恩給ヲ給セラルヘキ場合ニ於テハ第一項第一號ノ規定ニ拘ラス其ノ恩給ヲ改定スル

第三十九條　前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合算シタルモノヲ以テ不具廢疾ノ程度トシ其ノ年額ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷痍又ハ疾病カ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

一　後ノ傷痍又ハ疾病カ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ起因スルトキハ別表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ヨリ前ノ增加恩給年額ト別表甲號中其ノ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス

第三十九條ノ二　前二條中增加恩給ノ改定ニ關スル規定ハ傷病年金ヲ受クル者再就職シ再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シ增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第四十條　前三條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第四十一條　前四條ノ規定ハ恩給法ニ依ル恩給ヲ受クル者宮内職員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第四十二條　普通恩給ヲ受クル者公務員又ハ公務員ニ準スヘキ者トシテ恩給法ニ依ル普通恩給ヲ給セラレタルトキハ本令ニ依ル普通恩給ハ之ヲ給セス但シ恩給法ニ依ル宮内職員トシテノ在職年ヲ通算セラレサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クル者公務員又ハ公務員ニ準スヘキ者トシテ恩給法ニ依ル增加恩給又ハ傷病年金ヲ給セラレタルトキハ本令ニ依ル增加恩給又ハ傷病年金ハ之ヲ給セス

第四十三條　普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其

ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス但シ後ノ傷痍又ハ疾病ノミニ因ル增加恩給年額カ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依ル增加恩給年額トノ同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス

二　後ノ傷痍又ハ疾病カ普通公務ニ起因スルトキハ別表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ニ前ノ增加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス

第三十九條ノ二　前二條中增加恩給ノ改定ニ關スル規定ハ傷病年金ヲ受クル者再就職シ再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シ增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第四十條　前三條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第四十一條　前四條ノ規定ハ恩給法ニ依ル恩給ヲ受クル者宮内職員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第四十二條　普通恩給ヲ受クル者公務員又ハ公務員ニ準スヘキ者トシテ恩給法ニ依ル普通恩給ヲ給セラレタルトキハ本令ニ依ル普通恩給ハ之ヲ給セス但シ恩給法ニ依ル宮内職員トシテノ在職年ヲ通算セラレサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クル者公務員又ハ公務員ニ準スヘキ者トシテ恩給法ニ依ル增加恩給又ハ傷病年金ヲ給セラレタルトキハ本令ニ依ル增加恩給又ハ傷病年金ハ之ヲ給セス

第四十三條　普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其

ノ間之ヲ停止ス

一　宮内職員又ハ公務員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ又ハ下士以下ノ軍人トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

三　之ヲ受クル者三十五歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ六分ノ一、三十五歳以上四十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ八分ノ一ヲ停止ス但シ增加恩給又ハ傷病年金ト併給セラルル場合ニハ之ヲ停止セス

四　恩給年額千圓以上ニシテ其ノ恩給外ノ所得ノ年額五千圓ヲ超ユルトキハ恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額ノ六千圓ヲ超ユル額ノ二割ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割ヲ超ユルコトナシ

前項第四號ノ所得ノ範圍及計算方法竝恩給ノ停止方法ニ關シテハ勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ定ム

第一項第二號ノ規定ハ增加恩給及傷病年金ニ付之ヲ準用ス

第二節　恩給金額

第四十四條　宮内職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

第一　在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第二　在職年十八年以上二十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十一ニ相當スル金額トス

第三　在職年二十年以上二十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二ニ相當スル金額トス

第四　在職年二十一年以上二十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十三ニ相當スル金額トス

第五　在職年二十二年以上二十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十四ニ相當スル金額トス

第六　在職年二十三年以上二十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十五ニ相當スル金額トス

第七　在職年二十四年以上二十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十六ニ相當スル金額トス

第八　在職年二十五年以上二十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十七ニ相當スル金額トス

第九　在職年二十六年以上二十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十八ニ相當スル金額トス

第十　在職年二十七年以上二十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十九ニ相當スル金額トス

第十一　在職年二十八年以上二十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ六十ニ相當スル金額トス

第十二　在職年二十九年以上三十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ六十一ニ相當スル金額トス

第十三　在職年三十年以上三十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ六十二ニ相當スル金額トス

第十四　在職年三十一年以上三十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ六十三ニ相當スル金額トス

第十五　在職年三十二年以上三十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ六十四ニ相當スル金額トス

第十六　在職年三十三年以上三十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ六十五ニ相當スル金額トス

第十七　在職年三十四年以上三十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ六十六ニ相當スル金額トス

第十八　在職年三十五年以上三十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ六十七ニ相當スル金額トス

第十九　在職年三十六年以上三十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ六十八ニ相當スル金額トス

第二十　在職年三十七年以上三十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ六十九ニ相當スル金額トス

第二十一　在職年三十八年以上三十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ七十ニ相當スル金額トス

第二十二　在職年三十九年以上四十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ七十一ニ相當スル金額トス

第二十三　在職年四十年以上四十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ七十二ニ相當スル金額トス

第二十四　在職年四十一年以上四十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ七十三ニ相當スル金額トス

第二十五　在職年四十二年以上四十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ七十四ニ相當スル金額トス

第二十六　在職年四十三年以上四十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ七十五ニ相當スル金額トス

第二十七　在職年四十四年以上四十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ七十六ニ相當スル金額トス

第二十八　在職年四十五年以上四十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ七十七ニ相當スル金額トス

第二十九　在職年四十六年以上四十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ七十八ニ相當スル金額トス

第三十　在職年四十七年以上四十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ七十九ニ相當スル金額トス

第三十一　在職年四十八年以上四十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ八十ニ相當スル金額トス

第三十二　在職年四十九年以上五十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ八十一ニ相當スル金額トス

第三十三　在職年五十年以上五十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ八十二ニ相當スル金額トス

第三十四　在職年五十一年以上五十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ八十三ニ相當スル金額トス

第三十五　在職年五十二年以上五十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ八十四ニ相當スル金額トス

第三十六　在職年五十三年以上五十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ八十五ニ相當スル金額トス

第三十七　在職年五十四年以上五十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ八十六ニ相當スル金額トス

第三十八　在職年五十五年以上五十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ八十七ニ相當スル金額トス

第三十九　在職年五十六年以上五十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ八十八ニ相當スル金額トス

第四十　在職年五十七年以上五十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ八十九ニ相當スル金額トス

第四十一　在職年五十八年以上五十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ九十ニ相當スル金額トス

第四十二　在職年五十九年以上六十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ九十一ニ相當スル金額トス

第四十三　在職年六十年以上六十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ九十二ニ相當スル金額トス

第四十四　在職年六十一年以上六十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ九十三ニ相當スル金額トス

第四十五　在職年六十二年以上六十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ九十四ニ相當スル金額トス

第四十六　在職年六十三年以上六十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ九十五ニ相當スル金額トス

第四十七　在職年六十四年以上六十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ九十六ニ相當スル金額トス

第四十八　在職年六十五年以上六十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ九十七ニ相當スル金額トス

第四十九　在職年六十六年以上六十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ九十八ニ相當スル金額トス

第五十　在職年六十七年以上六十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ九十九ニ相當スル金額トス

第五十一　在職年六十八年以上六十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百ニ相當スル金額トス

第五十二　在職年六十九年以上七十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百一ニ相當スル金額トス

第五十三　在職年七十年以上七十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百二ニ相當スル金額トス

第五十四　在職年七十一年以上七十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百三ニ相當スル金額トス

第五十五　在職年七十二年以上七十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百四ニ相當スル金額トス

第五十六　在職年七十三年以上七十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百五ニ相當スル金額トス

第五十七　在職年七十四年以上七十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百六ニ相當スル金額トス

第五十八　在職年七十五年以上七十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百七ニ相當スル金額トス

第五十九　在職年七十六年以上七十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百八ニ相當スル金額トス

第六十　在職年七十七年以上七十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百九ニ相當スル金額トス

第六十一　在職年七十八年以上七十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百十ニ相當スル金額トス

第六十二　在職年七十九年以上八十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百十一ニ相當スル金額トス

第六十三　在職年八十年以上八十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百十二ニ相當スル金額トス

第六十四　在職年八十一年以上八十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百十三ニ相當スル金額トス

第六十五　在職年八十二年以上八十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百十四ニ相當スル金額トス

第六十六　在職年八十三年以上八十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百十五ニ相當スル金額トス

第六十七　在職年八十四年以上八十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百十六ニ相當スル金額トス

第六十八　在職年八十五年以上八十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百十七ニ相當スル金額トス

第六十九　在職年八十六年以上八十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百十八ニ相當スル金額トス

第七十　在職年八十七年以上八十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百十九ニ相當スル金額トス

第七十一　在職年八十八年以上八十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百二十ニ相當スル金額トス

第七十二　在職年八十九年以上九十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百二十一ニ相當スル金額トス

第七十三　在職年九十年以上九十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百二十二ニ相當スル金額トス

第七十四　在職年九十一年以上九十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百二十三ニ相當スル金額トス

第七十五　在職年九十二年以上九十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百二十四ニ相當スル金額トス

第七十六　在職年九十三年以上九十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百二十五ニ相當スル金額トス

第七十七　在職年九十四年以上九十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百二十六ニ相當スル金額トス

第七十八　在職年九十五年以上九十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百二十七ニ相當スル金額トス

第七十九　在職年九十六年以上九十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百二十八ニ相當スル金額トス

第八十　在職年九十七年以上九十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百二十九ニ相當スル金額トス

第八十一　在職年九十八年以上九十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百三十ニ相當スル金額トス

第八十二　在職年九十九年以上百年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百三十一ニ相當スル金額トス

第八十三　在職年百年以上百一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百三十二ニ相當スル金額トス

第八十四　在職年百一年以上百二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百三十三ニ相當スル金額トス

第八十五　在職年百二年以上百三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百三十四ニ相當スル金額トス

第八十六　在職年百三年以上百四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百三十五ニ相當スル金額トス

第八十七　在職年百四年以上百五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百三十六ニ相當スル金額トス

第八十八　在職年百五年以上百六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百三十七ニ相當スル金額トス

第八十九　在職年百六年以上百七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百三十八ニ相當スル金額トス

第九十　在職年百七年以上百八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百三十九ニ相當スル金額トス

第九十一　在職年百八年以上百九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百四十ニ相當スル金額トス

第九十二　在職年百九年以上百十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百四十一ニ相當スル金額トス

第九十三　在職年百十年以上百十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百四十二ニ相當スル金額トス

第九十四　在職年百十一年以上百十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百四十三ニ相當スル金額トス

第九十五　在職年百十二年以上百十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百四十四ニ相當スル金額トス

第九十六　在職年百十三年以上百十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百四十五ニ相當スル金額トス

第九十七　在職年百十四年以上百十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百四十六ニ相當スル金額トス

第九十八　在職年百十五年以上百十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百四十七ニ相當スル金額トス

第九十九　在職年百十六年以上百十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百四十八ニ相當スル金額トス

第百　在職年百十七年以上百十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百四十九ニ相當スル金額トス

第百一　在職年百十八年以上百十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百五十ニ相當スル金額トス

第百二　在職年百十九年以上百二十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百五十一ニ相當スル金額トス

第百三　在職年百二十年以上百二十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百五十二ニ相當スル金額トス

第百四　在職年百二十一年以上百二十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百五十三ニ相當スル金額トス

第百五　在職年百二十二年以上百二十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百五十四ニ相當スル金額トス

第百六　在職年百二十三年以上百二十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百五十五ニ相當スル金額トス

第百七　在職年百二十四年以上百二十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百五十六ニ相當スル金額トス

第百八　在職年百二十五年以上百二十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百五十七ニ相當スル金額トス

第百九　在職年百二十六年以上百二十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百五十八ニ相當スル金額トス

第百十　在職年百二十七年以上百二十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百五十九ニ相當スル金額トス

第百十一　在職年百二十八年以上百二十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百六十ニ相當スル金額トス

第百十二　在職年百二十九年以上百三十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百六十一ニ相當スル金額トス

第百十三　在職年百三十年以上百三十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百六十二ニ相當スル金額トス

第百十四　在職年百三十一年以上百三十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百六十三ニ相當スル金額トス

第百十五　在職年百三十二年以上百三十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百六十四ニ相當スル金額トス

第百十六　在職年百三十三年以上百三十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百六十五ニ相當スル金額トス

第百十七　在職年百三十四年以上百三十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百六十六ニ相當スル金額トス

第百十八　在職年百三十五年以上百三十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百六十七ニ相當スル金額トス

第百十九　在職年百三十六年以上百三十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百六十八ニ相當スル金額トス

第百二十　在職年百三十七年以上百三十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百六十九ニ相當スル金額トス

第百二十一　在職年百三十八年以上百三十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百七十ニ相當スル金額トス

第百二十二　在職年百三十九年以上百四十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百七十一ニ相當スル金額トス

第百二十三　在職年百四十年以上百四十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百七十二ニ相當スル金額トス

第百二十四　在職年百四十一年以上百四十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百七十三ニ相當スル金額トス

第百二十五　在職年百四十二年以上百四十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百七十四ニ相當スル金額トス

第百二十六　在職年百四十三年以上百四十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百七十五ニ相當スル金額トス

第百二十七　在職年百四十四年以上百四十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百七十六ニ相當スル金額トス

第百二十八　在職年百四十五年以上百四十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百七十七ニ相當スル金額トス

第百二十九　在職年百四十六年以上百四十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百七十八ニ相當スル金額トス

第百三十　在職年百四十七年以上百四十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百七十九ニ相當スル金額トス

第百三十一　在職年百四十八年以上百四十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百八十ニ相當スル金額トス

第百三十二　在職年百四十九年以上百五十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百八十一ニ相當スル金額トス

第百三十三　在職年百五十年以上百五十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百八十二ニ相當スル金額トス

第百三十四　在職年百五十一年以上百五十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百八十三ニ相當スル金額トス

第百三十五　在職年百五十二年以上百五十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百八十四ニ相當スル金額トス

第百三十六　在職年百五十三年以上百五十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百八十五ニ相當スル金額トス

第百三十七　在職年百五十四年以上百五十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百八十六ニ相當スル金額トス

第百三十八　在職年百五十五年以上百五十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百八十七ニ相當スル金額トス

第百三十九　在職年百五十六年以上百五十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百八十八ニ相當スル金額トス

第百四十　在職年百五十七年以上百五十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百八十九ニ相當スル金額トス

第百四十一　在職年百五十八年以上百五十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百九十ニ相當スル金額トス

第百四十二　在職年百五十九年以上百六十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百九十一ニ相當スル金額トス

第百四十三　在職年百六十年以上百六十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百九十二ニ相當スル金額トス

第百四十四　在職年百六十一年以上百六十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百九十三ニ相當スル金額トス

第百四十五　在職年百六十二年以上百六十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百九十四ニ相當スル金額トス

第百四十六　在職年百六十三年以上百六十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百九十五ニ相當スル金額トス

第百四十七　在職年百六十四年以上百六十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百九十六ニ相當スル金額トス

第百四十八　在職年百六十五年以上百六十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百九十七ニ相當スル金額トス

第百四十九　在職年百六十六年以上百六十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百九十八ニ相當スル金額トス

第百五十　在職年百六十七年以上百六十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ百九十九ニ相當スル金額トス

第百五十一　在職年百六十八年以上百六十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百ニ相當スル金額トス

第百五十二　在職年百六十九年以上百七十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百一ニ相當スル金額トス

第百五十三　在職年百七十年以上百七十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百二ニ相當スル金額トス

第百五十四　在職年百七十一年以上百七十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百三ニ相當スル金額トス

第百五十五　在職年百七十二年以上百七十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百四ニ相當スル金額トス

第百五十六　在職年百七十三年以上百七十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百五ニ相當スル金額トス

第百五十七　在職年百七十四年以上百七十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百六ニ相當スル金額トス

第百五十八　在職年百七十五年以上百七十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百七ニ相當スル金額トス

第百五十九　在職年百七十六年以上百七十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百八ニ相當スル金額トス

第百六十　在職年百七十七年以上百七十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百九ニ相當スル金額トス

第百六十一　在職年百七十八年以上百七十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百十ニ相當スル金額トス

第百六十二　在職年百七十九年以上百八十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百十一ニ相當スル金額トス

第百六十三　在職年百八十年以上百八十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百十二ニ相當スル金額トス

第百六十四　在職年百八十一年以上百八十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百十三ニ相當スル金額トス

第百六十五　在職年百八十二年以上百八十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百十四ニ相當スル金額トス

第百六十六　在職年百八十三年以上百八十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百十五ニ相當スル金額トス

第百六十七　在職年百八十四年以上百八十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百十六ニ相當スル金額トス

第百六十八　在職年百八十五年以上百八十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百十七ニ相當スル金額トス

第百六十九　在職年百八十六年以上百八十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百十八ニ相當スル金額トス

第百七十　在職年百八十七年以上百八十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百十九ニ相當スル金額トス

第百七十一　在職年百八十八年以上百八十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百二十ニ相當スル金額トス

第百七十二　在職年百八十九年以上百九十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百二十一ニ相當スル金額トス

第百七十三　在職年百九十年以上百九十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百二十二ニ相當スル金額トス

第百七十四　在職年百九十一年以上百九十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百二十三ニ相當スル金額トス

第百七十五　在職年百九十二年以上百九十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百二十四ニ相當スル金額トス

第百七十六　在職年百九十三年以上百九十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百二十五ニ相當スル金額トス

第百七十七　在職年百九十四年以上百九十五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百二十六ニ相當スル金額トス

第百七十八　在職年百九十五年以上百九十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百二十七ニ相當スル金額トス

第百七十九　在職年百九十六年以上百九十七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百二十八ニ相當スル金額トス

第百八十　在職年百九十七年以上百九十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百二十九ニ相當スル金額トス

第百八十一　在職年百九十八年以上百九十九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百三十ニ相當スル金額トス

第百八十二　在職年百九十九年以上二百年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百三十一ニ相當スル金額トス

第百八十三　在職年二百年以上二百一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百三十二ニ相當スル金額トス

第百八十四　在職年二百一年以上二百二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百三十三ニ相當スル金額トス

第百八十五　在職年二百二年以上二百三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百三十四ニ相當スル金額トス

第百八十六　在職年二百三年以上二百四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百三十五ニ相當スル金額トス

第百八十七　在職年二百四年以上二百五年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百三十六ニ相當スル金額トス

第百八十八　在職年二百五年以上二百六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百三十七ニ相當スル金額トス

第百八十九　在職年二百六年以上二百七年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百三十八ニ相當スル金額トス

第百九十　在職年二百七年以上二百八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百三十九ニ相當スル金額トス

第百九十一　在職年二百八年以上二百九年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百四十ニ相當スル金額トス

第百九十二　在職年二百九年以上二百十年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百四十一ニ相當スル金額トス

第百九十三　在職年二百十年以上二百十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ二百四十二ニ相當スル金額トス

第百九十四　在職年二百十一年以上二百十二年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十

第四十四條第三項ノ規定ハ皇宮警手ノ普通恩給ニ付之ヲ準用ス

第四十五條ノ二　一時恩給ヲ受ケタル後其ノ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年數一年ヲ二月ニ換算シタル月數内ニ召集其ノ他ノ强制ニ依ラスシテ再就職シタル者ニ普通恩給ヲ給スル場合ニ於テハ當該換算月數ト退職ノ翌月ヨリ再就職ノ月迄ノ月數トノ差月數ヲ一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ニ乘シタル金額ノ十五分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス但シ差月數一月ニ付一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ勤續ヲ經テ宮内大臣ノ定ムル時期ニ於テ納付シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ恩給法ニ依ル一時恩給ヲ受ケタル者宮内職員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第四十六條　宮内職員ノ增加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具廢疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第一號表ノ金額トス但シ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル時ヨリ五年内ニ退職セサリシ場合ニ於テハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル時ヨリ五年ヲ經過シタル日ニ於ケル階等ヲ以テ退職當時ノ階等ト看做ス

宮内職員ノ傷病年金ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及傷病ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス但シ普通恩給ヲ併給セラルル場合ニ於テハ別表第二號表ノ金額ノ十分ノ七・五ニ相當スル金額ヲ以テ傷病年金ノ年額トス

第四十七條　宮内職員在職年三年以上十七年未滿ニシテ退職シ又ハ皇宮警手在職年三年以上十二年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第三章　遺族

第四十八條　本令ニ於テ遺族トハ宮内職員ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子、孫及兄弟姉妹ニシテ宮内職員ノ死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在ルモノヲ謂フ

宮内職員ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ宮内職員ノ死亡ノ當時其ノ戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

戸籍届出ノ委託ヲ爲シタル後届出人死亡シ其ノ死亡後委託ニ基ク届出カ受理セラレ又ハ戸籍届書ヲ郵送シタル後届出人死亡シ其ノ死亡後届書カ受理セラレタルトキ其ノ届出カ昭和十五年法律第四號ノ定ムル所ニ依リ届出人死亡ノ時ニ爲サレタルモノト看做サルル場合ニ於テハ其ノ届出ニ因リ宮内職員ト同一戸籍内ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子、孫又ハ兄弟姉妹ト爲ル者ハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ當該届出カ届出人ノ死亡後二年内ニ受理セラレタルトキニ限リ届出人ノ死亡ノ時ヨリ宮内職員ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子、孫又ハ兄弟姉妹トシテ之ト同一戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第四十九條　宮内職員在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、未成年ノ孫、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ扶助料ヲ給ス

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ死亡者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リ之ヲ適用ス但シ第四十八條第三項ノ規定ニ依リ宮内職員ノ遺族ト看做サルル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五十條　未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス夫又ハ成年ノ子ハ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

未成年ノ孫ハ未タ婚姻セス且宮内職員死亡ノ當時其ノ家督相續人タルトキ又ハ宮内職員カ家督相續人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス但シ家督相續ニ付孫ノ直近先順位ニ在ル者缺格及死亡以外ノ場合ニ於テ相續權ヲ失ヒタルニ因リ孫カ家督相續人タル場合又ハ家督相續人タルヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

養子ハ宮内職員ノ家督相續人タルトキ又ハ宮内職員カ家督相續人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

前二項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第五十一條ノ二　第四十八條第三項ノ規定ニ依リ宮内職員ノ遺族ト看做サレタル者ニ給スル扶助料ハ委託又ハ郵便ニ依ル戸籍届出ノ受理ノ日ヨリ之ヲ給ス但シ宮内職員ノ死亡ノ時ニ於テ扶助料ヲ受クヘキ權利ヲ有シタル者カ仍先順位者トシテ扶助料ヲ受クヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條第三項ノ規定ニ依リ宮内職員ノ遺族ト看做サレタル者ニ給スル一時扶助料ハ宮内職員ノ死亡ノ時ニ於テ他ニ一時扶助料ヲ受クヘキ權利ヲ有スル者ナキトキニ限リ之ヲ給ス

宮内職員ノ死亡ノ時ニ於テ扶助料ヲ受クヘキ權利ヲ有シタル者カ第四十八條第三項ノ規定ニ依リ宮内職員ノ遺族ト看做サルル者ノ生シタルカ爲扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有セサリシコトト爲ル場合ニ於テモ其ノ者ハ同條ニ規定スル戸籍届出ノ受理ノ日迄ノ分ニ付當該扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノト看做ス

宮内職員ノ死亡ノ時ニ於テ一時扶助料ヲ受クヘキ權利ヲ有シタル者カ第四十八條第三項ノ規定ニ依リ宮内職員ノ遺族ト看做サルル者ノ生シタルカ爲一時扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有セサリシコトト爲ル場合ニ於テモ其ノ者ハ當該一時扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノト看做ス

第五十一條　扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一　第二號乃至第四號ニ特ニ規定スル場合ノ外ハ宮内職員ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

二　宮内職員職闘又ハ職闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ前號ノ規定ニ依ル金額ニ退職當時ノ階等ニ依リ定メタル別表第三號表ノ率ヲ乘シタル金額

三　宮内職員普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ第一號ノ規定ニ依ル金額ニ退職當時ノ階等ニ依リ定メタル別表第四號表ノ率ヲ乘シタル金額

四　增加恩給ヲ併給セラルル者公務ニ起因スル傷痍疾病ニ因ラスシテ

死亡シタルトキハ第一號ノ規定ニ依ル金額ニ退職當時ノ階等ニ依リ定メタル別表第五號表ノ率ヲ乘シタル金額

前項第二號又ハ第三號ニ規定スル場合ニハ其ノ死亡ノ月ノ翌月ヨリ五年間ハ普通恩給年額ノ第二號ニ規定スル場合ハ百分ノ十、第三號ニ規定スル場合ハ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ加給ス

第一項第二號乃至第四號ニ規定スル場合ニ於テ扶助料ヲ受クル者ノ同一戸籍內ニ扶助料ヲ受クヘキ要件ヲ具フル遺族カ扶助料ヲ受クル者ヲ合シ三人以上アルトキハ其ノ扶助料年額ニ退職當時ノ階等及遺族ノ員數ニ依リ定メタル別表第六號表ノ率ヲ乘シタル金額ヲ加給ス但シ同一戸籍內ニ扶助料ヲ受クル者二人以上アル場合及二以上ノ扶助料ヲ併セ受クル者アル場合ニ於ケル加給ニ付テハ勅裁ヲ經テ宮內大臣ノ定ムル所ニ依ル

同一戸籍內ニ本令ニ依ル扶助料ヲ受クル者及恩給法ニ依ル扶助料ヲ受クル者アル場合又ハ本令ニ依ル扶助料ト恩給法ニ依ル扶助料トヲ併セ受クル者アル場合ニ於テ其ノ各ノ扶助料ニ付夫々前項又ハ恩給法第七十五條第二項ノ規定ノ適用上共通ニ加給ノ原因タルヘキ遺族ニシテ恩給法ニ依ル扶助料ニ付加給ノ原因ト爲リタルモノハ前項ノ規定ニ依ル加給ノ原因ト爲サス

勅任官又ハ勅任待遇職員ニシテ其ノ退職當時受クル俸給額カ奏任官ニ付定メタル最高俸ヲ超エサルモノアル場合ニ於テハ第一項第二號乃至第四號及第三項ノ規定ノ適用ニ付テハ奏任三等乃至五等ノ階等ノ率ヲ以テ其ノ退職當時ノ階等ノ率ト看做ス

第五十二條　宮內職員ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一　子若ハ孫婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ宮內職員ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　宮內職員女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ

三　父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第五十三條　扶助料ヲ受クル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十四條　扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ宮內大臣ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第五十五條　前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第五十六條　遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

一　其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ

二　妻、子、孫又ハ夫婚姻シタルトキ

三　不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

但出ヲ爲ササルモ事實上婚姻關係ト同樣ノ事情ニ入リタリト認メラルル遺族ニ付テハ宮內大臣ハ宮內省恩給審査會ニ諮問ノ上其ノ者ノ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ハシムルコトヲ得

第五十七條　宮內職員第四十九條ノ規定ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第五十八條　宮內職員在職年三年以上十七年未滿ニシテ在職中死亡シ又ハ皇宮警手在職年三年以上十二年未滿ニシテ在職中死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ宮內職員ノ死亡ノ當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ宮內職員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第四十九條中遺族ノ順位ニ關スル規定及第五十條ノ規定ハ第一項ノ扶助料ヲ給スル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十九條　本章ノ規定ハ前條ノ規定ヲ除クノ外普通恩給ヲ受クル者ノ遺族ニ之ヲ準用ス

宮內省恩給令

附則

第六十條　本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十一條　左ノ宮內省達及皇室令ハ之ヲ廢止ス

一　宮內省官吏恩給例、宮內省准官吏恩給例、宮內省官吏准官吏遺族扶助例

一　明治二十五年宮內省達甲第二號
一　明治二十六年宮內省達甲第一號
一　明治二十九年宮內省達甲第一號
一　明治三十年宮內省達甲第十一號
一　明治四十三年皇室令第四十一號
一　大正四年皇室令第四號
一　大正六年皇室令第十二號
一　皇宮警手恩給令
一　大正九年皇室令第七號
一　大正九年皇室令第十二號

第六十二條　本令施行前給與事由ノ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本令ニ依リ受ケヘキ恩給ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本令ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ宮內職員及其ノ遺族ノ種類竝給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム

第六十三條　第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩

給、退隱料、遺族扶助料、一時賜金、退職手當金、一時扶助金其ノ他之ニ準ス（キモノヲ受クヘキ權利ニシテ本令施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

第六十四條 第十條及第十一條ノ規定ハ本令施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、一時賜金、退職手當金、一時扶助金其ノ他之ニ準ス（キモノニ付本令施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

第六十五條 本令施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本令施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本令施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除クノ外本令ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第六十六條 內地人タル宮內職員其ノ職務ヲ以テ朝鮮ニ四年間引續キ在勤シタル者ニ付テハ當分ノ內在勤期間ノ一月ニ付三分ノ一月ヲ加算ス

第二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第六十七條 第三十一條第二項乃至第四項及第三十八條第一項第三號第二項ノ規定ハ本令施行前退職シタル宮內職員ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依リ給與スル恩給ノ金額ハ本令施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第六十八條 第三十二條ノ規定ハ本令施行前傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本令施行後退職シ本令施行後不具廢疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第六十九條 本令施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本令施行後轉給セラルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本令ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クルコトヲ得ル者ノ權利ヲ妨クルコトナシ

本令施行前ニ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受クルノ權利ヲ本令ニ依リ取得スルコトナシ

第一項ノ場合ニ於テ本令ニ依リ扶助料ヲ受クルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本令ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本令ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトナシ

第七十條 本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金タル恩給、退隱料及遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受クル者ニシテ本令所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本令所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ增給ス

前項ノ規定ニ該當スル者ノ中政府ヨリ恩給ヲ受クル宮內官及軍人現役十一年以上ニシテ政府ヨリ恩給ヲ受ケスシテ宮內官ト爲リタル者ノ恩給及其ノ遺族ノ扶助料ニ付テハ左ノ各號ニ依ルノ外從前ノ規定ニ依リ算出シタル恩給及扶助料ノ金額ヲ以テ本令所定ノ恩給及扶助料ノ金額ト看做ス

一　恩給年額ノ算出率ニ付テハ本令第四十四條ノ規定ニ依リ遺族扶助

料年額ノ算出率ニ付テハ第五十一條ノ規定ニ依ル

二　政府ヨリ受クル恩給年額ニ付テハ恩給法第百一條又ハ第百三條ノ規定ニ依リ增額若ハ改定セラレ又ハセラルル金額ニ依ル

第一項ノ規定ニ依ル增給ニ付テハ勅裁ヲ經テ宮內大臣之ヲ定ム

第七十一條 明治四十三年三月三十一日迄ニ退職、休職ト爲リ若ハ死亡シタル宮內職員又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給規程ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅裁ヲ經テ宮內大臣ノ定ムル所ニ依リ恩給又ハ扶助料ヲ本令施行ノ日ヨリ增額給與ス

第七十二條 大正七年十二月十日前ノ皇宮警手ノ在職年月數ニシテ普通恩給ニ相當スル年金ヲ受クル權利ノ基礎タル在職年ニ通算セラレサルモノハ之ヲ皇宮警手ノ在職年ニ通算シ本令施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル退隱料ヲ改定シ又ハ新ニ普通恩給ヲ給ス但シ普通恩給ニ相當スル年金ヲ受クヘカラサル事由ニ因リ退職シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

第七十三條 恩給法ニ依リ公務員ノ恩給權ノ基礎トナルヘキ北海道屯田兵ノ在職年數ハ之ヲ宮內官ノ在職年ニ通算シ本令施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル年金タル恩給ヲ改定シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ニ該當スル者ニシテ恩給法第百三條ノ規定ニ依リ年金タル恩給ヲ給セラレタルトキハ第七十條第二項ノ規定ヲ準用ス

宮內省恩給令

前二項ノ規定ハ前二項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

第七十四條 前二條ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第七十五條 第七十條第七十一條第七十三條及第七十四條ノ規定ハ宮內省准官吏又ハ其ノ遺族ニシテ恩給又ハ扶助料ヲ受クル者ニ之ヲ準用ス但シ宮內官ノ恩給ト同一ノ算出率ニ依リ算出シタル恩給又ハ之ヲ基礎トシタル扶助料ヲ受クル場合ヲ除クノ外在職十六年未滿ノ者ニ給スル恩給年額ノ算出率ハ之ヲ退職若ハ死亡當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ四十トシ十五年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對スル增加率ハ之ヲ其ノ俸給年額ノ百五十分ノ一トシテ恩給額ヲ計算ス

第七十六條 第六十二條乃至前條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅裁ヲ經テ宮內大臣之ヲ定ム

附　則（昭和八年皇室令第一號）

第一條 本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行前給與事由ノ生シタル恩給ニ付テハ本令附則中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外仍從前ノ規定ニ依ル

第三條 第九條、第四十三條第一項第二號、第五十三條及第五十六條ノ改正規定ハ本令施行前給與事由ノ生シタル恩給ニ付テモ之ヲ適用ス

第四十三條第一項第三號ノ改正規定ハ本令施行前普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生シタル者及本令施行ノ際現ニ在職シ本令施行後退職シテ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生スル者ニハ之ヲ適用セス

前項ニ規定スル者本令施行後再就職シ其ノ普通恩給ヲ改定セラルル場合ニハ其ノ改定ニ因ル増額分ニ付第四十三條第一項第三號ノ規定ヲ適用ス

第四十三條第一項第四號ノ改正規定ハ本令施行前普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生シタル者ニハ之ヲ適用セス

前項ニ規定スル者本令施行後再就職シ其ノ普通恩給ヲ改定セラルル場合ニハ第四十三條第一項第四號ノ規定ヲ適用ス

第四條 本令施行前ノ在職年ノ計算ニ付テハ本令附則中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外仍從前ノ規定ニ依ル

第五條 第二十六條ノ二ノ改正規定ハ本令施行前ノ在職ニ付之ヲ適用セス

第六條 本令施行ノ際現ニ進行中ニ屬スル休職其ノ他現實ニ職務ヲ執ルヲ要セサル在職期間ニ付テハ其ノ期間ノ終了ニ至ル迄本令施行後ト雖第二十六條ノ二ノ改正規定ヲ適用セス

第七條 傷病年金ニ關スル改正規定ハ本令施行後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ニ付之ヲ適用ス但シ本令施行前五年内ニ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者失格原因ナクシテ退職シ本令施行後五年内ニ傷病年金ヲ請求シタル場合ニハ傷病ノ程度ヲ査定シ將來ニ向ツテ之ヲ給ス

第八條 本令施行ノ際現ニ宮内職員トシテ在職シ本令施行後退職スル者ノ在職年ノ計算及普通恩給年額ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 本令施行ノ際從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達シタル者ハ改正規定ニ依ル最短恩給年限ニ從前ノ規定ニ依ル最短恩給年限ヲ超ユル在職年月數ヲ加ヘ本令施行前ノ在職年及本令施行後ノ在職年ヲ合算シ改正規定ヲ適用シテ算出シタル金額ノ普通恩給ヲ給ス

二 本令施行ノ際從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達セサル者ノ本令施行前ノ在職年ハ一般宮内職員ニ在リテハ十五分ノ十七、皇宮警手ニ在リテハ十分ノ十二ヲ乘シテ換算シ本令施行前ノ在職年ト本令施行後ノ在職年トヲ合算シ改正規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限以上ニ達シタル者ニハ改正規定ヲ適用シテ算出シタル金額ノ普通恩給ヲ給ス

三 前二號ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ給スヘキ場合ニ於テ在職年四十年以上ノ者ニ付テハ第四十四條第三項ノ規定ニ拘ラス在職年四十二年ニ至ル迄ハ在職年一年ヲ增ス毎ニ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル額トシ在職年四十二年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十二年トシテ計算ス

前項ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ宮内職員トシテ在職シ本令施行後死亡シタル者ノ遺族ニ給スヘキ扶助料ニ付之ヲ準用ス

第九條 本令施行ノ際現ニ休職中ノ者ニシテ本令施行後其ノ期間ノ終了ニ因リ從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限以上ニ達スルモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル普通恩給ヲ給ス

第十條 本令施行ノ際現ニ宮内職員トシテ在職シ本令施行後退職スル者ニ給スヘキ一時恩給及其ノ遺族ニ給スヘキ一時扶助料ノ金額ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 附則第八條ノ規定ニ依リ本令施行前ノ在職年ト本令施行後ノ在職年トヲ合算スルモ改正規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達セサル者ニハ其ノ實在職年(加算年ヲ含ム)ヲ基礎トシ改正規定ヲ適用シテ算出シタル一時恩給又ハ一時扶助料ヲ給ス

二 在職年一年以上三年未滿ニシテ退職シタル者ニ給スヘキ一時恩給又ハ其ノ遺族ニ給スヘキ一時扶助料ニ付テハ第四十七條第一項及第五十八條第一項ノ改正規定ニ拘ラス仍從前ノ規定ニ依リ之ヲ給ス

第十一條 前條ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ休職中ノ者ニ付本令施行後其ノ期間ノ終了ニ因リ一時恩給又ハ一時扶助料ヲ給スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第十二條 本令施行ノ際現ニ宮内職員トシテ在職スル者ニシテ本令ノ規定ニ依リ新ニ恩給ヲ受クルノ資格ヲ得タルモノニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本令施行前ノ在職ト雖本令ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年ヲ計算セラルル者現ニ從前ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ受クルトキハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ停止ス

第一項ノ規定ニ依リ在職年ヲ計算セラレ本令施行後退職シ普通恩給ヲ給セラルル者大正十二年皇室令第十六號宮内省恩給令施行後同令ニ依リ一時恩給ヲ受ケタルモノナルトキハ宮内大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ一時恩給ノ金額ヲ普通恩給額中ヨリ支給ニ際シ控除ス

第十三條 女官又ハ内掌典ノ在職年ノ計算及恩給金額ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 本令施行前ノ女官又ハ内掌典ノ在職年ニシテ從前ノ規程ニ依レハ年トヲ合算スルモ改正規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達セサル者ニハ其ノ實在職年(加算年ヲ含ム)ヲ基礎トシ改正規定ヲ適用シテ算出シタル一時恩給又ハ一時扶助料ヲ給ス

二 前號ノ場合ニ於ケル本令施行前ノ在職年ノ計算及恩給金額ニ付テハ附則第八條及第十條ノ規定ヲ適用ス

三 本令施行ノ際現ニ在職スル内掌典ニシテ從前ノ規程ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限以上ニ達シタルモノニ付テハ從前ノ規程ニ依ル普通恩給ノ年額ト本令ニ依ル普通恩給ノ年額トヲ比較シ其ノ金額多キモノヲ以テ其ノ者ノ普通恩給ノ年額トス

第十四條 第四十五條ノ二ノ改正規定ハ本令施行前給與事由ノ生シタル一時恩給ニ付テハ之ヲ適用セス

第十五條 第五十一條第二項ノ改正規定ハ宮内職員カ本令施行前死亡シタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス但シ此ノ場合ニ於ケル加給ハ本令施行後ニ屬スル殘存期間ニ付テノミ之ヲ爲ス

第十六條 皇宮警手大正十二年皇室令第十六號宮内省恩給令施行前皇宮警手給助例又ハ皇宮警手恩給令ノ規定ニ依リ退隱料ヲ受ケ引續キ他ノ宮内職員ト爲リ宮内省恩給令施行後迄在職シタル後本令施行前退職シ第六十二條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ其ノ退隱料ヲ宮内職員ノ普通恩給ニ改定セラレサリシ者ニ付テハ同項ノ規定ニ拘ラス特ニ第六十五條第一項ノ規定ヲ適用シ本令施行ノ日ヨリ從前ノ規定ニ依リ其ノ退隱料ヲ改定ス但シ宮内省恩給令施行後宮内職員退職ニ因リ一時恩給ヲ受ケ

左ノ各號ニ依ル

一 附則第八條ノ規定ニ依リ本令施行前ノ在職年ト本令施行後ノ在職年トヲ合算スルモ改正規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達セサル者ニハ其ノ實在職年(加算年ヲ含ム)ヲ基礎トシ改正規定ヲ適用シテ算出シタル一時恩給又ハ一時扶助料ヲ給ス

二 在職年一年以上三年未滿ニシテ退職シタル者ニ給スヘキ一時恩給又ハ其ノ遺族ニ給スヘキ一時扶助料ニ付テハ第四十七條第一項及第五十八條第一項ノ改正規定ニ拘ラス仍從前ノ規定ニ依リ之ヲ給ス

第十一條 前條ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ休職中ノ者ニ付本令施行後其ノ期間ノ終了ニ因リ一時恩給又ハ一時扶助料ヲ給スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第十二條 本令施行ノ際現ニ宮内職員トシテ在職スル者ニシテ本令ノ規定ニ依リ新ニ恩給ヲ受クルノ資格ヲ得タルモノニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本令施行前ノ在職ト雖本令ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年ヲ計算セラルル者現ニ從前ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ受クルトキハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ停止ス

第一項ノ規定ニ依リ在職年ヲ計算セラレ本令施行後退職シ普通恩給ヲ給セラルル者大正十二年皇室令第十六號宮内省恩給令施行後同令ニ依リ一時恩給ヲ受ケタルモノナルトキハ宮内大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ一時恩給ノ金額ヲ普通恩給額中ヨリ支給ニ際シ控除ス

第十三條 女官又ハ内掌典ノ在職年ノ計算及恩給金額ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一、本令施行前ノ女官又ハ内掌典ノ在職年ニシテ從前ノ規程ニ依レハ其ノ恩給ノ基礎ト爲ルヘキモノハ本令施行後ノ宮内職員ノ在職年ニ通算ス

二 前號ノ場合ニ於ケル本令施行前ノ在職年ノ計算及恩給金額ニ付テハ附則第八條及第十條ノ規定ヲ適用ス

三 本令施行ノ際現ニ在職スル内掌典ニシテ從前ノ規程ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限以上ニ達シタルモノニ付テハ從前ノ規程ニ依ル普通恩給ノ年額ト本令ニ依ル普通恩給ノ年額トヲ比較シ其ノ金額多キモノヲ以テ其ノ者ノ普通恩給ノ年額トス

第十四條 第四十五條ノ二ノ改正規定ハ本令施行前給與事由ノ生シタル一時恩給ニ付テハ之ヲ適用セス

第十五條 第五十一條第二項ノ改正規定ハ宮内職員カ本令施行前死亡シタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス但シ此ノ場合ニ於ケル加給ハ本令施行後ニ屬スル殘存期間ニ付テノミ之ヲ爲ス

第十六條 皇宮警手大正十二年皇室令第十六號宮内省恩給令施行前皇宮警手給助例又ハ皇宮警手恩給令ノ規定ニ依リ退隱料ヲ受ケ引續キ他ノ宮内職員ト爲リ宮内省恩給令施行後迄在職シタル後本令施行前退職シ第六十二條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ其ノ退隱料ヲ宮内職員ノ普通恩給ニ改定セラレサリシ者ニ付テハ同項ノ規定ニ拘ラス特ニ第六十五條第一項ノ規定ヲ適用シ本令施行ノ日ヨリ從前ノ規定ニ依リ其ノ退隱料ヲ改定ス但シ宮内省恩給令施行後宮内職員退職ニ因リ一時恩給ヲ受ケ

タル者ニ付テハ宮内大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ一時恩給ノ金額ヲ改定ニ因リ増額セラルル普通恩給額中ヨリ支給ニ際シ控除ス

前項ノ規定ハ宮内省恩給令施行後本令施行前ニ宮内職員トシテ普通恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ之ヲ適用セス

第一項ニ規定スル者引續キ在職シ本令施行後退職スルトキハ第六十二條第一項ノ規定ニ拘ラス第六十五條第一項ノ規定ヲ適用シ皇宮警手トシテノ退隠料ヲ宮内職員トシテノ普通恩給ニ改定ス但シ後ノ在職ニ對シ宮内職員トシテノ普通恩給ヲ受クヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 第六十六條ノ改正規定ハ本令施行ノ際現ニ宮内職員トシテ引續キ在職シ從前ノ規定ニ依ル期間ヲ經過シタル者ニ付テハ之ヲ適用セス

附　則（昭和十三年皇室令第七號）

第一條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ増加恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受クル者ニシテ本令所定ノ増加恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本令所定ノ各相當増加恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅裁ヲ經テ宮内大臣ノ定ムル所ニ依リ昭和十三年四月一日ヨリ増給ス

前項ノ規定ハ昭和十三年四月一日以後ニ於テ從前ノ規定ニ依ル扶助料ヲ受ケ本令施行前之ヲ受ケサルニ至リタル者ニ對スル増給ニ付之ヲ準用ス

第三條 本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ傷病年金ヲ受タル者ニハ昭和十三年四月一日ヨリ左記下欄相當ノ増加恩給又ハ傷病年金ヲ給ス

現症狀等差	改正症狀等差
傷病年金第一款	増加恩給第七項
傷病年金第二款	傷病年金第一款
傷病年金第三款	傷病年金第二款
傷病年金第四款	傷病年金第三款

前項ノ規定ハ昭和十三年四月一日以後ニ於テ從前ノ規定ニ依ル傷病年金ヲ受ケ本令施行前之ヲ受ケサルニ至リタル者ニ對スル増加恩給又ハ傷病年金ニ付之ヲ準用ス

第四條 第五十一條第二項ノ規定ハ宮内職員カ本令施行前ニ死亡シタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス但シ此ノ場合ニ於ケル加給ハ本令施行後ニ屬スル殘存期間ニ付テノミ之ヲ爲ス

前項ノ規定ハ附則第二條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

附　則（昭和十五年皇室令第四號）

第一條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十五年五月一日公布）

第二條 本令施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ニ於テ其ノ加算年ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第三條 第四十八條第三項ノ改正規定ハ屆出人カ昭和十二年七月七日以後ニ死亡シタル場合ニ限リ之ヲ適用ス

第四十八條第三項ノ改正規定ハ本令施行前戸籍屆出ノ受理セラレタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス

第四條 屆出人ノ死亡後委託ニ基キ爲サレタル戸籍屆出カ其ノ受理セラレタル後昭和十五年法律第四號ノ定ムル所ニ依リ裁判所ノ確認ヲ經タル場合ニ限リ屆出人死亡ノ時ニ遡リ其ノ屆出アリタルモノト看做サルルモノナル場合ニ於テハ第四十八條第三項ノ改正規定ノ適用ニ付テハ同項中屆出人ノ死亡後二年内ニ受理セラレタルトキトアルハ同法施行後二年内ニ確認ノ裁判ノ確定シタルトキトシ第五十條ノ二第一項及第三項ノ改正規定ノ適用ニ付テハ同項中戸籍屆出ノ受理ノ日トアルハ確認ノ裁判確定ノ日トス

屆出人ノ生存中郵送シタル戸籍ノ屆書カ屆出人ノ死亡後本令施行前受理セラレタル場合ニ於テハ第五十條ノ二第一項及第三項ノ改正規定ノ適用ニ付テハ同項中戸籍屆出ノ受理ノ日トアルハ本令施行ノ日トス

第五條 第五條ニ規定スル期間ハ前條第一項ノ規定ノ適用セラルル場合ニ於ケル扶助料及一時扶助料ニ付テハ確認ノ裁判確定ノ日ヨリ、同條第二項ノ規定ノ適用セラルル場合ニ於ケル扶助料及一時扶助料ニ付テハ本令施行ノ日ヨリ計算ス

第六條 第四十八條第三項ノ改正規定中死亡後二年内トアルハ屆出人カ本令施行前ニ死亡シ戸籍屆出カ本令施行後ニ受理セラルル場合ニ於テハ之ヲ本令施行後二年内トス

（別表）

第二號表

宮内省恩給令

傷病原因 ＼ 階級	甲 親任奏任勅任	甲 判任	乙 親任奏任勅任	乙 判任
戰鬪ニ準ズル公務ニ因リ又ハ戰鬪ニ準ズル公務ニ因ラサルモノ	特別項	圓 二、四〇〇	圓 一、九八〇	圓 一、四〇〇	圓 一、一七〇
	第一項	二、〇〇〇	一、五七五	一、二五四	一、〇三四
	第二項	一、六〇〇	一、二六〇	一、〇〇三	八二八
	第三項	一、二八〇	九六〇	七六七	六九〇
	第四項	一、〇〇〇	七五〇	五八七	五二八
	第五項	八〇〇	六〇〇	四六〇	四一四
	第六項	六四〇	四八〇	三六八	三三一
	第七項	五三四	四〇〇	三〇七	二七六
戰鬪ニ準ズル公務ニ因リ又ハ戰鬪ニ準ズル公務ニ因ラサルモノニ	特別項	圓 一、九八〇	圓 一、五六〇	圓 一、二八七	圓 一、一七〇
	第一項	一、五七五	一、二五四	一、〇三四	九四〇
	第二項	一、二六〇	一、〇〇三	八二八	七五二
	第三項	九六〇	七六七	六九〇	六二七
	第四項	七五〇	五八七	五二八	四八四
	第五項	六〇〇	四六〇	四一四	三八〇
	第六項	四八〇	三六八	三三一	三〇四
	第七項	四〇〇	三〇七	二七六	二五三
普通公務	特別項	圓 一、九二〇	圓 一、五八四	圓 一、二四八	圓 一、一四
	第一項	一、六〇〇	一、二六〇	一、〇〇四	九二〇
	第二項	一、二八〇	一、〇〇八	八〇三	七三六
	第三項	一、〇二四	七六八	六一四	五五二
	第四項	八〇〇	六〇〇	四七〇	四二三
	第五項	六四〇	四八〇	三六八	三三二
	第六項	五一二	三八四	二九五	二六五
	第七項	四二八	三二〇	二四六	二二一

特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以内ノ金額ヲ加ヘタルモノトス

第二號表

號俸	甲	乙
一	第一	第一
二	第二	第二
三	第三	第三
四	第四	第四
五	第五	第五
六	第六	第六
七	第七	第七
八	第八	第八
九	第九	第九
十	第十	第十
十一	第十一	第十一
十二	第十二	第十二
十三	第十三	第十三
十四	第十四	第十四
十五	第十五	第十五
十六	第十六	第十六
十七	第十七	第十七
十八	第十八	第十八
十九	第十九	第十九
二十	第二十	第二十
二十一	第二十一	第二十一
二十二	第二十二	第二十二
二十三	第二十三	第二十三
二十四	第二十四	第二十四
二十五	第二十五	第二十五
二十六	第二十六	第二十六
二十七	第二十七	第二十七
二十八	第二十八	第二十八
二十九	第二十九	第二十九
三十	第三十	第三十
三十一	第三十一	第三十一
三十二	第三十二	第三十二
三十三	第三十三	第三十三
三十四	第三十四	第三十四
三十五	第三十五	第三十五
三十六	第三十六	第三十六
三十七	第三十七	第三十七
三十八	第三十八	第三十八
三十九	第三十九	第三十九
四十	第四十	第四十
四十一	第四十一	第四十一
四十二	第四十二	第四十二
四十三	第四十三	第四十三
四十四	第四十四	第四十四
四十五	第四十五	第四十五
四十六	第四十六	第四十六
四十七	第四十七	第四十七
四十八	第四十八	第四十八
四十九	第四十九	第四十九
五十	第五十	第五十
五十一	第五十一	第五十一
五十二	第五十二	第五十二
五十三	第五十三	第五十三
五十四	第五十四	第五十四
五十五	第五十五	第五十五
五十六	第五十六	第五十六
五十七	第五十七	第五十七
五十八	第五十八	第五十八
五十九	第五十九	第五十九
六十	第六十	第六十
六十一	第六十一	第六十一
六十二	第六十二	第六十二
六十三	第六十三	第六十三
六十四	第六十四	第六十四
六十五	第六十五	第六十五
六十六	第六十六	第六十六
六十七	第六十七	第六十七
六十八	第六十八	第六十八
六十九	第六十九	第六十九
七十	第七十	第七十
七十一	第七十一	第七十一
七十二	第七十二	第七十二
七十三	第七十三	第七十三
七十四	第七十四	第七十四
七十五	第七十五	第七十五
七十六	第七十六	第七十六
七十七	第七十七	第七十七
七十八	第七十八	第七十八
七十九	第七十九	第七十九
八十	第八十	第八十
八十一	第八十一	第八十一
八十二	第八十二	第八十二
八十三	第八十三	第八十三
八十四	第八十四	第八十四
八十五	第八十五	第八十五
八十六	第八十六	第八十六
八十七	第八十七	第八十七
八十八	第八十八	第八十八
八十九	第八十九	第八十九
九十	第九十	第九十
九十一	第九十一	第九十一
九十二	第九十二	第九十二
九十三	第九十三	第九十三
九十四	第九十四	第九十四
九十五	第九十五	第九十五
九十六	第九十六	第九十六
九十七	第九十七	第九十七
九十八	第九十八	第九十八
九十九	第九十九	第九十九
一百	第一百	第一百
一百一	第一百一	第一百一
一百二	第一百二	第一百二
一百三	第一百三	第一百三
一百四	第一百四	第一百四
一百五	第一百五	第一百五
一百六	第一百六	第一百六
一百七	第一百七	第一百七
一百八	第一百八	第一百八
一百九	第一百九	第一百九
一百十	第一百十	第一百十

第三號表

階等	勅任待遇	勅親任任
一判	四・四圓	一一〇・〇圓
一等	一六・六圓	奏任 至三等乃 一五・六圓 奏
二等	一八・〇圓	奏任 至六等乃 一六・八圓 奏
三等	一八・六圓	奏任 待遇 一六・八圓 奏
一判	一六・八圓	一判 一一〇・八圓
一等	一八・〇圓	判任 二等 一二・〇圓
二等	一八・六圓	判任 待遇 一二・〇圓
三等	二〇・〇圓	一判 一三・四圓
一判	二〇・八圓	判任 一等 一四・〇圓
一等	二一・六圓	判任 待遇 一四・八圓
二等	二二・四圓	一判 一五・四圓
三等	二三・三圓	判任 一等 一六・〇圓
一判	二四・二圓	判任 待遇 一六・八圓
一等	二五・〇圓	一判 一七・六圓
二等	二五・八圓	判任 一等 一八・四圓
三等	二六・六圓	判任 待遇 一九・二圓
一判	二七・四圓	一判 二〇・〇圓
一等	二八・二圓	判任 一等 二〇・八圓
二等	二九・〇圓	判任 待遇 二一・六圓
三等	二九・八圓	一判 二二・四圓
一判	三〇・六圓	判任 一等 二三・二圓
一等	三一・四圓	判任 待遇 二四・〇圓
二等	三二・二圓	一判 二四・八圓
三等	三三・〇圓	判任 一等 二五・六圓
一判	三三・八圓	判任 待遇 二六・四圓
一等	三四・六圓	一判 二七・二圓
二等	三五・四圓	判任 一等 二八・〇圓
三等	三六・二圓	判任 待遇 二八・八圓
一判	三七・〇圓	一判 二九・六圓
一等	三七・八圓	判任 一等 三〇・四圓
二等	三八・六圓	判任 待遇 三一・二圓
三等	三九・四圓	一判 三二・〇圓
一判	四〇・二圓	判任 一等 三二・八圓
一等	四一・〇圓	判任 待遇 三三・六圓
二等	四一・八圓	一判 三四・四圓
三等	四二・六圓	判任 一等 三五・二圓
一判	四三・四圓	判任 待遇 三六・〇圓
一等	四四・二圓	一判 三六・八圓
二等	四五・〇圓	判任 一等 三七・六圓
三等	四五・八圓	判任 待遇 三八・四圓
一判	四六・六圓	一判 三九・二圓
一等	四七・四圓	判任 一等 四〇・〇圓
二等	四八・二圓	判任 待遇 四〇・八圓
三等	四九・〇圓	一判 四一・六圓
一判	四九・八圓	判任 一等 四二・四圓
一等	五〇・六圓	判任 待遇 四三・二圓
二等	五一・四圓	一判 四四・〇圓
三等	五二・二圓	判任 一等 四四・八圓
一判	五三・〇圓	判任 待遇 四五・六圓
一等	五三・八圓	一判 四六・四圓
二等	五四・六圓	判任 一等 四七・二圓
三等	五五・四圓	判任 待遇 四八・〇圓
一判	五六・二圓	一判 四八・八圓
一等	五七・〇圓	判任 一等 四九・六圓
二等	五七・八圓	判任 待遇 五〇・四圓
三等	五八・六圓	一判 五一・二圓
一判	五九・四圓	判任 一等 五二・〇圓
一等	六〇・二圓	判任 待遇 五二・八圓
二等	六一・〇圓	一判 五三・六圓
三等	六一・八圓	判任 一等 五四・四圓
一判	六二・六圓	判任 待遇 五五・二圓
一等	六三・四圓	一判 五六・〇圓
二等	六四・二圓	判任 一等 五六・八圓
三等	六五・〇圓	判任 待遇 五七・六圓
一判	六五・八圓	一判 五八・四圓
一等	六六・六圓	判任 一等 五九・二圓
二等	六七・四圓	判任 待遇 六〇・〇圓
三等	六八・二圓	一判 六〇・八圓
一判	六九・〇圓	判任 一等 六一・六圓
一等	六九・八圓	判任 待遇 六二・四圓
二等	七〇・六圓	一判 六三・二圓
三等	七一・四圓	判任 一等 六四・〇圓
一判	七二・二圓	判任 待遇 六四・八圓
一等	七三・〇圓	一判 六五・六圓
二等	七三・八圓	判任 一等 六六・四圓
三等	七四・六圓	判任 待遇 六七・二圓
一判	七五・四圓	一判 六八・〇圓
一等	七六・二圓	判任 一等 六八・八圓
二等	七七・〇圓	判任 待遇 六九・六圓
三等	七七・八圓	一判 七〇・四圓
一判	七八・六圓	判任 一等 七一・二圓
一等	七九・四圓	判任 待遇 七二・〇圓
二等	八〇・二圓	一判 七二・八圓
三等	八一・〇圓	判任 一等 七三・六圓
一判	八一・八圓	判任 待遇 七四・四圓
一等	八二・六圓	一判 七五・二圓
二等	八三・四圓	判任 一等 七六・〇圓
三等	八四・二圓	判任 待遇 七六・八圓
一判	八五・〇圓	一判 七七・六圓
一等	八五・八圓	判任 一等 七八・四圓
二等	八六・六圓	判任 待遇 七九・二圓
三等	八七・四圓	一判 八〇・〇圓
一判	八八・二圓	判任 一等 八〇・八圓
一等	八九・〇圓	判任 待遇 八一・六圓
二等	八九・八圓	一判 八二・四圓
三等	九〇・六圓	判任 一等 八三・二圓
一判	九一・四圓	判任 待遇 八四・〇圓
一等	九二・二圓	一判 八四・八圓
二等	九三・〇圓	判任 一等 八五・六圓
三等	九三・八圓	判任 待遇 八六・四圓
一判	九四・六圓	一判 八七・二圓
一等	九五・四圓	判任 一等 八八・〇圓
二等	九六・二圓	判任 待遇 八八・八圓
三等	九七・〇圓	一判 八九・六圓
一判	九七・八圓	判任 一等 九〇・四圓
一等	九八・六圓	判任 待遇 九一・二圓
二等	九九・四圓	一判 九二・〇圓
三等	一〇〇・二圓	判任 一等 九二・八圓
一判	一〇一・〇圓	判任 待遇 九三・六圓
一等	一〇一・八圓	一判 九四・四圓
二等	一〇二・六圓	判任 一等 九五・二圓
三等	一〇三・四圓	判任 待遇 九六・〇圓
一判	一〇四・二圓	一判 九六・八圓
一等	一〇五・〇圓	判任 一等 九七・六圓
二等	一〇五・八圓	判任 待遇 九八・四圓
三等	一〇六・六圓	一判 九九・二圓
一判	一〇七・四圓	判任 一等 一〇〇・〇圓
一等	一〇八・二圓	判任 待遇 一〇〇・八圓
二等	一〇九・〇圓	一判 一〇一・六圓
三等	一〇九・八圓	判任 一等 一〇二・四圓
一判	一一〇・六圓	判任 待遇 一〇三・二圓
一等	一一一・四圓	一判 一〇四・〇圓
二等	一一二・二圓	判任 一等 一〇四・八圓
三等	一一三・〇圓	判任 待遇 一〇五・六圓
一判	一一三・八圓	一判 一〇六・四圓
一等	一一四・六圓	判任 一等 一〇七・二圓
二等	一一五・四圓	判任 待遇 一〇八・〇圓
三等	一一六・二圓	一判 一〇八・八圓
一判	一一七・〇圓	判任 一等 一〇九・六圓
一等	一一七・八圓	判任 待遇 一一〇・四圓
二等	一一八・六圓	一判 一一一・二圓
三等	一一九・四圓	判任 一等 一一二・〇圓
一判	一二〇・二圓	判任 待遇 一一二・八圓
一等	一二一・〇圓	一判 一一三・六圓
二等	一二一・八圓	判任 一等 一一四・四圓
三等	一二二・六圓	判任 待遇 一一五・二圓
一判	一二三・四圓	一判 一一六・〇圓
一等	一二四・二圓	判任 一等 一一六・八圓
二等	一二五・〇圓	判任 待遇 一一七・六圓
三等	一二五・八圓	一判 一一八・四圓
一判	一二六・六圓	判任 一等 一一九・二圓
一等	一二七・四圓	判任 待遇 一二〇・〇圓
二等	一二八・二圓	一判 一二〇・八圓
三等	一二九・〇圓	判任 一等 一二一・六圓
一判	一二九・八圓	判任 待遇 一二二・四圓
一等	一三〇・六圓	一判 一二三・二圓
二等	一三一・四圓	判任 一等 一二四・〇圓
三等	一三二・二圓	判任 待遇 一二四・八圓
一判	一三三・〇圓	一判 一二五・六圓
一等	一三三・八圓	判任 一等 一二六・四圓
二等	一三四・六圓	判任 待遇 一二七・二圓
三等	一三五・四圓	一判 一二八・〇圓
一判	一三六・二圓	判任 一等 一二八・八圓
一等	一三七・〇圓	判任 待遇 一二九・六圓
二等	一三七・八圓	一判 一三〇・四圓
三等	一三八・六圓	判任 一等 一三一・二圓
一判	一三九・四圓	判任 待遇 一三二・〇圓
一等	一四〇・二圓	一判 一三二・八圓
二等	一四一・〇圓	判任 一等 一三三・六圓
三等	一四一・八圓	判任 待遇 一三四・四圓
一判	一四二・六圓	一判 一三五・二圓
一等	一四三・四圓	判任 一等 一三六・〇圓
二等	一四四・二圓	判任 待遇 一三六・八圓
三等	一四五・〇圓	一判 一三七・六圓
一判	一四五・八圓	判任 一等 一三八・四圓
一等	一四六・六圓	判任 待遇 一三九・二圓
二等	一四七・四圓	一判 一四〇・〇圓
三等	一四八・二圓	判任 一等 一四〇・八圓
一判	一四九・〇圓	判任 待遇 一四一・六圓
一等	一四九・八圓	一判 一四二・四圓
二等	一五〇・六圓	判任 一等 一四三・二圓
三等	一五一・四圓	判任 待遇 一四四・〇圓
一判	一五二・二圓	一判 一四四・八圓
一等	一五三・〇圓	判任 一等 一四五・六圓
二等	一五三・八圓	判任 待遇 一四六・四圓
三等	一五四・六圓	一判 一四七・二圓
一判	一五五・四圓	判任 一等 一四八・〇圓
一等	一五六・二圓	判任 待遇 一四八・八圓
二等	一五七・〇圓	一判 一四九・六圓
三等	一五七・八圓	判任 一等 一五〇・四圓
一判	一五八・六圓	判任 待遇 一五一・二圓
一等	一五九・四圓	一判 一五二・〇圓
二等	一六〇・二圓	判任 一等 一五二・八圓
三等	一六一・〇圓	判任 待遇 一五三・六圓
一判	一六一・八圓	一判 一五四・四圓
一等	一六二・六圓	判任 一等 一五五・二圓
二等	一六三・四圓	判任 待遇 一五六・〇圓
三等	一六四・二圓	一判 一五六・八圓
一判	一六五・〇圓	判任 一等 一五七・六圓
一等	一六五・八圓	判任 待遇 一五八・四圓
二等	一六六・六圓	一判 一五九・二圓
三等	一六七・四圓	判任 一等 一六〇・〇圓
一判	一六八・二圓	判任 待遇 一六〇・八圓
一等	一六九・〇圓	一判 一六一・六圓
二等	一六九・八圓	判任 一等 一六二・四圓
三等	一七〇・六圓	判任 待遇 一六三・二圓
一判	一七一・四圓	一判 一六四・〇圓
一等	一七二・二圓	判任 一等 一六四・八圓
二等	一七三・〇圓	判任 待遇 一六五・六圓
三等	一七三・八圓	一判 一六六・四圓
一判	一七四・六圓	判任 一等 一六七・二圓
一等	一七五・四圓	判任 待遇 一六八・〇圓
二等	一七六・二圓	一判 一六八・八圓
三等	一七七・〇圓	判任 一等 一六九・六圓
一判	一七七・八圓	判任 待遇 一七〇・四圓
一等	一七八・六圓	一判 一七一・二圓
二等	一七九・四圓	判任 一等 一七二・〇圓
三等	一八〇・二圓	判任 待遇 一七二・八圓
一判	一八一・〇圓	一判 一七三・六圓
一等	一八一・八圓	判任 一等 一七四・四圓
二等	一八二・六圓	判任 待遇 一七五・二圓
三等	一八三・四圓	一判 一七六・〇圓
一判	一八四・二圓	判任 一等 一七六・八圓
一等	一八五・〇圓	判任 待遇 一七七・六圓
二等	一八五・八圓	一判 一七八・四圓
三等	一八六・六圓	判任 一等 一七九・二圓
一判	一八七・四圓	判任 待遇 一八〇・〇圓
一等	一八八・二圓	一判 一八〇・八圓
二等	一八九・〇圓	判任 一等 一八一・六圓
三等	一八九・八圓	判任 待遇 一八二・四圓
一判	一九〇・六圓	一判 一八三・二圓
一等	一九一・四圓	判任 一等 一八四・〇圓
二等	一九二・二圓	判任 待遇 一八四・八圓
三等	一九三・〇圓	一判 一八五・六圓
一判	一九三・八圓	判任 一等 一八六・四圓
一等	一九四・六圓	判任 待遇 一八七・二圓
二等	一九五・四圓	一判 一八八・〇圓
三等	一九六・二圓	判任 一等 一八八・八圓
一判	一九七・〇圓	判任 待遇 一八九・六圓
一等	一九七・八圓	一判 一九〇・四圓
二等	一九八・六圓	判任 一等 一九一・二圓
三等	一九九・四圓	判任 待遇 一九二・〇圓
一判	二〇〇・二圓	一判 一九二・八圓
一等	二〇一・〇圓	判任 一等 一九三・六圓
二等	二〇一・八圓	判任 待遇 一九四・四圓
三等	二〇二・六圓	一判 一九五・二圓
一判	二〇三・四圓	判任 一等 一九六・〇圓
一等	二〇四・二圓	判任 待遇 一九六・八圓
二等	二〇五・〇圓	一判 一九七・六圓
三等	二〇五・八圓	判任 一等 一九八・四圓
一判	二〇六・六圓	判任 待遇 一九九・二圓
一等	二〇七・四圓	一判 二〇〇・〇圓
二等	二〇八・二圓	判任 一等 二〇〇・八圓
三等	二〇九・〇圓	判任 待遇 二〇一・六圓
一判	二〇九・八圓	一判 二〇二・四圓
一等	二一〇・六圓	判任 一等 二〇三・二圓
二等	二一一・四圓	判任 待遇 二〇四・〇圓
三等	二一二・二圓	一判 二〇四・八圓
一判	二一三・〇圓	判任 一等 二〇五・六圓
一等	二一三・八圓	判任 待遇 二〇六・四圓
二等	二一四・六圓	一判 二〇七・二圓
三等	二一五・四圓	判任 一等 二〇八・〇圓
一判	二一六・二圓	判任 待遇 二〇八・八圓
一等	二一七・〇圓	一判 二〇九・六圓
二等	二一七・八圓	判任 一等 二一〇・四圓
三等	二一八・六圓	判任 待遇 二一一・二圓
一判	二一九・四圓	一判 二一二・〇圓
一等	二二〇・二圓	判任 一等 二一二・八圓
二等	二二一・〇圓	判任 待遇 二一三・六圓
三等	二二一・八圓	一判 二一四・四圓
一判	二二二・六圓	判任 一等 二一五・二圓
一等	二二三・四圓	判任 待遇 二一六・〇圓
二等	二二四・二圓	一判 二一六・八圓
三等	二二五・〇圓	判任 一等 二一七・六圓
一判	二二五・八圓	判任 待遇 二一八・四圓
一等	二二六・六圓	一判 二一九・二圓
二等	二二七・四圓	判任 一等 二二〇・〇圓
三等	二二八・二圓	判任 待遇 二二〇・八圓
一判	二二九・〇圓	一判 二二一・六圓
一等	二二九・八圓	判任 一等 二二二・四圓
二等	二三〇・六圓	判任 待遇 二二三・二圓
三等	二三一・四圓	一判 二二四・〇圓
一判	二三二・二圓	判任 一等 二二四・八圓
一等	二三三・〇圓	判任 待遇 二二五・六圓
二等	二三三・八圓	一判 二二六・四圓
三等	二三四・六圓	判任 一等 二二七・二圓
一判	二三五・四圓	判任 待遇 二二八・〇圓
一等	二三六・二圓	一判 二二八・八圓
二等	二三七・〇圓	判任 一等 二二九・六圓
三等	二三七・八圓	判任 待遇 二三〇・四圓
一判	二三八・六圓	一判 二三一・二圓
一等	二三九・四圓	判任 一等 二三二・〇圓
二等	二四〇・二圓	判任 待遇 二三二・八圓
三等	二四一・〇圓	一判 二三三・六圓
一判	二四一・八圓	判任 一等 二三四・四圓
一等	二四二・六圓	判任 待遇 二三五・二圓
二等	二四三・四圓	一判 二三六・〇圓
三等	二四四・二圓	判任 一等 二三六・八圓
一判	二四五・〇圓	判任 待遇 二三七・六圓
一等	二四五・八圓	一判 二三八・四圓
二等	二四六・六圓	判任 一等 二三九・二圓
三等	二四七・四圓	判任 待遇 二四〇・〇圓
一判	二四八・二圓	一判 二四〇・八圓
一等	二四九・〇圓	判任 一等 二四一・六圓
二等	二四九・八圓	判任 待遇 二四二・四圓
三等	二五〇・六圓	一判 二四三・二圓
一判	二五一・四圓	判任 一等 二四四・〇圓
一等	二五二・二圓	判任 待遇 二四四・八圓
二等	二五三・〇圓	一判 二四五・六圓
三等	二五三・八圓	判任 一等 二四六・四圓
一判	二五四・六圓	判任 待遇 二四七・二圓
一等	二五五・四圓	一判 二四八・〇圓
二等	二五六・二圓	判任 一等 二四八・八圓
三等	二五七・〇圓	判任 待遇 二四九・六圓
一判	二五七・八圓	一判 二五〇・四圓
一等	二五八・六圓	判任 一等 二五一・二圓
二等	二五九・四圓	判任 待遇 二五二・〇圓
三等	二六〇・二圓	一判 二五二・八圓
一判	二六一・〇圓	判任 一等 二五三・六圓
一等	二六一・八圓	判任 待遇 二五四・四圓
二等	二六二・六圓	一判 二五五・二圓
三等	二六三・四圓	判任 一等 二五六・〇圓
一判	二六四・二圓	判任 待遇 二五六・八圓
一等	二六五・〇圓	一判 二五七・六圓
二等	二六五・八圓	判任 一等 二五八・四圓
三等	二六六・六圓	判任 待遇 二五九・二圓
一判	二六七・四圓	一判 二六〇・〇圓
一等	二六八・二圓	判任 一等 二六〇・八圓
二等	二六九・〇圓	判任 待遇 二六一・六圓
三等	二六九・八圓	一判 二六二・四圓
一判	二七〇・六圓	判任 一等 二六三・二圓
一等	二七一・四圓	判任 待遇 二六四・〇圓
二等	二七二・二圓	一判 二六四・八圓
三等	二七三・〇圓	判任 一等 二六五・六圓
一判	二七三・八圓	判任 待遇 二六六・四圓
一等	二七四・六圓	一判 二六七・二圓
二等	二七五・四圓	判任 一等 二六八・〇圓
三等	二七六・二圓	判任 待遇 二六八・八圓
一判	二七七・〇圓	一判 二六九・六圓
一等	二七七・八圓	判任 一等 二七〇・四圓
二等	二七八・六圓	判任 待遇 二七一・二圓
三等	二七九・四圓	一判 二七二・〇圓
一判	二八〇・二圓	判任 一等 二七二・八圓
一等	二八一・〇圓	判任 待遇 二七三・六圓
二等	二八一・八圓	一判 二七四・四圓
三等	二八二・六圓	判任 一等 二七五・二圓
一判	二八三・四圓	判任 待遇 二七六・〇圓
一等	二八四・二圓	一判 二七六・八圓
二等	二八五・〇圓	判任 一等 二七七・六圓
三等	二八五・八圓	判任 待遇 二七八・四圓
一判	二八六・六圓	一判 二七九・二圓
一等	二八七・四圓	判任 一等 二八〇・〇圓
二等	二八八・二圓	判任 待遇 二八〇・八圓
三等	二八九・〇圓	一判 二八一・六圓
一判	二八九・八圓	判任 一等 二八二・四圓
一等	二九〇・六圓	判任 待遇 二八三・二圓
二等	二九一・四圓	一判 二八四・〇圓
三等	二九二・二圓	判任 一等 二八四・八圓
一判	二九三・〇圓	判任 待遇 二八五・六圓
一等	二九三・八圓	一判 二八六・四圓
二等	二九四・六圓	判任 一等 二八七・二圓
三等	二九五・四圓	判任 待遇 二八八・〇圓
一判	二九六・二圓	一判 二八八・八圓
一等	二九七・〇圓	判任 一等 二八九・六圓
二等	二九七・八圓	判任 待遇 二九〇・四圓
三等	二九八・六圓	一判 二九一・二圓
一判	二九九・四圓	判任 一等 二九二・〇圓
一等	三〇〇・二圓	判任 待遇 二九二・八圓
二等	三〇一・〇圓	一判 二九三・六圓
三等	三〇一・八圓	判任 一等 二九四・四圓
一判	三〇二・六圓	判任 待遇 二九五・二圓
一等	三〇三・四圓	一判 二九六・〇圓
二等	三〇四・二圓	判任 一等 二九六・八圓
三等	三〇五・〇圓	判任 待遇 二九七・六圓
一判	三〇五・八圓	一判 二九八・四圓
一等	三〇六・六圓	判任 一等 二九九・二圓
二等	三〇七・四圓	判任 待遇 三〇〇・〇圓
三等	三〇八・二圓	一判 三〇〇・八圓
一判	三〇九・〇圓	判任 一等 三〇一・六圓
一等	三〇九・八圓	判任 待遇 三〇二・四圓
二等	三一〇・六圓	一判 三〇三・二圓
三等	三一一・四圓	判任 一等 三〇四・〇圓
一判	三一二・二圓	判任 待遇 三〇四・八圓
一等	三一三・〇圓	一判 三〇五・六圓
二等	三一三・八圓	判任 一等 三〇六・四圓
三等	三一四・六圓	判任 待遇 三〇七・二圓
一判	三一五・四圓	一判 三〇八・〇圓
一等	三一六・二圓	判任 一等 三〇八・八圓
二等	三一七・〇圓	判任 待遇 三〇九・六圓
三等	三一七・八圓	一判 三一〇・四圓
一判	三一八・六圓	判任 一等 三一一・二圓
一等	三一九・四圓	判任 待遇 三一二・〇圓
二等	三二〇・二圓	一判 三一二・八圓
三等	三二一・〇圓	判任 一等 三一三・六圓
一判	三二一・八圓	判任 待遇 三一四・四圓
一等	三二二・六圓	一判 三一五・二圓
二等	三二三・四圓	判任 一等 三一六・〇圓
三等	三二四・二圓	判任 待遇 三一六・八圓
一判	三二五・〇圓	一判 三一七・六圓
一等	三二五・八圓	判任 一等 三一八・四圓
二等	三二六・六圓	判任 待遇 三一九・二圓
三等	三二七・四圓	一判 三二〇・〇圓
一判	三二八・二圓	判任 一等 三二〇・八圓
一等	三二九・〇圓	判任 待遇 三二一・六圓
二等	三二九・八圓	一判 三二二・四圓
三等	三三〇・六圓	判任 一等 三二三・二圓
一判	三三一・四圓	判任 待遇 三二四・〇圓
一等	三三二・二圓	一判 三二四・八圓
二等	三三三・〇圓	判任 一等 三二五・六圓
三等	三三三・八圓	判任 待遇 三二六・四圓
一判	三三四・六圓	一判 三二七・二圓
一等	三三五・四圓	判任 一等 三二八・〇圓
二等	三三六・二圓	判任 待遇 三二八・八圓
三等	三三七・〇圓	一判 三二九・六圓
一判	三三七・八圓	判任 一等 三三〇・四圓
一等	三三八・六圓	判任 待遇 三三一・二圓
二等	三三九・四圓	一判 三三二・〇圓
三等	三四〇・二圓	判任 一等 三三二・八圓
一判	三四一・〇圓	判任 待遇 三三三・六圓
一等	三四一・八圓	一判 三三四・四圓
二等	三四二・六圓	判任 一等 三三五・二圓
三等	三四三・四圓	判任 待遇 三三六・〇圓
一判	三四四・二圓	一判 三三六・八圓
一等	三四五・〇圓	判任 一等 三三七・六圓
二等	三四五・八圓	判任 待遇 三三八・四圓
三等	三四六・六圓	一判 三三九・二圓
一判	三四七・四圓	判任 一

四　脚氣（戰地ニ限ル）
五　發疹チフス
六　腸チフス
七　パラチフス
八　ペスト
九　回歸熱
十　赤痢
十一　流行性腦脊髓膜炎
十二　流行性感冒
十三　肺ヂストマ病
十四　トリパノゾーム病
十五　ワイルス氏病
十六　カラアザール
十七　黃熱

第四條　宮內省恩給令第三十三條第二項ノ規定ニ依ル戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病トハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一　戰地ニ於テ勤務中敵ノ設置若ハ遺棄シタル危險物ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病
二　暴徒鎭壓又ハ集團ヲ爲ス馬賊海賊警人等討伐中ノ敵對行動ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病
三　外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域內ニ於テ勤務中又ハ該地域內ヲ職務ヲ以テ旅行中ニ於ケル該交戰又ハ擾亂ニ因ル傷痍疾病
四　警護ノ任務ヲ有スル宮內職員危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ執行スルニ因リテ加ヘラレタル傷痍疾病
五　職務ヲ以テコレラ又ハペストノ防疫、診療又ハ看護ニ直接從事シ之カ爲罹リタル該疾病

第五條　宮內省恩給令第三十三條第二項ノ規定ニ依リ不具廢疾ノ程度ヲ分チテ左ノ八項トス

特別項症

一　常ニ就床ヲ要シ且複雜ナル介護ヲ要スルモノ
二　重大ナル精神障碍ノ爲常ニ監視又ハ複雜ナル介護ヲ要スルモノ
三　兩眼ノ視力カ明暗ヲ辨別シ得サルモノ
四　身體諸部ノ障碍ヲ綜合シテ其ノ程度第一項症ニ第一項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ

第一項症

一　複雜ナル介護ヲ要セサルモ常ニ就床ヲ要スルモノ
二　精神的又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅ニ自用ヲ辨シ得ルニ過キサルモノ
三　咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ廢シタルモノ
四　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
五　肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
六　膝關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第二項症

一　精神的又ハ身體的作業能力ノ大部ヲ失ヒタルモノ
二　咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ
三　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
四　兩耳全ク聾シタルモノ
五　大動脈瘤、鎖骨下動脈瘤、總頸動脈瘤、無名動脈瘤又ハ腸骨動脈瘤ヲ發シタルモノ
六　腕關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
七　足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第三項症

一　肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
二　膝關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第四項症

一　精神的又ハ身體的作業能力ヲ著シク妨クルモノ
二　咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ著シク妨クルモノ
三　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
四　兩耳ノ聽力カ〇・〇五メートル以上ニテハ大聲ヲ解シ得サルモノ
五　泌尿器ノ機能ヲ著シク妨クルモノ
六　兩睾丸ヲ全ク失ヒタルモノニシテ脫落症狀ノ著シカラサルモノ
七　腕關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
八　足關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第五項症

一　頭部、顏面等ニ大ナル醜形ヲ殘シタルモノ
二　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
三　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
四　兩耳全ク聾シ他耳尋常ノ話聲ヲ一・五メートル以上ニテハ解シ得サルモノ
五　一側總指ヲ全ク失ヒタルモノ

第六項症

一　精神的又ハ身體的作業能力ヲ高度ニ妨クルモノ
二　頸部又ハ軀幹ノ運動ニ著シク妨アルモノ
三　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
四　脾臟ヲ失ヒタルモノ
五　一側拇指及示指ヲ全ク失ヒタルモノ
六　一側總指ノ機能ヲ廢シタルモノ

第七項症

一　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
二　一耳全ク聾シ他耳尋常ノ話聲ヲ一・五メートル以上ニテハ解シ得サルモノ
三　一側腎臟ヲ失ヒタルモノ
四　一側拇指ヲ全ク失ヒタルモノ
五　一側示指乃至小指ヲ全ク失ヒタルモノ
六　一側足關節カ直角位ニ於テ强剛シタルモノ
七　一側總趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前項ノ各症ニ該當セサル傷痍疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ査定ス

視力ヲ測定スル場合ニ於テハ屈折異常ノモノニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬國共通視力標ニ依ル

第五條ノ二　宮內省恩給令第三十三條第二項ノ規定ニ依リ傷病年金ヲ給

スヘキ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ四款トス

第一款症

一　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

二　一耳全ク聾シタルモノ

三　一側拇指ノ機能ヲ廢シタルモノ

四　一側示指乃至小指ノ機能ヲ廢シタルモノ

五　一側總趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第二款症

一　精神的又ハ身體的作業能力ヲ輕度ニ妨クルモノ

二　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ三・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三　一耳ノ聽力カ〇・〇五メートル以上ニテハ大聲ヲ解シ得サルモノ

四　一側睾丸ヲ全ク失ヒタルモノ

五　一側示指ヲ全ク失ヒタルモノ

六　一側第一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第三款症

一　一側示指ノ機能ヲ廢シタルモノ

二　一側中指ヲ全ク失ヒタルモノ

三　一側第一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

四　一側第二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第四款症

一　一眼ノ視力カ〇・一ニ滿タサルモノ

二　一耳ノ聽力カ尋常ノ話聲ヲ〇・五メートル以上ニテハ解シ得サルモノ

三　一側中指ノ機能ヲ廢シタルモノ

四　一側環指ヲ全ク失ヒタルモノ

五　一側第二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

六　一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ査定ニ付之ヲ準用ス

第六條　待遇職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一　雅樂師長及奏任待遇タル爵司長ハ奏任八等トス

二　判任待遇職員ハ判任四等トス

第六條ノ二　宮内省恩給令第四十三條第一項第四號ニ規定スル恩給外ノ所得トハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一　恩給受給者カ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スル場合ニ於ケル所得但シ右地域外ニ於ケル資產、營業又ハ職業ヨリ生スル所得ヲ含ム

二　恩給受給者カ前號ニ規定スル地域内ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有セサル場合ニ於テ右地域内ニ有スル資產又ハ事業ヨリ生スル所得

三　前號ノ恩給受給者カ第一號ニ規定スル地域内ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配

四　第二號ノ恩給受給者カ第一號ニ規定スル地域内ニ於テ受クル俸給、給料、歲費、費用辨償（月額又ハ年額ヲ以テ支給スルモノニ限ル）、年金（郵便年金ヲ除ク）、賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與

第六條ノ三　前條第三號及第四號ニ揭クルモノ以外ノ恩給外ノ所得ハ所得稅法ニ規定スル個人ノ總所得中同法第二十九條及第三十條第一項第二號ニ揭クル所得ヲ除キタルモノト同範圍トス

第六條ノ四　恩給外ノ所得ノ計算ニ關シテハ所得稅法第三十條第一項乃至第四項及第六項竝所得稅法施行規則第三十四條ノ規定ヲ準用ス

第六條ノ五　年額千圓以上ノ恩給ヲ受クル者ハ毎年三月三十一日迄ニ恩給外ノ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ之ヲ宮内大臣ニ屆出ツヘシ

第六條ノ六　恩給外ノ所得ハ毎年前條ノ屆出ニ基キ宮内大臣之ヲ決定ス

前項ノ決定ニ對シ異議アルトキハ再審査ヲ求ムルコトヲ得

第六條ノ七　宮内省恩給令第四十三條第一項第四號ノ規定ニ依ル恩給ノ一部停止ハ恩給外ノ所得ノ決定ニ基キ其ノ年ノ四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル期間分ノ恩給ニ付テ之ヲ爲ス但シ其ノ前年以前ノ分ノ恩給ニ付停止ヲ爲スヘキ場合ニ於テ恩給ノ請求又ハ裁定ノ遲延ニ因リ一般ノ手續ニ依リテ恩給外ノ所得ヲ決定スルコトヲ得サルトキハ其ノ分ニ付テハ一般ノ場合ニ準シ臨時ニ恩給外ノ所得ヲ決定ス此ノ場合ニ於テハ其ノ停止額ハ後ノ恩給支給額中ヨリモ之ヲ控除スルコトヲ得

恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル年分ノ恩給ニ付テハ宮内省恩給令第四十三條第一項第四號ノ規定ニ依ル恩給ノ一部停止ノ手續ヲ行ハス

恩給給與ノ止ムヘキ事由生シタル場合ニ於テハ恩給ノ停止ハ其ノ事由ノ生シタル月分迄ノ恩給ニ付之ヲ爲ス

第六條ノ八　宮内省恩給令第四十五條ノ二ノ規定ニ依リ納付スヘキ金額ハ再就職後再退職ニ至ル迄ノ期間内ニ納付セシム但シ分納ヲ妨ケス

前項ノ規定ニ依リ一時恩給ノ全部又ハ一部ヲ納付シ失格原因ナクシテ再在職ヲ退職シタルニ拘ラス普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生セサル場合ニ於テハ納付金ハ之ヲ納付者ニ還付ス

第六條ノ九　宮内省恩給令第五十一條第三項但書ニ規定スル遺族ノ員數ニ依ル加給ニ付テハ左ノ區分ニ依ル

一　同一戸籍内ニ扶助料ヲ受クル者二人以上アル場合又ハ二以上ノ扶助料ヲ併セ受クル者アル場合ニ於テハ其ノ各ノ扶助料ニ付共通ニ加給ノ原因タルヘキ遺族ハ宮内大臣ニ於テ最初ニ請求ヲ受理シタル扶助料ニ付テノミ加給ノ原因タルモノトス但シ前段ノ場合ニ在リテハ各ノ扶助料ヲ受クル者全員ノ連署ヲ以テ、後段ノ場合ニ在リテハ之ヲ併セ受クル者ヨリ宮内大臣ニ於テ後ニ請求ヲ受理シタル一ノ扶助料ニ付テノミ加給ノ原因タラシムルコトヲ請求シタルトキハ後扶助料ノ加給額カ最初ノ扶助料ノ加給額ヨリ多額ト爲ル場合ニ限リ改定請求アリタル月ノ翌月ヨリ加給額ヲ改定ス

二　前號ニ揭クル各ノ扶助料ノ請求ヲ宮内大臣ニ於テ同日ニ受理シタルトキハ其ノ各ノ扶助料ニ付共通ニ加給ノ原因タルヘキ遺族ハ加給額ノ最多額ト爲ル扶助料ニ付テノミ加給ノ原因タルモノトス

前項第一號但書ノ規定ニ依リ加給額ヲ改定シタル後ニ於テ請求セラレタル扶助料アル場合ニ於テハ其ノ扶助料ニ加給ヲ爲ストキ其ノ加給額カ既ニ改定セラレタル加給額ヨリ多額ト爲ル場合ニ限リ更ニ改定ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前項第一號但書ノ規定ヲ準用ス

第七條　宮内省恩給令第六十六條ノ規定ニ依ル内地人タル宮内職員ノ朝鮮在勤加算ハ朝鮮以外ノ地ヨリ朝鮮ニ赴任シタル者ニ付テハ朝鮮ニ到

者シタル月ヨリ翌鮮ニ在リテ就職シタル者ニ付テハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ其ノ在勤ヲ止メラレタル月ヲ以テ終ル

朝鮮ニ在勤中引續キ九十日以上前鮮ヲ離レタルトキハ全ク朝鮮ヲ離レタル月ニ對シテハ在勤加算ヲ爲サス

第八條　宮内省恩給令第七十條ノ規定ニ依ル增額ハ左ノ區分ニ依ル

一　普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給カ大正九年七月三十一日以前ノ俸給規程ニ依ルモノナルトキハ別表第一號表ノ區分ニ依リ增加シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ其ノ他ノモノナルトキハ在職最終ノ俸給年額ヲ基礎トシテ宮内省恩給令第四十四條、第四十五條及第五十一條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス

二　增加恩給ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ退職當時ノ階等並別表第二號表ニ依リ定メタル不具癈疾ノ程度ニ從ヒ宮内省恩給令第四十六條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ增加恩給ノ年額トス

第六條ノ規定ハ增加恩給年額ノ更正ニ付之ヲ準用ス

第九條　宮内省恩給令第七十一條ノ規定ニ依リ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ增加スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル退職、休職又ハ死亡當時ノ俸給年額ヲ別表第二號表ニ依ル假定俸給年額ニ增加シ之ヲ退職、休職又ハ死亡當時ノ俸給年額ト看做シ之ニ宮内省恩給令第七十條ノ規定ヲ適用ス

第十條　前二條ノ規定ハ宮内省恩給令第七十五條ノ規定ニ依リ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　昭和八年皇室令第一號附則第十二條ノ規定ニ依リ普通恩給額ノ申ヨリ控除スル額ノ年額ハ普通恩給額ノ十分ノ一トス

昭和八年皇室令第一號附則第十六條ノ規定ニ依リ改定普通恩給ヨリ控除スル金額ノ年額ハ改定ニ依リ增額スル金額ノ一年分ト同額トス

控除ハ控除金額ノ總額カ一時恩給金額ニ達シタルトキヲ以テ之ヲ止ム

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ執行ス

附　則（昭和十三年宮内省令第三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年皇室令第七號附則第二條ノ規定ニ依リテ爲ス扶助料ノ增給中宮内省恩給令第五十一條第二項ニ規定スル加給ニ該當スル ニ依リテ爲スモノハ昭和十三年四月一日以後ニ關スル殘存期間ニ付テノミ之ヲ爲ス

第六條ノ九ノ規定ハ昭和十三年皇室令第七號附則第二條ノ規定ニ依リテ增給セラルヘキ扶助料中宮内省恩給令第五十一條第二項但書ニ規定スル加給ノ場合ニ該當スルカ爲增給セラルヘキ扶助料ニ付之ヲ準用ス

昭和十三年皇室令第七號附則第二條ノ規定ニ依リテ爲ス增加恩給又ハ扶助料ノ增給ハ權利者ノ請求ヲ待タスシテ之ヲ爲ス但シ宮内省恩給令第五十一條第二項ニ規定スル加給ノ場合ニ該當スル扶助料ノ增給ハ權利者ノ請求ヲ待テ之ヲ爲ス

附　則（昭和十五年宮内省令第一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十五年五月一日公布）

別　表

第一號表

第二號表

令皇室令施行規則	宮内省恩給令施行規則	宮内省恩給令	從前ノ規定ニ依ル症狀等差	額キスヘ加金	年俸最在額給總
第九條	第十條		特別項	差百ト俸在ル圓七タ圓額終シ五	モ圓七圓六
第一號	第一項	第一項	第一項	額圓七給藏トヲチルヲニ俸在百	ノ未チヲ
第二號	第二項	第二項	第二項	トトチ年最キ超五額加五給藏圓	滿五超五
第三號	第三項	第三項	第三項	スノ五額終ハニ百カヘ百年最但	ノ百ニ百
第四號	第四項	第四項	第四項	ト俸在	サ圓六圓五
第五號	第五項	第五項	第五項	ノ七給藏	ルヲチヲ
第六號	第六項	第六項	第六項	差千年最	モ超五超五
				額圓終	ノニ百ニ百
				千	ヲ超五超三
				五	ノニ百ニ千
				百	サ圓五圓
				圓	ルヲチヲ
				ル加百額スニノ三年終在	モニ圓ニ圓千
				額ヘ圓ニル相十十額俸藏	ノサヲニヲニ
				タヲニ金當三分ノ給最	ル超千超百
				額加二金相ノ俸在	ルヲチ圓二
				ヘ十額當五給藏	モ超二ヲ百
				タ圓ニス額年最	ノニ百超六
				ルヲ百ルニ額終	サ圓ニチ
				三	モ超六超三
				百	ノニ十ニ百
				圓	サ圓二圓
				金當額年終在	ルヲ百ヲ
				額スニ額俸藏	モ以下三百
				ル相十給最	ノ圓

第三號表

高等官			判任官及皇室警手		
給死退年亡職額當休時職ノ又俸ハ	假定俸給年額		給死退年亡職額當休時職ノ又俸ハ	假定俸給年額	
六、〇〇〇	八、〇〇〇		九六〇	一、二一〇	
五、〇〇〇	六、〇〇〇		九〇〇	一、一四〇	
四、〇〇〇	五、〇〇〇		八四〇	一、〇二〇	
三、五〇〇	四、二〇〇		七八〇	九六〇	
三、二〇〇	三、九〇〇		七二〇	九〇〇	
三、〇〇〇	三、七〇〇		六六〇	八四〇	
二、八〇〇	三、五〇〇		六〇〇	七八〇	
二、六〇〇	三、二〇〇		五四〇	六六〇	
二、四〇〇	三、〇〇〇		四八〇	六〇〇	
二、二〇〇	二、七〇〇		四二〇	五二六	
二、〇〇〇	二、五〇〇	三百六十			
一、八〇〇	二、三〇〇	三百二十四圓以下			
一、六〇〇	二、〇〇〇	三百七十六圓以下			

ルヲ六タ七タ八額十ル十四圓額二額四圓ヲ圓ヲ加ヘ加ヘタ

一、四〇〇	一、七〇〇	二百二十八圓以下	四十八圓ヲ加ヘタル額
一、二〇〇	一、五〇〇	百、八十圓以下	三十六圓ヲ加ヘタル額
一、一〇〇	一、三〇〇	百三十二圓以下	二十四圓ヲ加ヘタル額
一、〇〇〇	一、二〇〇		
九〇〇	一、一〇〇		
八〇〇	一、〇〇〇		
七〇〇	八五〇		
六六〇	八〇〇		
六〇〇	七五〇		
五〇〇	六〇〇		
四〇〇	五〇〇		
三〇〇	二五〇		
二〇〇	二〇〇		
一五〇			

備考

一本表ノ俸給年額ニハ加俸ヲ包含セス恩給年額算出ノ基礎ト爲リタル加俸ハ其ノ實額ニ依ル

一本表ニ該當セサル俸給ニ付テハ之ニ其ノ俸給年額ノ二割五分ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノヲ以テ假定俸給年額トス但シ其ノ額カ實俸給年額ニ最モ近キ本表中ノ上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ヲ超過スルトキハ之ヲ當該上級俸給年額ニ對スル假定俸給年額ニ止ム

●宮内省恩給給與規則

大正十二年十月一日
宮内省令第十四號

改正　昭和五年第五號、八年第八號、一三年第四號

宮内省恩給給與規則左ノ通定ム

宮内省恩給給與規則

第一章　恩給ノ請求

第一條　普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受ケムトスル者ハ恩給請求書(第一號乃至第五號書式)ヲ宮内大臣ニ差出スヘシ

第二條　前條ノ恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　在職中ノ履歷書(第十七號書式)

二　戸籍抄本(之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ)(退職後請求迄ノ間ニ於テ作成セラレタルモノ)

增加恩給請求書又ハ傷病年金請求書ニハ前項各號ニ揭クル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　傷痍疾病カ公務ニ起因シタルコトヲ認ムルニ足ルヘキ現認者ノ現認證明書(第十八號書式)、所屬長ノ事實證明書(第十九號書式)等

二　症狀ノ經過ヲ記載シタル書類

三　請求當時ニ於ケル診斷書

恩給ヲ改定スル場合ニ於テ前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前二項各號ニ揭クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第三條　宮内省恩給令第三十四條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ再審査ヲ請求スル者ハ再審査請求書(第六號又ハ第七號書式)ニ前條第二項第二號及第三號ニ揭クル書類ヲ添ヘ宮内大臣ニ之ヲ差出スヘシ

再審査ノ請求アリタル場合ニ於テ宮内大臣ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定スル醫師ノ現在症狀證明書ノ提出ヲ請求者ニ命スルコトヲ得

第四條　一時恩給ヲ受ケムトスル者ハ一時恩給請求書(第八號書式)ニ在職中ノ履歷書ヲ添附シ宮内大臣ニ之ヲ差出スヘシ

第五條　扶助料ヲ受ケムトスル者ハ扶助料請求書(第九號又ハ第十號書式)ヲ宮内大臣ニ差出スヘシ

第六條　宮内省恩給令第四十九條第一項ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　宮内職員ノ在職中ノ履歷書

二　請求者ノ戸籍抄本但シ妻以外ノ請求者ニ在リテハ戸籍謄本(之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ)(宮内職員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ以下同シ)

前項ノ場合ニ於テ宮内職員前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前項各號ニ揭クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第七條　宮内省恩給令第五十九條ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　宮内職員カ已ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戸籍抄本但シ妻以外ノ請求者ニ在リテハ戸籍謄本

二　宮内職員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ前條第一項各號ニ揭クル書類

前條第二項ノ規定ハ前項第二號ニ揭クル書類ヲ添附スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第八條　前二條ノ場合ニ於テ宮内職員ノ死亡カ公務ニ因ル傷痍疾病ニ起因スルトキハ前二條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ第二條第二項第一號及第二號ニ揭クル書類竝死亡者ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スヘシ

前項ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スルコトヲ得サル場合ニ於テハ死亡ノ事實ヲ證スル公ノ證明書ヲ添附スヘシ

第九條　宮内省恩給令第四十九條第一項又ハ第五十九條ノ規定ニ依リ第二次以下ニ於テ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　前扶助料權者カ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタルコトヲ證スル書類

二　前扶助料權者ノ戸籍謄本

三　請求者ノ戸籍謄本

前項ノ場合ニ於テ前扶助料權者カ未タ扶助料ノ裁定ヲ經サルトキハ前項第一號ニ揭クル書類及前扶助料權者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ添附スルコトヲ要スル書類ヲ添附スヘシ

第十條　宮内省恩給令第五十條第二項ニ規定スル扶助料ヲ請求スル場合

ニ於テハ第六條乃至前條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ不具廢疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十條ノ二　宮内省恩給令第五十一條第三項及宮内省恩給令施行規則第六條ノ九ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給ヲ受クル扶助料權者ハ遺族ノ員數ノ增減ニ因リ加給スヘキ額ニ增減ヲ生シタル場合ニ於テハ扶助料改定請求書(第十一號書式)ニ改定ヲ受クヘキ扶助料ノ證書及戸籍ノ抄本又ハ謄本(遺族ノ員數ノ增減ヲ明瞭ニシ得ルモノ)ヲ添附シ宮内大臣ニ之ヲ差出スヘシ

第十三條　宮内省恩給令第五十一條第三項及宮内省恩給令施行規則第六條ノ九ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給ヲ受クル扶助料權者ハ遺族ノ員數ノ增減ニ因リ加給スヘキ額ニ增減ヲ生シタル場合ニ於テハ扶助料改定請求書(第十一號書式)ニ前項ノ加給セラレタル扶助料ノ證書及加給ヲ請求セムトスル扶助料ノ證書及戸籍ノ抄本又ハ謄本(遺族ノ員數ノ增減ヲ明瞭ニシ得ルモノ)ヲ添附シ宮内大臣ニ之ヲ差出スヘシ

第十一條　宮内省恩給令第五十四條ノ規定ニ依リ扶助料ノ停止ヲ申請スル者ハ扶助料停止申請書(第十三號書式)ニ左ノ書類ヲ添附シ宮内大臣ニ之ヲ差出スヘシ

一　扶助料權者ノ所在不明ナルコトヲ證スル公ノ證明書

二　請求者ノ戸籍謄本

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ宮内省恩給令第五十五條ノ規定ニ依ル扶助料轉給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十二條　宮内省恩給令第五十五條ノ規定ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル扶助料轉給請求書(第十四號書式)ニ請求者ノ戸籍謄本ヲ添附シ宮内大臣ニ之ヲ差出スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ請求者ノ戸籍謄本ヲ添附シタル場合ニ於テハ其ノ添附ヲ要セス

第十四條　宮内省恩給令第五十七條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ不具廢疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　宮内職員カ已ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戸籍謄本

二　宮内職員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ宮内職員ノ在職中ノ履歷書及請求者ノ戸籍謄本

第十五條　宮内省恩給令第五十八條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　宮内職員ノ在職中ノ履歷書

二　請求者ノ戸籍謄本

第十六條　宮内省恩給令第十一條第一項ノ規定ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ恩給ノ請求書ヲ宮内大臣ニ差出スヘシ

第十七條　前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求スストセハ添附スルコトヲ要スヘキ書類

二　請求者ノ戸籍謄本

第十八條　一時扶助料ヲ給セラルヘキ者數人アルトキ又ハ宮内省恩給令第十一條第一項若ハ第二項ノ相續人數人アルトキハ其ノ中一人ヲ總代者トシテ恩給ノ請求又ハ恩給支給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十九條　恩給ノ請求ニ付恩給證書ヲ添附スヘキ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ添附スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第二章　恩給ノ裁定

第二十條　恩給請求書ノ提出アリタルトキハ宮内大臣官房祕書課長ハ之ヲ審査シ權利ノ有無ヲ決定シ宮内大臣ノ裁定ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ權利アリト裁定アリタルトキハ宮内大臣官房祕書課長ハ年金タル恩給ニ付テハ恩給證書ヲ、一時金タル恩給ニ付テハ裁定通知書ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ第十六條ニ規定スル恩給ノ請求ニ對シテハ裁定通知書ヲ交付ス

宮内大臣官房祕書課長ハ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間内ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ第一項ノ場合ニ於テ權利ナシト裁定シタルトキハ宮内大臣ハ理由ヲ附シテ其ノ請求ヲ却下スヘシ

第二十一條　前條第二項ノ場合ニ於テ宮内大臣官房祕書課長ハ之ヲ内藏頭及帝室會計審查局長官ニ通知スヘシ但シ一時金タル恩給ニ付テハ帝室會計審查局長官ニ通知スルコトヲ要セス

第二十二條　第二十條第二項ノ規定ニ依リ年金タル恩給證書ノ下付ヲ受ケタル者ハ速ニ受領書ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ差出シ恩給請求書ニ押捺セル印章ヲ以テ作成シタル氏名ヲ記載シタル印鑑ヲ内藏頭ニ差出スヘシ

第二十三條　權利者ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ證據書類ヲ添附シ其ノ旨ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ通知スヘシ

第二十四條　宮内大臣ハ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ認メタルトキハ訂正ノ爲必要ナル手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ權利者ニ通知スヘシ

第三章　恩給ノ支給

第二十五條　宮内大臣ハ審查上必要アリト認ムルトキハ請求者又ハ申請者ニ出頭ヲ命シ又ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第二十六條　年金タル恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ内藏寮ヨリ交付スル用紙ニ依リテ作成シタル恩給支給請求書ヲ支給期月ノ十日迄ニ内藏頭ニ差出スヘシ

第二十七條　年金タル恩給ハ毎年三月、六月、九月、十二月ノ四期ニ於テ各其ノ月分迄ヲ支給ス但シ前支給期月ニ支給スヘカリシ恩給又ハ權利消滅若ハ停止ノ場合ニ於ケル其ノ月迄ノ恩給ハ支給期月ニ非サル時期ニ於テモ之ヲ支給ス

第二十八條　内藏頭ハ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ノ消滅シ又ハ停止セラルヘキ原因タル事實アルコトヲ知リタルトキハ其ノ支給ヲ止メ速ニ其ノ旨ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ通知スヘシ

第四章　異動通知

第二十九條　普通恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ宮内省恩給令第四十三條第一項第一號ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ停止セラルヘキ場合ニ於テハ本人ヨリ其ノ旨ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ通知スヘシ恩給停止ノ事由止ミタルトキ亦同シ

第三十條　年金タル恩給ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ（刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキヲ除ク）又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ本人又ハ縲故者ヨリ其ノ旨ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ通知スヘシ

第三十一條　年金タル恩給ヲ受クル者國籍ヲ失ヒ死亡シ又ハ宮内省恩給令第四十二條若ハ第五十六條ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失フ場合ニ於テハ本人、遺族又ハ縲故者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ通知スヘシ

第三十二條　宮内大臣官房祕書課長前三條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ内藏頭及帝室會計審査局長官ニ通知スヘシ普通恩給ヲ受クル者宮内職員ト爲リタルトキ亦同シ

第三十三條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ本籍又ハ現住所ヲ變更シタルトキ若ハ改印シタルトキハ速ニ之ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ屆出ツヘシ前項ノ屆出アリタルトキハ宮内大臣官房祕書課長ハ之ヲ内藏頭ニ通知スヘシ

第五章　受給權調査

第三十三條ノ二　年金タル恩給ヲ受クル者ハ左ニ掲クル書類ヲ隔年差出スヘシ但シ宮内省ニ在職スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　受給者ノ身分關係ノ變動ニ付事實ヲ證スルニ足ルヘキ戸籍抄本但シ扶助料權者ニシテ宮内省恩給令第五十一條第三項ノ規定ニ依ル加給ヲ受クルモノニ付テハ遺族ノ員數ヲ明瞭ニシ得ル戸籍ノ抄本又ハ謄本

二　遺族タル夫又ハ成年ノ子若ハ孫カ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキコトヲ條件トシテ扶助料ヲ給セラルルトキハ不具廢疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキコトヲ證スル居住地ノ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書

前項ノ書類ハ昭和ノ奇數年六月末日迄ニ之ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ差出スヘシ但シ恩給ノ裁定ヲ受ケタル年ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條ノ三　前條ニ規定スル書類ヲ差出ササル受給者ニ對シテハ之ヲ差出スヘキ月ヨリ一期隔リタル後ノ支給期以後ノ支給ヲ一時差止ムルコトアルヘシ

第六章　恩給證書ノ返還及再交付

第三十四條　年金タル恩給ヲ受クル者死亡シ又ハ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ恩給ヲ受ケヘキ順位者ナキトキハ恩給證書ヲ占有スル者ハ速ニ宮内大臣官房祕書課長ニ之ヲ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ恩給證書ヲ返還シ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ屆出ツヘシ

第三十五條　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ再交付申請書（第二十號書式）ニ證據書類ヲ添ヘ宮内大臣ニ差出シ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第三十六條　恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタルトキハ從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ハ其ノ效力ヲ失フ

亡失ヲ事由トシテ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタル後從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ發見シタルトキハ速ニ宮内大臣官房祕書課長ニ之ヲ返還スヘシ

第三十七條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ恩給證書及戸籍抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ宮内大臣官房祕書課長ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ宮内大臣官房祕書課長ハ恩給證書ニ改氏名ノ事實ヲ記載シタル上之ヲ權利者ニ返付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ宮内大臣官房祕書課長ハ之ヲ内藏頭及帝室會計審査局長官ニ通知スヘシ

第七章　具申及裁決

第三十八條　宮内省恩給令第十四條ノ具申ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十九條　具申書ニハ左ノ事項ヲ記載シ具申者記名捺印シ證據書類其ノ他必要ナル書類ヲ添附スヘシ

一　具申者ノ氏名、年齡及住所

二　具申ノ趣旨及理由

第四十條　宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ必要ナル書類ヲ差出サシメ又ハ具申者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第四十一條　裁決ハ理由ヲ附シタル裁決書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁決書ハ具申者ニ之ヲ送付スヘシ

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則　（昭和十三年宮内省令第四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

宮内省恩給令第八條ノ二第一項但書ノ規定ニ依リ恩給金庫ニ擔保ニ供セラレタル恩給ニ關スル恩給證書ノ交付及恩給ノ支給ニ付テハ宮内省恩給給與規則ニ依ラサルコトヲ得

別　紙

第一號書式

普通恩給請求書

年　月　日（官職）ヲ退職致候ニ付普通恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

現住所

年　月　日

氏　名印

宮内大臣　名殿

第二號書式

普通恩給
增加恩給請求書

年　月　日（官職）ヲ退職致候ニ付普通恩給及增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名

現住所

第七號書式

再素請求書

年　月　日退職ニ因リ傷病年金ヲ給セラレ候處未タ傷痍（病）同復セサルヲ以テ再素相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

現住所

退職當時ノ官職名

氏　名印

宮内大臣　氏　名殿

第八號書式

傷病年金請求書

年　月　日官職ヲ退致候ニ付傷病年金ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

現住所

退職當時ノ官職名

氏　名印

宮内大臣　氏　名殿

第九號書式

扶助料請求書

年　月　日退職ニ因リ傷病年金ヲ給セラレ候處未タ傷痍（病）同復セサルヲ以テ再素相成度證據書類相添ヘ請求候也

右者　年　月　日死亡候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

現住所

宮内官職又ハ普通恩給受者ト身分關係

氏　名印

宮内大臣　氏　名殿

第十號書式

扶助料請求書

年　月　日官職ヲ退致候ニ付一時恩給ヲ給與相成度證

一時恩給請求書

年　月　日

現住所

退職當時ノ官職名

氏　名印

宮内大臣　氏　名殿

據書類相添ヘ請求候也

右者　年　月　日失踪候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

現住所

宮内官職又ハ普通恩給受者ト身分關係

氏　名印

宮内大臣　氏　名殿

前扶助料受者氏名

第一號書式

增加恩給請求書

年　月　日官職ヲ退致候ニ付一時恩給ヲ給與相成度證

一時恩給請求書

年　月　日

現住所

退職當時ノ官職名

氏　名印

宮内大臣　氏　名殿

據書類相添ヘ請求候也

年　月　日官職ヲ退致候ニ付增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

現住所

退職當時ノ官職名

氏　名印

宮内大臣　氏　名殿

第二號書式

傷病年金請求書

年　月　日官職ヲ退致候ニ付傷病年金ヲ給與相成度證

傷病年金請求書

年　月　日

現住所

退職當時ノ官職名

氏　名印

宮内大臣　氏　名殿

據書類相添ヘ請求候也

年　月　日官職ヲ退致候處在職中ノ傷痍（病）疾病（爾後重症ニ赴キ候ニ付增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

現住所

退職當時ノ官職名

氏　名印

宮内大臣　氏　名殿

第三號書式

增加恩給請求書

年　月　日官職ヲ退致候處在職中ノ傷痍（病）疾病（爾後重症ニ赴キ候ニ付增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

現住所

退職當時ノ官職名

氏　名印

宮内大臣　氏　名殿

第四號書式

再素請求書

年　月　日退職ニ因リ傷病年金ヲ給セラレ候處未タ傷痍（病）同復セサルヲ以テ再素相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

現住所

退職當時ノ官職名

氏　名印

宮内大臣　氏　名殿

第五號書式

傷病年金請求書

年　月　日官職ヲ退致候處在職中ノ傷痍（病）疾病（爾後重症ニ赴キ候ニ付傷病年金ヲ改定相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

現住所

退職當時ノ官職名

氏　名印

宮内大臣　氏　名殿

第六號書式

扶助料請求書

年　月　日退職ニ因リ傷病年金ヲ給セラレ候處未タ傷痍（病）同復セサルヲ以テ再素相成度證據書類相添ヘ請求候也

右者　年　月　日死亡候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

現住所

宮内官職又ハ普通恩給受者ト身分關係

氏　名印

宮内大臣　氏　名殿

第十一號書式

扶助料改定請求書

一、扶助料證書番號
一、證書ノ日附
一、扶助料年額

前記扶助料受給中ノ處遺族ノ員數增加／減少致候ニ付年額ヲ改定相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

現住所
請求者　氏　名印

宮內大臣　氏　名殿

第十二號書式

扶助料改定請求書

第一ノ扶助料
（イ）扶助料證書番號
（ロ）證書ノ日附
（ハ）扶助料年額

第二ノ扶助料
（イ）扶助料證書番號
（ロ）證書ノ日附
（ハ）扶助料年額

（第三ノ扶助料以下右ニ準ス）

前記扶助料中第　ノ扶助料ニ付遺族ノ員數ニ依ル加給ヲ爲シ年額ヲ改定相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

現住所
請求者　第一ノ扶助料受給者　氏　名印

現住所
請求者　第二ノ扶助料受給者　氏　名印

（第三以下ノ扶助料受給者タル請求者ハ右ニ準ス）

宮內大臣　氏　名殿

第十三號書式

扶助料停止申請書

停止セラルヘキ扶助料權者　氏　名

右者　年　月　日以來所在不明ニ付扶助料ヲ停止相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

宮內職員トノ身分關係
申請者　氏　名印

宮內大臣　氏　名殿

第十四號書式

扶助料轉給請求書

停止中ノ扶助料權者　氏　名

右者犯罪／所在不明ニ因ル扶助料停止期間中扶助料ヲ轉給相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

宮內職員トノ身分關係
現住所
氏　名印

宮內大臣　氏　名殿

第十五號書式

一時扶助料請求書

宮內職員又ハ普通恩給權者ノ退職當時ノ官職名　氏　名

右者　年　月　日死亡候ニ付宮內省恩給令第五十七條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

宮內職員又ハ普通恩給權者トノ身分關係
現住所
氏　名印

年　月　日

宮內大臣　氏　名殿

第十六號書式

一時扶助料請求書

宮內職員ノ官職名　氏　名

右者　年　月　日在職中死亡候ニ付宮內省恩給令第五十八條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

宮內職員トノ身分關係
現住所
氏　名印

年　月　日

宮內大臣　氏　名殿

第十七號書式

履歷書

退職當時ノ官職名
氏　名印
年　月　日生

年月日	記事	官公署名

備考
一　履歷書ハ一通提出スヘシ

一學歷、位記、勳記、賞與等ノ記載ヲ要セス

一官職ノ任免、轉任、陞等、昇級等ハ順ヲ逐ヒ間隙ナキ樣ニ詳記スヘシ

一退職ノ事由ヲ明記スヘシ

第十八號書式

現認證明書

宮內職員ノ官職名　　氏　　名

右者　年　月　日午前(後)　時　地ニ於テ(何)ニ從事中(何)ニ因リ(何)ノ事情ノ下ニ負傷(罹病)シタルコトヲ現認候也

住所又ハ官職名

現認者　　氏　　名印

年　月　日

備考　本證明書ニハ傷病當時ノ狀況ヲ成ルヘク詳細ニ記載シ現認者多數アルトキハ二名以上連名スヘシ

第十九號書式

事實證明書

宮內職員ノ官職名　　氏　　名

右者　年　月　日ヨリ(何)ニ從事中　年　月　日(何)ノ狀況ニ於テ(何)ニ從事シ　月　日頃ヨリ(何)ノ症狀アルヲ訴ヘ爾後(何)ノ處置ヲ施シタリ

右證明ス

年　月　日　　所屬長　氏　　名印

備考　本證明書ニハ公務傷病ノ原因タル事實ヲ詳細ニ記載スヘシ

第二十號書式

恩給證書(裁定通知書)再交付申請書

一恩給證書ノ番號(裁定通知書ノ番號)

一恩給證書ノ日附(裁定通知書ノ日附)

一恩給金額

右恩給證書(裁定通知書)ヲ亡失(毀損)致候ニ付再交付相成度申請候

退職當時ノ官職名又ハ宮內職員トノ身分關係

現住所

年　月　日

氏　　名印

宮內大臣氏名殿

●更正手續

大正十二年十月一日宮內省令第十五號

改正　昭和五年第六號

宮內省恩給令第七十條乃至第七十五條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給ノ更正手續左ノ通定ム

第一條　宮內省恩給令第七十條又ハ第七十一條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年九月三十日以前ノ裁定ニ係ルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タス之ヲ更正シ其ノ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス

第二條　宮內省恩給令第七十條又ハ第七十一條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年十月一日以後裁定スヘキモノニ付テハ更正年額及從前ノ年額ヲ表示シタル證書ヲ發行ス

第三條　第一條ノ規定ニ依ル新證書ハ受給權者ノ請求ヲ俟タス宮內大臣官房祕書課ニ於テ之ヲ調製シ受給權者ニ交付ス

第四條　第一條ノ新證書ノ交付ヲ受ケタル受給權者ハ受領書ニ從前ノ證書ヲ添附シ宮內大臣官房祕書課ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ證書ヲ添附スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第五條　宮內省恩給令第七十二條又ハ第七十三條ノ規定ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ宮內省恩給給與規則第一條及第二條又ハ第六條及第七條ノ規定ニ依リ其ノ請求書ヲ差出スヘシ

第六條　從前ノ規定ニ依リ給スル恩給又ハ扶助料ヲ宮內省恩給令第七十條乃至第七十三條ノ規定ニ依リ更正增額スル場合ニ於テハ第一條乃至第五條ノ規定ニ依リ先ツ同令第七十條又ハ第七十條及第七十一條ノ規定ニ依ル更正增額ヲ爲シ更ニ受給權者ノ請求ヲ俟ッテ同令第七十二條又ハ第七十三條ノ規定ニ依ル更正增額ヲ爲ス

第七條　恩給ノ更正ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ宮內省恩給給與規則ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和八年皇室令第二號(恩給ノ增額等ニ關スル件)

昭和八年九月十九日
皇室令第二號

(宮內大臣副署)

朕恩給ノ增額等ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　昭和六年六月以降減俸ノ爲改正シタル俸給ニ關スル規程ニ依リ俸給ヲ給セラレ本令施行後退職若ハ死亡シタル宮內職員又ハ其ノ遺族ニハ俸給ニ關スル從前ノ規程ニ依レハ受クヘカリシ俸給ヲ基礎トシ恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ昭和六年六月以降新ニ制定セラレ若ハ制定セラルル俸給ニ關スル規程ニ依リ俸給ヲ給セラレテ退職若ハ死亡シタル宮內職員又ハ其ノ遺族ニ付之ヲ準用ス

第二條　前條ノ規定ニ依リ恩給金額ヲ算出スル爲ニ要スル改正前ノ俸給規程ニ依リ受クヘカリシ俸給ハ左ノ各號ニ依ル

一　昭和六年六月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際現ニ在職シ俸給(加俸ヲ含ム)ヲ減額セラレタル宮內職員爾後其ノ俸給ヲ變動

セラルルコトナクシテ退職又ハ死亡シタルトキハ減俸直前ノ俸給トス

二　昭和六年六月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際現ニ在職シタル宮內官嗣後其ノ俸給ヲ變動セラレテ退職又ハ死亡シタル場合及該俸給規程施行後就職シタル宮內官退職又ハ死亡シタル場合ニ於テ其ノ俸給額カ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル級俸定額ハ該當スルモノナルトキハ其ノ級俸定額ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額トシ之ニ該當セサルモノナルトキハ其ノ俸給額ニ直近スル下位ノ級俸定額カ之ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ニ對シテ有スル割合ヲ以テ其ノ俸給額ヲ除シタル金額トス但シ其ノ俸給額ニ直近スル上位ノ級俸定額ニ對應スル改正前ノ俸給規程ニ定ムル級俸定額ヲ超ユルコトナシ

三　昭和六年六月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行後年功加俸ヲ給セラレ又ハ變動セラレテ退職又ハ死亡シタルトキハ其ノ年功加俸ヲ減俸ノ爲改正シタル俸給規程ニ定ムル最高限ノ改正前ノ俸給規程ニ定ムル最高限ニ對シテ有スル割合ヲ以テ除シタル金額トス

四　昭和六年六月減俸ノ爲改正シタル俸給規程施行ノ際現ニ在職シタル宮內待遇職員嗣後其ノ俸給ヲ變動セラレテ退職又ハ死亡シタルトキ及該俸給規程施行後就職シタル宮內待遇職員退職又ハ死亡シタルトキハ勅任待遇奏任待遇宮內職員ニ在リテハ宮內官官等俸給令中高等官ノ俸給ニ關スル規定、判任待遇宮內職員ニ在リテハ同令中判任官ノ俸給ニ關スル規定ニ依リ受ケタルモノト假定シ第二號ノ規定ニ依リ算出シタル金額トス

前項第二號乃至第四號ノ規定ニ依リ計算シタル俸給金額ノ圓位未滿ハ之ヲ切捨ツ

第三條　昭和六年五月三十一日以前ニ休職ト爲リ昭和六年六月以降減俸ノ爲改正シタル俸給ニ關スル規程ニ依リ俸給ヲ給セラレ本令施行ノ日迄ニ退職若ハ死亡シタル宮內職員又ハ其ノ遺族ニハ其ノ恩給額ト俸給ニ關スル從前ノ規程ニ依レハ受クヘカリシ俸給ヲ基礎トスル恩給額トノ差額ヲ年金タル恩給ニ在リテハ退職又ハ死亡ノ翌月ヨリ增給シ一時金タル恩給ニ在リテハ追給ス

前項ノ增給及追給ハ本人ノ請求ヲ俟タスシテ之ヲ更正ス

第四條　昭和六年六月減俸ノ爲改正シタル俸給ニ關スル規程施行ノ際現ニ宮內職員ノ官職ニ在リタル者引續キ在職シ本令施行後退職スルモノ又ハ休職ト爲ルモノニ付テハ當分ノ內特ニ從前ノ規定ニ依ル俸給（年功加俸ヲ含ム）ヲ給スルコトヲ得傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ危篤ニ陷リタルモノニ付亦同シ

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ宮內官及宮內待遇職員相互間ニ轉官轉職シ又ハ廢官、廢職、廢廳若ハ官職名改定ノ際其ノ改廢ニ係ル官職ニ在ル者卽日若ハ翌日更ニ宮內職員ニ任命セラレタルトキハ引續キ在職スルモノト看做ス

第五條　前條ノ規定ニ依リ從前ノ規程ニ依ル俸給ヲ給セラレタル者ノ恩給ニ付テハ第一條ノ規定ヲ適用セス

附　則

本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年皇室令第一號附則第十項ハ之ヲ廢止ス

昭和八年九月十九日
宮內省令第九號

昭和八年皇室令第一號附則第七條但書及第十六條竝昭和八年皇室令第二號第三條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給ノ更正手續左ノ通定ム

更正手續

第一條　昭和八年皇室令第一號附則第七條但書及第十六條ノ規定ニ依リ恩給ヲ請求セムトスル者ハ宮內省恩給令規則第一條及第二條ノ規定ニ依リ其ノ請求書ヲ差出スヘシ

第二條　昭和八年皇室令第二號第三條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給ニシテ昭和八年九月三十日以前ノ裁定ニ係ルモノニ付テハ其ノ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行シ受給權者ニ交付ス

前項ノ新證書ノ交付ヲ受ケタル受給權者ハ從前ノ證書ヲ返還スヘシ

第三條　恩給ノ更正ニ關シ本令中別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ宮內省恩給令規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年八月一日
宮內省令第五號

昭和十三年皇室令第七號附則第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給ノ更正手續左ノ通定ム

更正手續

第一條　昭和十三年皇室令第七號附則第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給ニシテ昭和八年皇室令第二號第三條ノ規定ニ依リ增額スヘキ增加恩給、傷病年金又ハ扶助料ニシテ昭和十三年三月三十一日以前ノ裁定ニ係ルモノニ付テハ宮內省恩給令第五十一條第三項ニ規定スルモノヲ除キ受給者ノ請求ヲ俟タス之ヲ更正シ其ノ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行シ受給者ニ交付ス

前項ノ新證書ノ交付ヲ受ケタル受給者ハ從前ノ證書ヲ返還スヘシ

第二條　昭和十三年宮內省令第三號附則第三項ニ依リテ準用セラルル同令第六條ノ九第一項第一號但書又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給ノ改定請求ヲ爲サムトスル者ハ扶助料改定請求書（第一號書式）ニ加給ノ原因タル遺族ノ員數ヲ明瞭ニシ得ル戶籍ノ抄本又ハ謄本、前ニ加給セラレタル扶助料ノ證書及加給ヲ請求セムトスル扶助料ノ證書ヲ添附シテ宮內大臣ニ差出スヘシ

昭和十三年宮內省令第三號附則第四項但書ノ規定ニ依リ遺族ノ員數ニ依ル加給部分ニ對スル更正ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ更正請求書（第二號書式）ニ宮內職員ノ死亡又ハ前扶助料權者ノ失權ノ時以後ニ於ケル加給ノ原因タル遺族ノ員數ヲ明瞭ニシ得ル戶籍ノ抄本又ハ謄本ヲ添附シテ宮內大臣ニ差出スヘシ

第三條　恩給ノ更正ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ宮內省恩給給與規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別紙
第一號書式

扶助料改定請求書

第一ノ扶助料　(イ)扶助料證書番號
(ロ)證書ノ日附
(ハ)扶助料年額

第二ノ扶助料　(イ)扶助料證書番號
(ロ)證書ノ日附
(ハ)扶助料年額

(第三ノ扶助料以下右ニ準ス)

前記扶助料中第　ノ扶助料ニ付遺族ノ員數ニ依ル加給ヲ爲シ年額ヲ改定相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

現住所
請求者　第一ノ扶助料受給者　氏　名印

現住所
請求者　第二ノ扶助料受給者　氏　名印

(第三以下ノ扶助料受給者タル請求者ハ右ニ準ス)

宮內大臣氏名殿

更正請求書

一、扶助料證書番號
一、證書ノ日附
一、扶助料年額

昭和十三年皇室令第七號附則第二條ノ規定ニ依リ前記扶助料年額更正相成度證據書類相添ヘ請求候也

年　月　日

現住所
請求者　氏　名印

宮內大臣氏名殿

●明治四十三年勅令第二十五號（郵便官署ヲシテ年金及恩給ノ支給事務ヲ取扱ハシムルノ件）

明治四十三年三月十六日
勅令第二十五號

改正　大正一四年第一二二號、昭和九年第三九五號

朕郵便官署ヲシテ年金、恩給等ノ支給事務ヲ取扱ハシムルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、外務、內務、遞信大臣副署）

國庫ノ支辨ニ屬スル年金及恩給ノ支給ニ關スル事務ハ遞信省、朝鮮總督府、臺灣總督府、關東局、樺太廳及南洋廳ノ所管ニ屬スル郵便官署ヲシテ之ヲ取扱ハシム

前項給與金ノ支給手續ニ關シテハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル

第一項給與金ノ支拂ニ關シテハ歲入金歲出金竝歲入歲出外現金ノ交互振替及繰替受拂ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●年金恩給支給規則

大正十二年十一月十日
遞信省令第九十二號

改正　昭和三年第五號、一三年第五四號

年金恩給支給規則左ノ通改正ス

年金恩給支給規則

第一章　總　則

第一條　國庫ノ支辨ニ屬スル左ノ給與金ノ支給手續ニ關シテハ本規則ノ定ムル所ニ依ル

一、明治二十七年勅令第百七十三號金鵄勳章年金令ニ依ル給與金
二、大正十二年法律第四十八號恩給法ニ依ル給與金
三、特ニ賜與ニ係ル年金、恩給ノ給與金

第二條　前條ノ給與金ハ特別ノ場合ヲ除クノ外受給者ノ指定シタル郵便局ニ於テ之ヲ支給ス

第三條　繼續給與金ノ支給期日ハ當該支給期月ノ十一日ヨリ二十日迄ト

ス但シ恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合又ハ年金ノ支給ヲ廢止セラレタル場合ニ於ケル給與金ニ付テハ支給期月及期日ニ拘ハラス之ヲ支給ス

一時限ノ給與金ノ支給ニ付テハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

第四條　受給者居所ヲ變更シタルトキハ其ノ屆書ニ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號ヲ附記シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第五條　受給者轉居又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號及新舊支給郵便局名ヲ記載シタル變更請求書ヲ作成シ新支給郵便局又ハ舊支給郵便局ニ差出スヘシ

郵便局ニ於テ支給郵便局變更ノ手續ヲ了シタルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第六條　代人ニ於テ本規則ニ依リ各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ノ委任狀ヲ差出シ代人タルコトヲ證明シ且記名調印ヲ要スル書類ニハ代人タルノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

前項ノ委任狀ハ本人ニ於テ當該書類ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ之ヲ作成スルコトヲ得

第二章　繼續支給

第七條　繼續支給セラルヘキ給與ニ關スル證書ヲ受領シタル者ハ支給ヲ受ケムトスル郵便局ニ就キ其ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑屆ヲ作成シ之ヲ差出スヘシ但シ年金タル恩給ヲ受クル者ハ其ノ恩給請求書ニ記載シタル支給郵便局ニ之ヲ差出スコトヲ要ス

受給者印章ヲ改メタルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ改印屆ヲ作成シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第八條　受給者給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ年金證書、恩給證書其ノ他給與ニ關スル證書ヲ支給郵便局ニ呈示シ權利者タルコトヲ證明シタル上郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ作成シタル給與金受領證書ヲ現金ト引換ニ差出スヘシ

前項給與金受領證書ノ用紙ハ郵便局ノ交付スル用紙ト同一樣式ノモノニ限リ之ヲ私製シ使用スルコトヲ得

第九條　受給者支給期月ヲ經過シタル後ニ於テ給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號、給與金高竝支給郵便局名等ヲ記載シタル支給請求書ヲ貯金局ニ差出スヘシ

受給者前項ノ請求ニ對シ貯金局ヨリ支給ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條第一項ノ例ニ依リ現金受領ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條　受給者ハ給與ニ關スル證書ヲ豫メ貯金局ニ寄託シ其ノ給與金ヲ支給期毎ニ自己ノ郵便貯金月掛貯金及集金貯金ヲ除タニ振替預入ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ給與金ハ其ノ支給期毎ニ貯金局ニ於テ之ヲ受給者ノ郵便貯金ニ組入ノ手續ヲ爲ス

第十一條　受給者振替預入ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ振替預入ヲ受ケムトスル郵便貯金通帳ノ記號番號、給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號竝請求ノ要旨ヲ記載シタル請求書ニ給與ニ關スル證書ヲ添ヘ之ヲ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十二條　貯金局ニ於テ前條ノ請求ニ依リ給與ニ關スル證書ノ寄託ヲ受ケタルトキハ其ノ保管證書ヲ當該受給者ニ交付ス

第十三條　前條ニ依リ保管證書ノ交付ヲ受ケタル受給者ハ給與金ノ支給期毎ニ郵便貯金通帳ヲ支給郵便局ニ呈示シ權利者タルコトヲ證明シタル上郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ作成シタル給與金受領證書ヲ現金ト引換ニ差出スヘシ

第十四條　受給者第十條ニ依ル振替預入ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル屆書ニ保管證書ヲ添ヘ之ヲ貯金局ニ差出スヘシ

貯金局ニ於テ前項ノ屆書ヲ受ケタルトキハ其ノ保管スル給與ニ關スル證書ハ之ヲ受給者ニ還付ス

第十五條　受給者保管證書ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ、之ヲ毀損シタルトキハ保管證書ヲ添ヘ貯金局ニ其ノ再交付ヲ請求スルコトヲ得

保管證書ノ再交付ヲ爲シタルトキハ從前ノ保管證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第三章　一時支給

第十六條　一時限ノ給與金ヲ受クル者ニハ貯金局ヨリ支給郵便局ヲ經由シテ支給通知書ヲ送付ス

第十七條　受給者前條ノ支給通知書ニ依リ給與金ヲ受領セムトスルトキハ裁定官廳ノ裁定通知書ヲ支給郵便局ニ呈示シテ權利者タルコトヲ證明シタル上支給通知書ノ受領證ノ部ニ記名調印シ現金ト引換ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ支給郵便局ハ必要ニ依リ受給者ニ對シ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ作成シタル印鑑證明書ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ

第四章　恩給金庫ニ對スル支拂

第十八條　恩給金庫ニ支拂ヲ爲スヘキ給與金ハ其ノ支給期毎ニ貯金局ニ於テ之ヲ恩給金庫ノ郵便振替貯金ニ振替預入ヲ爲ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●恩給金庫法

昭和十三年四月一日
法律第五十七號

改正　昭和十五年第五九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル恩給金庫法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、大藏、內務大臣副署）

恩給金庫法

第一章　總　則

第一條　恩給金庫ハ法人トス

第二條　恩給金庫ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

恩給金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置シ又ハ官廳其ノ他ノ機關ニ其ノ業務ノ執行ニ關スル事務ノ一部ノ取扱ヲ委託スルコトヲ得

第三條　恩給金庫ノ資本金ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬口ニ分チ一口ノ金額ヲ百圓トス但シ資本金ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得

政府ハ五百萬圓ヲ限リ恩給金庫ニ出資スベシ

第四條　恩給金庫ハ出資ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ出資證券ヲ發行ス

第五條　恩給金庫ノ出資者ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス

出資者ハ恩給金庫ニ拂込ムベキ出資額ニ付相殺ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ズ

第六條　出資者ハ恩給金庫ノ承認ヲ經テ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得

第七條　拂込ヲ怠リタル出資者ニ對シ恩給金庫ガ一月以上ノ相當ノ期間ヲ定メ拂込ノ請求ヲ爲シタルニ拘ラズ出資者ガ拂込ヲ爲サザル場合ニ於テ持分ノ讓渡ヲ恩給金庫ノ原簿ニ登錄シタル後二年ヲ超エザル讓渡人アルトキハ恩給金庫ハ之ニ對シ期限ヲ定メ拂込ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ最モ先ニ滯納金額ノ拂込ヲ爲シタル讓渡人ハ其ノ持分ヲ取得ス

前項ノ規定ニ依ル出資者及讓渡人ノ拂込ナキトキハ恩給金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ該持分ヲ賣却スルコトヲ得賣却ニ依リテ得タル金額ガ滯納金額ニ滿タザルトキハ從前ノ出資者ヲシテ其ノ不足額ヲ辨濟セシムルコトヲ得其ノ者ガ二週間內ニ之ヲ辨濟セザルトキハ前項ノ讓渡人ニ對シテモ其ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ恩給金庫ガ損害賠償及定款ヲ以テ定ムル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第八條　恩給金庫ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

一　目的
二　名稱
三　事務所ノ所在地
四　資本金額及資產ニ關スル事項
五　役員及會議ニ關スル事項
六　業務及其ノ執行ニ關スル事項
七　恩給債券ノ發行ニ關スル事項
八　會計ニ關スル事項
九　公告ノ方法

定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

第九條　恩給金庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十條　恩給金庫ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ
北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ恩給金庫ノ事業ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ內務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
朝鮮、臺灣、關東州、樺太及南洋群島ニ於ケル課稅ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　恩給金庫ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　恩給金庫ニ非ザル者ハ恩給金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第二章　役員

第十三條　恩給金庫ニ理事長一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十四條　理事長ハ恩給金庫ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス
理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ恩給金庫ヲ代表シ、理事長ヲ輔佐シテ恩給金庫ノ業務ヲ掌理シ、理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ、理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ
監事ハ恩給金庫ノ業務ヲ監査ス

第十五條　理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ命ズ
恩給金庫ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間恩給金庫ノ理事長、理事及監事ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ

務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ債權ヲ拋棄スルコトヲ得

第二十一條　恩給金庫ハ其ノ債權ヲ確保スル目的ヲ以テ命令ノ定ムル所ニ依リ債務者ニ代リテ恩給及年金ニ關スル請求其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　恩給金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ
一　國債、地方債又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ取得ヲ爲スコト
二　大藏省預金部若ハ銀行ヘノ預金又ハ郵便貯金ト爲スコト

第二十三條　恩給金庫ハ資本金ノ十分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ其ノ業務ヲ開始スルコトヲ得

第四章　擔保ノ效力

第二十四條　擔保ニ供セラレタル恩給又ハ年金ハ恩給金庫ノミ其ノ支拂ヲ求ムルコトヲ得

第二十五條　公務員(之ニ準ズル者ヲ含ム)ガ其ノ受クル恩給又ハ年金ヲ擔保ニ供シタルトキハ其ノ效力ハ其ノ遺族ノ受クベキ恩給又ハ年金ノ上ニ及ブコトナシ
遺族ガ其ノ受クル恩給又ハ年金ヲ擔保ニ供シタルトキハ其ノ效力ハ擔保ニ供シタル者ノ後順位者ノ受クベキ恩給又ハ年金ノ上ニ及ブコトナシ

第二十六條　恩給ヲ擔保ニ供シ恩給金庫ヨリ貸付ヲ受ケタル者ハ其ノ債務ノ完濟ニ至ル迄ハ其ノ恩給ヲ受クルノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得ズ

第二十七條　再就職其ノ他ノ事由ニ因リ恩給ガ改定若ハ更正セラレ又ハ年金ガ進級增額若ハ更正セラルル場合ニ於テ恩給金庫ガ改定、進級增額又ハ更正前ノ恩給又ハ年金ニ付擔保權ヲ有スルトキハ恩給金庫ハ當然新恩給又ハ新年金ノ上ニ擔保權ヲ有ス

第二十八條　恩給ヲ擔保ニ供シタル者再ビ就職シ恩給ヲ停止セラルル場合ニ於テハ恩給金庫ハ恩給ノ支給金ヲ以テ辨濟ヲ受クベキ金額ノ範圍內ニ於テ其ノ者ノ受クベキ俸給中ヨリ貸付金額ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第二十九條　恩給又ハ年金ヲ擔保トスルニハ其ノ證書ヲ恩給金庫ニ交付スベシ但シ恩給ノ裁定前豫メ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲シタルトキハ恩給金庫ハ遲滯ナク裁定廳ニ其ノ要旨ヲ申告シ置クコトヲ要ス

第三十條　恩給ノ裁定前豫メ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲シタルトキハ恩給金庫ニ交付スベシ

第三十一條　前條ノ規定ニ依ル申告ヲ受ケタル件ニ付恩給給與ノ裁定ヲ爲シタルトキハ裁定廳ハ恩給證書ヲ恩給金庫ニ交付スベシ

第三十二條　裁定ヲ經タル恩給又ハ年金ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲シタルトキハ恩給金庫ハ遲滯ナク恩給ノ裁定廳又ハ賞勳局及支給廳ニ其ノ旨ヲ申告スベシ擔保權ノ消滅シタルトキ亦同ジ

第三十三條　恩給金庫ニ擔保ニ供セラレタル恩給又ハ年金ニ付證書ノ再發行ヲ爲ス場合ニ於テハ新證書ハ之ヲ恩給金庫ニ交付スベシ擔保ニ供セラレタル恩給又ハ年金ヲ改定、進級增額又ハ更正スルニ當リ新ニ證書ヲ發行スル場合亦同ジ

第三十四條　本章ニ規定スルモノノ外恩給又ハ年金ノ擔保ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章　恩給債券

第三十五條　恩給金庫ハ拂込資本金額ノ十五倍ヲ限リ恩給債券ヲ發行ス

ルコトヲ得但シ其ノ貸付金及所有ニ係ル有價證券ノ現在高ヲ超過スルコトヲ得ズ

第三十六條　恩給債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

恩給債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第三十七條　恩給金庫ハ恩給債券借換ノ爲一時第三十五條ノ制限ニ依ラズ恩給債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ恩給債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月內ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊恩給債券ヲ償還スベシ

第三十八條　恩給債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第三十九條　恩給金庫ニ於テ恩給債券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十條　恩給債券ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第四十一條　所得稅法及有價證券移轉稅法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ恩給債券ニ之ヲ準用ス

第四十二條　本章ニ規定スルモノノ外恩給債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章　會計

第四十三條　恩給金庫ノ事業年度ハ一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第四十四條　恩給金庫ハ毎事業年度ニ於テ準備金トシテ剩餘金ノ十分ノ一以上ヲ積立ツベシ

第四十五條　恩給金庫ハ成立後二十事業年度ノ間ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ政府ノ出資ニ對スル剩餘金ノ配當ヲ減額シ又ハ之ヲ爲サザルコトヲ得

第四十六條　恩給金庫ハ設立ノ時及毎事業年度ノ初ニ於テ財產目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

出資者及債權者ハ業務時間內何時ニテモ前項ニ揭グル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第七章　監督

第四十七條　恩給金庫ハ內閣總理大臣及大藏大臣之ヲ監督ス

第四十八條　恩給金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十九條　恩給金庫ハ每事業年度ノ初ニ於テ貸付利率ノ最高限度其ノ他貸付ニ關スル條件ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第五十條　主務大臣ハ恩給金庫ニ對シ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、檢查ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十一條　主務大臣ハ特ニ恩給金庫監理官ヲ置キ恩給金庫ノ業務ヲ監視セシム

第五十二條　恩給金庫監理官ハ何時ニテモ恩給金庫ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢查スルコトヲ得

恩給金庫監理官ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ恩給金庫ニ命ジテ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十三條　恩給金庫ノ監理官ハ恩給金庫ノ理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二　本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタルトキ

三　第二十二條ノ規定ニ違反シ業務上ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ

四　第三十五條又ハ第三十七條第二項ノ規定ニ違反シ恩給債券ノ發行ヲ爲シ又ハ償還ヲ爲サザルトキ

五　主務大臣ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

六　第五十二條ノ規定ニ依ル恩給金庫監理官ノ檢查ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ命ズル報告ヲ爲サザルトキ

第五十四條　左ノ場合ニ於テハ恩給金庫ノ理事長、理事又ハ監事ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二　第四十六條ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置カザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

第五十五條　恩給金庫監理官ハ恩給金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第五十六條　第十二條ノ規定ニ違反シ恩給金庫又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第五十七條　非訟事件手續法第二百六號乃至第二百八號ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第五十八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（昭和十三年勅令第三百五號ヲ以テ昭和十三年五月一日ヨリ施行）

第五十九條　主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ恩給金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第六十條　設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後出資者ヲ募集スベシ

第六十一條　設立委員ハ出資者ノ募集終リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第六十二條　出資第一回ノ拂込完了シタルトキハ出資者ノ總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會終結シタルトキハ恩給金庫ハ之ニ因リテ成立ス此ノ場合ニ於テハ設立委員ハ遲滯ナク其ノ事務ヲ恩給金庫理事長ニ引繼グベシ

第六十三條　本法ニ規定スルモノノ外恩給金庫設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十四條　登錄稅法中第六條ノ二ヲ第六條ノ三トシ第六條ノ次ニ左ノ

一條ヲ加フ

第六條ノ二　恩給金庫ガ恩給債券ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムベシ

一　恩給債券又ハ其ノ第二回以後ノ拂込　每回拂込金額千分ノ二

二　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止　每一件金十圓

從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金二圓ノ登錄稅ヲ納ムベシ

第六十五條　登錄稅法第十九條第七號中「產業組合」ノ上ニ「恩給金庫、」ヲ、「產業組合法」ノ上ニ「恩給金庫法、」ヲ加フ

第六十六條　印紙稅法第五條中第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五ノ二　恩給金庫ノ發スル出資證券又ハ貸付業務ニ關スル證書帳簿

附　則（昭和十五年法律第五十九號）

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●恩給金庫法施行令

昭和十三年六月二十九日
勅令第四百四十三號

改正　昭和一三年第六六三號

誤恩給金庫法施行令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信、大藏大臣副署）

恩給金庫法施行令

第一章　出資證券

第一條　恩給金庫ノ出資證券ニハ左ノ事項及番號ヲ記載シ理事長之ニ記名捺印スベシ

一　恩給金庫ノ名稱
二　恩給金庫成立ノ年月日
三　資本金額
四　出資一口ノ金額
五　出資一口ニ付拂込ミタル金額

第二條　出資證券ニ記載スルコトヲ要ス

第三條　出資者ニ持分ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ出資者原簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ出資證券ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ恩給金庫其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四條　恩給金庫ハ出資者原簿ヲ主タル事務所ニ備置クコトヲ要ス

前項ノ原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　出資者ノ氏名及住所
二　各出資者ノ出資口數及出資證券ノ番號
三　出資各口ニ付拂込ミタル金額及拂込ノ年月日
四　各出資證券ノ取得ノ年月日

第二章　恩給債券

第五條　恩給金庫ハ前ニ發行シタル恩給債券ノ總額ノ拂込前ト雖モ更ニ恩給債券ヲ發行スルコトヲ得

第六條　恩給債券ノ募集ニ應ゼントスル者ハ恩給債券申込證二通ニ其ノ引受ケベキ恩給債券ノ數及住所ヲ記載シ之ニ記名捺印スベシ

一　恩給金庫ノ名稱
二　恩給債券ノ總額
三　各恩給債券ノ金額
四　恩給債券ノ利率
五　恩給債券償還ノ方法及期限
六　利息支拂ノ方法及期限
七　數回ニ分チテ恩給債券ノ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期
八　恩給債券發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
九　恩給金庫ノ資本金額及拂込資本金額
十　最終ノ貸借對照表ニ依ル恩給金庫ノ貸付金及所有有價證券ノ現在高
十一　舊恩給債券借換ノ爲恩給金庫法第三十五條ノ制限ニ依ラズ恩給債券ヲ發行スルトキハ其ノ旨
十二　前ニ恩給債券ヲ發行シタルトキハ其ノ償還ヲ了ベザル總額

恩給債券發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ應募者ハ恩給債券申込證ニ應募價額ヲ記載スベシ

第七條　前條ノ規定ハ契約ニ依リ恩給債券ノ總額ヲ引受クル場合ニハ之ヲ適用セズ恩給債券募集ノ委託ヲ受ケタル者ガ自ラ恩給債券ノ一部ヲ引受クル場合ニ於テ其ノ一部ニ付亦同ジ

第八條　恩給債券ノ應募總額ガ恩給債券申込證ニ記載シタル恩給債券ノ總額ニ達セザルトキト雖モ恩給債券ヲ成立セシムル旨ヲ恩給債券申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募額ヲ以テ恩給債券ノ總額トス

第九條　恩給債券ノ募集ガ完了シタルトキハ理事長ハ遲滯ナク各恩給債券ニ付其ノ全額又ハ第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

第十條　恩給債券募集ノ委託ヲ受ケタル者ハ自己ノ名ヲ以テ恩給金庫ノ爲ニ第六條第二項及前條ニ定ムル行爲ヲ爲スコトヲ得

第十一條　賣出ノ方法ニ依リ恩給債券ヲ發行セントスルトキハ理事長ハ左ノ事項ヲ公告スベシ

一　賣出期間
二　恩給債券賣出ノ價額
三　第六條第二項第一號乃至第六號及第九號乃至第十二號ニ揭グル事項

四　第十二條ニ規定スル事項

第十二條　賣出期間內ニ賣上ゲタル恩給債券ノ總額ガ前條ノ規定ニ依リ公告シタル恩給債券ノ總額ニ達セザルトキハ其ノ賣上總額ヲ以テ恩給債券ノ總額トス

第十三條　恩給債券ハ全額ノ拂込アリタル後ニ非ザレバ之ガ證券ノ發行ヲ爲スコトヲ得ズ

第十四條　恩給債券ニハ第六條第二項第一號乃至第六號ニ揭グル事項及證券番號ヲ記載シ理事長之ニ記名捺印スベシ

賣出ノ方法ニ依リ發行スル恩給債券ニハ第六條第二項第二號ニ揭グル事項ヲ記載スルコトヲ要セズ

第十五條　理事長ハ主タル事務所ニ恩給債券原簿ヲ備置クベシ

恩給金庫ノ出資者及債權者ハ業務時間內何時ニテモ恩給債券原簿ノ閱

恩給金庫法施行令

目次

第一章　総則（第一条―第三条）
第二章　恩給金庫ノ組織（第四条―第十条）
第三章　恩給金庫ノ業務（第十一条―第十四条）
第四章　登記（第十五条―第十八条）
第五章　恩給金庫ノ資金（第十九条―第二十一条）
第六章　恩給金庫ノ会計（第二十二条―第二十五条）
第七章　雑則（第二十六条―第二十八条）
附則

第一章　総則

（目的）

第一条　恩給金庫ノ設立ノ登記ニハ左ノ事項ヲ掲ゲルコトヲ要ス

一　目的

二　名称

三　事務所

四　成立ノ年月日

五　資本金額

六　出資一口ノ金額

七　出資一口ニ付払込ミタルベキ金額

八　理事長、理事及監事ノ氏名及住所

九　公告ノ方法

（事務所ノ所在地）

第二条　恩給金庫ハ事務所ヲ設ケタル地ニ於テ設立ノ登記ヲ為スコトヲ要ス

（移転ノ登記）

第三条　恩給金庫ガ従タル事務所ヲ移転シタルトキハ新所在地ニ於テハ三週間内ニ、旧所在地ニ於テハ四週間内ニ第二十五条第二項ニ掲ゲル事項ヲ登記スルコトヲ要ス但シ同一ノ登記所ノ管轄区域内ニ移転シタルトキハ新所在地ニ於テハ二週間内ニ主タル事務所ノ移転ノ登記ヲ為スコトヲ要ス

第二章　恩給金庫ノ組織

（役員）

第四条　恩給金庫ニ理事長一人及理事二人以上ヲ置ク

2　恩給金庫ニ監事二人以上ヲ置ク

（理事長）

第五条　理事長ハ恩給金庫ヲ代表シ其ノ業務ヲ執行ス

2　理事長ニ事故アルトキハ理事ノ一人ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシム

（理事）

第六条　理事ハ理事長ヲ補佐シ恩給金庫ノ業務ヲ執行ス

（監事）

第七条　監事ハ恩給金庫ノ業務ヲ監査ス

（役員ノ任期）

第八条　理事長、理事及監事ノ任期ハ二年トス但シ再任ヲ妨ケス

2　理事長、理事及監事ハ其ノ任期満了ノ後後任者ノ就任スルニ至ルマデ其ノ職務ヲ行フ

（役員ノ解任）

第九条　理事長、理事又ハ監事ニ左ノ各号ノ一ニ該当スル事由アルトキハ内閣ハ其ノ解任ヲ命ズルコトヲ得

一　心身ノ故障ニ因リ職務ヲ執行スルニ堪ヘサルニ至リタルトキ

二　職務上ノ義務ニ違反シタルトキ

三　前項第八条ノ規定ニ違反シタルトキ

四　恩給金庫ノ業務ニ関シ不正ノ行為アリタルトキ

（役員ノ兼職禁止）

第十条　理事長、理事及監事ハ恩給金庫ノ業務ニ関係アル他ノ営利ヲ目的トスル事業ノ役員ヲ兼ネ又ハ自ラ営利ヲ目的トスル事業ヲ営ムコトヲ得ス

第三章　恩給金庫ノ業務

（恩給金庫ノ業務）

第十一条　恩給金庫ハ左ノ業務ヲ行フ

一　恩給ニ関スル法律ニ依リ恩給金庫ニ於テ取扱フヘキモノトセラレタル恩給ニ関スル事務

二　恩給ニ関スル法律ニ依リ恩給金庫ニ於テ取扱フヘキモノトセラレタル恩給ニ関スル事務ニ附帯スル事務

三　恩給ニ関スル法律ニ依リ恩給金庫ニ於テ取扱フヘキモノトセラレタル恩給ニ関スル事務ニ類スル事務ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ

（恩給金庫ノ業務ノ委託）

第十二条　恩給金庫ハ恩給ニ関スル法律ニ依リ恩給金庫ニ於テ取扱フヘキモノトセラレタル恩給ニ関スル事務ノ一部ヲ官庁ニ委託スルコトヲ得

（恩給金庫ノ業務ノ委託）

第十三条　恩給金庫ハ恩給ニ関スル法律ニ依リ恩給金庫ニ於テ取扱フヘキモノトセラレタル恩給ニ関スル事務ノ一部ヲ恩給金庫ニ委託スルコトヲ得

（恩給金庫ノ業務ノ委託）

第十四条　恩給金庫ハ恩給ニ関スル法律ニ依リ恩給金庫ニ於テ取扱フヘキモノトセラレタル恩給ニ関スル事務ノ一部ヲ官庁ニ委託スルコトヲ得

第四章　登記

（登記事項）

第十五条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ日ヨリ二週間内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ為スコトヲ要ス

（移転ノ登記）

第十六条　恩給金庫ガ従タル事務所ヲ移転シタルトキハ新所在地ニ於テハ二週間内ニ、旧所在地ニ於テハ三週間内ニ第二十五条第二項ニ掲ゲル事項ヲ登記スルコトヲ要ス但シ同一ノ登記所ノ管轄区域内ニ移転シタルトキハ二週間内ニ主タル事務所ノ移転ノ登記ヲ為スコトヲ要ス

（主タル事務所ノ移転ノ登記）

第十七条　恩給金庫ガ主タル事務所ヲ移転シタルトキハ二週間内ニ旧所在地ニ於テハ移転ノ登記ヲ為シ新所在地ニ於テハ前条第二項ニ掲ゲル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

（登記ノ効力）

第十八条　前二条ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ハ登記ノ後ニ非サレハ之ヲ以テ恩給金庫ニ対抗スルコトヲ得ス

2　恩給金庫ハ前項ノ規定ニ違反シテ登記ヲ為ササル間ハ其ノ事項ノ変更ヲ以テ善意ノ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

第五章　恩給金庫ノ資金

（恩給金庫ノ資金）

第十九条　恩給金庫ハ恩給金庫ガ恩給ニ関スル法律ニ依リ恩給金庫ニ於テ取扱フヘキモノトセラレタル恩給ニ関スル事務ニ要スル資金ヲ以テ之ニ充ツ

（恩給金庫ノ資金ノ増加）

第二十条　恩給金庫ハ恩給金庫ガ恩給ニ関スル法律ニ依リ恩給金庫ニ於テ取扱フヘキモノトセラレタル恩給ニ関スル事務ニ要スル資金ノ増加ヲ必要トスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ増資ヲ為スコトヲ得

（恩給金庫ノ資金ノ減少）

第二十一条　恩給金庫ハ恩給金庫ガ恩給ニ関スル法律ニ依リ恩給金庫ニ於テ取扱フヘキモノトセラレタル恩給ニ関スル事務ニ要スル資金ノ減少ヲ必要トスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ減資ヲ為スコトヲ得

第六章　恩給金庫ノ会計

（事業年度）

第二十二条　恩給金庫ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

（予算）

第二十三条　恩給金庫ハ毎事業年度予算ヲ作リ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ且之ヲ公告スヘシ

（剰余金ノ処分）

第二十四条　恩給金庫ハ毎事業年度ノ剰余金ヲ積立金トシテ積立ツヘシ

（決算）

第二十五条　恩給金庫ハ毎事業年度ノ決算ヲ為シ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ且之ヲ公告スヘシ

第七章　雑則

（恩給金庫ノ業務ノ監督）

第二十六条　恩給金庫ノ業務ハ主務大臣之ヲ監督ス

（報告）

第二十七条　恩給金庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ業務ノ状況ヲ主務大臣ニ報告スヘシ

（検査）

第二十八条　主務大臣ハ恩給金庫ノ業務ノ状況ヲ検査スルコトヲ得

附則

（施行期日）

第一条　本令ハ恩給金庫ノ成立ノ日ヨリ施行ス

（恩給金庫ノ成立ノ時期）

第二条　恩給金庫ハ恩給金庫ガ恩給ニ関スル法律ニ依リ恩給金庫ニ於テ取扱フヘキモノトセラレタル恩給ニ関スル事務ヲ開始スル日ヨリ成立ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記）

第三条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ日ヨリ二週間内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ為スコトヲ要ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ事項）

第四条　恩給金庫ハ左ノ事項ヲ掲ゲルコトヲ要ス

一　目的

二　名称

三　事務所

四　成立ノ年月日

五　資本金額

六　出資一口ノ金額

七　出資一口ニ付払込ミタルベキ金額

八　理事長、理事及監事ノ氏名及住所

九　公告ノ方法

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ期間）

第五条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ日ヨリ二週間内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ為スコトヲ要ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第六条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為スニ至ラサル間ハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第七条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第八条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第九条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第十条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第十一条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第十二条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第十三条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第十四条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第十五条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第十六条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第十七条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第十八条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第十九条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第二十条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第二十一条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第二十二条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第二十三条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第二十四条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第二十五条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第二十六条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第二十七条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第二十八条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第二十九条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第三十条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第三十一条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第三十二条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第三十三条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第三十四条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第三十五条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第三十六条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第三十七条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第三十八条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第三十九条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第四十条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第四十一条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第四十二条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第四十三条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第四十四条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第四十五条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第四十六条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第四十七条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第四十八条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第四十九条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第五十条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第五十一条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第五十二条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第五十三条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第五十四条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第五十五条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第五十六条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第五十七条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第五十八条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第五十九条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第六十条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第六十一条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第六十二条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第六十三条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第六十四条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第六十五条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第六十六条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第六十七条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第六十八条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第六十九条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第七十条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第七十一条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第七十二条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第七十三条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第七十四条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第七十五条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第七十六条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第七十七条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第七十八条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第七十九条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第八十条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第八十一条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第八十二条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第八十三条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第八十四条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第八十五条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第八十六条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第八十七条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第八十八条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第八十九条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第九十条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第九十一条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第九十二条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第九十三条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第九十四条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第九十五条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第九十六条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第九十七条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第九十八条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第九十九条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百一条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百二条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百三条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百四条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百五条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百六条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百七条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百八条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百九条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百十条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百十一条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百十二条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百十三条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百十四条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百十五条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百十六条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百十七条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百十八条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百十九条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立ノ登記ノ効力）

第百二十条　恩給金庫ハ其ノ成立ノ登記ヲ為シタル後ニ非サレハ恩給金庫ノ成立ヲ以テ第三者ニ対抗スルコトヲ得ス

（恩給金庫ノ成立

於テ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル

第二十八條　第二十五條第二項ニ揭グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十九條　恩給債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第九條ノ拂込アリタルトキ又ハ第十一條ノ賣出期間滿了シタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　第六條第二項第二號乃至第六號ニ揭グル事項

二　各恩給債券ニ付拂込ミタル金額

前條ノ規定ハ前項ノ登記ニ付之ヲ準用ス

第三十條　登記スベキ事項ニシテ主務大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第三十一條　登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第三十二條　恩給金庫ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

各登記所ニ恩給金庫登記簿ヲ備フ

第三十三條　設立ノ登記ハ理事長、理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ場合ヲ除クノ外本令ニ依ル登記ハ理事長ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第三十四條　設立登記ノ申請書ニハ定款、恩給金庫法第六十二條第一項ノ出資者總會ノ決議錄、出資ノ引受ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面並ニ理事長、理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其ノ他第二十五條第二項ニ揭グル事項ノ變更ノ登記ノ申請書ニハ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十五條　恩給債券ノ登記ノ申請書ニハ最終ノ貸借對照表並ニ恩給債券ノ引受ヲ證スル書面、恩給債券申込證及各恩給債券ニ付第九條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面又ハ賣出期間內ニ於テ賣上ゲタル恩給債券ノ總額ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ恩給債券ニ關スル登記事項ノ變更ノ登記ニ付之ヲ準用ス

第三十六條　非訟事件手續法第百四十二條乃至第百五十一條ノ六及第百五十四條乃至第百五十七條ノ規定ハ本令ニ依ル登記ニ付之ヲ準用ス

第五章　外地ニ於ケル課稅

第三十七條　朝鮮、臺灣、關東州、樺太及南洋群島ニ於テハ恩給金庫ニハ各當該地ノ法令ニ依ル所得稅、營業收益稅及營業稅ヲ課セズ

第三十八條　朝鮮ニ於ケル道、府邑面、臺灣ニ於ケル州廳、市街庄、關東州ニ於ケル地方費、市、會、樺太ニ於ケル市町村及南洋群島ニ於ケル地方費ハ恩給金庫ノ事業ニ對シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ滿洲國駐箚特命全權大使、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十九條　朝鮮所得稅令、朝鮮資本利子稅令、臺灣所得稅令、臺灣資本利子稅令、關東州所得稅令、樺太所得稅令、樺太資本利子稅令及南洋群島所得稅令中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ恩給債券ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●恩給金庫法施行規則

昭和十三年七月七日
閣令
大藏省令第一號

恩給金庫法施行規則左ノ通定ム

恩給金庫法施行規則

第一條　恩給金庫ガ新ニ從タル事務所ヲ設置セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ認可ヲ申請スベシ

一　設置ヲ必要トスル理由

二　設置ノ場所

三　取扱フベキ業務ノ範圍

從タル事務所ヲ廢止シ又ハ其ノ業務ノ範圍ヲ變更セントスルトキハ準ジメ其ノ事由ヲ具シ認可ヲ申請スベシ

第二條　恩給金庫ガ官屬其ノ他ノ機關ニ其ノ業務ノ執行ニ關スル事務ノ一部ノ取扱ヲ委託セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ認可ヲ申請スベシ

一　委託セントスル官屬其ノ他ノ機關ノ名稱及委託事務ヲ取扱フベキ場所

二　委託セントスル事務ノ範圍

第三條　恩給金庫ハ每事業年度ノ初ニ於テ左ノ事項ヲ記載シタル事業方法書ヲ提出シテ之ガ認可ヲ申請スベシ

一　貸付ヲ受ケ得ル者ノ範圍

二　貸付金額ノ最高限度

三　貸付利率ノ最高限度

四　其ノ他貸付ニ關スル條件

五　追加貸付ニ關スル事項

六　寄託金ニ對スル利率及受託業務ノ手數料率

第四條　恩給金庫ガ恩給金庫法第二十條第二項ノ規定ニ依リ債權ヲ拋棄セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ認可ヲ申請スベシ

一　債務者及其ノ相續人ノ氏名、住所及職業

二　擔保ニ供セラレタル恩給又ハ勳章年金ノ證書ノ記號番號

三　恩給ヲ受クルノ權利又ハ勳章年金ヲ受クルノ資格ノ消滅シタル原因及其ノ年月日

四　現存スル債權ノ金額

五　貸付金ニ關スル精算書

六　債務者又ハ其ノ相續人ノ資產狀況

第五條　恩給金庫ガ恩給金庫法第二十二條ノ規定ニ依リ業務上ノ餘裕金ヲ以テ國債及地方債以外ノ有價證券ヲ取得セントスルトキハ其ノ有價

證券ノ種類、名稱、額面金額、數量及時價額ヲ記載シテ認可ヲ申請スベシ

第六條 恩給金庫ガ恩給金庫法第四十八條ノ規定ニ依リ剩餘金ノ處分ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ申請スベシ

一 財產目錄
二 貸借對照表
三 損益計算書
四 業務報告書
五 剩餘金處分案
六 評議員會ノ答申書ノ寫

恩給金庫ガ恩給金庫法第四十五條ノ規定ニ依リ政府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ爲サズ又ハ配當ヲ減額セントスルトキハ其ノ理由ヲ具シ前項ノ申請ト同時ニ之ガ認可ヲ申請スベシ

第七條 左ノ場合ニ於テハ恩給金庫ハ遲滯ナク之ヲ屆出ヅベシ

一 業務ノ執行其ノ他ニ關スル規程ヲ定メ又ハ之ヲ改廢シタルトキ
二 第二條及第三條各號ニ揭グル事項ニ變動アリタルトキ
三 事務所ヲ移轉シタルトキ
四 出張所ヲ設置、移轉又ハ廢止シタルトキ
五 恩給金庫法施行令ニ依ル登記ヲ爲シタルトキ

第八條 本令ニ依ル申請又ハ屆出ハ內閣總理大臣及大藏大臣ニ之ヲ爲スベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和十三年勅令第三百六號（恩給金庫ノ設立ニ關スル件）

昭和十三年四月三十日
勅令第三百六號

（總理、大藏大臣副署）

朕恩給金庫ノ設立ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條 恩給金庫ニ出資ノ申込ヲ爲サントスル者ハ出資申込書三通ニ申込者ノ氏名又ハ名稱及住所竝ニ其ノ引受クベキ口數ヲ記載シ申込者又ハ其ノ代表者之ニ記名捺印シ設立委員ニ提出スベシ

前項ノ出資申込書ハ設立委員之ヲ作成シ之ニ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 定款認可ノ年月日
二 目的
三 主タル事務所ノ所在地
四 資本金額
五 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
六 申込ミ得ベキ最高出資口數
七 公告ノ方法

第二條 出資ノ申込ニ對スル割當ニ付テハ設立委員ハ內閣總理大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可申請書ニハ前條ノ出資申込書ヲ添附スベシ

第三條 出資ノ引受ヲ爲シタル者ガ出資ノ第一回ノ拂込ヲ爲サザルトキハ設立委員ハ一定ノ期間內ニ其ノ拂込ヲ爲スベキ旨及其ノ期間內ニ之ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フベキ旨ヲ出資ノ引受ヲ爲シタル者ニ通知スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ通知アリタルニ拘ラズ出資ノ引受ヲ爲シタル者ガ其ノ期間內ニ拂込ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ設立委員ハ其ノ者ガ引受ケタル出資ニ付更ニ出資者ヲ募集スベシ

第四條 出資ノ第一回ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各出資者ノ出資口數、拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日ヲ記載シタル書面竝ニ之ニ關スル證憑書類ヲ提出シ內閣總理大臣及大藏大臣ノ檢査ヲ受クベシ

第五條 前條ノ檢査終リタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資者ノ總會ヲ招集スベシ

第六條 總會ヲ招集スルニハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ各出資者ニ通知スベシ

第七條 設立委員ハ恩給金庫ノ設立ニ關スル事項ヲ總會ニ報告スベシ

第八條 總會ハ出資者ノ半數以上出席スルニ非ザレバ之ヲ開クコトヲ得ズ

總會ニ於ケル議決ハ出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第九條 總會ニ於ケル出資者ノ議決權ハ平等トス

第十條 出資者ハ總會ニ於テ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得但シ出資者ニ非ザレバ代理人タルコトヲ得ズ

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ設立委員ニ差出スベシ

第一項ノ規定ニ依リ議決權ヲ行フ者ハ之ヲ出席者ト看做ス

第十一條 總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ內閣總理大臣及大藏大臣ニ屆出ヅベシ

昭和十三年勅令第三百六號

第十二條 恩給金庫理事長設立委員ヨリ其ノ事務ノ引繼ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ內閣總理大臣及大藏大臣ニ屆出ヅベシ

附 則

本令ハ恩給金庫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年六月五日印刷
昭和十五年六月七日發行

內閣恩給局編纂
內閣印刷局 印刷發行

販賣所 內閣印刷局發行課
東京市麹町區大手町
電話丸ノ內(23)三五一一—三五九
振替東京 一九、〇〇〇

全國各地官報販賣所
全國各地主要書店

定價三十五錢

781
5.53

内閣印刷局發行
官報局編纂圖書

内閣

官報 {二ヶ月 0.95 / 部 0.05}
官報週報 ……0.05
官報眞週報 ……0.10
月刊法令全書 {0.80 / 送料 0.14}
官廳刊行圖書月報 {0.40 / 送料 0.06}
勞働統計月報 ……0.17
昭和十四年 列國國勢要覽 ……0.15
昭和十三年 人口動態統計 {1.40 / 送料 0.09}
昭和十三年 死因統計 {2.10 / 送料 0.09}
月刊企畫 ……0.30
國家總動員法令集(加除式) {1.00 / 送料 0.09}
標準用語集(電氣用語の部) {0.30 / 送料 0.06}
昭和十二年 列國資源撮要 第四號 {0.45 / 送料 0.09}
重要鑛物資源資料目錄 ……1.00
全國公私試驗研究機關試驗研究項目要覽 ……2.20

外務省

條約彙纂 {第一卷改訂版(日本國及各國間諸條約) / 第二卷第七部(一般國際條約集) / 第三卷第五部(東方賠償問題關係諸條約)} ……17.00 / ……9.00 / ……4.50

内務省

神武天皇御紀謹解 {0.30 / 送料 0.06}

大藏省

會社利益配當制限・會社職員與給制限ニ關スル法令 {0.17 / 送料 0.03}
昭和十四年四月改訂 臨時資金調整法令 {0.16 / 送料 0.03}
第四十五回 銀行總覽(昭和十三年末現在) {2.50 / 送料 0.14}
英文日本財政經濟年報(1939年) {1.80 / 送料 0.14}
昭和十二年 日本外國貿易年表 下編 {2.50 / 送料 0.14}
昭和十三年 日本外國貿易年表 中編 {6.00 / 送料 0.22}
昭和十三年 日本外國貿易年表 上編 {5.20 / 送料 0.22}
昭和十三年 第六十三次銀行局年報 {3.80 / 送料 0.14}
昭和十四年調 金融事項參考書 {2.20 / 送料 0.14}
昭和十三年度 國債統計年報 {2.30 / 送料 0.09}
大藏省第六十四回年報 {3.00 / 送料 0.14}
國債法規(加除式) {12.00 / 送料 0.22}
國債法規提要 {2.00 / 送料 0.09}
主稅局第六十五回統計年報書 {1.40 / 送料 0.09}

陸軍省

昭和十五年度版 帝國及列國の陸軍 {0.30 / 送料 0.06}

海軍省

東亞新秩序の建設と帝國海軍 {0.10 / 送料 0.08}

文部省

國體の本義 ……0.35
國體の本義解說叢書 ■明治以後思想の概觀 ■日本の儒教 ■我が國體と神道 ■我が國土・國民性と文學 ■我が國體に於ける和 ■國國の精神 ■帝國憲法と臣民の權義 ■日本の美術 {各冊 0.20}

教學叢書
第一輯 0.55
第二輯 0.45
第三輯 0.50 / 送料 0.10
第四輯 0.45 / 送料 0.06
第五輯 0.45 / 送料 0.06
第六輯 0.55 / 送料 0.09
第七輯 0.35 / 送料 0.06
第八輯 0.35 / 送料 0.06
特輯第一輯 0.90 / 送料 0.10
特輯第二輯 0.55 / 送料 0.06

學校體操教授要目 ……0.15

日本語學振興委員會研究報告
第一篇(教育學) ……0.85
第二篇(哲學) ……1.00 / 送料 0.10
第三篇(國語國文學) ……1.10 / 送料 0.10
第四篇(歷史學) ……0.90 / 送料 0.10
第五篇(歷測學) ……0.65 / 送料 0.10
特輯第一篇(哲學) ……0.50 / 送料 0.09

青年學校教授及訓練要目(職業科) {0.65 / 送料 0.10}

農林省

軍用保護馬普通鍛鍊之參考 {0.65 / 送料 0.06}
米穀關係法規 ……0.25
水產會關係法規 ……0.30
輸出水產物取締關係法規 {1.20 / 送料 0.06}
中華民國北支中支新政府竝滿洲國水產物輸入關稅及同輸入統計表 …… {0.55 / 送料 0.08}
米國に於けるレイヨン關係業取引取締規則と織物內容表示問題 …… {0.25 / 送料 0.08}
米國に於ける鋼物關係業取引取締規則竝關係各邦通商委員會の說要 …… {0.75 / 送料 0.08}
農家經濟調查報告(自昭和十二年三月至昭和十三年二月) {2.10 / 送料 0.09}

商工省

鑛物產額月報 ……0.13
物價統制の大綱 {0.08 / 送料 0.08}
重要物資の配給統制 {0.25 / 送料 0.06}
價格等統制令解說 {0.11 / 送料 0.08}
暴利行爲等取締規則解說 {0.09 / 送料 0.08}
昭和十三年 工場統計表 {6.50 / 送料 0.22}

厚生省

本邦大都市に於ける土地家屋賃貸狀況調 {1.20 / 送料 0.09}
救護關係法規 …… {1.10 / 送料 0.09}
兒童保護關係法規 …… {0.50 / 送料 0.06}

會計檢查院

會計檢查法規集(加除式) {4.50 / 送料 0.22}
會計檢查法規抄(加除式) {1.20 / 送料 0.09}

申込所 {內閣印刷局直賣所 / 全國各地官報販賣所(外地及外國は送料實費) / 全國各地主要書店}

781
333